仏、バンナvsハントの純K－1は史上最高の名勝負だ！

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成14年7月11日発行　増刊　第4巻・13号・通算72号

SRS DX

Special Ring Side

7・11
臨時増刊号
2002
定価680YEN

K-1 JAPANシリーズ～富山初上陸～
K-1 SURVIVAL 2002
《《《大会速報号》》》

K－1が汚された！
前代未聞の大乱闘！

SRS DX 7・11 臨時増刊号 NO.72
6.2 K-1 SURVIVAL 富山大会 速報

(株)ローデス　〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　電話／03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1丁目15番1号

本体648円

K-1ジャパンシリーズ　〜富山初上陸〜
K-1 SURVIVAL2002
6・2★富山市総合体育館

中迫、お前が悪い！
ボブ・サップのド素人戦法になす術なし…

写真◎真崎貴夫（リングサイド）　中島ミノル（2階カメラ）

シマウマVSゴリラの対決は、“最悪のK―1”の幕開け！

中迫よ、おまえは猪木になるしかない！

前回の山本憲尚との『プライド』デビュー戦に続き、サップのK―1デビュー戦は非常に落ち着いたものだった。野獣モードも全開！

武蔵に続いて他流試合で開花してほしいと、石井館長は中迫VSサップ戦を実現。中迫の心構えは？

完全に中迫をナメ切っていたサップ

地方に行くのはいいものだ。

まず、最初に私はそのことを読者の人には言っておきたい。6月2日、私は「K―1ジャパン」の試合を取材するために富山に行った。羽田空港から飛行機に乗るとわずか50分で行ける。

この1時間かからない飛行時間は、非常に魅力的だ。富山はアルプスを越えた向こう側にある。そして目の前には富山湾があり、そこには日本海が広がっている。

リングアナは「K―1が富山に初上陸！」という言い方を何度も繰り返していた。K―1は都会で生まれたもの。これがK―1の重要なキーワードでもある。

都会とは〝孤独〟と〝才能〟によって成り立っている世界。あるいは読んで字の如し。人々は都という空間の魅力にひかれながら出会いで何かを生んでいく。

富山の人々にとってはK―1は都（みやこ）に触れることを意味していた。都会的なるものへのあこがれがそこにあったはず。

そう考えてK―1富山大会を見ると、なるほどと納得することができる。だからリングには孤独と才能のぶつかり合いが、なければならない。そして、この2つが高貴なものへと結晶していったらもう言うことなしなのだ。

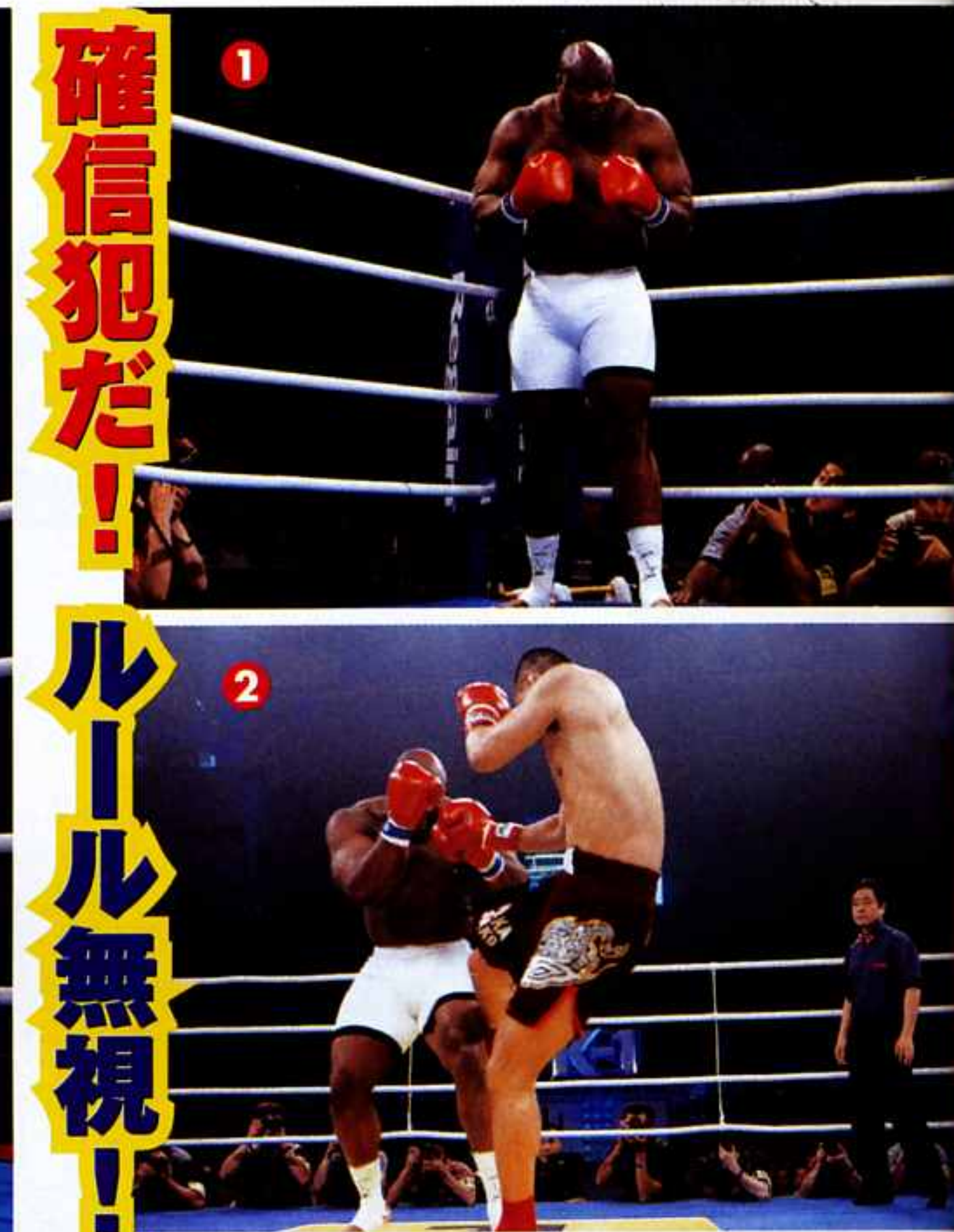
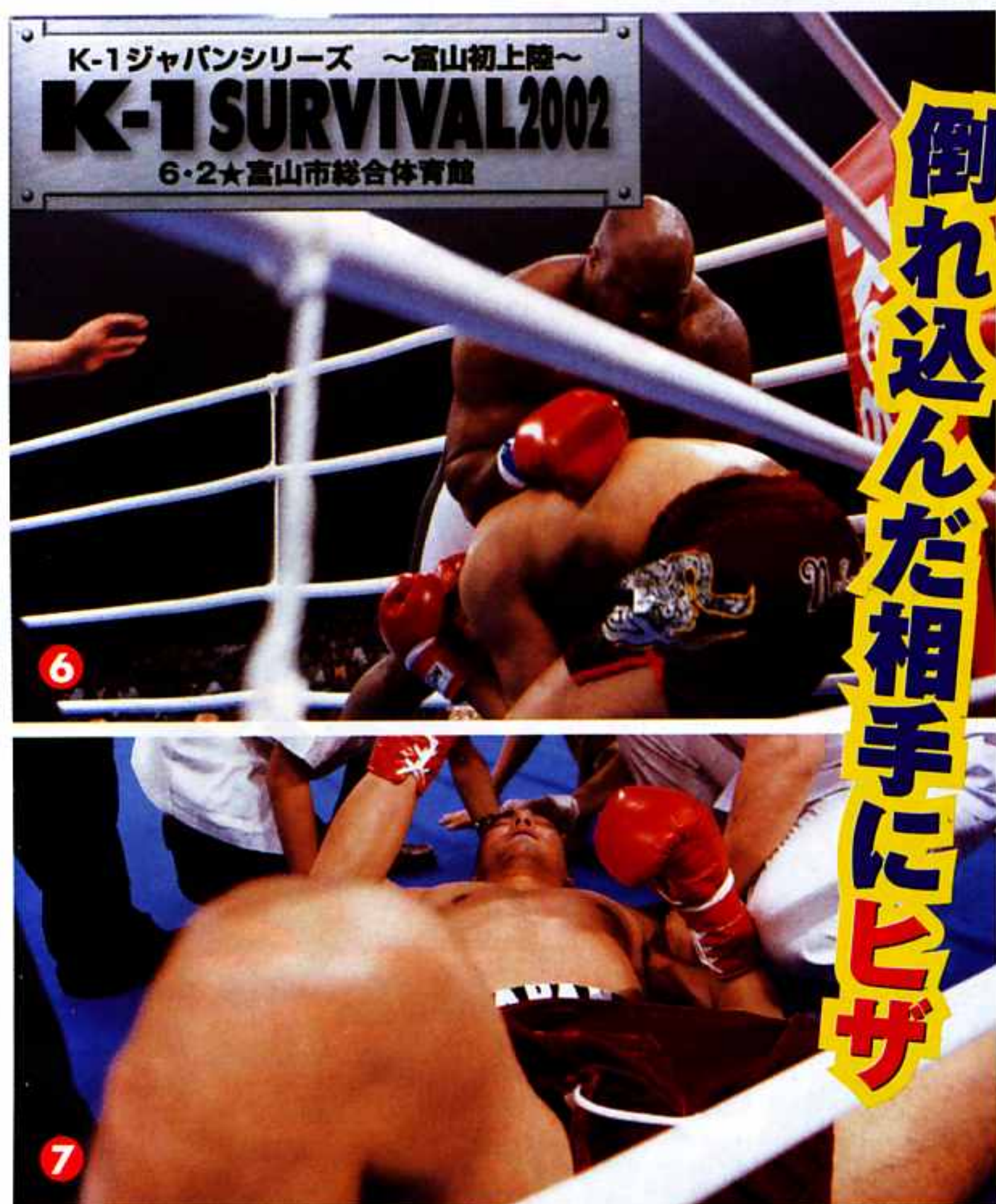
K―1の最終テーマは闘いが高貴なものへと、高まっていくかどうかである。5月25日、K―1パリ大会。そこで行われたジェロム・レ・バンナVSマーク・ハントの試合。あれを私の友人は今から21年前、昭和56年9月23日、田園コロシアムで行われたスタン・ハンセンVSアンドレ・ザ・ジャイアント戦に

K-1ジャパンシリーズ　〜富山初上陸〜
K-1 SURVIVAL 2002
6・2★富山市総合体育館

確信犯だ！ ルール無視！ いきなりサップが暴走！

ヒジ打ち

倒れ込んだ相手にヒザ

そして、失神！

①まさにゴリラのサップに対し、②中迫は弱点と思われるローキックから攻撃。③しかし、体重70キロ差のサップの圧力は凄まじく、すぐにコーナーに追い詰められる。④パンチのラッシュを繰り出すサップ。⑤しかし、ここでヒジを落とす。⑥崩れていく中迫に対し、さらにサップはヒザ蹴り！　⑦大の字に倒れた中迫に対し、⑧サップは悪びれずにこの形相。早くもレッドカード（警告）が与えられた

たとえた。

　ヘビー級のレスラーが超ド迫力の試合を見せつけたからだ。バンナVSハント戦はそのK—1版だったと言える。そして今日、6月2日という日はプロレスファンにとっては、思い出深いものがある。

　19年前の蔵前国技館。猪木がハルク・ホーガンのアックスボンバーによって舌を出し失神して病院送りとなった。あの試合である。

　もちろん、国技館は暴動に近い状況となった。こんなことを想像してしまうのは、たぶん私ぐらいだろう。K—1には決定的スターである猪木はいないが、新日本プロレスの輝かしい歴史を、彷彿させるものがある。

　K—1を見ることは私にとってかつて胸を躍らせられたあの新日本が、だぶってくるのだ。私の中の記憶がそうさせてしまう。

　私の目には新日本というフィルターが、いつもかかっている。それでいいのだ。なぜならそれがすなわち私自身でもあるからだ。

　私が私自身であるならなんの文句があるというのだ。こうした観点で6・2K—1の富山大会を見た時、私の頭に浮かんできたのは新日本が地方でやっていた〝テレビマッチ〟だった。

　毎週金曜日、生中継でやっていたテレビマッチ。その地方バージョン。K—1富山大会はまさにそれではないか？　プロレスは都会的なものとローカル的なものが妙に融合、合体している。

　そこにプロレスの良さと魅力がある。K—1はグランプリとジャパンの2つの路線を敷くことでそれと同じものを手に入れた。

なんてことだ！
スポーツK－1がド素人に破壊される

2分間のインターバルの後、サップはまたも突進して中迫を掴みにかかる

▲そのままコーナーに崩れる中迫に対し、サップはレフェリー無視のパンチの連打

▲最初の反則で、中迫には2分間のインターバルが与えられた

グランプリは都会の象徴。一方ジャパンはローカル的なものの象徴。非常にうまくできている。絶妙だ。そしてこの日、注目のカードはボブ・サップVS中迫剛の試合。ボブ・サップは体重が170キロを超す巨漢選手。

プロレスにたとえるとヘイスタック・カルホーンやマンマウンテン・マイクなど、規格外の超大型選手を想像させる。それに加えてタイガー・ジェット・シンのような狂暴性もあわせ持っている。

もう、それ自体がプロレス的匂いを発散しまくっていた。ボブ・サップは地方のローカル会場には打ってつけの選手。存在自体がプロレスそのものだからだ。

昔のプロレスで言うと、何やら海を渡って凄くて、怖くて強いヤツ（外国人レスラー）がやって来たという感じである。

それを迎え撃つのがカリスマレスラー、A・猪木ではなく中迫というのが、逆にいかにも今的。プロレスファンからすると「中迫じゃあ、どうしようもないだろう」というのが、その言い分だ。

あらゆるケース、あらゆる形で猪木は〝怪物退治〟をやり続けていった。ボブ・サップをシンやアンドレやハンセンと考えれば、一番分かりやすいではないか？

サップVS中迫戦はそういう図式と構図になっていた。まして富山は地方大会である。条件は揃いすぎている。だったら中迫、お前は猪木になるしかないのだ。

お膳立ては揃いすぎるぐらいに揃っていたのに、中迫には「オレは猪木になってみせる。猪木になってボブ・サップという怪物を退治してや

K-1ジャパンシリーズ　～富山初上陸～

K-1 SURVIVAL2002

6・2★富山市総合体育館

▶ブレイクの後、怒った中迫が背後からサップを襲う

▼もみ合ったところ、またもサップが中迫を突き飛ばした。ひ、ひどい……

中迫がいったーっ！ 中迫よ、プロのリングは生き方を問う場だ！

▲再びコーナーで転がる中迫に対し、暴走の止まらないサップはヒザを落とす！

▲レフェリーの制止を無視して、2人は壮絶な殴り合いを展開

る」という意識がまったく皆無だった。

ここが私からすると〝寒い〟のだ。中迫、お前は寒すぎる。シベリアの永久凍土、ツンドラの住人にでもなれ。都会が似合わない、都会で生きる資格がない。

K―1でスターになることは都会的ヒーローになることなのだ。中迫にはその資質がないようだ。K―1は最近、しきりに〝他流試合〟という言葉を乱発している。あれは極めて正解なのだ。

K―1における他流試合はかっての新日本にたとえると、外国人レスラーが外敵だったことと同じこと。K―1にとっては外敵と闘うことが他流試合なのだ。

サップには巨漢、狂暴というイメージが先行。まさにこれは怪物退治には格好の選手。サップが外敵であり怪物であり、狂暴であるなら、頭にエルボーを叩き込む反則攻撃は当然、やってくる。

やらないほうがおかしい。存在がヒール（悪役）だからだ。あのヒジ攻撃は〝あり〟である。もちろんK―1のルールからすると、〝なし〟。ルール違反である。

結局、試合は試合にならなかった。リング上はセコンド陣が上がって収拾のつかない乱闘状態。猪木がいた新日本の地方のテレビマッチでは、よくあった光景。

格闘技雑誌（専門誌）からすると、書きようがない。苦虫を噛み潰した展開、結果になった。彼らはK―1に汚点を残した。不祥事とでも言うのだろうか？

私の考えは違う。ずばり「中迫、お前が悪い！」だ。ボブ・サップは立ち技打撃の技術に関してノー

K―1 10年目の不祥事 初めての大乱闘！

そこまでやるかっ！

▲サップの暴走を止めようと、セコンドがリング内に雪崩れ込む

▲レフェリー陣がサップと中迫を引き離そうと必死に割って入る

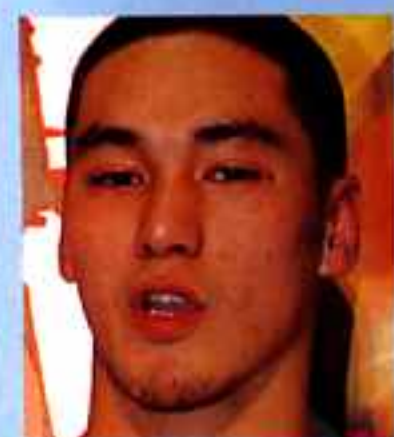
★第3試合/K―1他流試合5番勝負（3分5R）
○中迫剛　（1R1分30秒、反則）　ボブ・サップ●
＜ZEBRA244＞　＜アメリカ／モーリス・スミスキックボクシングセンター＞
※サップがレフェリーの制止を聞かずに攻撃、失格。サップは、1Rにヒジ及びグラウンドでのヒザ攻撃により減点1あり

▲さらに、なんと170キロのストンピングまで繰り出した。完全な反則負けだ！

テクニックなのだ。
それは巨漢レスラーやヒールレスラーと共通している部分。だったら方法は2つしかない。1つはテクニックで怪物をさばいてみせること だ。もう1つは猪木が怪物レスラー〝密林男〟グレート・アントニオの顔面を蹴りまくって制裁を加えたやり方。
そのどちらかしかない。中迫はそのどちらもできなかった。サップはK―1の技術がないのだからただ前に出て〝圧力〟で押してくるだけ。その〝ド素人殺法〟に押し潰されてしまった。プロとしてあんな格好の悪い試合はない。
それなのに中迫は試合後のインタビューで「ちゃんとした選手とK―1ルールで闘いたい」と寝言を言っていた。これはプロにあるまじき発言である。
相手はちゃんとした選手ではないのだ。そのちゃんとしていない選手を、どう料理してみせるのか？　それがプロではないのか？
プロとしての自覚に欠ける発言である。ここが猪木との決定的な違いでもある。「しんどい試合をしてきたのが全部、無になったのが悔しい」とも語っていた。
それを無にしたのはお前が無用だったからではないか？　この人は他流試合の意味がまったく分かっていない。それでいて最後は「相手のパンチ？　ああ、こんなものかと思いました。ゴリラ（サップ）に勝てるかって？　全然、勝てますよ」と、しゃあしゃあと言っているところがまた中迫らしい。
言い訳だけは誰よりもするという今の若者の特徴が、ここにもよく出ている。中迫はどこまでいっても

K-1ジャパンシリーズ 〜富山初上陸〜
K-1 SURVIVAL 2002
6・2★富山市総合体育館

サップ、永久追放か？ 石井館長の答は"再戦"

中迫のコメント

「さっきまでかなり怒ってたけど、シャワーをあびたらバカらしくなってきた。反則は予測していたんだけど、あそこまでやられるともう、他のK－1の選手までバカにされたような気がして。一生懸命練習して今日の日を迎える選手たちに失礼ですよ。２回目の反則では完全にキレましたね。サップのパンチも大したことがなかった。全然、僕の楽勝だったでしょう」

サップのコメント

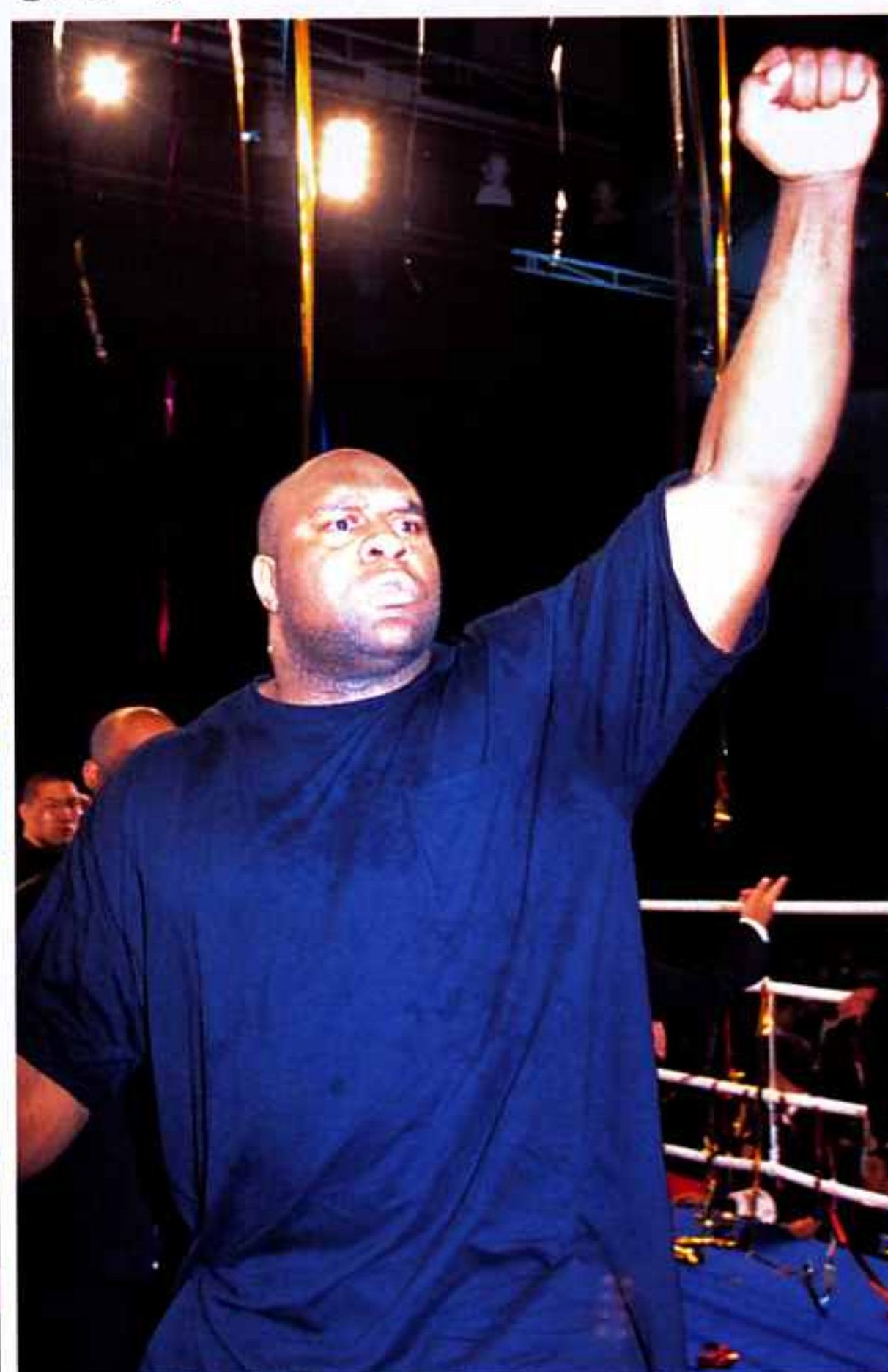
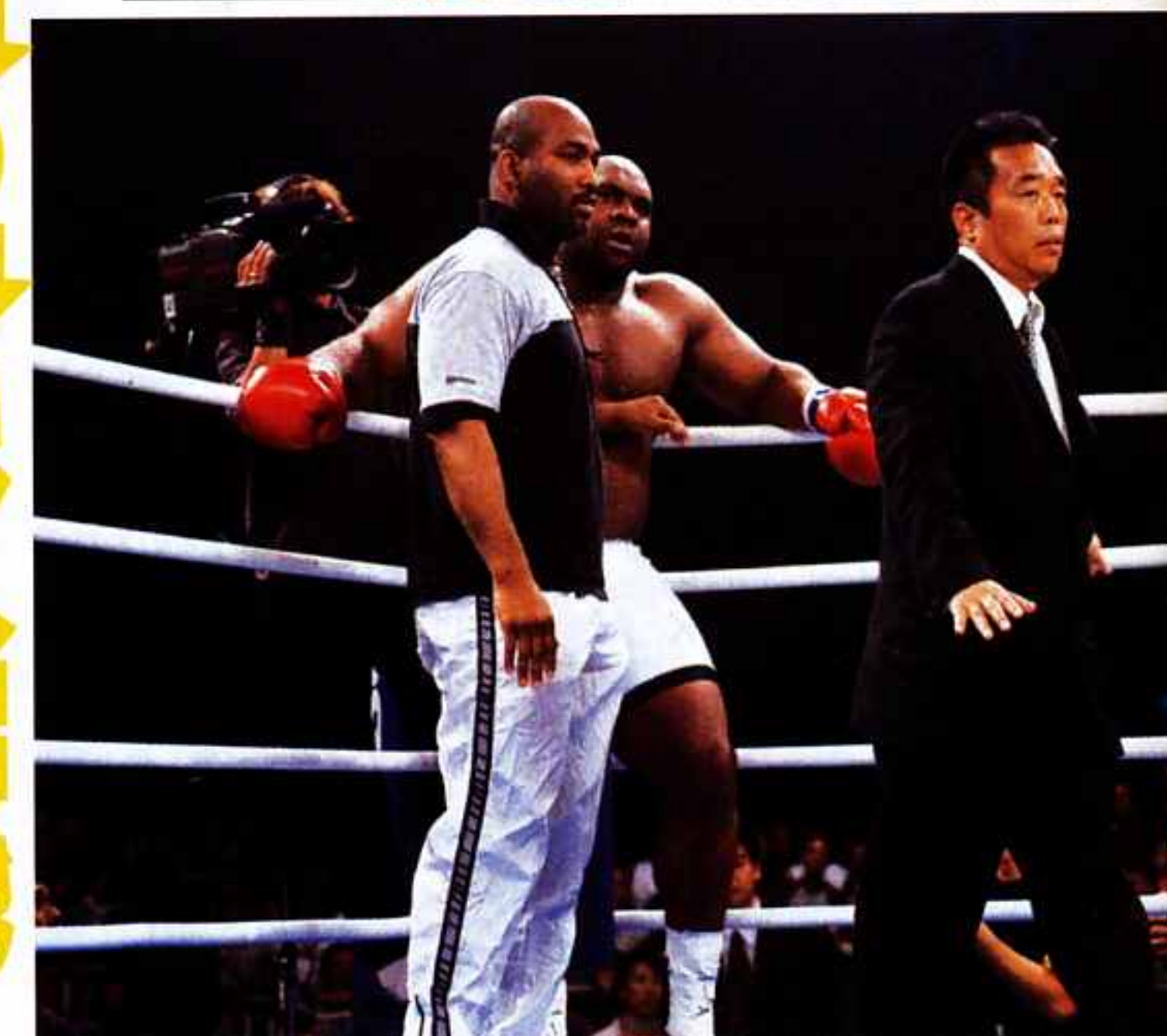
「反則をしたという意識はない。ヒジはアッパーを打って、手を下げたら偶然入ってしまった。（ストンピングは？）ナカサコがブレイクの後に背後から攻撃してきたので、ああいう流れになったんだ。ルールは分かっていたけど、ナカサコは自ら座るような感じだったので、もしレフェリーが止めていたら、ああならなかった。試合の流れを見ればどっちが勝っていたか分かるだろう」

▲悔しがる中迫は、石井館長にも「続けさせてください」とアピール

▲サップの頭を抱えている背広姿の男は、気性の激しさでは一番の金泰泳。4点ポジションでガツンガツンとヒザを入れていた。こういう男が今のK—1には必要だ

▶解説席にいた石井館長が制止に入る。サップをまず自軍コーナーへ

▶試合後、四方に頭を下げる中迫。悔しさでいっぱいだった

▶サップを永久追放するかと思いきや、石井館長の答えは「再戦」だった

▲閉会式にも悪びれもせずに現れたサップ。K—１に再び上がるのか？

▲石井館長が異例の試合ストップを宣言。形相はかなり怖かった

中迫なのだ。その点では中迫には中迫のキャラがある。それは私も認めている。

要は場の雰囲気、ムードをどれだけ分かっているかである。中迫の発想はアマチュアのもの。プロのリングはファイター（選手）の"生き方"が問われている。

それなのに中迫はK—1を競技として、ルールの枠の中でやろうとしている。たしかにそれは間違っていない。だが、K—1が他流試合という概念を前面に打ち出してきたら、もうルールを超えた領域の中に入ったのだ。

そこでは当然、闘いのテンションとハードルは上がる。それがすなわち選手の"生き方"を問う形になっていくのだ。そういうコンセプトを提示したことで、K—1は生き残ることができた。

石井館長が選手に期待している部分もそこなのだ。だったら館長はあそこで試合を止めるべきではなかった。館長の権限、判断で逆に試合を続行するべき。

まだ、その部分で館長の中にも迷いがある。「競技か、しからずんば生き方か？」。まるでハムレットの「生きるべきか、それとも死ぬべきか」の悩みと同じ。

さあ、どうする石井館長。誰もが猪木になれるとは限らない。中迫に猪木になれと言っても無理なことは私も理解している。

ただ、中迫が絶好の舞台を自分から逃していることが残念。プロフェッショナルの意味を、つまりは何も教えられていないのだ。

ボブ・サップのほうがはるかにプロ的だった。この勝負、中迫の完敗である。

（ターザン山本）

総評

文◎谷川貞治

怒りっぱなしの石井館長 K—1ルールでの他流試合では、"反則"という意識が付きまとう宿命がある。

これまでK—1を見てきて、こんなに後味の悪い気分を味わったことはない。殺伐としていて、怖さが漂っていて、後味が悪い気分。初期のUFCでは、何度もこんな憂鬱な気分を味わわせられたが、どちらかというと、こういう磁場はバーリ・トゥードのリングで感じたものだ。

K—1といえば、どんなに壮絶なノックアウトシーンでも、爽やかなスポーツに見える。それが一番の売りで、過激さで言えば、フランスで行われたバンナVSハント戦は、お互いに命を削るような倒し合いだったが、見る側にとっては最高の興奮を味わうものだった。

K—1はこの1カ月間で、中量級の世界大会があり、フランス大会でのバンナVSハントのようなベストバウトがあり、そして今回のジャパン富山大会のような陰惨な試合があった。どれも面白かったのだが、同じK—1ルールでありながら、まったく違うイベントに見えるところに驚きを隠せない。中量級GP—バンナVSハント戦—ジャパン富山大会——いったいこの振り幅の大きさはなんなんだ？K—1も10年目にして、こんなに振り幅の大きなイベントになったということだろうか？

特に今回の富山大会は、過去のK—1イベントにはなかったと言ってもいいほどの異質な空間が作られた。もちろん、決定的だったのは、ボブ・サップの反則暴走による大乱闘だったが、その前のジャパンGP出場者決定戦（特に富平VS草津）から嫌な空気が流れ、中迫VSサップ戦以降も、柳澤龍志は鼻骨骨折するし、セフォーにKOされたシュート・ボクセのサンタナは白目をむいて失神（危なかった！）。暴君アーツは史上最低の試合をしてしまうわ、極めつけは極真のニコラスが自らローキックを蹴って、足が逆に曲がるほどヒドイ、スネの骨折。日テレで放送されたスローモーションVTRは、本当に背筋がゾッとするような骨折シーンだった。嫌な磁場ができあがり、次から次へと起こるハプニング。その意味で近年希に見る興行だったと言えよう。K—1は富山大会という地方興行で、いったいなんてことをやっているんだ。

これは、本当に通の見るイベントである。K—1といえば高度な技術とプロ魂を持った選手同士の格闘エンターテインメント。だからこそ、壮絶なKOシーンでも、爽やかで、まるでバーチャルな世界のキャラクター対決に見えてきた。K—1が一般世間に浸透したのは、そんな単純明快さ、言葉のいらない世界があったからだ。

だから、これまでのK—1には、胸がすくようなエキサイティングなKOシーンが見られるか、まったく膠着した面白味のない試合の2つしか存在していなかった。これを足し算、引き算に例えるとしたら、今回の富山大会は、因数分解くらい複雑な楽しみ方になっている。K—1ワールドGPシリーズをど迫力満点の興奮、K—1中量級GPを等身大の感情移入ができるソフトとしたら、今回のジャパン富山大会は、プロレスくらいマニアックな領域だった。

では、なぜそんな現象が起こったのか？ その理由はやはり「他流試合」という形式につきるだろう。

ここで他流試合について、もう一度見つめ直す必要が出てきた。他流試合とはもともとジャンルの違う競技同士が闘う形式を言う。そこで問題になってくるのが、その他流試合が〈K—1ルール〉という、きちんと決められたスポーツライクな測定で強さを競い合うということだ。

K—1ルールという、きっちりと決められたルールの元で他流試合を行えば、それは必ずレベルの格差を生み出す。他ジャンルより、普段、K—1ルールの試合に慣れている者のほうが有利に決まっている。そこで、K—1ルールにおける高度なレベル同士が生み出す"爽快感"がまず生まれてこないのだ。

レベルが高い者同士のKOシーンに美しさはあるが、レベルが違う者同士のKOシーンには残酷性が生まれやすい。最近の例で言えば、バンナVSハント、セフォーVSベルナルドには美しさがあったが、富山大会のセフォーVSサンタナのKOシーンは残酷に見えた。

また、レベルの格差と同時に、その競技に慣れ親しんだ者同士の闘いじゃないと、ケガというアクシデントも生まれやすい。それは、お互いの技術に安心感がないから起こるのだ。そのため、格闘技と言えども予定調和が崩れ、ハプニングに見舞われやすいのである。

そしてもう一つ、これは今回の富山大

K-1ジャパンシリーズ ～富山初上陸～
K-1 SURVIVAL2002
6・2★富山市総合体育館

会最大の事件となったが、他流試合になると、〝反則をする〟というモチベーションも選手には起こりやすい。なぜなら、K—1ルールという、きちんと制限された決まり事を設定された場合、技術の低い者は、技術の高い者に勝つために、その決まり事を破るしか道がないというモチベーションにかられるからだ。

たとえば、K—1VS『プライド』の他流試合が行われた場合、K—1の選手が『プライド』のようななんでも有りのルールに出て勝つことは、『プライド』の選手がK—1のような制限されたルールに入って勝つより、よほど簡単である。なぜなら、なんでも有りという攻め幅が広い土俵でも、K—1の選手は自分に有利な展開に持ち込めばいいから。最初から攻め幅の広い土俵で闘っていた選手が、その攻撃の幅を狭くして、その道の熟練者に勝つことはかなり難しい。

だから、よく『プライド』の選手は「K—1の選手が『プライド』に上がる場合、3分5Rになるのに、なぜ我々がK—1に上がる場合、完全なK—1ルールで闘わなければならないんだ」と不満をもらすという。『プライド』の選手にしてみれば、「たとえタックル一本でもいいから、自分たちが勝てる要素をルールに加えてほしい」と主張するのだ。

しかし、K—1ルールはスポーツなので、他流試合用に時間制限を変えるとか、ルールを変えるなんてことはできない。だから、勝つための逃げ道がない『プライド』の選手は、ルールを破る〈反則〉という行為に意識が傾くのである。

だから、今回のような中迫VSサップの反則負け決着は、単なる茶番劇では済まされない問題を秘めている。〝茶番劇〟と言うんであれば、K—1をまったくやったことのないサップにK—1ルールをやらせること自体、茶番である。

サップは今回、明らかに確信犯的に反則を起こしたフシがある。たとえ仮に誰かが「少々の反則なら許されるんじゃないか」と言うのをサップが真に受けて、それを最初から実行したとしよう。けれども、たとえそれを言ってなかったとしても、負けないための反則行為は必ず今後も生まれてくると私は見ている。

K—1ルールでK—1の熟練者に勝つには、枠を取っ払うしかない。そう考えた瞬間、ルールのある他流試合では反則行為というものが生まれやすくなるのである。そこがノールールでの他流試合との違うところだ。

そう考えると、K—1のようなルールのあるスポーツでは、極めて他流試合が成立しにくい土壌になるという逆説が成り立つ。その焦りがつまり、石井館長の怒りを呼んだのだ。

私はサップのような反則を犯す他ジャンルの選手は、永久追放するのかと思っていた。しかし、石井館長は「K—1はルールのあるスポーツです。このルールを守りながら、試合を成立させなければならない」と前置きしておきながら、中迫VSサップの〝再戦〟を口にした。決着はリング上でという格闘家の意識が働いたのだろうか。そのためには「自分がレフェリーとなり、身を挺して反則を食い止める」とまで口にしたのだ。

石井館長は今回の富山大会を期に、「解説」を辞めて「運営」の側に戻ることを宣言した。それは、K—1ルールにおける他流試合の〝続行宣言〟にも受け取れた。しかし、この難しい命題を解決するには、本当はK—1側に反則をさせないほどの強さが必要なのだが…。■

石井館長総括

今度は僕がレフェリーをやって、サップと中迫の試合をやらせます！

石井館長　今日の試合は振り返ってみて、K―1のいいところと悪いところが両方出たと思いました。審判団はルールを守ってやろうとするんですけど、逆にルールに固執しすぎて応用が利かない。ですから、いざアクシデントが起こった時に対応する中でみんなが遠慮しすぎちゃってるというか、アクシデントが起こった時は僕の信念として、1分1秒を争ってすばやく解決することが大事だと思うんですよ。その方法で今までやってきたし、何よりも怖いのはやっぱり事故なんで。事故が起こらないようにしたい。レイ・セフォーの相手のサンタナ選手が倒れた時にその前にいいパンチを何発かもらってるんですよ。で、倒れた時に失神KOしてるわけですよね。打たれた瞬間に本人は記憶がなくて、そのまま頭を打ちつけている。シュートボクセはかなり首を鍛えていたから大事には至らなかったけど、あの瞬間に本人は記憶がないわけですから。その記憶がない本人を歩いて帰らせる。それをドクターは担架を要請してるはずなんです。だから、担架に乗せることは恥ずかしいことではないんですよ。それよりも選手の生命のほうが大事なんですね。やっぱりセコンドの人たちは選手の生命よりも自分たちの体裁を守ろうとしようとする。担架に乗せられた写真を撮られたくないという気持ちは分かりますけど、それだったら担架に何か被せるなり、運ばれる時に担架が写らない状態にしてもいいから、頭を動かしちゃダメなんで。選手の安全を第一に考える。そういう意識が希薄だと思うんですよ。1試合目のボブ・サップと中迫の試合もそうですけど、あれだけ乱闘騒ぎになっているのに、選手以外、レフェリー以外の者がリングに入ってそれを止めようとしている。レフェリーがあれだけいるんだから、まずレフェリーが自分たちが身を挺して止めないと。だから、結局自分がリングに上がらざるを得なかった。あの状況の中で、K―1の他流試合をやってもそれに対応する対策をとらないと、ホントにただのケンカになっちゃいますよ。ボブ・サップはボブ・サップで分かってるんですよね。やっぱり突っかけて行きますけど、ちゃんと抑えるところは抑えてますから。あそこは角田なり、島田レフェリーなりがきちんと上がっていって抑えないと。1試合目でああいう状況になった後に、次の担架の件などがあったわけですから。今回の試合について、自分の身を張って一国一城を治める気持ちが大切じゃないかなと考えました。

――ボブ・サップのルールを無視した暴走についてはおとがめなしですか？

石井館長　あのままではね、お客さんも納得してないし、ぜひもう1回再戦させたいと思います。中迫だってあのままでね、ナメられたままなんで。たしかに体格的にもサップが有利かも分からないですけど、経験とかキャリアとか技術は中迫のほうが上ですから。中迫がやられてやり返しに行った時に中迫の気持ちが見えましたからね。初めてあの子が感情をあらわに出したんで。次はその気持ちで絶対に闘ってほしい。そういうことを前もってボブ・サップにはきっちり伝えながら、もう1回やらせたいと思ってますけどね。あのままじゃ、こっちの気が済まないですから。

――サップにはもう1度ちゃんとK―1ルールを学ばせますか？

石井館長　ボブ・サップとやる時は僕が審判団に入ろうと思ってるんですよ。今度は僕がレフェリーをやって、ボブ・サップと中迫の試合をやらせます。何かあったら僕は自分の身を挺して止めます。体張って止めますし試合を成立させてみせます。一番大切なのは、ナメられたら終わりなんですよね。

――時期は？

石井館長　なるべく早いほうがいいと思う。7月の福岡で間に合えば、ぜひやらせたい。これからテレビ局とも相談しなくちゃいけないですけど、僕としてはこれを機にテレビ解説を降りたい。それで審判団、運営のほうにまわりたいと考えてます。解説のほうは角田にやってもらって。僕はあんなに近い席から何度もリングに上がったの初めてなんで。それだったら最初からリングに近いほうにいたほうがいいというか（笑）。

――かなり厳しい顔でレフェリーに何かおっしゃってましたけど。

石井館長　だって、あんな状態で誰かが抑えないといけないのに、誰も抑えないじゃないですか。じゃあ、俺がリングに上がって俺がビシっと抑えないといけない。なんのための審判団なんですかと。2回目だって担架運んでドクターが見てるのに、バス・ブーンとか『プライド』の川崎君とかが「担架に乗せるのは嫌だ、嫌だ」と。僕はリングの外から見てて状況が分かってるじゃないですか。やっぱりドクターに従わないといけないし、審判団に従わないといけないですよ。リング上で何分も寝かせたままにして、意識の回復もあったし、今回はたまたま回復が早かったから良かったけど、何かあった時にその責任問題はどうなるんですか。K―1になるわけでしょ。だから、強い姿勢というか、K―1としての強い姿勢を示すためにそうしなくちゃいけないかなと強く感じました。7月にK―1 VS『プライド』他流試合がありますけど、これより過激な選手が出てきますし、ルールももっとモメるでしょうし。角田はK―1のルールをきっちり守ってやっていかないといけないという責任があるから彼自身が動けない部分もあると思うんですよ。それは彼にもかわいそうだし。だから、僕としては出たくはないんですよ。審判団がいて、島田レフェリーや角田に任せたいけど、出ないとアカンタイミングを失ってしまうと、お客さんの信頼もなくなってしまうし、K―1のK―1としての価値もなくなるんで。

――改めて富山初上陸の感想をお願いします。

石井館長　富山の人たちは今日はビックリしたんじゃないかと思うんですよ（笑）。結構、ボブ・サップの試合なんてポカーンとして反応が「何があった？」って感じで、あれで飛んじゃいましたね。あと、レイ・セフォーの右のフックが。福岡大会に関しては、僕はリングサイドに行きます。それでルール無視してやれるんだったらやってみろという感じで、自分がやりますから。角田や島田さんが許してくれるならやりたいなと思いますけど（笑）。

――ジャパンGPに関してですが、ニコラス選手は負けてしまいましたけども。

石井館長　ペタスはね、すっごいテクニシャンで強くていい選手なんだけど、大山先生が見てたら怒るかもしれない。そういう要素はあるんですよ。一番最初にファーストコンタクトできちんとブロックして、そこでスネ蹴って最初にスネを痛めてるはずなんですよ。そこをもう1回いったっていうね。

――ジャパンGPの最終メンバーはどうなりますか？

石井館長　これから協議して決めたいですけど、9月の試合にこれからペタス選手が間に合うかどうかというのもありますからね。まあ、内容的にはペタス選手は押してましたから、本当に負けた試合ではないんですけど、ケガで戦線離脱っていうのは本人が一番不本意でしょうけど。ペタス選手にはギプスを付けてでも出てほしいですね。昔、三好選手が世界大会でギプスを付けたまま出て、蹴ってましたからね。そういう気持ちが彼には今一番必要ではないかと。足が折れても立ち上がって「やらせてください」って言うのが極真で、まあ、僕もそんなこと言えるかどうかは分からないですけどね。

――代表決定戦を勝ち抜いた4選手は決まりではないですか？

石井館長　そうですね、これから一晩考えて明日発表したいなと思ってます。中迫選手に関しては、あの時ボブ・サップに殴られた後にヒザを入れられて、飛ばされたりしましたよね。あの後に中迫が立ち上がって向こうに行かなかったら、中迫を出す気はなかったんですけど、中迫が立ち上がって「このヤロ〜」って殴りに行ったんで、中迫は合格かなと思ったんですよ、逆に。気持ちがあったんで。中迫選手と武蔵選手は合格と。今日勝ったノブ選手も合格。富平選手はちょっと考えます。

――天田選手と大石選手はどうですか？

石井館長　そうですね、今のところは天田と大石選手は当確ラインというところでしょうね。まあ、野地選手はチャンスがあったらもう1回見てみたいですけどね。福岡はもっと激しい試合になりますんでね、そういう体制を考えて、僕は現場に復帰しまして、現場監督としてやらしていただきます。レフェリーをやらせてもらいます。中迫VSボブ・サップ戦はやらせていただきたいなと。

――レフェリーは何年ぶりですか？

石井館長　K―1のリングでは初めてです（笑）。ちょっとやらないとこのままでは。

――セフォーがシウバとK―1ルールでも『プライド』ルールでもいいからやりたいと言っていたんですけども。

石井館長　分かりました。ちょっと協議して……どこでやるの（笑）。■

K-1ジャパンシリーズ　～富山初上陸～

K-1 SURVIVAL 2002

6・2★富山市総合体育館

シュート・ボクセのニューフェイス サンタナをブーメランフックで一発KO!

次はシウバ、お前だ!! byセフォー

▲セフォーのブーメランフックが富山で炸裂！　試合後、セフォーは「シウバ、K-1でも『プライド』でもいい、かかってこいよ！」と挑戦状を叩きつけた！

もはやK－1常連!? シュート・ボクセ軍団、富山に来襲！

▲今回、富山に送り込まれたのはシュート・ボクセのニューフェイス・サンタナだ。セコンドには、K－1広島大会で子安をヒザでボコボコにしたカストロがついた

◀試合がはじまるや、アグレッシブに前に出るサンタナ。セフォーもちょっと押され気味

▼ゴング前に相手を睨み付けるのも、シュート・ボクセの大事な掟。サンタナも初参戦にもかかわらず、こんな感じで威嚇！

◀この殴り方、他のボクセ勢とそっくり。ムリーロ・ニンジャも同じような体勢でマリオ・スペーヒーを追い込んでたよね

はうあっ！　あのセフォーと、あのシウバが、顔と顔をギリギリまで近付けて睨み合って、それで男と男のケンカマッチをする姿。それを想像するだけで、なんだか私、熱くなってきちゃうの……!!

W杯が日本で開幕した翌日、富山ではなんと30度を超えるほど気温が急上昇。さすがK－1初上陸の地ね。名産ホタルイカの季節もそりゃ終わるわよ。でも、富山大会で私を熱くさせたのはセフォーとサンタナという2人の男が見せた他流試合だったのだ。

〝K－1VS他流試合5番勝負〟の中堅戦は、今大会で唯一のKO決着ということもあり、観客は大いに盛り上がった。南海の黒豹は今日も絶好調でブーメランフックを唸らせる。それに臆することなく、果敢に突っ込むシュート・ボクセのニューフェイス。そして衝撃のKOシーン。今回の富山大会はあまりにもK－1らしくない試合&事件が続出したが、この試合だけはファンも納得だったと思う。

4・21広島大会に続き、またも送り込まれてきたシュート・ボクセからの刺客。彼の名前はサンタナ。実績こそないが、そのアグレッシブさを見る限り、シュート・ボクセイズムは確実に注入されている。でも、フジマール会長が来なかったせいか、若干テンションは低めだったけど。

しかし、このシュート・ボクセ軍団の闘いっぷりは、ここK－1ではまさしく脅威。広島大会では子安がカストロのヒザ爆弾を面白いように喰らってしまったし、『プライド20』でも、ミルコはシウバを凌駕することができなかった。

▼そしてセフォーの剛腕から、遂に“ブーメランフック”がブンブン唸り始めた！　ここからは怒濤の快進撃！

▶サンタナの攻撃が一段落した時、セフォーの「ニヤリッ」が出た!! これは「これから反撃しちゃうぞ～♥」の合図だったらしい

今日の標的に、ロックオ～ン！

この“ニヤリ”はもしかして……

←衝撃のKOシーンまであと1ページ!!　急げっ！

◀パンチの連打で追い詰めて、射程圏内にサンタナをとらえた！　ここからセフォーの右腕が大きな弧を描く！

今回それを迎え撃ったのは、人気・実力とも文句ナシのベスト8ファイター、レイ・セフォーだ。そう、今まで他流試合ではジャパンクラスの選手が闘っていたのだが、子安に続きミルコも結果を残せず、石井館長はそろそろ本気でブッ潰す気になってしまったのだ。

実は今回、セフォーがこの勝負を受けたのにはワケがある。それは『プライド20』でのミルコVSシウバ戦の時のこと。最前列で観戦していたセフォーは、リング上のシウバからの挑発的な視線をビンビンに感じ取ったという。早い話、Vシネマの帝王・竹内力風に言うところの「何メンチ切っとんねん!?」である。シウバは、普通に目を合わしてるだけだったかもしれないが、KとPの両巨頭になるハズの2人がガンの飛ばし合いとは！　もう両者の間にはただならぬ雰囲気がプンプンしている!!

そんなワケで、セフォーは今日の相手サンタナを、完膚無きまでに叩きのめす必要があった。そして、その目論見は大成功！　哀れなサンタナは白目を剥いてブッ倒れ、秒殺負けを喫した。試合後のコメントでセフォーは、「王者シウバ！　K—1ルールでも『プライド』ルールでもいい、かかってこいよ！」とビシッと男らしくケンカを売ってみせたのだった。

あ、ところでこのサンタナ、ゴング前の睨み付けから、適度な脂肪と筋肉のバランス、物怖じせず真っ正面から勝負しに行く精神性まで、シュート・ボクセイズムを嬉しいくらいに全開させてくれた。

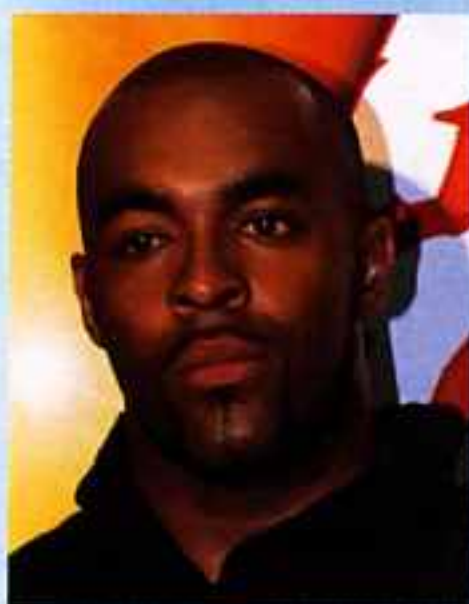
開始20秒程はそこそこ互角の闘いを繰り広げたが、セフォーの

シウバのガン付けにセフォーの怒りは爆発寸前!!「K−1でも『プライド』でもいい。シウバ、かかってこい!」

▶ブォォォン！　と空を切って、サンタナの顔面にジャストヒットォォォ！

セフォーのコメント

「相手がアグレッシブに攻めてきたので、俺も相手の動きに合わせて攻め方を変えていったよ。（今後、闘いたい相手は？）うん、いい質問だ。僕はヴァンダレイ・シウバと闘いたい。ヤツが4月の『プライド20』に来た時、俺にガンを飛ばしてきたんだ。それ以来、ヤツに対してはムカついている。ルールはK−1でも、『プライド』でもいい。シウバ、かかってこいよ！」

サンタナのコメント

「セフォーは、自分と同じような普通のファイターだな、と思った。彼との打ち合いの中で、運良く私にパンチが当たった。僕は試合の主導権を取ろうと思って闘った。シウバには、『パンチで上にいけ！』と言われていた。（K−1のルールは難しい？）いつもやっていることなので、そんなことはない。これからもっと練習して慣れていきたい」

セフォーの必殺ブーメランフック！

▲そのまま崩れ落ちたサンタナは……

し、白目剥いてる!! ……でも、なんとか蘇生。ほっ。

▶なんと白目を剥いて意識を失ってしまった！　その後、すぐにドクターたちが駆け寄り、なんとか意識を回復したサンタナ。ファンも一安心

★第5試合/K−1他流試合5番勝負（3分5R）
○レイ・セフォー（1R0分37秒、KO勝ち）ジュリオ・セザール・サンタナ●
〈ニュージーランド／アメリカンプレゼント・ボクシング・ジム〉〈ブラジル／シュート・ボクセ・アカデミー〉
※右フック

「ニヤリッ」から形勢逆転、一気にパンチで攻め立てられた。セフォーの「ニヤリッ」は決まってピンチの時の強がりなのだが、今回は明らかに余裕の表情。試合後に笑顔の理由を聞かれて、「そろそろKOしようと思ってね」という言葉どおり、思いっ切りブン回した右ブーメランフックでフィニッシュ。タイムは37秒。う〜ん、サンタナ残念。でも次、ガンバレ！

いつの間にか壊し屋っぷりに凄い加速が付いているセフォー。そう、昨年末に超ラブラブだった彼女との結婚が破談になってからというもの、明るく陽気なナイスガイっぷりはどこかへ行ってしまい、荒くれ者の雰囲気を醸すようになった。ハントとノーガードでド突き合い、ベルナルドと激しい打撃戦を演じ、入場曲もノリノリ系からディープな感じに変えて、挙げ句にシウバにケンカを売って。それはそれで魅力的なんだけど！

超ラブラブ……と言えば、新婚ホヤホヤのシウバ。果たして元ラブラブVS現ラブラブの他流試合は実現するのか？　また、実現するとしたらどこのリング？　昨年末の『猪木祭り』に出場予定だったセフォーは（ケガで欠場）、すでにホイスの下でトレーニングも積んでいるし、総合ルールでの潜在能力もミルコ以上とサダハルンバ編集長のお墨付き。だから、どうせなら『プライド』のリングで見たい!!　〝3分5R〟はどうかと思うから、〝無制限ラウンド〟で！　ガン付けから始まって、どっちかが潰れるまで殴り続ける、KO決着以上のケンカが見られるかも！　あぁっ、燃えるわ〜っ！　（日比）

ああ、ニコラスの足が……
ニコラス、右スネ骨折！選手生命の危機!?

ローキックがヒットした瞬間、蹴ったニコラスが悲鳴を上げて倒れ込む。スネが真ん中のあたりから折れてしまった……

王の闇

ジャパンGP優勝後のニコラスには どこか“芯”が欠けていたのでは？

▲空手式の“見えないハイキック”も何度となくグールの頭部をかすめる

▲アクシデントが起こるまでの動きは良かった。カカト落としも２度ヒット

入場ゲートで吠えるニコラス。おなじみの光景だが、最近なぜか違和感があるように見えるのは筆者だけか？

▲攻撃の軸になるのはローキック。これで倒してもおかしくないほどだったのだが……

たとえば“2年目のジンクス”という言葉がある。

アメリカには“スポーツ・イラストレイテッド症候群”というのがあるそうだ。全米ナンバー1のスポーツ雑誌『スポーツ・イラストレイテッド』で初めて表紙に載った新人選手が、それ以降しばらくスランプになってしまう、というもの。

しゃにむに頑張ってある程度の成果を残し、充実感を得た後にポッカリとエアポケットに陥ってしまう。努力してないわけじゃないし、モチベーションだって高いつもり。でもなぜかうまくいかない。

普通の仕事でも、似たようなことはあると思う。新人の頃はなんでも必死でやるしかないし、失敗しても、それで仕事を覚えるってこともある。逆にベテランと呼ばれるくらいになれば、失敗をしないためのノウハウみたいなのができてくる。一番怖いのは、その中間。ひととおりのことは自分でできるようになって、ある程度大きな仕事も任されて、という時期に限ってとんでもないミスをしたり、信じられないアクシデントが起こったりするもの。

そんな状況に、ニコラス・ペタスもハマッていたんじゃないか。昨年夏に感動的なジャパンGP優勝を果たした後のニコラスの不調ぶりを見ていると、どうもそんな気がしてくるのだ。

念願かなって“日本代表”として出場したワールドGP決勝大会ではアレクセイ・イグナショフのヒザでKO負け。さらに4月の広島大会でも、今度はピーター・アーツにまたもやヒザでKOされた。

そして今回の富山大会。8月のジ

K-1ジャパンシリーズ 〜富山初上陸〜

K-1 SURVIVAL2002

6・2★富山市総合体育館

ニコラスの悲鳴が会場に響く

「折れた! 折れた!!」

▲見るもおぞましい折れ方をしてしまったニコラスの足。アクシデントとはいえ、あまりにも残酷な幕切れだった

▲ダウンカウントを数える角田レフェリーに「折れた、折れた！」と叫ぶニコラス

ローキックが当たった時点で、ニコラスのスネは曲がってしまっていた。さらに蹴り足が着地した瞬間にも“グギッ”

★第7試合/K−1他流試合5番勝負（3分5R）

○セルゲイ・グール（2R1分00秒、TKO勝ち）ニコラス・ペタス●

〈ロシア／SWA掣圏道協会〉 〈デンマーク／極真会館〉

※ペタスが2Rに右スネを骨折したため

そして今回の富山大会。8月のジャパンGPに弾みをつけるためにも、どうしても勝っておきたい一戦だった。しかし、結果は最悪という言葉では足りないほどの惨劇。

会場で見て、テレビで見て、そして写真で見て。折れ曲がったニコラスの右スネは、何度見てもおぞましいものだった。なんで、こういうことが起こってしまったのか。アクシデントに理由なんてあるはずはないんだが……。

あくまで個人的な感想なのだが、ニコラスには入場シーンからして違和感があった。あの『若獅子寮歌』での入場は、普通ならそれだけで涙が出そうになるくらい胸に迫るものがあるのに、今回はそうじゃなかった。入場ゲートで吠えるところも「極真魂あふれる気迫の入場」というあらかじめ求められたテーマ、観客の期待に添ってやっているような雰囲気。

闘っていても、いつもの切羽詰まった、ギリギリの瀬戸際な感じがない。カカト落としを出した後に「どうだ」みたいな顔をしたりして。考えてみればこの試合、ニコラスにとっては（空手も含めて）初めて、チャンピオンとして受けて立つ立場の試合だった。グローブルールへのチャレンジでもないし、ジャパン王者を目指す闘いでも、ワールドGP初出場でもなく、遥かに格上のアーツに挑む試合でもない。セルゲイ・グールという無名の選手が相手。

しかも、序盤からニコラスが圧倒した。だから呑んでかかった。観客の反応を確かめながら闘う余裕もあったかもしれない。極真らしくないといえばあまりにらしく

K-1ジャパンシリーズ　～富山初上陸～
K-1 SURVIVAL2002
6・2★富山市総合体育館

▶ニコラスはリングから担架で運ばれ、救急車で病院へ直行。全治3カ月ということで、ジャパンGPはほぼ絶望的。果たして再起は……

グールのコメント

「試合の前にペタスのビデオを見て、キックが強いと分かっていたので、キックの威力をかわすブロックを対策として考えてきました。アクシデントでペタス選手がこういうケガを負ってしまったことは、大変残念です。イグナショフのトレーナーでもあるアンドレイ・グリジンにこの対策は教わりました。アリガトウゴザイマシタ」

K-1ジャパンGP 出場選手8名が決定！
（8・22大阪城ホール）

武蔵（正道会館）
ニコラス・ペタス（極真会館）
天田ヒロミ（TENKA510）
中迫剛（ZEBRA244）
ノブ・ハヤシ（チャクリキ）
大石亨（日進会館）
野地竜太（極真会館）
富平辰文（SQUARE）

大会翌日の一夜明け会見で、石井俊治広報より8・22大阪城ホールで行われるジャパンGPトーナメントの出場選手が発表された。代表決定戦で勝った天田、大石、ノブ、富平に、前年優勝者のニコラスも、今大会での負けはアクシデントであり、試合内容では主導権を握っていたとして出場権を獲得。そして、これまでの試合内容から「出場の資格あり」と判断された武蔵、中迫、野地の出場も決定した。今大会でケガをしたニコラスなど、欠場者が出た場合は改めて選考が行われることになる。

どうなるニコラス、どうする極真……！

▲因縁のライバルがまさかの負傷＆敗北。リベンジを狙っていたであろう武蔵も呆然

▲対戦相手のセルゲイ・グールは掣圏道の選手で、昨年のK－1ワールドGPイタリア予選でも優勝している。イグナショフと同じジムで練習しており、ニコラス対策を充分に立てての参戦だった

ない形の試合になってしまったわけである。

今回は他流試合だったわけだが、ニコラスは試合前の紹介VTRで「オレのリングに上がってきたら、ケンカのつもりでやる」とコメント。ジャパン王者になったニコラスは、いつの間にかK－1を「オレのリング」と感じるまでになっていた。K－1にとって極真は、最強の異分子であったはずなのに。

慢心とか、油断とかそういうことではないと思う。もっと無意識の部分、ちょっとした心の余裕が落とし穴になることがあるのだ。

K－1でも自信を持って闘えるようになり、ギリギリの緊張感の中に身を置く必要はなくなった。そのことが、アクシデントを呼ぶ隙間を作ってしまったような……。

だけど、それにしたって残酷すぎる話だ。ニコラスの骨折は全治3カ月という情報が入っているが、となればジャパンGPへの出場は絶望的だ。いや、あの折れ方を見ると選手生命に関わるケガなんじゃないかという不安さえ抱いてしまう。

ここでニコラスを失うのは、K－1にとっても極真にとっても痛すぎる。フィリォやグラウベが天才性を感じさせる選手なら、ニコラスはゼロから努力を積み上げて強くなったという〃修行〃の色を濃く感じさせてくれる、感情移入のしやすいタイプ。そんな男の代わりは、探そうにもいないのだ。今はとにかく、ニコラスがあの見ているだけで泣けてくる〃極真らしさ〃とともにリングに帰ってくることを祈るしかない。（橋本）

『K-1ジャパン富山大会』のレポートは、P93～に続きます

噂の三面記事

PRIDE.21に〈6・23さいたまスーパーアリーナ〉またも大物日本人参戦か？

元リングス・ジャパン

金原弘光

NOAH

杉浦貴

低迷日本の起爆剤となるか？

6・23『プライド21』さいたまスーパーアリーナ大会に、またも大物日本人選手が参戦することが濃厚となった。元リングス・ジャパンの金原弘光とプロレスリングNOAHに所属する杉浦貴の2人だ。今や桜庭がシウバに敗れたこともあって低迷する日本人の起爆剤となるか？　相手はともにグレイシーの名前が……。

話題満載

シウバVSミルコの次は元リングス勢が大挙参戦?
ヒョードル、田村潔司、そして金原弘光……
杉浦に第2の藤田を期待!
桜庭の復帰戦は夏以降か?

今年に入って、田村VSシウバ、ミルコVSシウバの目玉カードを実現し、「猪木軍VSK—1」の話題にいい意味で呑まれなかった『プライド』。特に前回の『プライド20』では、横浜アリーナに記録的な観客を動員し、『プライド』の底力を見せつけた。

そこで気になるのが、6・23『プライド21』さいたまスーパーアリーナ大会で、どんなカードが飛び出すかということだ。まず主催者のDSEが発表したのは、ドン・フライVSマーク・コールマンと、大山峻護VSヘンゾ・グレイシーの2大カード。

コールマンは昨年の9・24『プライド16』大阪大会で、ノゲイラに敗れて以来の復帰戦。一方のフライは、米国MMAのスターであるケン・シャムロックに勝って、今や『プライド』王者ノゲイラ挑戦者の一番手に浮上している。また、この対決は明らかに『プライド』米国進出の足掛かりとなるPPV放送用のカードで、日本よりも米国のほうが超ド級のカードとして注目しているところだ。

しかも、両者は96年7月12日に行われた『UFC10』で激突しており、この時はコールマンがTKOでフライを下しているというリベンジ戦。当時と比べると2人の置かれた立場もレベルも変わってきているので、見応えのある一戦となるだろう。

一方、大山は昨年7月29日『プライド15』のヴァリッジ・イズマイウ戦後に網膜剥離が発覚、約1年ぶりの復帰戦となる。大山は期待の新星としてシウバ、イズマイウという大物とぶつけられているが、いまだに『プライド』での勝ち星を挙げていない。それだけにヘンゾという強敵はいきなり荷が重い感じもするが、柔道とサンボの技術をベースに、グレイシー柔術にどこまで迫れるか期待したい。

以上の2カードが『プライド21』の発表カードだが、『プライド』と言えば、未知の大物選手が次から次へと参戦し、毎回夢の対戦を実現させて話題を呼んでいるイベント。今回は何が飛び出すかに注目が集まっている。

そのことについて、本誌が締め切り時点で掴んでいる情報が、三沢光晴率いるプロレスリングNOAHの杉浦貴と元リングスの金原弘光の参戦である。中でもNOAHの杉浦は「遂に!」といった感がある選手だ。

杉浦は95年にグレコローマンレスリング全日本王者の実績を引っ提げ、全日本プロレスに入団した鳴り物入りのレスラー。アマチュア時代はオリンピックをめざしており、昨年のZERO—ONEのリングで行われたアレクサンダー大塚との一戦では、ガチンコの強さを垣間見せ、藤田和之に続く、『プライド』向きの男と噂されていた。

実は杉浦自身、極秘で髙田道場に出稽古に通い、桜庭和志らと連日スパーリングを重ねながら『プライド』出陣の準備をしていた。素材としては、"第2の藤田"になる可能性を十分秘めた男である。プロレス界では、遂にNOAHの『プライド』参戦かという新たな展開とともに、杉浦なら必ず何かやってくれるという期待感がある。

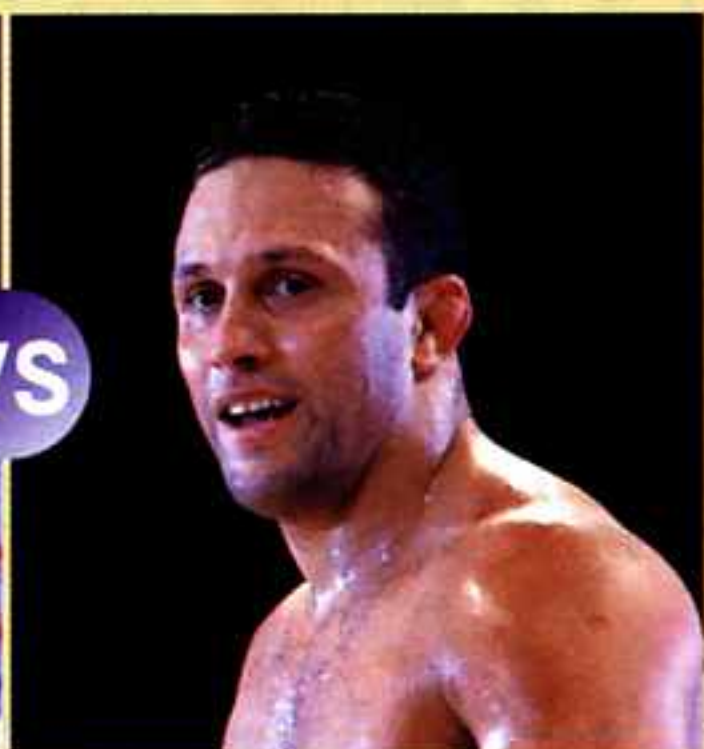
一方の金原は、ご存知元リングスの実力者。Uインター、キングダム時代は桜庭と同じ釜のメシを食い、その実力は桜庭も一目置くところ。リングス時代には、ヒカルド・アローナやイリューヒン・ミーシャ、マリオ・スペーヒー、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラといった世界の強豪と対戦。勝ち星にこそ恵まれていないが、どれも判定に持ち込むほどの均衡した勝負を展開している。しかも、それらはリングスのKOKルールだっただけに、『プライド』ルールになれば勝敗もま

▲杉浦はずっと極秘で髙田道場で練習していた。レスリングでオリンピックまでめざしていた男だけに、期待は大きい

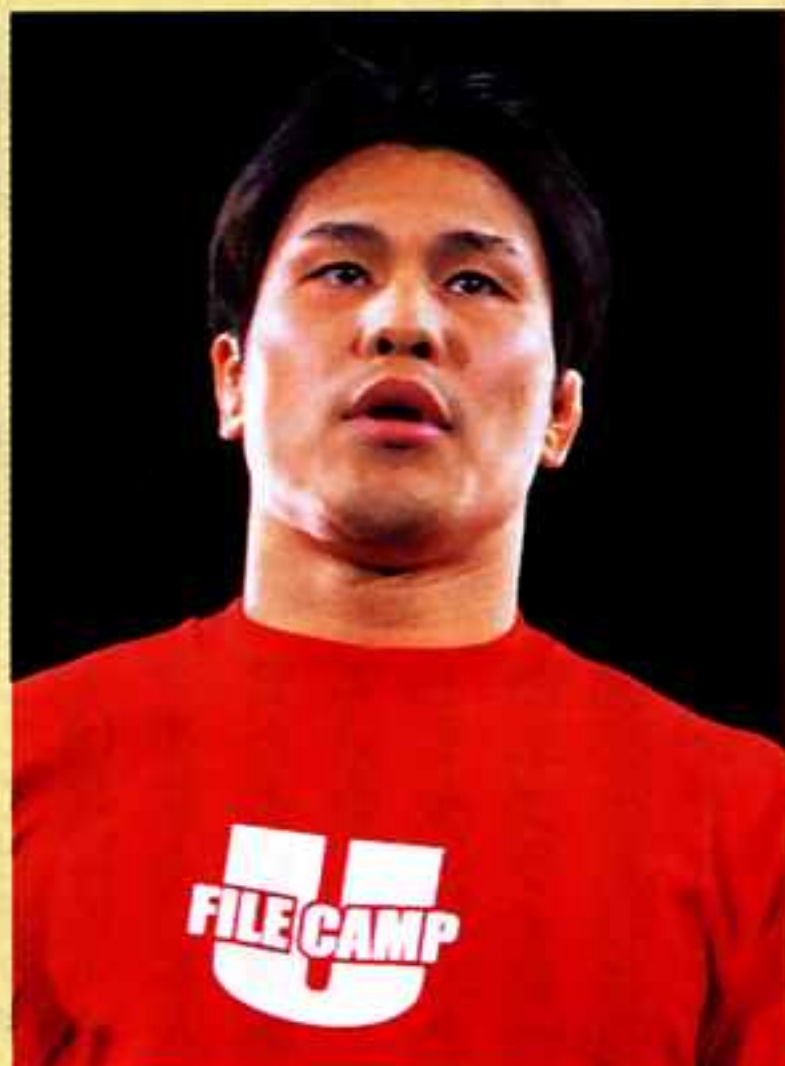
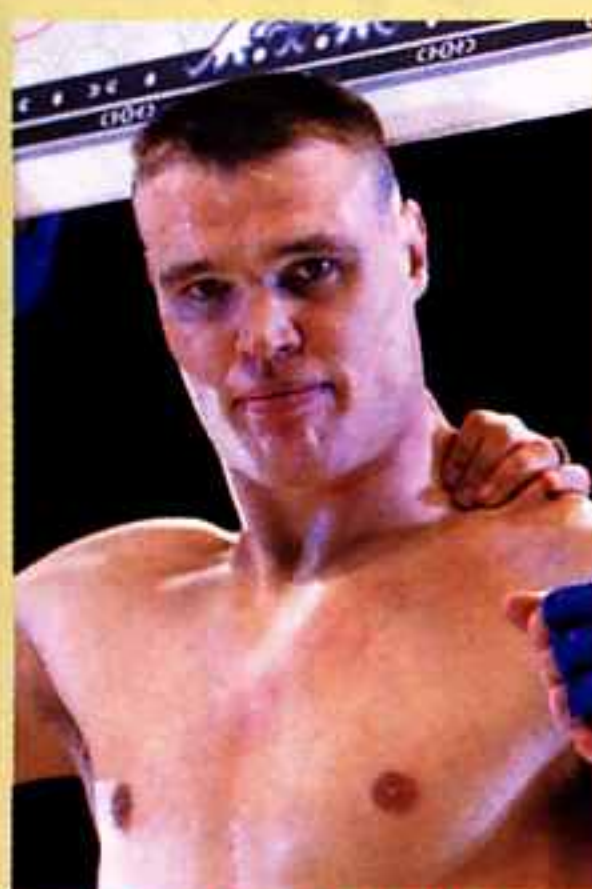
▲桜庭をして「シウバに勝てる可能性大」と言わしめる実力者・金原弘光。リングスでの世界の強豪との対戦経験は、『プライド』でも生かされるか?

6・23『PRIDE.21』決定カード

マーク・コールマン〈米国／ハンマーハウス〉 VS **ドン・フライ**〈米国／フリー〉

ヘンゾ・グレイシー〈ブラジル／ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー〉 VS **大山峻護**〈フリー〉

参戦予定選手

田村潔司〈U－FILE CAMP〉

エメリヤーエンコ・ヒョードル〈ロシア／リングス・ロシア〉

ホドリゴ・グレイシー〈ブラジル/グレイシー・バッハ・アカデミー〉

セーム・シュルト〈オランダ/ゴールデン・グローリー〉

ゲーリー・グッドリッジ〈トリニーダードトバゴ/フリー〉

た変わってくるだろう。

杉浦と金原の参戦は、ほぼ決定的だと言われているが、もしかしたら、本誌の発売日前後に正式発表されているかもしれない。しかも、この2人が出場するとしたならば、対戦相手にはグレイシー系の選手が選ばれるんじゃないかという情報をキャッチした。1人は『プライド19』で高田道場の松井大二郎を完璧に極めてみせたホドリゴ・グレイシー。もう1人がまったく未知のグレイシーだと言う。もし本当ならば、いきなり2人にとっては高い壁だが、グレイシーという先入観に囚われず、ぜひ桜庭や藤田のような『プライド』ドリームを掴んでもらいたいところだ。

初参戦と言えば、前から噂のあったリングス・ロシア勢の参戦、特にヘビー級とアブソリュート級の2冠に輝くエメリヤーエンコ・ヒョードルの参戦はほぼ決定的だと言われている。ヒョードルは一般的な知名度から言えば、まだまだ無名の感があるが、実力的に見れば前田日明が発掘した最後の大物と言っても過言ではないほど強い。『プライド』では、ノゲイラのようにアッと言う間に主力選手の仲間入りを果たす可能性もある。特に『プライド』はブラジル勢の躍進がめざましいが、ロシアに関してはまだまったく未開の地といっていい。そのため、リングス・ロシア勢の参戦は、『プライド』内の勢力図争いに活気をもたらすことになるだろう。

そのヒョードルら、リングス・ロシア勢の対戦相手には『プライド』の門番ゲーリー・グッドリッジやパンクラス王者だったセーム・シュルトが候補に挙がっているとか。ロシアVSブラジルが激化する前には、非常に興味深いカードだ。

さて、そんな未知の大物が今回も続々と参戦してくる『プライド』だが、その中で誰がメインを張るかは重要。そこで本誌は、桜庭の復帰戦があるんじゃないかと予想していたが、桜庭本人に確認したところ、まだ体調が万全じゃないとコメント。復帰戦はやはり夏以降になりそうだ。

そうなると、杉浦、金原といった新星をメインにもっていくか、フライVSコールマンの実力派対決がメインになりそうだが、『プライド』としては、田村潔司の復帰戦も画策しているという。田村は『プライド19』でミドル級王者のシウバを相手に『プライド』デビュー。『プライド』のようなバーリ・トゥードルールの否定、髙田道場勢との確執、いきなりのタイトルマッチということで、かなりの物議を醸した。結果的に2RでKO負けしたが、本人はクサることなく再チャレンジを期してトレーニングをしている。田村の次の相手となるとなかなか難しいが、再び田村の出番と言ったところか。

また、先の6・2K―1ジャパン富山大会で、中迫剛を相手に大暴走して前代未聞の大乱闘を引き起こしたボブ・サップにもオファー。これまで『プライド』やK―1にまったくいなかったキャラで注目を集めているサップだが、なにせあれだけの怪力だけに、格闘技ド素人といえども十分通用するところを今のところ見せつけている。素材が素材だけに、ああいう試合を続けていくうちに、いつかは本当に『プライド』の頂点に立つ可能性も高い。

いずれにせよ、今回も凄いメンバーが集まりそうな『プライド21』。あとはどんなカードが組まれるか、待ち遠しい限りである。■

『プライド』はみ出し情報　『プライド21』の翌日、6月24日（月）の19時から、BCGにてセーム・シュルトのセミナーの開催が決定！
料金は一般の方8,000円、BCG会員4,000円で、定員は30名。詳しいお問い合せはBCGまで　☎03-3560-7911
（なお、試合で選手がケガをした場合は中止）

他流試合

ワールドGPシリーズでも対『プライド』実現 ライオンズ・デン軍団も出陣か？

野生児アイブル参戦濃厚！武蔵VSデンプシー決定的！

今年に入ってK—1VS『プライド』の他流試合が本格的にスタートしているが、その波は途切れることなく、今度は7・14K—1ワールドGP福岡大会（フジテレビ系）で実現しそう。K—1のリングで行われるということで、ルールは当然K—1ルールだ。

K—1ジャパン・シリーズでは、シウバ率いるシュート・ボクセ軍団やヒーリング率いるゴールデン・グローリーから未知の強豪がチャレンジしてきたが、ワールドGPシリーズということで、今度は『プライド』に出場しているバリバリの打撃系ファイターがK—1の主力選手と対戦。中でも、噂されるのがギルバート・アイブルのK—1初参戦である。

2年前の8月、『プライド』西武ドーム大会では、ハイキック一撃でゲーリー・グッドリッジを開始28秒でKOしたこともあるアイブル。当時からアイブルはK—1にも向いていると思われたが、満を持しての登場となる。元々、ストリートファイトで鳴らした野生児だけに、『プライド』でのファイトも打撃一本槍。勝ち星に恵まれていないのは、まだまだグラウンドの技術に粗さがあるからだ。それだけに、逆に打撃のみルールのアイブルの潜在能力を見てみたい。

しかも、対戦相手として、あのミルコ・クロコップが候補に挙がっているというから面白い。ミルコVSシウバに続く注目のカードになるだろう。

また、7・14福岡大会には、ライオンズ・デン軍団参戦の可能性が出てきた。『プライド』一のハードパンチャーであるイゴール・ボブチャンチンをパンチで倒したトレイ・テリグマンやキックボクシング出身のガイ・メッツアーは共にK—1向きの打撃ファイター。本人たちも大乗り気だという情報も伝わってきている。

そんな魅力あふれるK—1VS『プライド』対抗戦だが、現在決定的なのが、武蔵VSジョシー・デンプシーと宮本正明VSクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンの一戦。デンプシーはあの"拳聖"ジャック・デンプシーのひ孫で、現在ZERO—ONEで活躍するボクシング系の総合ファイター。MMAの試合では、フランスのシリル・ディアバテに勝ったこともある。K—1VSZERO—ONEは思いもよらぬカードだが、シュルト戦で評価を上げた武蔵の他流試合ということで、またも注目を集めることになるだろう。

クイントンはご存知、桜庭和志と闘った元ホームレスという異色ファイター。桜庭戦では豪快な投げ技で度肝を抜いたが、その後、アレクサンダー大塚、石川雄規、松井大二郎（反則）、佐竹雅昭をパンチや投げでKOし、予想以上の実力者として評価が高まっている旬なファイターである。そんなクイントンに対し、宮本はどんな喧嘩ファイトを見せることができるのか？

その他にK—1ファイターで噂に上がっているのが、ピーター・アーツとアレクセイ・イグナショフ、レイ・セフォー、グラウベ・フェイトーザといった面々。この中で、アーツとイグナショフは、昨年のベスト8ファイターということで『プライド』との他流試合が濃厚。そして、セフォーとグラウベは10・5K—1ワールドGP出場決定戦を行う可能性が高い。それにしても、福岡は今年も豪華カードが出揃いそうだ。■

7・14 K−1WORLD GP in FUKUOKA 濃厚カード

武蔵〈正道会館〉 VS ジョシー・デンプシー〈米国／LAボクシングジム〉

宮本正明〈正道会館〉 VS クイントン・ランペイジ・ジャクソン〈米国／フリー〉

その他の出場予定のK−1軍団

1 ミルコ・クロコップ〈クロアチア／クロコップ・スクワッドジム〉
2 ピーター・アーツ〈オランダ／メジロジム〉
3 アレクセイ・イグナショフ〈ベラルーシ／チヌックジム〉
4 レイ・セフォー〈ニュージーランド／アメリカンプレゼントボクシングジム〉
5 グラウベ・フェイトーザ〈ブラジル／極真会館〉

世界大戦

SB、キック、散打、シュート・ボクセも参戦
「ここで勝った選手が本当のナンバー1」(シーザー)
S―cupは超・他流試合トーナメントに!
KOKワンマッチにTKも出場か?

7・7『S―cup』(横浜文化体育館)トーナメントの出場選手と組み合わせが発表された。"立ち技総合格闘技"を標榜するシュートボクシングだけに、出場メンバーは多彩な顔ぶれ。日本代表の土井広之と後藤龍治は、

「生っ粋のシュートボクサーは僕だけ。僕が優勝するべきだと思う」(土井)

「いろんな競技に参加してきたが、今までやってきたことは全部この『S―cup』のため」(後藤)

と、SB最大のイベントへの闘志を燃やしている。組み合わせを見ると、後藤は1回戦でいきなりダニエル・ドーソンと対戦。ドーソンは小比類巻貴之に勝ったこともあるオーストラリア屈指の強豪で「K―1ミドル級に出なかったのは、もうシェイン・チャップマンに勝ってるし興味がなかった。これから大きくなる可能性がある『S―cup』で有名になりたい。K―1よりこっちのほうが面白いことは、見てもらえば分かる」と豪語。後藤とドーソン、勝ったほうが決勝に進出する可能性はかなり高いだろう。

散打からは郭裕蒿(ジョン・イーゴ)が参戦。他流試合では戦績がかんばしくない散打勢だが、郭は散打の中でも対ムエタイ路線のエースであり、なんとタイ人をボディスラムで場外に投げ捨てたこともあるという。その郭と1回戦で当たるのはアンドレイ・スタチバン。ボブチャンチン軍団の一員で、フリーファイトの経験も多数。マネージャーのユージェニア女史(オバチャンチン)によれば「中量級のボブチャンチン」と呼ばれる選手だとか。

VT界のブラックバス軍団シュート・ボクセは、昨年喫した3連敗の汚名返上を狙って中量級最強の男マノエル・フォンセカを送り込む。1回戦の相手は格闘技王国オランダのアンディ・サワー。K―1ミドル級で優勝したアルバート・クラウスと同じリンホージムの兄弟子であるサワーは、弱冠20歳にして戦績は86戦85勝(!)。K―1のオランダ代表決定戦もサワーが出る予定だったのだが、相手が対戦を避けたことでクラウスに出番が回ってきたのだという情報もある。クラウスもサワーの優勝を確信しているとか。

そして土井は、初戦でフランスの総合格闘技ゴールデン・トロフィーの王者サミー・スチアポとの対戦が決定。キックでも好成績を収めつつ、今年イギリスで行われた『キング・オブ・ザ・ケージ』でも勝っている。打撃中心の土井とは正反対のタイプだけに、土井の苦戦、あるいは「まさか」の場面もありうるかも。

SB、キック、散打、総合と様々なジャンルのタイトルホルダーばかりが揃った今大会は、まさに超・他流試合トーナメント。ジャンルの看板を賭けた激しい闘いが繰り広げられるのは間違いないところだ。主催するSBのシーザー武志会長も「ここで勝った選手が本当のナンバー1」と言い切るほど。

また、大会ではSBルールのワンマッチも行われ、ホープ・宍戸大樹、修斗からウェルター級2位の雷暗暴(ライアン・ボウ)の出場が決定。『リングス提供試合』のKOKマッチには緒形、アターエフが出場するほか、TKこと高阪剛とも交渉中。トーナメントと合わせて全13試合がラインナップされる予定となっている。■

▲5月31日(金)、後楽園飯店で行われた記者会見には、シーザー武志会長、土井、緒形、後藤、雷暗、ドーソンが出席

《S-cupワールドトーナメント》

JSBAミドル級1位
後藤龍治
(日本/STEALTH)

WMTA世界Sウェルター級王者
ダニエル・ドーソン
(オーストラリア/ブンチュウジム)

散打70Kg級世界王者
郭 裕蒿
(中国/武術協会)

DRAKA世界Sミドル級王者
アンドレイ・スタチバン
(ウクライナ/ボブチャンチン軍団)

ストーム・ムエタイ王者
マノエル・フォンセカ
(ブラジル/シュートボクセ)

WKA世界Sウェルター級王者
アンディ・サワー
(オランダ/リンホージム)

ゴールデン・トロフィー王者
サミー・スチアポ
(フランス/ブシドーMAA)

WSBA世界ウェルター級王者
土井広之
(日本/シーザージム)

◎ワンマッチ出場決定選手

〈SBルール〉
宍戸大樹(日本/シーザージム)
雷暗 暴(アメリカ/フリー)

〈KOKルール〉
ヴォルク・アターエフ
(リングス・ロシア)
緒形健一(日本/シーザージム)

◀「ヴォルク・ハン格闘術」の高弟であり"ヴォルク"の名を継ぐ男ヴォルク・アターエフもリングスマッチに登場

▶"TK"高阪剛とも出場へ向けて交渉中

恒例

アメリカから帰国、そしてパラオへ 猪木成田会見2連発

"猪木2世"の正体が遂に明らかに！ 長州の痛烈批判には冷静（？）に反撃！

新日本プロレスの5・2ドーム後にアメリカに帰ったアントニオ猪木が、ロスから帰国してきた5月22日と、パラオへと旅立っていった6月1日に、成田空港で恒例の記者会見を2度にわたって開いた。

まず、5月22日に帰国した際の会見では、ブラジルで大型新人を発掘してきたことを発表。昨年の暮れ、『イノキ・ボンバイエ』を前にして行われた石井館長との対談の中で、館長から「猪木2世は？」と聞かれた時に、「今ブラジルに凄いヤツがいる」と言っていた"猪木2世"の正体を遂に公表したのだ。

その男の名前は、リョウト・カルヴァーリョ・マチダと言って、アマゾンの奥地に住む24歳の日系ブラジル人。猪木の実兄が開いている空手道場の道場生で、空手の全米大会で優勝したり、柔術も紫帯、相撲もブラジル大会で準優勝と素晴らしい実績を残している。体格も186センチ、96キロとかなりのものだが、それ以外のことは全て謎に包まれている。

猪木はこのマチダを、「俺も力道山にブラジルから連れて来られた。体がメチャクチャ柔らかいので、テクニックを教えれば一流選手にぶつけられる」と評しており、かなりその素質に惚れ込んでいる様子。近々、ロス道場で英才教育を施し、K—1や『プライド』、そしてプロレスとなんにでも対応できる、超大型ファイターに育てるつもりだ。今回は、写真が入手できなくて、姿が分からないのが残念だが、今後マット界に一大旋風を巻き起こしそうな、楽しみな存在であることは間違いない。

ところで、猪木がパラオへと旅立つ前日の5月31日、プロレス界に衝撃が走った。5月いっぱいで新日本プロレス退団が決定していた長州力が記者会見を開き、公然と猪木批判をしたのだ。その会見の内容は、猪木に対して「確執の大きな原因はアントニオ猪木。武藤たちと一緒に、社員たちが辞めたのが引き金になった。感謝する気持ちすらない。彼は人間的に欠落している。ジャイアント馬場が最後まで信用しなかった気持ちもよく分かる」と痛烈極まりないもの。さらにロスの道場建設に反対したことを告白し、「誰が経営に携わるかというと身内」と公私混同ぶりまでも暴露した。

翌日、パラオへと旅立つ猪木を成田で迎えた報道陣の質問は、当然この長州発言に関することに集中。しかし猪木は、「興味ないね。いい人生を送りなさいと。金に困ったら俺のところにおいで。今は長州より、新日本のほうが大事」とはぐらかすばかり。「今さらそんなケンカに引きずり込まないでよ。俺はそういうとこにいないんで」と、長州とは立っている土俵が違うことを強調した。

終始冷静を装っていた猪木だが、長州の「感謝する気持ちすらない」という言葉に対しては、「そういう質問には答えたくない」と、はらわたが煮えくり返っているのは、表情からもありあり。報道陣に殺伐とした雰囲気を醸し出しながら、猪木はパラオへと旅立って行った。

ちなみに今回のパラオ訪問の目的は、新しく作った珊瑚関係の会社のことと、例の永久電気の援助を大統領より正式に申し込まれたためとのことだった。■

これが"猪木2世"のプロフィールだ！

リョウト・カルヴァーリョ・マチダ
(Lyoto Carvalho Machida)
1978年5月30日生まれ。国籍はブラジルで、バイーア州サルバドールの出身。

空手における実績

1988年　パラ州大会　ジュニアの部　優勝
1989年　パラ州大会　少年の部　優勝
1990年　パラ州大会　少年の部　優勝（5冠）
　空手道初段取得（ブラジル）
1991年　パラ州大会　少年の部　優勝（3冠）
1992年　パラ州大会　少年の部　優勝（4冠）
1993年　ブラジル大会　演武　優勝／組手　準優勝
1994年　ブラジル大会　組手　優勝
1995年　ブラジル大会　組手　個人優勝及び団体優勝
1996年　ブラジル大会　型・複合　優勝／組手　準優勝
　パラ州大会　組手　優勝
　ブラジル大会　演武・大人の部
　空手道国際大会（サンディエゴ／USA）にナショナルチームとして参加
　空手道2段取得（ブラジル）
1997年　ブラジル大会　演武　優勝（2冠）／組手　準優勝／型・団体　準優勝
　北部大会　組手　優勝（2冠）／演武　準優勝／型・個人　準優勝
1998年　空手道世界大会（10月9～11日　ポーランドヴェルソヴィア）銅メダル／型・団体　4位
1999年　ブラジル大会　演武　銅メダル／組手・団体　銅メダル／組手・個人　優勝
　北部大会　組手・個人　優勝／団体　優勝／型・個人　銅メダル
　パラ州大会　演武　優勝／組手・団体　優勝／型・団体　優勝／型・個人　銀メダル／組手・個人　銀メダル
　「ホムロ　マイオラナ杯」　優勝
2000年　空手道3段取得（ブラジル）
　4月　サンパウロ松濤館で、東京にて行われる松濤館世界大会の選出大会　型　優勝／組手・個人　銀メダル
　世界大会のブラジル代表に選ばれる
　6月　空手道ブラジル大会　型・個人　優勝／組手・個人　銀メダル／組手・団体　銅メダル
　12月　第12回パラ州大会　組手・個人　優勝／組手・団体　優勝／型・個人　優勝
2001年
　4月　第3回松濤館大会（サンパウロ州アルジャー）型・個人　優勝／組手・個人　銀メダル
　5月　第13回空手道ブラジル大会（パラナ州クリチバ）複合　優勝／組手・団体　銀メダル
　8月　USP（サンパウロ大学）松濤館ブラジル・日本大会　型　銀メダル／組手・個人　優勝
　9月　松濤館杯（パラ州ベレン）型　優勝／組手・個人　優勝
　北部大会（セアラ州フォルターザ）　組手・個人　優勝／組手・団体　優勝／型・個人　銀メダル
　10月　空手道パン・アメリカ大会（全米大会／チリ・サンティアゴ）組手・個人　優勝／組手・団体　優勝

その他の競技

相撲2段　柔術・紫帯
1992年　相撲パラ州大会　15歳までの部　優勝
1994年　柔術パラ州大会　白帯　準優勝
1997年～2000年　相撲・団体パラ州大会（4冠）
2000年　相撲ブラジル大会
　個人・115キロまでの部　準優勝

真夏の格闘技大戦争の行方は？

アントニオ猪木が口走った 8・8UFO東京ドーム大会&『プライド』国立競技場は 嘘か？ 本当か？

アントニオ猪木が仙台のホテルでマスコミに囲まれたところ、UFOが8・8東京ドーム、そして、『プライド』が8・11国立競技場をそれぞれ押さえていることを口走った。さらにその時期行われる毎年恒例の新日本プロレスのG1両国国技館大会（8月10・11日）も合わせて、真夏の興行戦争が浮上することがスポーツ紙でも報道されはじめた。果たして、これは本当に実現するのだろうか。もし、本当に実現したら、マット界史上最大の興行戦争になることは間違いない。

猪木はこの時、「もし、そうなれば、俺が連動して面白くしてやる」と鼻息も荒かったが、6月1日の成田会見では、一転して「噂だろう」と煙に巻き始めた。『プライド』を主催するDSEの森下直人社長はこの件に関して「今のところ何も発表するものはない」と口を閉ざし、K—1の石井館長もなんらコメントしていない。石井館長は以前、「横浜国際スタジアムか国立競技場クラスで『プライド』との全面対抗戦を実現させたい」と記者との雑談の中でもらしたことはあるが、最近は同じように何も言わなくなっている。

猪木—石井館長—森下社長のラインは、昨年末の『イノキ・ボンバイエ』を、TBSと組んで大成功させた最強タッグチーム。もし、国立競技場という10万人を収容できるスタジアムで格闘技イベントを行うとしたら、この3人のプロデューサーの最強タッグしか実現はあり得ないが、この時期に正式発表されてないことを考えると、たしかに水面下での動きはあるが、正式決定には至ってないということではないだろうか。それを猪木が先走ったことで、余計に情報が混乱しているというのが本当のところだ。

その理由はよく分からないが、時期が迫っているだけに、本誌の発売前後にはなんらかのアクションがあるかもしれない。もし、実現すれば、藤田VSミルコ、桜庭VSミルコのような大一番がメインとなりそうだが、現状は見えていない。

一方、UFOの8・8東京ドーム大会は、開催についてかなりの信憑性がある。すでに専門誌では東京ドームが押さえられた事実が確認されているし、UFOの自主興行というより、日本テレビが全面的に応援し、主催するということで、代理店が動き出しているのだ。しかも、驚くことに日テレは当日の午後7時からのゴールデンタイムで枠を開けているという。さすがUFOの川村龍夫社長は、テレビ業界に強い！

しかし、UFOの東京ドーム大会についても、まだ正式発表されていない。会場もOK！テレビ局もついたということでなんら問題はないと思われるが、大きな誤算は同時期にK—1VS『プライド』の全面対抗戦が浮上してきたことだろう。まだ、K—1VS『プライド』は本当に実現するかどうかは微妙だが、格闘技系の一流選手は、ほとんどK—1か『プライド』と契約しているため、両ジャンルの選手を出場させることは困難。その調整に難航しているのではないだろうか。

また、UFOの会長を務める猪木にしても、その時期、本体の新日本プロレスのドル箱興行であるG1が控えている。それこそ、G1がコケたら新日本の屋台骨を揺るがすだけに、こちらのほうの調整も難しい。UFOにとってみれば、格闘技も純プロレスも、スケジュール的に非常に難しい局面に立たされているというわけだ。

そうなると、主催者の日テレとの関係で、三沢ノア参戦が一番可能性が高い。しかし、猪木が5・2新日本ドームでの蝶野VS三沢をあまり評価していないことを考えると、こちらもすんなりいく話ではないのかもしれない。

いずれにせよ、UFOのドーム大会は、小川直也の対戦相手が誰になるかに尽きる。マット界の至宝・小川のカードがどうなるか見えてきたところで、大攻勢をかけるのではないだろうか。

もし本当に実現すれば、両イベント合わせて、15万以上の集客が見込まれる史上かつてない興行戦争が実現する。真の勝者は誰だ？ ■

ビックリ箱

地方巡業で大ブレイクのZERO―ONEに元極真、元リングス選手が続々参戦！

7・7両国国技館大会の開催決定 小川直也の参戦も濃厚だっ！

「お客様は神様です！」この言葉をスローガンにしてからZERO―ONEは、最も熱いプロレス団体へと変貌を遂げている。

今年の3月2日で、旗揚げ1周年を迎えた破壊王・橋本真也率いるZERO―ONE。昨年、三沢光晴をはじめとしたノア勢との対抗戦を実現させたり、小川や高山善廣、マーク・ケアーという大物ファイターを投入して『真撃』という格闘技路線のイベントを開催してきたZERO―ONEだが、いずれも尻切れトンボで終わってしまっている。

しかし、現在のZERO―ONEのリングは純プロレスに完全方向転換、超高速スリーカウントという古典的かつ姑息な手段で、アメリカの選手ばかりにえこひいきするレフェリーが大活躍したり、様々な陰謀を巡らす、アメリカのプロレス団体・NWAのジム・ミラー会長と橋本の抗争ドラマが大ウケし、旗揚げから初となる地方巡業が、各地で大ブレイクしている。

ところで、『真撃』というZERO―ONEだが、逆に格闘家たちの参戦が続く珍現象が起きている。

まずは元極真空手の小笠原和彦。1月6日の後楽園ホール大会に乱入し、橋本と因縁を作った小笠原は、その後極真を破門になってしまったものの、単身ZERO―ONEに乗り込んで、次々と所属選手を撃破。7・7両国大会では、橋本とのシングルマッチが濃厚視されている。

また、5月シリーズ最終戦となった後楽園ホール大会には、元リングスの横井宏考が参戦。以前からZERO―ONEに参戦していたリングスの先輩・坂田亘と組んで、ZERO―ONEの佐藤耕平、崔リョウジとタッグマッチを行った。プロレスデビュー戦となった横井だが、リングス時代から怪物と評されていたとおりの暴れっぷりで、この日一番の熱い試合を見せてくれた。横井は、6・27後楽園ホール大会にも参戦。試合後も乱闘を繰り広げた崔との一騎打ちが決定している。ちなみに崔もかつて、オランダのジェラルド・ゴルドーの元で修行していた経験をもち、佐藤は元修斗の選手だ。

何から何まで驚かせてくれるZERO―ONEだが、やはり小川の地方巡業参加が一番の驚くべき新展開だろう。今まで、ビッグマッチしか参戦経験がなく、昨年の暮れには『イノキ・ボンバイエ』出場を巡って、石井館長に1億円ものギャラを要求できるほどのビッグネームの小川が、ZERO―ONEの地方巡業にたった2戦（5・3愛媛大会、5・19石川大会）とはいえ、参戦しているのだ。常に総合格闘技への参戦が期待される小川だが、橋本とのOH砲も好評で、ますますプロレスにのめり込みそうな様子。それだけのものが、現在のZERO―ONEにはあるということだ。

こんな格闘家たちが、高速スリーカウントの餌食になってしまうのも、ZERO―ONEの魅力の一つ。ゴルドーまでもが、高速スリーカウントを味わっている姿は、実に衝撃的だ。また常連外人のジョシー・デンプシーが7・14K―1福岡大会に参戦。橋本が言うところの〝ビックリ箱〟は、外にも向かって蓋を開けようとしている。7月7日に開催される両国国技館大会にも、とんでもない〝ビックリ箱〟が用意されていることは間違いない。■

▶プロレス初体験となった横井。ロープワークを拒否する姿も新鮮だ。横井は、この日タッグで対戦した崔リョウジ（右）と、6・27後楽園ホール大会でシングルマッチを行うことが決定している

▶5・23後楽園ホール大会のメイン終了後、元極真の小笠原が空手衣姿で乱入し、橋本との一騎打ちを要求した。橋本もこれを受諾し、7・7両国大会での一騎打ちが決定的だ

◀小川もＺＥＲＯ―ＯＮＥの地方巡業に参戦。愛媛大会では、ザ・プレデターのチェーンで絞首刑に……。小川は地方巡業が相当気に入ってしまったようだ。7・7両国大会では、このザ・プレデターとの一騎打ちが濃厚

『プライド21』復帰戦、ミルコ戦よりも……

桜庭和志、税金問題に大いに怒る！「税金のムダ使いはやめてください！」

シウバ、ノゲイラという『プライド』が誇る両チャンピオンが揃って負傷し、『プライド21』への参戦がなくなった。そこで、急遽浮上したのが、桜庭和志の『プライド21』での復帰戦だ。8月に噂されるミルコ戦を前にして、桜庭の復帰戦は実現するのか？　桜庭に現在の状況と、そして最近一番頭に来ているという税金問題について、大いに語ってもらった。

撮影◎中島ミノル
聞き手◎谷川貞治

SAKU
Where there's a will

――インタビューするのは久しぶりなんですけど、今日はスカされないようにしないと（笑）。で、なんの話をしましょうか？ 6月の話？ それとも8月の話？

桜庭 6月の話でいいんじゃないですか？

――6月の話。じゃあ、6月の話にしましょうか。どうなったんですか、復帰戦は？

桜庭 出れません。

――（ズコッ！）。なんでぇ？（怒）。

桜庭 だって、肩が痛いから。

――えっ？ 試合だって聞いて？

桜庭 違いますよぉ（笑）。痛いんです。

――あ、そう。スパーリングとかはやってないんですか？

桜庭 やってますよ。

――打撃とかも？

桜庭 はい。

――じゃあ、普段どおりの練習を？

桜庭 そうですね。

――でも、6月はもう出ないと……。

桜庭 はい。

――そうですかぁ……話が続かないですね。どうしましょうか？

桜庭 「どうしましょうか？」って聞かれても（笑）。

――ひょっとして、自分の中で復帰のイメージがあるんじゃないですか？ どんなヤツとやりたいとか、いつやりたいとか……。

桜庭 できれば来年。

――……。でも、『プライド』の会場に行ったら、やりたくてウズウズするんじゃないですか？

桜庭 まだ、いいかなぁ。試合やりたいというより、入場やりたいなぁっていうのはありますね。

――入場のイメージは浮かんでいる、と。

桜庭 少し。

――むむぅ～。でも、最近の『プライド』って、凄くレベルが上がっていると思いませんか？

桜庭 う～ん、試合の日に聞いてくれないと分かりませんね。

――もう忘れちゃった、と？

桜庭 はい（笑）。

――じゃあ、あの～、よく聞かれていると思うんですけど、シウバVSミルコ戦はどうだったんですか？

桜庭 面白かったですよ。

――あ、それだけ（笑）。どんなところが？

桜庭 ミルコの一発が当たったら、どうなっちゃうのかなっていう。

――あの試合はいろんな意味で面白かったと思うんですけど、桜庭さん、総括してみてください。

桜庭 難しい。う～ん。

――2人のどこが良くて、どこが悪かったって話があるじゃないですか！

桜庭 う～ん……。

――じゃあ、どっちが勝ったと思います。やっぱりシウバ？

桜庭 いや、どっこい、どっこいじゃないですか。前半はミルコが押してて、後半はシウバだったという……。

試合やりたいというより、入場やりたいなぁっていうのはありますよね

――じゃあ、判定をつけたらドロー？

桜庭 そうですね。

――桜庭さんはどっちを応援してたんですか？

桜庭 いや、どっちでもいいんですけど、ミルコが勝ったほうが面白くなるかなぁ、って思いました。

――やっぱり！ ミルコの凄いところってどこなんですか？

桜庭 う～ん、キック！

――（ズコッ！）そのままやん（笑）。じゃあ、ミルコの欠点というのは……。

桜庭 グラウンド。

――だよねぇ……。ルールに関してはどうだった？ たとえば、桜庭選手がやるとしたら？

桜庭 60分三本勝負！

――60ぷ～ん？ 三本勝負ぅ～？

桜庭 はい。3分は短いですから。

――はぁ……。じゃあ、ルール的に問題なのは時間だけだと。

桜庭 あと、打撃なし。

――打撃なしぃ～。ハハハ、それはいい提案だ（笑）。

桜庭 あとはないです。

――それだけあればいいよねぇ（笑）。でも、ファイターとして、ミルコのことはどんな選手と捉えているんですか？

桜庭 力が強いんじゃないですか？ あとは打撃系は分野が違うので分からない。

――あ、それだけ。性格なんかどう見ます？ 感性としてどんな感じですか？ 好きなタイプ？

桜庭 いやぁ、性格は一日中付き合ってみないと分からないですからね。

――結構、嫌らしいというか、ミルコは嫌なタイプかもしれないですよ。そんな感じしません？

桜庭 いや、べつに。試合する姿しか分かりませんからね。試合する姿は姿で、みんな少しは普段の生活と違うものを出してますから、性格なんて分からないですよ。

――桜庭選手は、対戦相手のそういう性格って、あんまり気にしないんですか？

桜庭 いや、べつに。考えないです。

――ホイス・グレイシーも、クイントン・ランペイジ・ジャクソンも一緒？

桜庭 そうですね。

――ふ～ん。じゃあ、ミルコとシウバ、見ていてどっちが腹が立つ？

桜庭 それはシウバですね。

――あ、そうなんだ、やっぱり。じゃあ、ミルコは好きなほうですか？

桜庭 動きは好きですね。直線的にガーッとくるタイプじゃないですから。横にパッ、パッと動けるじゃないですか。そういう選手とのほうが面白い試合ができると思います。

――ああ、動きが……。

桜庭 でも、特別にってことはないですよ。

――えっ、そうなの？ どんなタイプの

選手が本当は好きなんですか？

桜庭 イグナショフ！

――ええっ、イグナショフが好きなの。あんな地味な野郎が（笑）。

桜庭 ええ、ダメですか？

――ダメじゃないですけど、どんなところがぁ？

桜庭 名前がいいし。ヒザ蹴りがうまいじゃないですかぁ。

――名前がいい（笑）。じゃあ、K―1の中ではイグナショフと闘いたい、と。

桜庭 嫌ですよ。

――なんでぇ？

桜庭 大きいじゃないですか。そんなの試合にならないですよ。

――じゃあ、やっぱりミルコ対策を今はやってるんですか？

桜庭 いや、べつにやってないですよ。普通にやってます。

――あれ？ そもそもサクちゃんはミルコとやりたいっていうんじゃないの？

桜庭 べつに僕、ミルコとやりたいなんて言ってませんよ。

――えっ、そうだっけ？ でも、みんな既成事実のように言ってますよ。

桜庭 ああ、だからあれは『週プロ』のコラムの中で初めて釣りに行ったので、「ミルコは今はおいしそうだな」って言っただけで、釣りとかけて書いただけなんですよぉ。それをみんな、僕がミルコとやりたがってると思ってますけど。

――そうじゃないんだ？

桜庭 だって、向こうのほうが大きいじゃないですか。

――体は大きいよね。

桜庭 シウバだって、僕より大きいのに。

――じゃあ、ミルコ以外に誰かやりたい人はいるの？

桜庭 だから、ミルコとやりたいとは言ってませんよ（笑）。

――じゃあ、やりたい人は誰なのよぉ！

桜庭 未知の強豪とか、そんな、まったく知らない感じの人。

――そういうのが好きなんですか？ ホームレスのクイントンみたいなのが。

桜庭 好きっていうか、緊張しますよ。何をするのか分からない人が、一番緊張します。

――緊張するだろうね。しかもクイントンなんて、投げてくるとは思わないからね。あいつ、メチャクチャ強かったし。

桜庭 一番緊張したのは、昔キングダムの時にやった人で、総合で17戦全勝とかプロフィールに書いてあって、ビデオもないんですよ。何をしてくるか分からないじゃないですか。一番緊張しましたね。そういう人がいいです。

――ああ、じゃあ6月の復帰戦はそういう未知の強豪がいいですね（笑）。

桜庭 だから、無理ですって。先週くらいから、また肩が痛くなってきましたもん。

――マッサージしようか？

桜庭 骨だから、いいです（笑）。6月は無理ですよ。

（桜庭VS吉田は？）
僕は日本人選手とは絶対にやりませんよ

――じゃあ8月？

桜庭 8月も厳しいなぁ。

――ええっ？ じゃあ、いつなのよ、復帰戦は？

桜庭 年末年始ぐらいだったら（笑）。

――んむぎゅ～。

桜庭 ………。

――話が進まないですね。

桜庭 ………（ニコニコ）。

――そうだ！『プライド』に柔道の吉田秀彦選手が上がるっていう噂があるんですけど、もし上がったらどのくらい活躍すると思います？ ウチの雑誌では吉田選手と対談もしましたけど。

桜庭 自分の基礎となるスポーツとかをしっかり頭に入れておけば、対応できるんじゃないですか？

――それはどういうことですか？

桜庭 吉田選手は結構、柔道は長いじゃないですか。それをベースにして、そっから打撃を身に付けていけば……。やっぱり柔道の強さを大切にしたほうがいいと思います。いきなり打撃でKO狙っちゃったりしたら、相手にもよりますけど、やられちゃうと思いますけど。

――でも、柔道だけでは勝てないでしょう。

桜庭 柔道だけでは勝てないですよ。レスリングの人だって、レスリングだけでは勝てないですから。それをどうやって自分色に染めるかですね。

――桜庭選手はどうやって自分色に染めていったんですか？

桜庭 僕もレスリングがベースですけど、それから関節技やって、打撃に慣れて、そんな感じですね。

――はぁはぁ、そんな感じですよね。吉田選手が『プライド』に上がれば、かなり話題になると思うんですけど、桜庭選手的にはどう思うわけぇ？

桜庭 面白くなっていくから、いいんじゃないですかね。

――桜庭VS吉田なんてのも、あるかもしれないし。

桜庭 僕は日本人とは絶対にやりませんよ。

――でも、桜庭VS吉田はすっごく話題になっておいしいでしょう？

桜庭 日本人とはやらないです。

――ちぇっ！ これもダメかぁ。

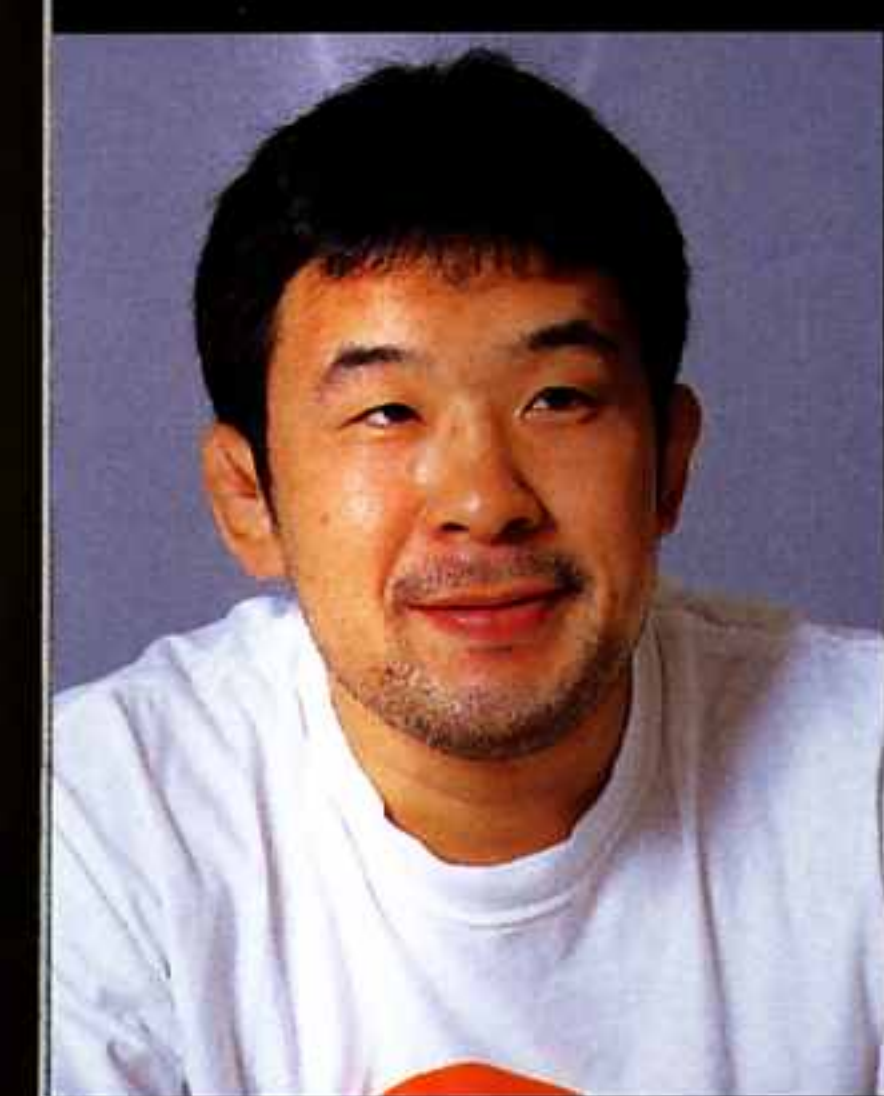
桜庭 ダメです。

――じゃあ、話題を変えて、最近の『プライド』はレベルが上がって、日本人が勝てなくなりましたよね。やっぱり日本人は勝てないんですか？

桜庭 外人に劣ってる感じはしないですよ。みんな一生懸命練習しているし、僕もやられてるけど、波があるんじゃないですか。勝つ時もあれば、負ける時もあるという。

――じゃあ、今後日本人が勝つ可能性はある？ 期待していい？

桜庭 はい。それはもう。やり方じゃないですかね。試合のやり方。

――僕が思うに、桜庭選手以外の日本人って、バカ正直な闘い方というか、一直

線すぎるんじゃないですか？
桜庭　一直線というか、自分の得意な分野に引き込めばいいんじゃないですかねぇ。
――あ〜、そうか、そうか。
桜庭　引き込むって言っても、引き込むだけじゃ誰も乗ってこないので、引き込むために餌を与えて、さかな捕る網じゃないですけど、キューッとだんだん狭めていって、自分の型にはめちゃう。それが大切なんじゃないですかね。
――桜庭選手はそれがうまいんだろうね。相手も光らせてるし。
桜庭　あれですよ、受けの美学。
――受けの美学なんだね。
桜庭　風車の理論を使うんですよ。
――風車の理論ね。風車の理論って、分かってるの？
桜庭　回ればいいんですよ（笑）。
――そ、そうなの？（笑）。
桜庭　ニュートンのなんとかってあるじゃないですか？
――へ、ニュートンが風車の理論？　ニュートンってリンゴが落ちるのを見てって人でしょう？
桜庭　違いますよ、カーロス・ニュートンですよ。
――ああ、カーロス・ニュートンね（笑）。相手の力を利用しながら、クルクル回って、最後は極めるっていう。あれができるのは、日本人で桜庭選手だけですよね。
桜庭　いや、練習すればみんなできますよ。
――あ、そう！　練習してないのかな？
桜庭　あと、練習と本番じゃ違いますからね。
――要するにみんな自分の技術やパワーを身に付けて、相手を倒そう倒そうとするけれど、そうじゃなくて、相手の力を利用すれば勝てるんだっていうことでしょ。省エネというか、効率よく。
桜庭　そう、省エネ。
――それが風車の理論だよねぇ。今のはちょっといい話でした。何か他にある？
桜庭　いや、特にないです。
――あっ、そういえば所得番付に名前が載ってたねぇ。格闘技で名前が出てたのは、石井館長と桜庭選手と藤波社長だけだよ。あれ、去年の所得でしょ？
桜庭　はい。
――その前の年はもっと稼いだんじゃない？　去年は3試合しかやってないじゃん。
桜庭　貯金の利息が（笑）。
――そんなに増えたんだ（笑）。今なんか1年間に100万円預けても、100円にしかならないらしいですよ、利息。
桜庭　利息の高い銀行に預けているんです（笑）。
――ええっ？　どういう銀行？
桜庭　シウバ銀行（笑）。
――ああ（笑）。お金持ちになった気分はどうなの？
桜庭　税金のムダ使いはやめてください。
――ハハハハ。
桜庭　何に使っているんだろう、本当に。そういう話だったらいくらでも出ますけどね。世の中、不景気っていうんだったら、まずあなたたちの給料下げろよって感じですけどね。
――政治家とか役人とか。
桜庭　不景気なのに、人からお金を取ろうとしているところがおかしいし、道路工事も同じ所ばっかりやってるじゃないですか！　もっと裏に行けば直さなきゃいけない道、いっぱいあるだろうって感じですよ！（笑）。

不景気っていうんだったら、あなたたちの給料下げろよって感じですけどね

――サクちゃん、凄く声のトーンが高くなってきたんですけど（笑）。
桜庭　それは腹が立ちますよ！　渋滞もいっつも同じ所でしてるじゃないですか。で、テレビで政治家が討論してますけど、人の揚げ足の取り合いばっかで、完全に本題からはずれちゃってますもんね。ああいうのも嫌ですね。
――ぷぷ（笑）。
桜庭　おまえ、話し合うこと違うんじゃねぇのかって感じでしょ。なんか納得がいかないなぁ、税金の使い方が。
――そうだ、そうだ（笑）。
桜庭　ホント、歩合制にすればいいんですよ。
――歩合制！　それはいいよねぇ。ファイターと一緒で、なんかひとついいことやったら給料がもらえるとか。
桜庭　プロモーターみたいな人がいて、それを査定する。国会で居眠りしているヤツは即クビですよ！　もっと切羽詰まらせないと。居眠りするほど適当なことしてんですから。
――サクちゃんは練習中に寝ないですもんね（笑）。
桜庭　「一人あたまいくらだから負担にならないだろう」って、そうじゃないだろうって。
――「一人あたま1万円だから、戦争をやってくれるアメリカにあげましょう」とか、そんな感じですもんね。
桜庭　不景気なのに、なんで自分たちの働く場所のために何百億円もかけて、新しくしてるんですかね。建て替えるんだったら、自分たちの給料削って建てろって思いますよ。そういうのってありません？
――あるある（笑）。今日は「桜庭、税金問題に対して大いに怒る！」だね（笑）。
桜庭　いつも決まり事だから、法律だから出しなさい！　って感じじゃないですか。気候が悪くて米ができないのに年貢を出せって言ってるのと同じですよ。みんなで一揆起こせばいいんじゃないですか（笑）。
――そうだよねぇ、一揆起こそう！　サク一揆！（笑）。サクちゃんはTシャツがよく売れるから、みんなで着れば盛り上がりますよぉ。
桜庭　今はそれが一番頭にきてます（笑）。
――シウバよりも？
桜庭　そりゃあ、シウバどころじゃないですよ。取るとか取られるとかの問題じゃなくて、税金の使い方ですよね。
――分かりました。今日は桜庭選手が税金問題を語るということで、次回はムネオハウスについて語ってください（笑）。
桜庭　ああ……えっ？ ■

▲練習後、念入りに肩を冷やすサク。まだ、肩の骨がぶつかると痛むようだ

今度は何が飛び出すのか？
6・23『PRIDE.21』最新情報

大山峻護、11カ月ぶりに復帰

いきなり強豪ヘンゾと対戦決定！

『ヘンゾのタックルは全部切る。組んできたらブチ投げてやります』

昨年9月末に網膜剥離になり、7月29日のイズマイウ戦以来、完全にリングから遠ざかっていた大山峻護が、遂に6・23『プライド21』さいたまアリーナ大会で戦線復帰を果たす。しかも復帰戦の相手は、強豪ヘンゾ・グレイシー。ケガから復帰までの約9カ月の間、大山は何を考え、どのように過ごしていたのか。そして、ヘンゾ戦に向けての意気込みをじっくりと聞いてみた。

撮影◎中島ミノル
聞き手◎林　毅

大山と言えば、マイク・ボーグ戦で見せたこのポーズがやはりキメポーズ。ヘンゾ戦で見せてくれ！

――まずは、復帰おめでとうございます。
大山　あ、ありがとうございます。
――本誌の読者にとっても「待ってましたっ！」って感じの大山選手の復帰なんですが、目のほうは大丈夫なんですか？
大山　ええ、すっかりよくなりました。
――視力は？
大山　視力は若干落ちましたけど、それはしょうがないんで。大丈夫です。まあ、あんだけいじくられれば、しょうがないですよ（笑）。
――ああ、手術で。痛かったって言ってましたもんねぇ。
大山　痛かったですねぇ。3時間半かかりましたからねぇ。
――メスが入ってくるところとか、ずっと見えているんでしょ？
大山　はい。あれはホントにイヤですねぇ。もう2度とやりたくないです。
――いきなり、ヘンゾという強豪と復帰戦を行うわけですけど、まあ、ヘンゾ戦についてお話を聞く前に、網膜剥離になってから今日までのことを、ざっとお聞きしようかなと思うんですけど。
大山　はい。
――網膜剥離になったのが昨年9月末でしたよね。デビュー1年も経たないのに、いきなり選手生命の危機を迎えて。
大山　最初に診てもらった先生には「もう現役は止めてください」ってはっきり言われまして。目の前が真っ暗になりましたね。あん時の、病院からの帰り道の気持ちは、今でも思い出しますよ。僕の人生どうなっちゃうのかなぁという……。
――で、すぐに入院して、手術。
大山　はい。すぐに手術しないとヤバイ状況だったんですよ。医者に診てもらったら、とにかく動くなと、紫外線を浴びるだけでも網膜が剥がれてきちゃうから、できるだけ動かないでくれと。手術をする病院が決まるまでは家でじっとしていてくれと言われまして。
――そんな切迫した状態だったんですか。それでもなんとか手術は無事成功して。入院したのは3週間くらいでしたよね？
大山　はい。入院中にはファンの方から千羽鶴をもらったり、励ましのメールやお手紙をもらって。それが心の支えになりましたね。
――練習ができるようになるまで、どんなことを考えてました？
大山　今まで作ってきた筋肉が全部落ちちゃったんですね、たった1カ月安静にしただけで。なんかもう、自分じゃないみたいだったんですよ。当たり前のように筋肉があったのが、あっと言う間に落ちちゃって。落ちるのは早いんだなぁと。腹筋なんかも普通に割れていたのが……。スポーツ選手なんで、自分の身体が変わっていくのが分かるじゃないですか。それが一番悲しかったですね。
――まして、薬の副作用もあって、顔はまん丸になっちゃうし（笑）。
大山　そうですそうです。強い薬を飲まなくちゃいけなかったんで、その副作用で顔がパンパンになっちゃって。
――会う人会う人に太ったって言われて（笑）。
大山　はい。「メシ食い過ぎだよぉ」とか言われるんですけど、メシ食い過ぎじゃないんですよね（笑）。
――その頃、一番つらかったのは？
大山　一番つらかったのは、手術が終わって、一応、成功はしていたんですけど、実は合併症の症状が出ちゃってまして。術後30％の割合で視力に歪みが出る症状が出るって言われていたんですけど、それが出ちゃいまして。このまま症状が進行していったら、もう1回手術しなきゃいけないよって言われていたんですよ。で、検査する度にその症状が強くなっていたんで、医者もこれはまずいなぁって。結構その状態が長く続いたんで、つらかったですね。

腹筋なんかも普通に割れてたのに……
身体が変わっていくのが一番悲しかったですね

――で、それは大丈夫だったんですか？
大山　はい。それはなんか、奇跡的に症状が消えちゃいました。
――消えちゃった!?
大山　ええ。医者もビックリしていたんですけど。ある日突然。
――ある日突然!?
大山　はい。ホントに、症状は進行していて、もうちょっとで視力に歪みが出る状態だったんですけど、ある日突然ですね、不思議なんですけど。
――神様にお祈りしたとか、気功の先生に診てもらったとか……。
大山　いえ、そういうのはないんですけど（笑）。ホントに不思議でしたね。それが年末頃だったと思います。
――そんなこともあるんですね。練習はいつ頃からできるように？
大山　退院してから1カ月は完全に安静と言われまして。その後、最初は水泳から始めました。僕、クロールできなかったんですけど、一生懸命練習してできるようになったんですよ（笑）。それから今年の1月くらいから走ってもいいと許可が出まして。それで走り込みを始めて。
――本格的というか、きちんと練習がで

▲▼◀5月にはロスのミレニア柔術に一人武者修行に行ってきた大山。10日間、『キング・オブ・ザ・ケイジ』等で活躍する猛者たちと、みっちりとグラウンドとバーリ・トゥードの練習をしてきた。なぜかカメラ目線だし

▲ホームページへ寄せられるお便りが励ましとストレス発散になっていると大山。自らが書いている日記も赤裸々で面白いと評判
http://homepage2.nifty.com/owweb/

きるようになったのはいつ頃から?

大山　柔道の練習を始めたのが2月の終わり頃からですね。

——やはり最初は柔道から?

大山　そうですね。やはり身体に一番染みついているものですから。柔道と水泳とランニングを交互にやって体力を戻して。それから打撃を始めて。

——復帰の予定は、当初考えていたのよりも少し早くなった感じですか?

大山　そうですね、夏頃かなと思っていたんで。

——そのあたりの不安は?

大山　不安はないです。やるしかないという、いい意味での開き直りですかね。

——練習ができるようになった頃から、早く試合をしたいなぁという気持ちはあったんですか?

大山　う～ん、半々ですね。試合を見に行くと、ああ、俺も早くあの華やかな舞台に立ちたいなぁと思うんですけど、実際問題、練習やっていてスタミナがなくて息が上がっちゃったり、今まで返すことができていた技が返せなかったりとか、そういう現実があったんで。

——不安要素がなくなってきたのは、いつ頃からですか。

大山　3月、4月の沖縄合宿からですかね。平仲（明信）さんのジムで、かなり追い込んだ練習ができたんで。

——具体的にはどんな練習を?

大山　朝は5時半に起きてランニング。午後は、シャドーやって、ミットやって、サンドバッグやって、ロープやって。本当にボクシングのトレーニングなんで、キツイですね。で、メチャメチャ追い込んでくれたんで、あちらの方が（笑）。

——その後、5月はアメリカに行ってきたんですよね?

大山　はい。ロスの郊外にあるミレニア柔術というジムへ。

——そこではどんな練習を?

大山　グラウンドと、日によってはオープンフィンガーグローブを付けてバーリ・トゥードの実戦的な練習してました。レベルは思っていたより全然高くて、凄くいい練習になりましたね。

——アメリカへは一人で?

大山　そうです。ジムに宿舎があるということで行ったんですけど、宿舎というのは物置のことで。カギもない、ホコリっぽい部屋に10日間寝泊まりして。

——ところで、息抜きはしました?

大山　ジムのみんなに「ナイトクラブへ連れてってやる」って何回か言われて、準備万端で待っていたんですけど、すっぽかされました。

——準備万端って、もしかしてジャージ?

大山　もちろんですよ。

——………。話は変わりますけど、今まで、大山選手は『プライド』でヴァンダレイ・シウバ戦、ヴァリッジ・イズマイウ戦の2試合をやってきて、残念ながら白星がないわけですけど、理由はなんだと思いますか?

大山　う～ん……。一番は経験のなさだと思うんですよね。それと、マイク・ボーグ戦（昨年2月の『キング・オブ・ザ・ケイジ』）で勝って、一気に脚光浴びちゃって、ある意味、自分を見失っちゃっていたところがあると思うんです。急にテレビにも出るようになって、街を歩いていても声を掛けられたりするようになって、人生がちょっと変わって。ある意味、慢心していた部分があったと思うんです。俺は強いんじゃないかって。でも実際にやってみて、等身大の自分がよく分かりました。

構えを柔道と同じサウスポーに変えた。ヘンゾにタックルを取らせるつもりはありません

——格闘家ではない僕なんかが言っても説得力ないんですけど、僕は大山選手は凄く身体能力も高いし、素材的には凄くいいものを持っていると思うんですよ。

大山　ありがとうございます。

——それに、実際に練習で肌を合わせている桜庭選手も、本誌のインタビューで「大山選手ならシウバに勝てますよ」と言っていたりするわけじゃないですか。

大山　はい。その話を聞いた時は本当に、嬉しくて嬉しくて。カゼひいてたんですけど、思わず走りに行っちゃいました。

——その単純なところも大山選手のいいところですよね（笑）。

大山　ハハハッ。

——網膜剥離になる前となった後で、なんか変わったことはありますか?

大山　考える時間がたくさんもらえたんで、自分の実力に関しても、精神面の弱さとか、身体面の弱さとか、全部、客観視できるようになったと思うんですよ。前は何をやったらいいのかっていうのが掴めてなかったんですよ。どんな練習が自分に合っているのかとか、どんなスタイルでいったらいいのかとか。それがイズマイウ戦で叩きのめされて、自分の今の実力はこんなもんだなって実感させられて。それから網膜剥離になって、長い時間がもらえたんで。

——時間ができたことで、自分を冷静に判断する機会を得ることができたと。

大山　そうですね。で、あのまま突っ走っていたら、たぶん僕はどこかで潰れていたと思うんですよ。もし、イズマイウにラッキーパンチでも当たって勝っていたら、たぶん、慢心してこれでいいんだと思っちゃっていただろうし。今回、合宿とかをいっぱい張ったというのは、そういった自分の甘さを捨てたかったんですよね。実際、沖縄行ったりアメリカ行

◀▼3月と4月には沖縄・平仲ジムで合宿。精神的＆肉体的に追い込んだトレーニングをしたことで復帰への自信を得た

ったりして、肉体的にも精神的にも凄くハードなんだけど、こういう時間は大切なんだってよく分かったんで。

—しつこいようですけど、今の大山選手の話を聞いていると、打撃のほうの練習が多いように思うんですよ。なんか、そういう練習で、実際の試合で、持ち味であるグラウンドの技術が出せるのかなぁって心配なんですよ。グラウンドとか組み技の練習が少ないんじゃないのかなぁって気がするんですよね。大山選手には大山選手のやり方があるとは思うんですけど、僕も含めて大山選手を応援する人たちって柔道ファンも多いと思うし、やっぱり大山選手にはグラウンドのテクニックというか、柔道的な技術を駆使して勝ってほしいんですよね。実際、ウチのホームページでも、そういう声ってかなりあるんですよ。

大山 はい、それは分かります。えっとですね、ちょっと自分の中で、優先順位をつけてまして、やっぱり僕は組み技の選手で、柔道、サンボってのは、身体に染みついているもんなんで、じゃあ、一番足りない部分は何かなと考えると、やっぱり打撃なんですよ、長い目で見て。だから、最初に一番弱い部分を克服してから、次のステップに進もうと思っているんですよ。

—なるほどぉ。

大山 だから、周りからは「なんで、打撃ばっかりやっているんだ」って言われるんですけど、僕の中ではこう見えても、結構、計画的に考えていまして（笑）。長い目で見れば、今やっていることはあとあと生きてくると思ってるんですよ。

—それを聞いて安心したというか、勝手なことを言いましてスミマセン（笑）。でもなんか、ケガをしたことによって、ちょっと大人になりました？

大山 いやいやいや、そんなことないですけど、はい（笑）。

—でも、試合ではやっぱり、大山選手の柔道の技術というものを見たいですよね、柔道の技術がそのまま活きるというものではないとは思うんだけれども、テイクダウンにしても、寝技にしても、それを活かせるところはあると思うんですよ。今までの試合では、それがまったく見えてないじゃないですか。

大山 そうですね。それについては、僕も研究しているところもあって、前は構えがオーソドックスだったんですね、だから僕の柔道の構えとは逆で打撃の構えだったんですけど、それだと頭の中が8割、打撃になっちゃうんですよね。それを、やっぱり僕の良さを出そうということで、サウスポーに変えたんですよ。サウスポーに変えたら、ホントに頭の中が切り替わったんですよ。

—へぇ〜、そういうものなんですか。

大山 だから、イズマイウのタックルが入っちゃったのも、柔道と逆の構えだったからなんですよね。あれ、普通だったら切れるタックルなんですよ。

—切れるだろうし、本来の大山選手ならその前の瞬間に反応できるでしょうね。

大山 はい。ビデオ見ると反応しきれてないんですよね。だから、今回はヘンゾにタックルを取らせるつもりはないんで。

—それにしても、大山選手の相手は強敵ばかりですね。

大山 はい。でも、覚悟を決めてこの世界に入ったんで、問題ないです。

—ヘンゾ選手についてはどんな印象を持っていますか？

大山 やっぱり百戦錬磨のいい選手だと思いますね。『プライド』のリングで桜庭さんとメインをはっている人なんで。自分の持てるものを全てぶつけないと勝てない相手だとは思いますね。

ブラジル勢ばかりが目立つ今の状況は悔しい 日本人として一発見せます！

—どんな試合になると思います？

大山 気持ちとしては、テクニック合戦をしたいですね。今まではマイク・ボーグだ、シウバだ、イズマイウだって、殺し合いみたいな心境でリングに上がっていたんで、今度は自分のテクニック、ヘンゾのテクニックがぶつかるような試合をしたい。そういう気持ちでリングに上がりたいですね。

—ただ、ヘンゾも最近結果を残してないから、必死になってくるでしょうね。

大山 でも、自分もどん底を見ているんで、気持ちでは負けないですね。

—最近、日本人選手が結果を残せていないこともあり、ファンの目は非常に厳しくなっていると思うんですよ。結果も凄く重要視されているというか。

大山 そうですね。ブラジル勢の勢いが凄いなってのは感じてますね。でも、やっぱり『プライド』がここまで盛り上がったのって、桜庭さんが強い外人をどんどん倒して、日本人が凄いんだ、強いんだってのを見せてくれたからだと思うんですよ。でも、最近はブラジル勢が出てきて。よくないですよね、この状況は、ホント悔しいです。

—日本人として、一発見せないといけないですよね。

大山 その気持ちは強いです、はい。僕も今までの試合では自分の技術を見せれていないんで、今回は柔道、サンボで培った技術であるとか、打撃もそうですけど、自分の持っている武器を全て出し切りたいと思っています。

—試合のシミュレーションはできていますか？

大山 もちろん、できてます。

—細かい作戦は当然秘密だと思いますが、こっそり僕にだけ教えてください。

大山 実は、●●●●●●●●●●●●●●●●あるんですよ。だから、●●●●●●●●●●●●できるかなと。

—ほぉ〜。それは楽しみだなぁ。

大山 それにヘンゾのタックルは全部切るつもりですし、もし組んできたらブチ投げてやるつもりですから。僕の考えている攻撃がうまくいけば、間違いなく勝てると思っています。大きいことは言えないですけど、最高のコンディションでリングに上がって、思い切り力を出し切りたいなと思っています。■

▲取材を行った日は、髙田道場で出稽古。「髙田道場は本当に最高の練習環境だと思います」（大山）

▲久しぶりに桜庭ともスパーリングをした大山は「いやぁ、ケガの影響はほとんど感じられませんよ。ホントに相変わらず強いです」

フランス『KARATE・BUSHIDO』誌提携

SRS DX

スペシャル・リング・ガイド

No.72 7・11増刊号

CONTENTS

※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います。

大成功のキーワード
“ジャパニーズ・スタイル”
とは「葉隠」のことなり！

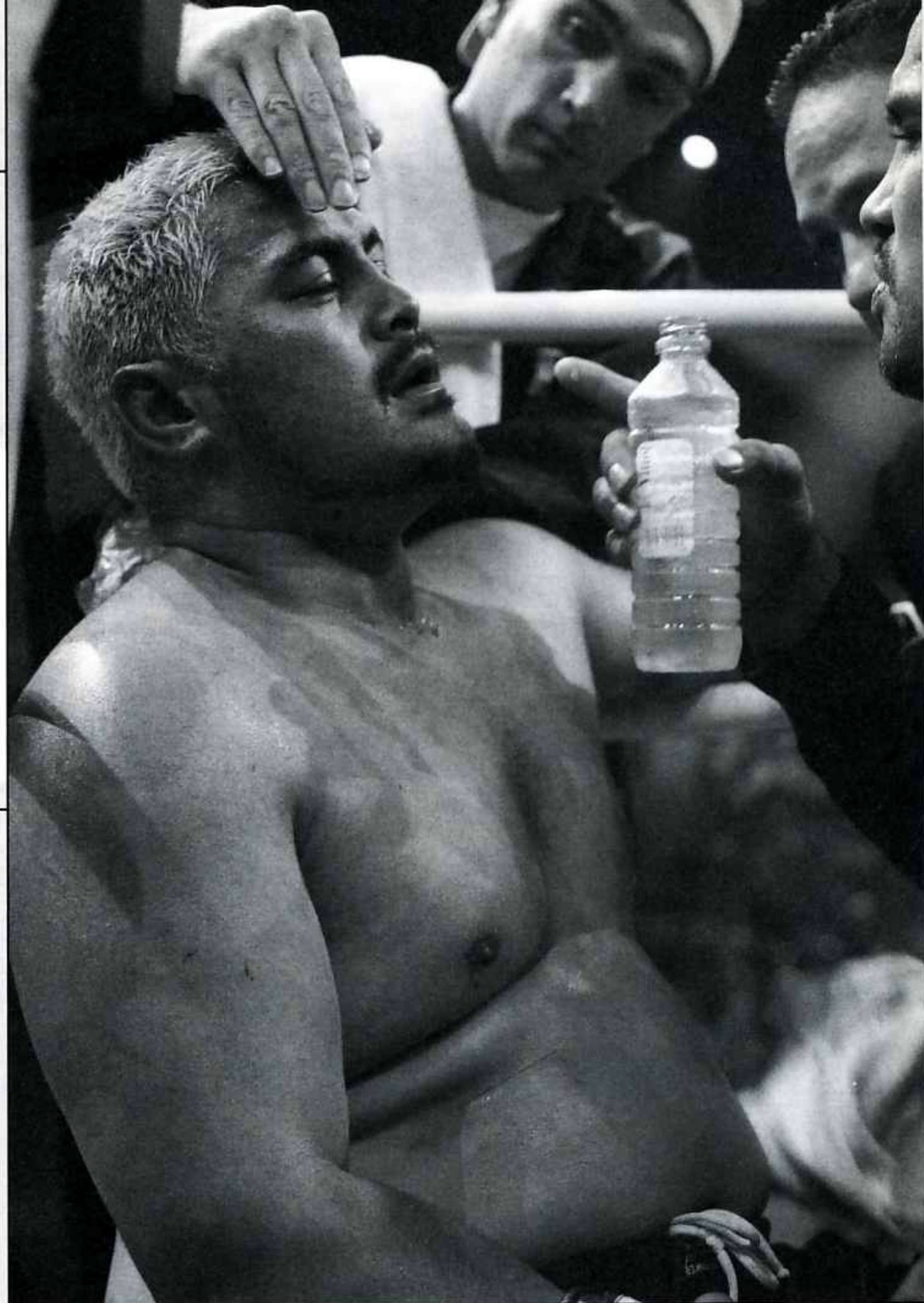
“世界の損失”
にならないためにも……

K-1 WORLD GP
パリ大会を
正しく伝えよう！

出席者◎ターザン山本（ヨコスカ、たそがれ）
サダハルンバ谷川（本誌“セーヌ川のほとりの絵描き”編集長）
小松魔裟夫（本誌“エニイタイム腹ぺこチャンピオン”編集部員）
司　会◎柳沢忠之（本誌“葉隠”発行人）

問題の9時42分がやってきたわけよぉ！

山本 おい、谷川ぁ！ 今回、俺はホントにみじめな男だと痛感したよぉ。
谷川 ど、どうしたんですか？ 師匠。
山本 みじめな思いというか、腹が立ったというか、屈辱を味わったというか、置いてきぼりにされたというか。巨大な敗北感というか、大・大・大ショックだよぉ！
――腹が立ったり、敗北感を味わったり、よく分からないなぁ（笑）。それは悲しいことなんですか？ それとも怒りに打ち震えてるの？
山本 どっちもですよぉ！ 怒と哀のオールすべてぜ～んぶをいっぺんに味わったんだよぉ。
小松 いつのことなんですか？
山本 日曜だよぉ！
谷川 あ、なんか、もう分かっちゃった！ ちょっぴりそんな気がしてたんですねえ、僕も。
――え？ え？ 何があったの？
山本 犯人は谷川だよぉ！
谷川 ……おっしゃるとおりです。
山本 俺は怒りに打ち震えて、一揆塾の講義ではその怒りの構図を詳細に黒板に書いて、マイナーパワーのネットにも一部始終を書いて、ダメ押しでサムライTVの『生でゴンゴン』でも言いましたよぉぉぉ!!
小松 山本さん、話が分からないので、ちょっとその怒りの構図を説明していただけますか？
山本 あの日はちょうどダービーがあった日だったんだよぉ。でも、俺は昼に取材があって全日本女子プロレスを後楽園ホールまで見に行ったわけ。で、興行が3時に終わってすぐに横須賀に行ったんですよぉ。
――なんでまた横須賀なんかに（笑）。
山本 要するに「個人情報保護法案」っていうのが問題になってるだろ。それに反対するグループのデモがあって、ある人に頼まれて行ったんだけど、着いたらもうデモは終わってたんだよぉ。1時間半もかけて横須賀まで行ったのに誰もいないんだよぉ、その公園に。
――ダハハハハッ！
山本 俺はひとりでその公園にぽつ～んと立って、途方に暮れてさぁ。日曜日の夕方ですよぉ。夕陽を見ながら寂しい思いをしていて、気付いたら周りのベンチに恋人たちが座ってて、家族連れとかが歩いてるわけよぉ。そこでしばらくぼーっとしてたら近くに正岡子規の像と碑があってねぇ。「ああ、ここはいいところだけど、一人ぼっちだと切なくなるなぁ」と思ってさぁ、しょうがねえから、また横須賀線に乗ってテクテク帰ってきて、『夕刊ディリー』を見たらダービーで買った馬券がハズレてやがるんだよぉ！
一同 ぷぷぷぷっ！
――でも、なんでそれがサダハルンバのせいなの？
山本 これにはまだ続きがあるんだよぉ。「なんなんだ、いったいこの暗い日曜日は！」って思って。で、家に帰ってきて、もうすることも何もないっていうんで、クタ～ッとなってたわけ。で、問題の9時42分がやってきたわけよぉ。
――問題の9時42分（笑）。
小松 よくそんな細かい時刻まで覚えてますね。
山本 42分に電話が入ったんだよ。誰かと思って出たら谷川なんだよぉ。フランスから帰ってきたのかなと思って「おい谷川ぁ！ 今どこだ？」って聞いたら「あ、ボンジュ～ル！ 山本さん。僕は今、パリにいま～す！」って言ったんだよぉ。その瞬間、さらにショックが大きくなって、なんでそんな状況の俺にパリから国際電話をかけるぅ。大いなる嫌がらせですよぉ、これ。
谷川 いやいやいや、違いますよぉ。嫌がらせじゃないですって。
山本 で、「ちょっと代わります」って次に石井館長が電話に出たんだよね。「K―1史上最大にして最高の試合がパリ大会で行われて、バンナとハントの試合が良かった」って話をしてるわけよぉ。で、「それは良かったですね」って、俺も館長に話を合わしてるわけ、心の中はグツグツ煮えたぎってるのに。
――ダハハハハハッ！
山本 「私もこれからテレビでたっぷり見させていただきます！」って、調子合わせて言ってるわけよ。で、考えてみたら僕は物書きのプロでしょ。絶対的な現場主義なわけですよぉ。現場に行ってないということは、もうプロとして最大の屈辱なんだよぉ。それをさぁ、石井館長と谷川は友情の印で、まず俺に結果を知らせなければいけないと連絡してくれたのは嬉しいんだけど、俺は現場に行ってないという点でプロとして恥をかかされたんだよぉ！
小松 あ、つまり不幸の電話ですね。
山本 そう思ったらだんだん腹立ってきて。俺が行ってたらビシッと表現できる玉稿が書けるし、概念化できるし、きら星のごとくターザン山本の作品が生まれたわけよぉ。
――きら星のごとく（笑）。
谷川 僕はやっつけですからね（笑）。
山本 現場に行ってる谷川の顔が浮かんできて「これは世界の損失だ！」と。俺が腹立ててるレベルじゃなく、世界とかさぁ、宇宙規模の損失だと考えたよぉ。
――サダハルンバがパリに行くと、世界の損失になる（笑）。
山本 だって、去年大ヒットした映画『アメリ』に出てくるモンマルトルの丘があって、俺が去年一番気に入ったミュージカル映画の『ムーランルージュ』の舞台があって、その現場に行ったら「ザッツ・ムチャリブレ」も凄いこと書けたじゃねぇか、と。この喪失感の巨大さはないよぉ。
谷川 でも、山本さんは電話では普通にしゃべってたじゃないですかあ。
山本 そりゃそうだよ、社会人だから普通にしゃべるよ。
――一応、社会人だから（笑）。
谷川 長年の師弟関係から言うと、じつは山本さんの精神構造から考えたら僕はなんてことをしてしまったんだって、ほんのちょっとだけ思ったんですよ（笑）。でも山本さん、パリは行かれたことはあるんですよねえ？
山本 ないよぉ！ 谷川がパリに行ってるのに、俺はなんでこんな葛飾の片隅にいるんだと思ってその日は寝られなかったよぉ。
小松 真意はやっぱり、うらやましかったんですか？
谷川 き、き、キミは僕の師匠になんていう質問をするんだ。
山本 谷川と石井館長が真のブルジョアで、俺は貧しいプロレタリアートだと実感したよぉ。
谷川 いや、そんなことは……。
山本 俺は貧民であることを突きつけられたわけですよぉ！ だからこの座談会ではK―1のパリ大会は禁句だ！ 俺は一応、テレビでは見てるけど、今日のテーマにはするな！
小松 あ、見てはいるんですね。

あ、島田が行ってたのかぁ？ 腹立つなぁ

山本　音声を消して見てたよぉ。

――ぷぷぷぷっ！　ここまでの話で山本さんはパリに行かなかったことでプロとしてOKですよ。もう、ムチャクチャに面白い（笑）。

谷川　パリに行かなかったことをここまでドラマチックに語れるのは山本さんだけだ。

山本　でも、しゃべれないからな、俺は行ってないから。

――パリ行ってたらね、パリで座談会ができてたのに。

山本　もしパリに行ってたら、石井館長を交えて、谷川と柳沢氏と俺とで、物凄く華やかな楽園のごとき座談会になったわけよぉ。で、何か土産はないのかぁ？

谷川　あ……、なんかあったっけ？

小松　編集部にチョコレートか何か残ってたと思いますけど……。

谷川　あ、じゃあ後でそれをお渡しして。で、山本さん、ちょっとはK―1のパリ大会について語ってくださいよ。

――無音のパリ大会を（笑）。

谷川　次回は必ず連れていきますから。

山本　ホントかぁ？

谷川　ええ、忘れなければ。

山本　じゃあ、ひとつだけ感想を言うよぉ。可哀想だったなぁ、マントは。

――マント？

山本　マントじゃない、マーク・ハント。あいつは美しいねぇ。なんか見てたら、勝ったバンナを称えていたけども、あの敗れた時、タオルを投げられた時のハントの顔ね。要するに俺も今まではオセアニアだから馬鹿にして見てたところもあったわけよ。でも、あの顔の表情と雰囲気。言葉では言いがたい精神性？　ハントは凄いよぉ。

谷川　現場で見てても、やっぱりハントは良かったですね。

山本　テレビにあの表情がパッと映った時にハントのあの物凄い精神性を俺は感じたよぉ。でも音を消してるからね、俺は。

――ぷぷぷぷっ！

小松　そこだけは頑なにこだわる。

山本　要するに雑音を消して見てるから理解できるわけよぉ。

谷川　雑音だから消していると。

山本　だから、現場のそっちがどう感じたかは分からないよ。

――現場でも良かったですよ（笑）。

山本　くぅ～っ！　俺も現場に行ってたら素晴らしい詩が書けたんだよなぁ。

谷川　「ハントよ、おまえは美しい」という詩を……。

山本　谷川はどう感じたんだぁ？

谷川　一緒に現場に行った社長（柳沢の呼び名）とも話してたんですけど、試合が終わった後の素直な感想というか、第一印象なんですけど、やっぱり日本人の観客が鍛えたプロ魂を……。

――いや「日本の興行が鍛えたプロ魂」。

谷川　そのプロ魂をそのままフランスでやったところが凄かったですね。要するにフランスにはムエタイ協会とキック協会っていうのがあって、その上にスポーツ青年省っていうのがあるんですよ。そのスポーツ省の管轄の中でやらないと、興行はもぐりでやることになるんですよ。で、どっちかの連盟に加入しなきゃいけないんですよ。で、どっちも一長一短があって、ルールの規定が細かいんですよ。で、どこの国もそうなんですけど、プロレス以外の格闘技ってなんで流行らないかというと、競技性を追求してるんですよね。

山本　ああ、なるほどなぁ。

谷川　もう、純粋たる競技なんですよ。たとえば、ダウンした後に失神したペーター・マイストロビッチという選手がいたんですよ。失神してると分かっていても、スリーカウントまで数えるルールがあるんですよ。たとえば、そこで島田レフェリーなんかは……。

山本　あ、島田が行ってたのかぁ？　腹立つなぁ。許せんよぉ、島田ごときがパリに。今の言葉でまた怒りが盛り上がってきた。

――ダハハハッ！　今日の山本さんは抜群にいいなあ（笑）。

谷川　で、そういう場面で島田レフェリーなんかはすぐ止めたりとかするんですね、角田さんもそうなんだけど。向こうはもうほんとレフェリングがヘタだし、ルールとか規定とかめちゃめちゃ厳しいんですよ。でもルールがある上でアドバンテージや反則があるってことが一番の醍醐味なんですけど、そこをもう絶対に「是」としないというか「非」とするんです。

――たとえば、ルールでクリンチがダメなんですけど、島田レフェリーは反対コーナーから走っていくように、自分が蹴りを食らおうが何しようが、「ノー、ノー、ノー」ってそこに飛び込んで行くんですよ（笑）。そういう試合の作り方というか、そういう緊迫感は日本でしかないじゃないですか。

谷川　失神していてもドクターが最初に触らないと後で訴訟問題になるとか、そんな訳の分からないことばっかりなんですよ。で、そういう状況の中で今まで世界中で興行をやってたんですけど、K―1に出てるファイターっていうのは、バンナにしろ、ハントにしろ、もう日本の興行システムや観客、プロデューサーに鍛えられまくってるんですよ。初めてのフランスでの大会でも「今回、ジェロムはこういう役割だよ」「ハントはこういう

K-1パリ大会 ターザン大激怒 座談会

俺のMVPはハント 現場に行っとけばなぁ

役割だよ」っていうのは、自分で分かってるんですよね。で、バンナなんかハントみたいなタイプが相手だったら、本当は距離をとって見切ればいいんですよ。打ち合ったら、ハントのほうが背が低いしパンチ力があるから危ないんですよね。でも、その間合いに入っちゃう。

山本　なるほどなぁ。

谷川　これはジャパニーズ・スタイルなんですよ。それで観客が喜ぶっていうことは、『プライド』の選手なんかもっと鍛えられてるんですけども、K―1の選手も分かるんですよね。

――それがちゃんとできていたのは上の2試合で、ホーストvsレコ、ハントvsバンナだったんですよ。

谷川　今、世界でK―1の地区予選をやってるんですけど、世界の地区でただK―1のシステムで競技をやってるだけなんですよね。でもスイスでK―1をやった時はそうじゃなくて、それはやっぱりアンディがジャパニーズ・スタイルを持ち込んでたんですよ。自分がスイスの力道山になることがいかに大切かっていうことを、インタビューから何から肌に染みているんですよね。だから、今回のハントとバンナはそれを凄く分かってるって感じがしましたね。

山本　でも、俺から言わせると、あの試合はやっぱりハントの持っているものにバンナが吸い込まれたというか、つられたというかなぁ。俺のMVPはあの試合を見た限りでは絶対にハントに拍手喝采で「キミは偉い！　凄い！」と言いたいよぉ。俺が現場に行っとけばなぁ。

小松　あ、まだそこにこだわりますか。

谷川　ハントは、前の日まで飛行機に乗るのが嫌だったんですよ。それぐらいケガしてるし、モチベーションも下がってたんですよ。「俺はもう2回負けてるし、2回ダウンしてるし、ケガしてるし」。ほんと心療内科まで行ったくらいに精神的にも落ち込んでたんで、乗るの嫌だって言ってたんですよ。

小松　たぶん、自分の役割が分かってるから嫌だったんですかね。

谷川　うん。それで、あそこまでの試合をやったんだから凄いなあ、と。

山本　それは凄いなぁ。ホントにK―1の新たな神話を作る男だよぉ。

――ホントにハントが引っ張ってましたよ。

山本　ハントが引っ張ってて、その引っ張るハントにバンナが安心感を持てるような、空気が感じられたからバンナも活きたんだよねぇ。

――そうですね。アンディvsベルナルド以上に、名勝負数え唄の雰囲気がめちゃくちゃ漂ってましたね、あの2人には。なんか、もう理解し合ってるというかね。

山本　要するにちょっと考え過ぎるバンナという男がさぁ、あの危険ゾーンの中に入って行けるんだよな。それで勝ったから、彼は余計に嬉しかったんじゃないの。それともう一つは、絶対に保守に回るというかさ、守りがあるじゃない。要するに、積極的な保守という言い方をしたほうがいいんだけど。ホーストがメチャクチャ前に出たとは言わないけど、異様な前進意欲で叩きのめしたでしょ。これも凄かったですよぉ。ホーストはどこで変化したのか。いつもは守りながら、受けながらチョロチョロってポイントを稼ぐというのに。完全にホーストがレコを叩き潰したのは、どこで何が狂ったのかと思ったよぉ。

谷川　いや、ホーストは単純にプライドが高くて、リスペクトされると普通に仕事しちゃうんですけど、本当に相手が自分を馬鹿にすると、けっこうキラーになれますね。テレビの画面でも映ってたんですけども、ホーストの入場の時にステファン・レコが踊ってたじゃないですか。ホーストと対戦することに、もの凄くレコがはしゃいでいて「自分はパワーファイターよりもテクニシャンのほうが噛み合うんだ。自分のいいところが全部出せる」とか「今、ホーストを食ったらおいしいし、こんなおいしい試合はない」ってレコにからかわれてたんですよ。で、もう一つは日本のファン、マスコミの全てがホーストのことをホントに地味で面白くないキャラとして見てるっていうのが定着しちゃってるんですよね。

山本　それは定着してるよぉ。KOで勝とうがポイントで勝とうが、そんなことはどうでもいいと（笑）。

谷川　でも、ホーストの生活の基盤はやっぱり日本にあるわけなんですよ。あんなに強くて、去年のGPも1回戦は勝って棄権したじゃないですか。フィリォに負けて以来、3年ぐらいまったく負けてないんですよね。「俺はこんなに強くて、こんなに凄いのに誰も何の評価もしない」っていう怒りというか（笑）。

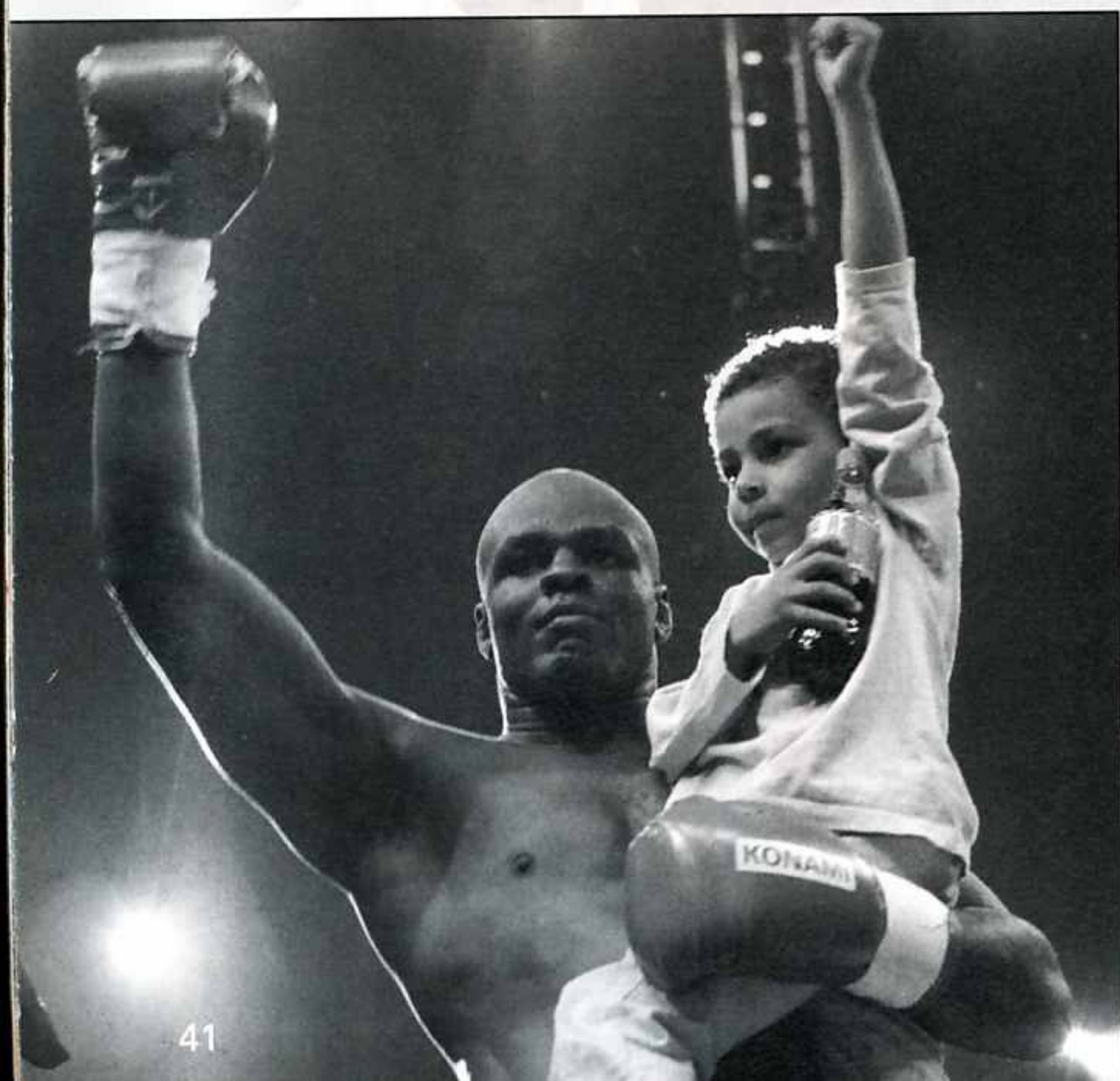
山本　それは日本のせいじゃないよぉ。それはホーストの物差しだけど、ハッキリ言って俺の物差しからしたら10センチくらいのもんだよぉ。

――ダハハハハッ！

谷川　ホーストはフジテレビのインタビューなんか見てても分かるんですけど「バンナの母国フランスの大会だから、バンナは主役になるのはしょうがない」と。でも、俺も主役の一人だと。「なぜなら、俺はスリータイム・チャンピオンだ」という言葉を使うんです。必ず、スリータイム・チャンピオンという言葉が、いじけ言葉になってるんですよね。それが出たらほんとにもう「よぉっ、待ってました！」って期待できる感じなんですよ。ホーストはああいういじけ方がキラーに転化してると思うんですよね。

山本　それはハッキリ言って、俺たちの勝利だなぁ。

谷川　ええ（笑）。

山本　いや、ホントに俺たちの勝ちだよぉ。なぜかと言うと、彼は人間の評価は自分が自分でするものだと思っているんだよね。3回？　スリーチャンピオン？

本当の評価は記録ではなく他者がするもんだからねぇ

でも、本当の評価は記録ではなく他者がするもんだからねぇ。そこを分かっていじけるわけよぉ。

――じゃあ、ガイと一緒ですね。

山本　ガイ・メッツアーかぁ？　俺は最初からヤツの支持者だからねぇ。

小松　ホントですか、それ。

――ホント（笑）。

谷川　武道館のリング上で大谷晋二郎が言った「どいつもこいつも馬鹿にしやがって！」っていうのと同じですよね。ああいう心境なんですよ、ホーストは。どこへ行っても何をやっても、本当に迷惑がられる（笑）。

小松　迷惑がられる。

谷川　「また、ホーストか」っていう。そういう感じ。それに対してムチャクチャ鬱憤が溜まっている。で、対戦相手がそれでも自分のことをリスペクトしてくれる人間だったら、ホーストは合わしちゃうんですよね。でも、ステファン・レコがまったくトンチンカンだったんでね。そしたらもう、ホーストは頭の血管がブチブチって切れて、ガッと行った。

山本　そうかぁ、でもファイターにはそういうストレスを与えるべきだよぉ。そういう遠隔操作によるストレスは成功したな。

――成功してますね。

谷川　ホーストはマメな性格なんですよね。日本のインターネットとか、ホントに『SRS・DX』のホームページまで見てるんですよ。で、日本語も習っていて、日本人が何を言ってるかって聞き取ろうとしてるし。さらにK―1が作った広島大会のポスターに自分の写真が入ってなかったら、すぐに電話が来て「俺はスリータイムチャンピオン。なんでポスターに写真が入ってない？」って。でも、K―1にしてみれば、観客動員にも何も関係ないし。どっちかといえば、武蔵とセーム・シュルトのほうを大きくしたいわけじゃないですか。でも、自分の評価っていうのは、スリータイムチャンピオンは広島大会の中ではアーツと俺だけ。それで1Rで勝っちゃうんですよ。そういうモチベーションですね。

山本　メチャメチャいじけてるなぁ。

小松　パリに行けなかった山本さんと同じくらいいじけてますよ。

山本　くぅ〜っ！　でも、これからはみんなホーストをスリータイム・チャンピオンと呼ぶかぁ。

――まぁ、山本さんにあやかって「花のぼんくらチャンピオン」と呼んでもいいですけどね（笑）。実力とは別の部分で大化けする可能性がありますよ（笑）。

谷川　でも、ホントに花のぼんくらチャンピオンなんですよ。パリ大会であんな余計なことする必要ないんですから。

――俺はホーストを見ててね、そういう気持ちも分かるけども、ヨーロッパっていうのもデカイんだと思ったね。自分の子供も会場に来てたし、日本とは違って偏見のない目で、ヨーロッパの人としてホーストに騒いでいる人もいっぱいいたから。そういう意味では、新たな自分の価値観をちゃんとヨーロッパで見せたいっていう気持ちも当然あったでしょう。

山本　うん、そうかもなぁ。

――オランダではボロクソだもんな。

谷川　そうなんですよ、山本さん。オランダではホーストの試合になると、観客が途中で帰っちゃうんですよ。

小松　地元じゃあ全然ダメなんですか。

谷川　要するにオランダと違ってフランスは観客の反応がホントにハッキリしてて、ダメな試合は最初から最後までブーイングですよ。たとえばイグナショフの試合とか。

山本　あれはヒドかったよなぁ。ずーっと「おまえは何をやってんだ！」って感じのファイトで、最後に勝ったでしょ。

谷川　イグナショフはヒザ蹴りとか自分の得意技を全部禁じられてるんですよね。だから、手が出ないんですよ。あそこでジャパニーズ・スタイルが分かっている選手が何をするかって言ったら、反則負けなんですよね。

――思いっきりヒザ蹴りを放って、相手を倒して反則負けにするとかね。

谷川　でも、やっぱりスポーツマンだから、最後まで手が出ないんですよ。で、必死で考えたのがミドル、ミドルでボディを痛めといて、最後ハイキックをガーンってやるっていう戦法だったんですけど。イグナショフに対するブーイングっていうのは、そりゃあ、凄かったですよ。

山本　あ、そう。

谷川　第2試合に出たトニー・グレゴリーはフランス人なんですよ。110キロぐらいあってK―1のフランス大会のトーナメント決勝戦まで行ったんですよ。その決勝の相手のアゼム・マクスタイはスイス人でアンディそっくりな顔してる選手で82キロくらいしかないんです。それでトニー・グレゴリーっていう、デカイほうが勝って優勝してフランス代表になったんですよ。で、今回はそのリベンジ戦だったわけです。そのアゼム・マクスタイというのはアンディの弟子なんですけど、その試合でもちっちゃいのに、アンディ・スピリットでガンガンいくわけなんですよ。でも、トニー・グレゴリーっていうのは、距離をおいてそれをカウンターで合わせる選手なんで、同じフランス人の観客が大ブーイングなんですよね。

山本　あ………。

谷川　だから、ホームタウンのリングでもフランス人選手とかは関係ないんですよ。アグレッシブなスイス人とかのほうを応援しちゃう。それぐらいハッキリしてるんです。

山本　フランスのサッカーチームなんて、移民が多いもんなぁ。多国籍軍になってるからなぁ、あそこのナショナル・チームは。

谷川　ダメなヤツはダメでブーイング。凄いヤツにはもうホントに心から拍手を送るっていうか。バンナもK―1が始まってすぐにフランスで試合をやったことがあるんですよ。K―1に出て、準優勝してこいつは凄いってことで。その時、メインイベントで対戦したのがモーリス・スミスだったんですけど、モーリスは巧いからバンナが倒せなくて、同じようなアウトボクシングして結局、最後は判定勝ちしたんですけどね。やっぱりその時、凄いブーイングを浴びたんですよ。それで「俺はフランスが嫌いだ」みたいな感じになっているんですけど。

K-1パリ大会 ターザン大激怒 座談会

競技者にとっては最大の壁だったんだよぉ

山本　それは凄いことだなぁ。

谷川　いい試合をやるか、悪い試合をやるか。そういう意味でのモチベーションも選手にはあったでしょうね。

――俺は今回初めて行きましたけど、ヨーロッパはビジネスになりますね、格闘技の。アメリカなんかよりも可能性がある。サッカーと大リーグの差ですよ。ヨーロッパは凄く市場が大きいと思いましたね。

谷川　逆に言うと、ヨーロッパを格闘技のマーケットにするには、絶対に方法論はジャパニーズ・スタイルだよね。

――ジャパニーズ・スタイルがオールすべてぜ～んぶ通用してたよね（笑）。

谷川　ジャパニーズ・スタイルを持っていかないと格闘技は絶対に流行らないよね。いつまで経っても競技のままで。

――ある意味、ヨーロッパでプロレスがダメになったのもよく分かりますよ。

山本　ヨーロッパではプロレスもラウンド制でやってるんだもんなぁ。

谷川　ヨーロッパって伝統を重んじるように見えて、ホントにつまらないものには厳しいですね。でも、逆に言うと世界の格闘技のビジネスで唯一の成功する秘訣はいかにジャパニーズ・スタイルが理解できるかということが分かりましたよ。

山本　そのジャパニーズ・スタイルは、ひとことで言ったらなんなの？

――観客論なんですよ。トーナメントとか競技的な色のものは一切ダメだってことですよ。

谷川　山本さんが言うように、ファイターを他者が評価するシステムだけが受け入れられるんですよ。

山本　でも、それは競技者にとっては最大の壁だったんだよぉ、歴史的にずっと破れなかったんだよぉ。

――それが通用するっていうか、それこそがビジネスになるっていうことですよ。

谷川　たとえばトーナメントで第2試合に出場したトニー・グレゴリーが優勝しても、誰も喜ばないし客も呼べない。だけど、たとえばシリル・アビディにしろマーク・ハントにしろジェロム・レ・バンナにしろ、ガッツン、ガッツンやれば、もうメチャメチャ評価されるっていうことですからね。

――単純にトニー・グレゴリーがフランス人だから人気があるとかっていうナショナリズムじゃないんです。日本人選手だってダメなもんはダメなんですよ、日本でも。

谷川　でも、アンディはすでにスイスでそういう形でやってるんですよね。テレビの視聴率が50%ですからね、日本じゃ考えられないですから。

山本　アンディはスイス人だからというんじゃなしに、ファイティング・スピリットが評価されているということかぁ。

――ジャパニーズ・スタイルをスイスに持ち込んで、それが評価されているということですよ。

谷川　アンディはそれを全部日本で学んで。自分が石井館長から教えられたことを、そのままスイスで「おまえはこうしろ」って、そういうやり方をそのまま持って行って、スイス大会を開いたんですよ。僕がちゃんと伝えてたじゃないですか。

――いや、俺はそれ見てないから（笑）。

山本　俺がそれを見てたらなぁ……。

谷川　僕は6回見てますからね。

――でも、アンディは何が観客に響くかっていうのをとっくに気付いていてやってたってことなんだろうな。

谷川　だから、アンディが死んでからは1回も大会が開かれてないんですよ。その役割を担える選手がまだいないんです。でも、そのスピリットが残ってるから、アンディの弟子ってみんな響くんですよね。でも、アンディほどメインを張れるタマがいないのはちょっと残念なんですけど。

山本　そのジャパニーズ・スタイルというのはさぁ、ひとことで言うと「葉隠」と一緒なんじゃないのかぁ。負けを恐れない、死を恐れないというその一点。

谷川　僕は毎回スイス大会を伝えるたびにそういうことを書いてたつもりなんですけどねえ、一応（笑）。

山本　おまえが書いても誰の記憶にも残らんよぉ。俺が書くからオールすべてぜ～んぶが記憶化するんだよ。

谷川　あれぇ、でも「アンディは力道山だ」とかいろいろ書いてたんですけどねえ、僕も（笑）。

――久々にいい師弟対決だ（笑）。

谷川　ちゃんと書いてるつもりなのに、誰も気が付いてくれないんですよぉ。

山本　それはおまえが書くからなんだよぉ。

谷川　まあ、そう言われてしまえばそのとおりなんですけど……。

――んあ～！（笑）。

山本　何も伝わらなかったら、何も書いてないことと同じなんだよぉ！

谷川　まあ、たしかにやっつけで書いてましたけど……。

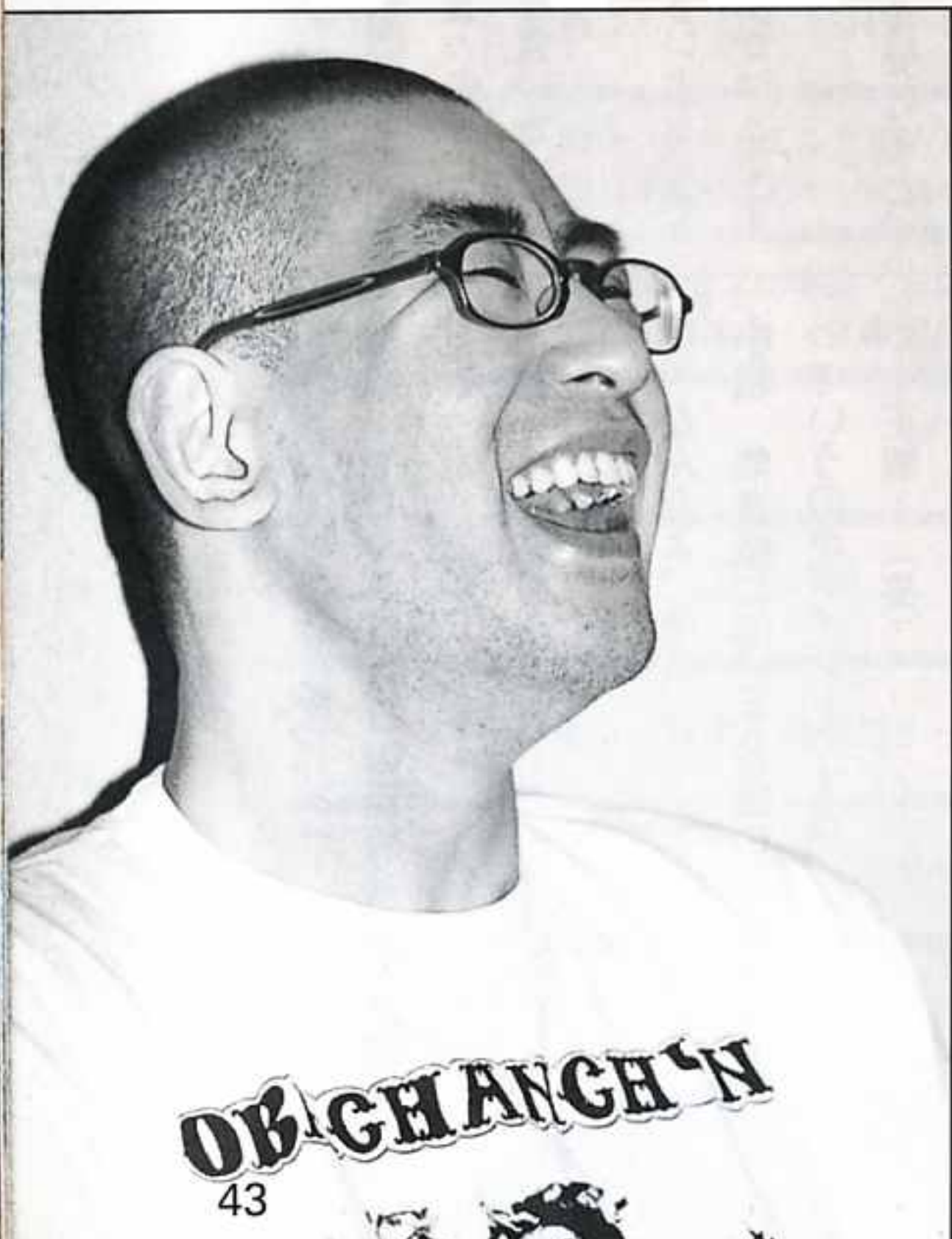
山本　俺は物凄く少ない、ミリ単位のチャンスにパクッと食いついて生かすんだけど、絶大なチャンスを生かせないんだよなぁ。でも、谷川には湯水のごとくチャンスがあって、チャンスの露天掘り状態だもんなぁ。

――まあ、サダハルンバは昔から知らないうちにポケットの中にいろんなものが入ってるっていうタイプですからね（笑）。

谷川　自分ではぜんぜん欲しくないんだけどねえ。まあ所詮は雑誌には向いてないんですけど、でもそういうことには気が付いているんですよ、これでも。

――まあ、話を戻すと、山本さんが言った「葉隠」というのも、他者の視点を意

K-1パリ大会
ターザン大激怒
座談会

谷川ぁ、おまえが書いても誰の記憶にも残らんよぉ

識した美意識ですからね。

山本　つまり、自分の生き方を他者に照らし合わせて、これは美学であるとか恥であるとか、カッコ悪いとか、そういうことを考えることが「葉隠」だからぁ。

谷川　ホーストがその「葉隠」の美学を持っていたら、僕はガ然リスペクトしますけどねえ。

山本　それは、死を考えると何かを知ることができるんじゃないの？　死を考えるということは自分の「生き方を考える」「生き方を問う」ということだからねぇ。「武士道とは死ぬことと見つけたり」というのは、本当は違うんだよぉ。「武士道とは生き方を見つめることだ」ということなんだからぁ。みんな理解してないわけよ。武士道イコール「死ね」と言ってるわけじゃなくて、死を見つめることによって死から反射させて、自らの生き方を自分に問うということなんだよぉ！

谷川　それを問うのも、本当は他者の評価ですよね。

山本　そう！　他者、自分を見つめる人間がいるから、それに対してみっともないことはできない、恥ずかしいことはできないな、という感性だよね。

——それが、日本の独特の観客論になってるんだよね。これがジャパニーズ・スタイルだってことをちゃんとメッセージすれば、簡単に伝わることだと思いますよ。

山本　そうそう。

谷川　K—1スイス大会なんかは、全部がそうだったんだけどね。

——ダハハハハッ！

谷川　でも、何も伝わってないもんねえ。

山本　何も伝わってない。ただ、スイス大会にバーッと客が入ってとかね、視聴率が良かったとか、国民的英雄だったよというそんなことばっかりしか伝わってないよぉ。

——そんな反応なんだ（笑）。

谷川　でも、僕はちゃんと書いてるんですよ、そんなようなことを。

山本　おい、谷川ぁ！　おまえ今、なんと言った！　「そんなようなこと」かぁ。普通は「それ自体」、つまり最短距離でものを書かなければいけないんだよぉ。

谷川　かなり近いこと書いてたのに……。

山本　最短距離で相手にズバッと斬り込むんだよぉ。そんな「よ・う・な」こと、すなわちそれが谷川イズムだぁ！

谷川　そうか……。僕もね、山本さんに負けじと「ムーランルージュ」に行こうと思ったりとか、ルーブル美術館とかいろいろ見ようと思って行ってるんですよ。

——行かなかったの？

谷川　前に行ってるから全部。それよりも僕は今回スケッチブックを買って、絵を描こうと思ったんですよねえ。

——みんなに「明日の朝6時に起きて、絵を描きませんかぁ？」って言ってたもんなぁ（笑）。

谷川　そういう気構えで行ってるんです。そのぐらいのロマンチストで……。いや～、ヨーロッパはいいですよ、ほんとに心からロマンチストになれますよ。

山本　それを言われると、ますます敗北感を感じるなぁ。

小松　今回の取材では何が一番面白かったんですか？

谷川　メシだね。

小松　メシ？　それなら僕も連れていってもらいたかったですね。

谷川　んぁ～！

——でも、山本さんが電話に出ている場面が目に浮かぶなぁ。そうか、あの時、山本さんは怒ってたんだ（笑）。

山本　怒らなきゃ俺の立場がないですよぉ。これを公に知らさないと、俺の立場はなくなって泣き寝入りだよぉ。なんか、最近食事制限をして肉を食っちゃいけないんだけど、バクバク肉を食いたい気分だなぁ、今日は。

谷川　どんどん食べてくださいよお。でも、フランス料理のほうがよかったですかねえ。

山本　こういう非情な差別を受けると、情念を生むね。新たなモチベーションを。

谷川　山本さん、ホントにね、パリに行ったらメチャクチャおいしいフランス料理屋さんとかにお連れしますから。

——まだ、刺激してる（笑）。

山本　そのたびに、俺は今回と同じ屈辱を味わうんだよぉ。しつこいなぁ。谷川は全然反省してないよなぁ。

——無意識に死者にムチを打ちますからね（笑）。

小松　でも、山本さんはこのまま一生パリに行かないほうがいいですよ。

山本　なんでだぁ？

小松　だって、パリに行けなかったことでこれだけテンションが上がったんですから。

山本　……そうだよなぁ。

——納得してるよ（笑）。

谷川　で、キミは今日の座談会で何か発見とかあったの？

小松　あ、ありました。サダハルンバ・イズムのポイントが。

——なんだよ、それ。

小松　無意識に師匠を谷底に突き落とすっていうのがポイントですね。

——正解！（笑）。

谷川　んぁ～！

■

6/6THU～6/27THU

CALENDAR

6/6 THU	★『SRS・DX』72号発売日
6/7 FRI	●フジテレビ『SRS』(26:15～26:45) ⬅p69
6/8 SAT	◆K-1 WORLD GP 2002 in 福岡/チケット一斉発売⬅p46 ◆club DEEP/チケット発売⬅p47
6/9 SUN	■DEEP2001/東京・ディファ有明 (15:00～) ⬅p47 ■ANGEL TORNADO/東京・パラダイステレビ(16:30～)⬅p49
6/10 MON	
6/11 TUE	
6/12 WED	
6/13 THU	
6/14 FRI	●フジテレビ『SRS』(26:15～26:45) ⬅p69
6/15 SAT	
6/16 SUN	■全日本キック連盟/東京・後楽園ホール (17:30～) ⬅p49 ■IKUSA事務局/東京・CLUB Byblos (15:00～) ⬅p48
6/17 MON	
6/18 TUE	
6/19 WED	
6/20 THU	■MA日本キック連盟/東京・北沢タウンホール(18:00～)⬅p49
6/21 FRI	●フジテレビ『SRS』(26:15～26:45) ⬅p69
6/22 SAT	■キングダムエルガイツ/東京・Z-Zone NAGAYAMA(18:00～)⬅p46 ■U-FILE CAMP/東京・大田区体育館(16:00～)⬅p49
6/23 SUN	■PRIDE.21/埼玉・さいたまスーパーアリーナ(16:00～)⬅p46 ■MA日本キック連盟/アイテム愛媛(14:30～)⬅p49
6/24 MON	
6/25 TUE	
6/26 WED	■AX/東京・後楽園ホール (18:30～) ⬅p47
6/27 THU	★『SRS・DX』73号発売日

格闘技パーフェクトガイド
Perfect Guide

GUIDE & TICKET
大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

PRIDE

PRIDE.21
6月23日(日) さいたまスーパーアリーナ

◆開場/14:00 試合開始/16:00
◆入場料/VIP席100,000円(専用入場ゲート、グッズ付)RRS席25,000円 スタンドS席15,000円 スタンドA席7,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/ドリームステージエンターテインメント(10:00〜19:00)☎03-5775-5700、PRIDEオフィシャルサイト(http://www.digiseat.net/pride)、PRIDE i-mode/J-PHONEオフィシャルサイト、チケットぴあ(Pコード:594-700)、ローソンチケット(Lコード:35942)、CNプレイガイド(10:00〜18:00)、イープラス(http://eee.eplus.co.jp)、新日本プロモーション(http://www.shinnichi-pro.co.jp/)、チケットgaburi(http://www.gaburi.com/)、サークルK/サンクス、高田道場☎03-5749-5030、レッスル渋谷、レッスル池袋、板橋大山アメリカン、書泉ブックマート、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、後楽園ホール、TOKYO文庫TOWER☎03-5784-4900、BCG☎03-3560-7911、さいたまスーパーアリーナ☎048-600-3037、相鉄ジョイナスプレイガイド☎045-319-2456、公武堂☎052-241-2511、グレート・アントニオ☎03-3219-9550
◆会場アクセス/JR高崎線・宇都宮線・京浜東北線さいたま新都心駅より徒歩3分、JR埼京線北与野駅から徒歩7分
◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

決定対戦カード

ドン・フライ vs マーク・コールマン
(アメリカ/フリー) (アメリカ/ハンマーハウス)

ヘンゾ・グレイシー vs 大山峻護
(ブラジル/ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー) (フリー)

キングダムエルガイツ

キングダムエルガイツ東京大会 〜キングダムスピリッツ〜
6月22日(土) 東京・東京・Z-Zone NAGAYAMA

◆開場/17:30 試合開始/18:00
◆入場料/SRS席5,000円 RS席4,000円 立見席2,000円 ※当日は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、チャンピオン、新宿ファイター、Z-Zone NAGAYAMA、きんとき中央林間店、キングダムエルガイツ
◆会場アクセス/京王線・小田急線永山駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/キングダムエルガイツ☎042-331-2797

主な対戦カード

入江秀忠 vs X
(キングダムエルガイツ) (オーストラリア)

町田生五月 vs 佐藤力
(烏合会) (エボリューション)

〈グラップリングバウト〉
宮路功 vs 小池秀信
(IMNグラップリング) (フリー)

〈EXバウト〉
維新力 vs 荒井修
(フリー) (国際・青葉道場)

パンクラス

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
7月28日(日)・昼 東京・後楽園ホール

◆開場/12:30 試合開始/13:30
◆入場料/SS席12,000円 A席9,000円 C席4,500円 D席3,500円 立見席3,000円 ※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

決定対戦カード

近藤有己 vs 百瀬善規
(パンクラスism) (禅道会)

〈初代ウェルター級王者決定トーナメント準決勝〉
國奥麒樹真 vs 大石幸史
(パンクラスism) (パンクラスism)

〈初代ウェルター級王者決定トーナメント準決勝〉
伊藤崇文 vs 長岡弘樹
(パンクラスism) (ロデオ・スタイル)

ネオブラッド・トーナメント出場予定選手

中台宣(パンクラスism)
北岡悟(パンクラスism)
アライケンジ(パンクラスism)
金井一朗(パンクラスism)
※ほか4選手で、DAY TIMEに1回戦、NIGHT TIMEに準決勝・決勝が行われる

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
7月28日(日)・夜 東京・後楽園ホール

◆開場/17:30 試合開始/18:00
◆入場料/SS席12,000円 A席9,000円 C席4,500円 D席3,500円 立見席3,000円 ※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

K-1ワールドシリーズ

K-1

K-1 WORLD GP 2002 in 福岡
7月14日(日) マリンメッセ福岡

◆開場/13:30 試合開始/15:00
◆入場料/SRS席22,000円 RS席17,000円 SS席12,000円 S席8,000円 A席5,000円
◆チケット発売/下記の表を参照
◆会場アクセス/JR博多駅より車で5分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

出場予定選手

ピーター・アーツ
(オランダ/メジロジム)

ミルコ・クロコップ
(クロアチア/クロコップ・スクワッドジム)

武蔵
(正道会館)

シリル・アビディ
(フランス/チームロメアスボクシングプラネット)

アレクセイ・イグナショフ
(ベラルーシ/チヌックジム)

7・14『K-1 WORLD GP 2002 in 福岡』チケット発売情報

〈一斉発売〉
6月8日(土) 10:00〜
ローソンチケット【特電】☎0570-00-0072
チケットぴあ☎092-708-9999
キョードー東京☎03-3498-9999
イープラス(http://eee.eplus.co.jp)

6月9日(日) 10:00〜
ローソンチケット☎092-847-9999(Lコード:80589)
チケットぴあ
キョードー東京
イープラス

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
8月25日(日) 大阪・梅田ステラホール

◆開場/15:00 試合開始/16:00
◆入場料/SS席8,500円 A席6,500円 B席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/P's LAB大阪☎06-6649-8530、チケットぴあ(Pコード:594-040)、ローソンチケット(Lコード:39910)、イープラス(http://eee.eplus.co.jp)、チャンピオン大阪☎06-6645-5186、バディ・スラム☎06-6645-1378、エース☎06-6636-5468、神戸住吉・富万☎078-811-6222、パンクラス☎03-5792-0815
◆会場アクセス/JR大阪駅中央北口より徒歩10分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

〈パンクラス追加情報〉9月29日(日)にパンクラス横浜文化体育館大会が行われることが決定した。今大会では、キング・オブ・パンクラス・タイトルマッチが開催される予定。チケット一斉発売は8月4日(日)より。

修斗

プロフェッショナル修斗公式戦
6月29日（土）　大阪・堺市金岡公園体育館

◆開場/14:00　試合開始/16:00　◆入場料/SRS席15,000円　RS席12,000円　PS席12,000円　SS席10,000円　P席10,000円　S席8,000円　A席6,000円　B席4,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、ローソンチケット、CNプレイガイド、e-ticket（http://www.e-ticket.net）　◆会場アクセス/地下鉄御堂筋線新金岡駅より徒歩7分　◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

決定対戦カード

五味隆典vsレオナルド・サントス
（木口道場レスリング教室）（ブラジル／ノヴァ・ウニオン）

須田匡昇vsクリス・ブラウン
（クラブJ）（オーストラリア／エクストリーム）

三島☆ド根性ノ助vsX
（総合格闘技コブラ会）

佐藤ルミナvsハビエル・バスケス
（K'zファクトリー）（ミレンニア柔術）

デイブ・ストラッサーvs池本誠知
（アメリカ/ストラッサーズ・フリースタイル・アカデミー）（ライナーツ・コナン）

徳岡靖之vs福本洋一
（パレストラ加古川）（和術慧舟會千葉支部）

辻嘉一vsザ・グレート浪速
（G-FREE）（総合格闘技夢想戦術）

プロフェッショナル修斗公式戦
7月19日（金）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:30　試合開始/18:30　◆入場料/RS席10,000円　SS席7,000円　S席5,000円　A席3,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、書泉ブックマート、後楽園ホール、フィットネスショップ水道橋、大盛堂書店☎03-5784-4900、KEEL CAFE☎03-5725-7338　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/ガッツマン・プロモーション☎03-3325-1500

決定対戦カード

アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラvs阿部裕幸
（ブラジル/ワールド・ファイト・センター）（AACC）

勝田哲夫vs井上和浩
（K'zファクトリー）（インプレイス）

廣野剛康vs久保山誉
（和術慧舟會）（K'zファクトリー）

朴光哲vsトニコ・ジュニオール
（K'zファクトリー）（ブラジル/ワールド・ファイト・センター）

生駒純司vs阿部マサトシ
（直心会格闘技道場）（AACC）

プロフェッショナル修斗公式戦
7月27日（土）　東京・北沢タウンホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00　◆入場料/RS席6,000円　S席5,000円　A席4,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、書泉ブックマート、後楽園ホール、KEEL CAFE☎03-5725-7338、e-ticket（http://www.e-ticket.net）　◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分　◆お問い合わせ/ K'zファクトリー☎03-5984-3209

決定対戦カード

岩瀬茂俊vs菊地昭
（総合格闘技TOPS）（K'zファクトリー）

喜多浩樹vs小松晃
（パレストラ東京）（総合格闘技道場コブラ会）

DEEP2001

アリソン・メロがケガで欠場！ ランバーの相手は誰になるのか!?

DEEP2001 5th IMPACT in DIFFER ARIAKE
6月9日（日）　東京・ディファ有明

◆開場/14:00　試合開始/15:00　◆入場料/SRS席10,000円　アリーナA席7,000円　アリーナB席5,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、ディファ有明☎03-5500-3731、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、デポマート☎03-3515-6507、パンクラス☎03-5792-0815、DEEP2001　◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分　◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

決定対戦カード

和田良覚vsMAX宮沢
（リングス・ジャパン）（荒武者 総合格闘術）

"ランバー"ソムデート吉沢vsX
（M16ジム）

伊藤崇文vs日高郁人
（パンクラスism）（フリー）

ミドル級1DAYトーナメント表

村浜天晴（ワイルドフェニックス）
星野勇二（RJW/CENTRAL）
梁正基（スタンド）
上山龍紀（U-FILE CAMP）
久松勇二（TIGER PLACE）
窪田幸生（パンクラスism）
石川英司（パンクラスGRABAKA）
長南亮（U-FILE CAMP）

topic!　6・9『DEEP2001 5th IMPACT』会場でDEEPトトカルチョを開催！

6・9『DEEP2001 5th IMPACT in DIFFER ARIAKE』の会場で、ミドル級トーナメントの優勝・準優勝を予想するトトカルチョが開催される。当日、会場入口で配られる用紙に予想を記入し、15:00（オープニング前）までに投票。優勝者、準優勝者の両方を当てた人には、もれなく次回『DEEP2001 6th IMPACT』のチケットが郵送される。会場に観戦に行く人はぜひ参加してみよう！

女子総合格闘技・AX

星野育蒔vsウィンディ智美が決定！

6・26後楽園大会では国際戦が数試合が予定されている『アックス』。その国際戦を闘うと思われた星野育蒔だったが、なんと対戦相手は、5・6『スマックガール』のメインに登場し、禅道会・金子真理に勝利したキックボクサー・ウィンディ智美に決定した。総合の経験もあるウィンディを相手に星野はいったいどう闘うのか!?

星野育蒔vsウィンディ智美

AX Vol.4
6月26日（水）　東京・後楽園ホール

◆開場/18:00　試合開始/18:30　◆入場料/ロイヤルスーパーシート10,000円　スーパーシート6,000円　レギュラーシート5,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、米里倶人満☎03-3639-8605、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、AX公式ホームページ（http://www.kk-aile.co.jp/ax）　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/女子総合格闘技・AX☎03-3478-4605

決定対戦カード

星野育蒔vsウィンディ智美
（米里倶人満）（全日本キック／作真会館）

出場予定選手

ジェット・イズミ（Jネットワーク）
岡裕美（フリー）
久保田有希（チーム荒武者）
角田紀子（フリー）

AX Vol.5
7月26日（金）　東京・後楽園ホール

◆開場18:00　試合開始/18:30　◆入場料/未定　◆チケット発売/未定　◆チケット発売所/未定　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/女子総合格闘技・AX☎03-3478-4605

"club DEEP" first Challenge in club OZON
7月14日（日）　名古屋・club OZON

◆開場/14:00　試合開始/16:00　◆入場料/オールスタンディング3,000円　※当日券は500円増し　◆チケット発売/6月8日（土）　◆チケット発売所/チケットぴあ、公式堂☎052-241-2511、DEEP2001事務局　◆会場アクセス/地下鉄桜通線久屋大通駅より徒歩5分　◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

出場予定選手

坂田亘（EVOLUTION）
山崎剛（Team GRABAKA）
土居龍晴（スリーティー）
岩間朝美（名古屋ブラジリアン柔術クラブ）

総合格闘技&ノールール系

キックボクシング

シュートボクシング協会

SHOOTOBOXING WORLD TOURNAMENT "S-cup"
7月7日（日） 神奈川・横浜文化体育館

◆開場/13:00 試合開始/15:00
◆入場料/SRS席20,000円 RS席15,000円 SS席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、ワールドスポーツプラザKINGS☎03-3462-1001、シュートボクシング協会
◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

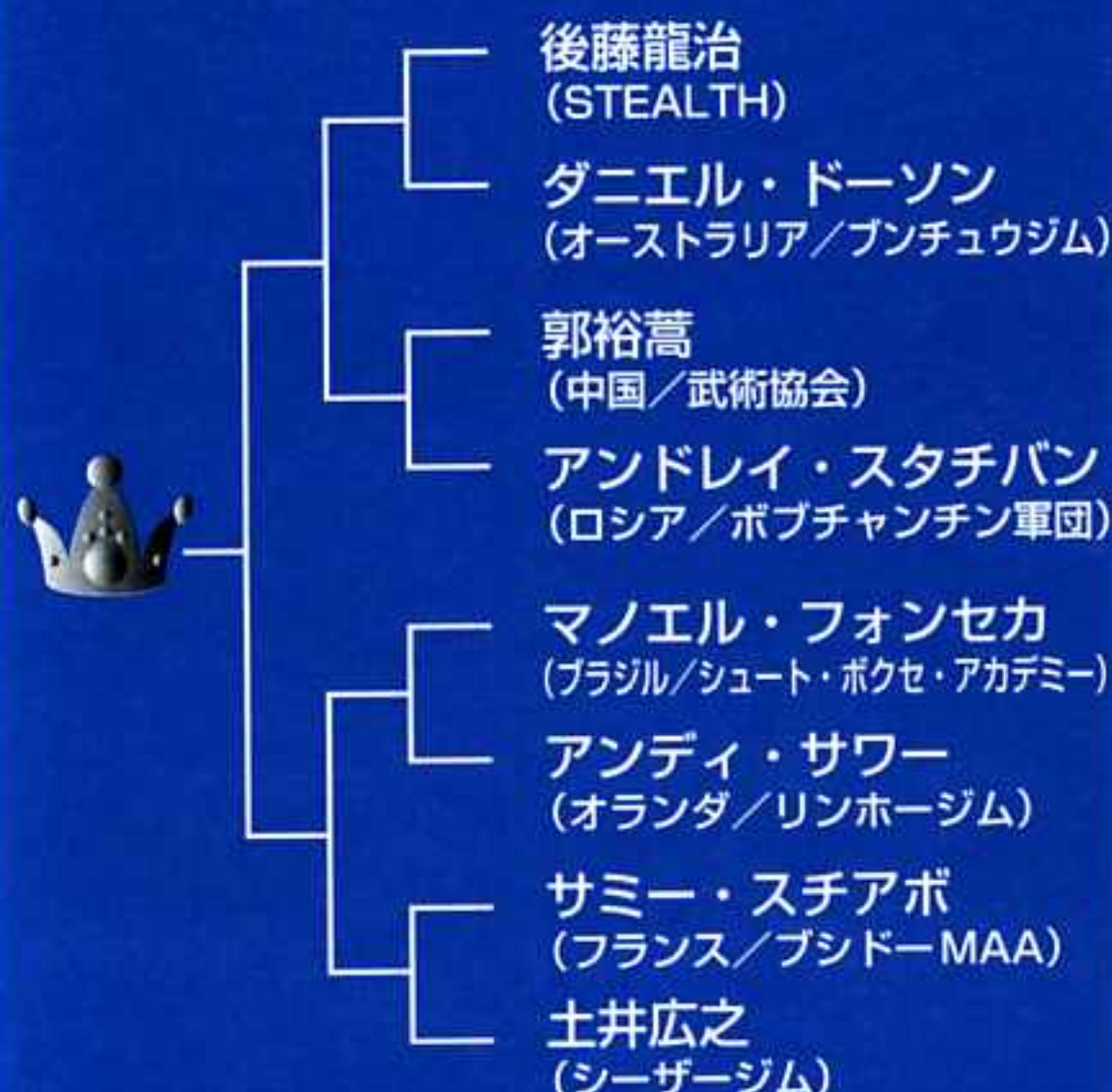
決定対戦カード

〈KoKルール〉
緒形健一vsX
（シーザージム）

ヴォルク・アターエフvsX
（リングス・ロシア）

〈SBルール・ワンマッチ〉
宍戸大樹vsX
（シーザージム）

S-cup2002トーナメント表

後藤龍治（STEALTH）
ダニエル・ドーソン（オーストラリア／ブンチュウジム）
郭裕蒿（中国／武術協会）
アンドレイ・スタチバン（ロシア／ボブチャンチン軍団）
マノエル・フォンセカ（ブラジル／シュート・ボクセ・アカデミー）
アンディ・サワー（オランダ／リンホージム）
サミー・スチアボ（フランス／ブシドーMAA）
土井広之（シーザージム）

J-NETWORK

J-BLOODS III
7月12日（金） 東京・後楽園ホール

◆開場/17:00 試合開始/17:30（予定）
◆入場料/RS指定席12,000円 S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 ※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/J-PROMOTION☎03-3418-5248

決定対戦カード

増田博正vsノッパガオ・ソーワンチャー
（ソーチタラダ） （タイ）

新日本キックボクシング協会

武田、復活なるか!?

5・26後楽園大会で、残念ながらムエタイ2階級制覇の夢を逃してしまった武田幸三が、7・27後楽園大会で復活を果たす。敗戦をバネにして、いかに再起するかに注目しよう！ また、ライト級チャンピオン石井宏樹のタイトル防衛戦や、バンタム級王者の菊地剛介とフェザー級王者の小出智のチャンピオン対決も組まれている。

勇者たちへの挑戦 Part III
6月30日（日） 東京・ディファ有明

◆開場/15:30 試合開始/16:00
◆入場料/RS席10,000円 A席7,000円 B席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、協会各ジム
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車徒歩3分、りんかい線国際展示場駅より徒歩7分
◆お問い合わせ/新日本キックボクシング協会☎03-3780-1350

主な対戦カード

―5回戦―
鷹山真吾vsナーティー・ソーカムシン
（尚武会） （タイ）

風神和昌vsジャワリット・チューワッタナ
（野本塾） （タイ）

モンチーエシマvsスダッチ
（治政館） （ホワイトタイガー）

BREAK A WAY！～開拓～
7月27日（土） 東京・後楽園ホール

◆開場/16:45 試合開始/17:00
◆入場料/SRS席20,000円 RS席15,000円 S席10,000円 A席7,000円 B席5,000円 立見席4,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/治政館ジム、チケットぴあ、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/新日本キックボクシング協会☎03-3780-1350

決定対戦カード

武田幸三vsX
（治政館）

〈日本ライト級タイトルマッチ〉
石井宏樹vs井場洋貴
（藤本） （治政館）

深津飛成vsX
（伊原）

菊地剛介vs小出智
（伊原） （治政館）

松本哉朗vsX
（藤本）

米田克盛vs高杉茂男
（トーエル） （伊原）

庵谷鷹志vs清水政和
（伊原） （治政館）

総合格闘技&ノールール系

スマックガール実行委員会

格闘技エンターテインメントSMACK GIRL ～最強タッグトーナメント2002～
7月6日（土） 東京・ディファ有明

◆開場/18:00 試合開始/18:30
◆入場料/指定S席6,500円 指定A席4,500円 自由席3,500円
※当日券は500円増し、小学生以下無料
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、ディファ有明、書泉ブックマート
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/スマックガール実行委員会☎03-5545-4766

IKUSA事務局

新田純一がチャモアペットと対戦！

格闘技と音楽を融合しクラブで開催される興行も増えてきたが、麻布十番のクラブで行われる『IKUSA』は、NHK『レッツゴーヤング』のサンデーズのメンバーとしてデビューし、現在は俳優として活躍している新田純一がプロデュースする大会だ！ 新田は、今までにも新空手の大会に出場経験があったが、今回は自らエキシビジョンマッチで、ムエタイ9冠王に輝いたタイの国民的英雄・チャモアペットと対戦する。また次回大会には、昨年9月に武田幸三から王座を奪取し、ラジャダムナン・ウェルター級王者に就いたチャーンヴィット・ギャットトーボーウボンの参戦が予定されている。

IKUSA―初陣― KICKvsTECHNO
6月16日（日） 東京・CLUB Byblos

◆試合開始/15:00
◆入場料/プラチナ@30,000円 スタンディング@7,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ファミリーマート
◆会場アクセス/都営大江戸線・営団南北線麻布十番駅より徒歩1分
◆お問い合わせ/IKUSA事務局☎03-5213-7331

決定対戦カード

梅下湧暉vs大宮司進
（谷山） （シルバーウルフ）

ナルンチャイ・タニヤマvs隼人
（谷山） （PHOENIX）

〈エキシビジョンマッチ〉
チャモアペット・チョーチャモアンvs新田純一
（タイ） （チームIKUSA）

中西一覚vs高久雅裕
（谷山） （シュートボクシング湘南ジム）

武井豊vs森田晃允
（谷山） （士道館橋本道場）

ジローvs小磯哲史
（谷山） （山木）

藤曲シンvs大刀国秀
（谷山） （藤ジム）

保坂忠広vs岩崎隆勇
（フリー） （フリー）

キックボクシング

ニュージャパンキックボクシング連盟

DREAM RUSH 5
7月14日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/16:45　試合開始/17:00
◆入場料/SRS席12,000円　RS席10,000円　特別指定席7,000円　指定A席5,000円　指定B席4,000円　指定C席3,000円　立見2,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング事務局☎03-5625-2371

決定対戦カード

〈NKB統一ランキングフライ級決勝戦〉
川津真一（町田金子）vs 唐沢たくみ（八王子FSG）
オーローノー・ポームアンウボン（タイ）vs 小次郎（ウィラサクレック）

〈NKB統一ランキングバンタム級2位決定戦〉
藤原国崇（拳之会）vs 弘中史樹（ウィラサクレック）
AEK-UBON（タイ）vs HIROSHI（サシプラパージャパン）

〈NKB統一ランキングバンタム級4位決定戦〉
新美友恒（大和）vs 増倉敦士（一心館）

〈NKB統一ランキング戦フェザー級〉
外山繁幸（上州松井）vs 難波博志（截空道）
岩井伸洋（小国）vs 立嶋篤史（ASSHI-P）

〈K-U・NJKF交流戦〉
高橋拓也（拳之会）vs 山上雅智（八王子FSG）

全日本キックボクシング連盟

Who's Next 02
6月16日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　立見席3,500（当日のみ）　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック電話予約☎03-3365-1171
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キック☎03-3365-1171

主な対戦カード

—5回戦—
安川賢（S.V.G.）vs アンドレア・モロン（イタリア）
砂田将祈（はまっこムエタイジム）vs 花戸忍（高橋道場）
西田和嗣（S.V.G.）vs アントニオ・メデリン（イタリア）

日本キックボクシング協会

2002年破壊シリーズ
6月29日（土）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円　指定A席5,000円　指定B席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/日本キックボクシング連盟☎03-3691-4536

決定対戦カード

〈NBKウェルター級決勝戦〉
小野瀬邦英（渡辺）vs 石毛慎也（東京北星）

〈NBKバンタム級決勝戦〉
中野智則（パシフィック）vs 山本恭太（大和）
海老沢朋和（平戸）vs 獅子丸修平（小国）
中岡秀夫（大阪真門）vs 馳大輔（JK国際）
高野洋一（神武館）vs 飯田誠一（町田金子）

MA日本キックボクシング連盟

SHIMOKITA GROUND ZERO PT3
6月20日（木）　東京・北沢タウンホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/SRS席10,000円（当日12,000円）　RS席7,000円（当日8,000円）　S席6,000円（当日7,000円）　立見席3,000円（当日4,000円）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/MA日本キックボクシング連盟事務局
◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/MA日本キックボクシング連盟☎03-3485-7063

愛媛松山興行VOL.3
6月23日（日）　アイテム愛媛

◆開場/13:30　試合開始/14:30
◆入場料/SRS席12,000円　RS席6,000円　自由席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/紀伊国屋書店、フジグラン松山、マーシャルワールド愛媛、武勇会館
◆会場アクセス/松山空港より車で10分、またはJR松山駅より車で15分、または松山市駅より定期路線バスが30分毎に運行
◆お問い合わせ/武勇会☎089-921-7909

主な対戦カード

—5回戦—
〈MA日本フライ級タイトルマッチ〉
森岡タカシ（武勇会）vs 山下大輔（山木）

〈MA日本バンタム級タイトルマッチ〉
アトム山田（武勇会）vs 高橋拓也（習志野）
チャンデット・ソーペァンタレー（タイ）vs 後藤誠（後藤）

第5回梶原一騎杯 キック ガッツ 2002
6月30日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/SRS席20,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/山木ジム☎03-3485-7060

主な対戦カード

—5回戦—
〈MAスーパーライト級タイトルマッチ〉
中林勇人（ビクトリー）vs 井上哲（山木）
エリック・カスタロ（キューバ）vs 武藤孝行（ビクトリー）
ラウル・ロップース（キューバ）vs 田中信一（山木）
ラビット関（山木）vs ヨンユット・ゲッソンリット（真樹ジム愛知）
山田健博（東金）vs 天野哲成（マイウェイ）
荻野兼嗣（ビクトリー）vs 俊太郎（士道館）

その他

日本女子ボクシング協会

FIGHTING GIRLS PT3
8月11日（日）　東京・北沢タウンホール

◆開場/16:00　試合開始/16:30　◆入場料/SRS席10,000円（当日12,000円）　RS席7,000円（当日8,000円）　S席6,000円（当日7,000円）　立見席3,000円　◆チケット発売/6月下旬　◆チケット発売所/日本女子ボクシング協会　◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/日本女子ボクシング協会☎03-3485-7063

U-FILE CAMP

STYLE-U
6月22日（土）　東京・大田区体育館 本館

◆開場/15:00　試合開始/16:00
◆入場料/全席自由2,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売所/U-FILE CAMPオフィシャルHP（http://www.u-filecamp.com）まで
◆会場アクセス/JR京浜東北根岸線、東急池上線・目蒲線蒲田駅より徒歩15分、京急本線梅屋敷駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/U-FILE CAMP☎044-932-0282

決定対戦カード

長南亮（U-FILE CAMP）vs 上山龍紀（U-FILE CAMP）

WBFプロモーション

ANGEL TORNADO I
6月9日（日）　東京・パラダイステレビ

◆開場/16:00　試合開始/16:30
◆入場料/SRS席5,000円　立見席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/WBFプロモーション（〒155-0031東京都世田谷区北沢2-6-5ハイビル2F）
◆会場アクセス/地下鉄丸の内線中野新橋駅より徒歩10分（東京都中野区中野弥生町3-9-2）
◆お問い合わせ/事務局☎03-3485-4446

髙田道場

第3回髙田道場サブミッション・レスリング試合
6月16日（日）　東京・髙田道場

◆試合開始/14:00　◆入場料/無料
◆会場アクセス/東急目黒線武蔵小山駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/髙田道場☎03-5749-5030

アマチュアシュートボクシング

第6回ライトアマチュアシュートボクシング選手権東京大会
7月14日（日）　東京・台東リバーサイドスポーツセンター体育館3階第1武道場

◆試合開始/12:00　◆入場料/無料　◆会場アクセス/東武伊勢崎線・都営浅草線・地下鉄銀座線浅草駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

テコンドー

第13回全日本テコンドー選手権大会
6月9日（日）　東京・国立代々木競技場第二体育館

◆開場/8:45　試合開始/9:00
◆入場料/1,500円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/テコンドー大会事務局☎042-360-1289、チケットぴあ、ローソンチケット、久保アートプロデュース
◆会場アクセス/JR山手線原宿駅、地下鉄千代田線明治神宮前駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/テコンドー大会事務局☎042-360-1289

B-CLUB

グラップリング-Bタッグバトル vol.2
7月7日（日）　埼玉・バトラーツジム B-CLUB

◆開場/13:00　試合開始/14:30　◆入場料/無料
◆会場アクセス/東武伊勢崎線越谷駅より徒歩1分
◆お問い合わせ/バトラーツジム［B-CLUB］☎048-963-7515

コンバットレスリング

第2回コンバットレスリング・セントラルオープン選手権大会
6月16日（日）　名古屋市千種スポーツセンター

◆試合開始/10:30　◆入場料/無料
◆会場アクセス/地下鉄東山線東山公園駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/アライブ☎052-719-0133

大道塾

THE WARS Ⅳ
7月17日（水）　東京・後楽園ホール

◆詳細未定
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/大道塾総本部☎03-5953-1860

出場予定選手

藤松泰通（大道塾）
山崎進（大道塾）
小川英樹（大道塾）
飯村健一（大道塾）

アマチュア修斗

どぇりゃーフリーファイト6
6月30日（日）　愛知・千種スポーツセンター

◆試合開始/未定
◆入場料/無料
◆会場アクセス/地下鉄東山線東山公園より徒歩5分
◆お問い合わせ/ALIVE☎052-719-0133

T.A.M.A

格闘技サミットトーナメント
6月23日（日）　東京・ニューシティホール国立特設コート

◆開場/11:00　試合開始/11:30
◆入場料/前売り2,000円　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売所/送料500円をプラスして、希望枚数×2,000円を下記の住所に現金書留で郵送
〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5　長瀬正和
◆会場アクセス/JR国立駅より徒歩1分
◆お問い合わせ/T.A.M.A☎0425-72-6795

エキシビジョンマッチ

〈ボクシングマッチ〉
"ランバー"ソムデート吉沢 vs 寺尾新
（M16ジム）　（T.R.D.J）

〈キックボクシング〉
チャモアペット・チョーチャモアン vs 川嶋正大
（タイ）　（T.A.M.A）

極真会館（松井派）

2002オープントーナメント第19回全日本ウェイト制空手道選手権大会
6月8日（土）、9日（日）　大阪府立体育会館

◆開場/10:00
◆入場料/自由席3,500円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/極真会館☎03-5992-9900、☎03-5992-7739、チケットぴあ、ローソンチケット
◆会場アクセス/南海難波駅、地下鉄なんば駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/国際空手道連盟極真会館☎03-5992-9900

真樹道場

2002オープントーナメント第3回全日本空手道選手権大会
9月22日（日）　愛知・豊田市体育館

◆開場/9:30　試合開始/10:00
◆入場料/自由席2,000円（当日券3,000円）　小学生1,000円
◆チケット発売/未定
◆チケット発売所/未定
◆会場アクセス/名古屋鉄道豊田市駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/世界空手道連盟真樹道場・愛知本部☎0565-24-3861

勇健塾

第8回西日本グローブ空手選手権大会
7月14日（日）　香川・善通寺市民体育館 メインアリーナ

◆開場/10:00　試合開始/11:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR土讃線善通寺駅より徒歩15分
◆お問い合わせ/第8回西日本グローブ空手選手権大会事務局☎0877-57-2207

主要チケット発売所一覧

- チケットぴあ ☎03-5237-9999
- ローソンチケット ☎03-3569-9900
- CNプレイガイド ☎03-5802-9999
- オデッセー ☎03-3408-0331
- 渋谷東急文化チケットセンター ☎03-3406-1513
- レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078
- レッスル池袋店 ☎03-3989-0056
- 板橋大山アメリカン ☎03-3962-6443
- チャンピオン ☎03-3221-6237
- 書泉ブックマート ☎03-3294-0011
- フィットネスショップ水道橋 ☎03-3265-4646
- 後楽園ホール ☎03-5800-9999
- e+（イープラス） http://eee.eplus.co.jp ☎03-5749-9911

プロ団体連絡リスト

K－1事務局
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22S＆T神宮前ビル3F
☎03-3796-2977

修斗
各興行のプロモーターに問い合わせ

ワールドパンクラスクリエイト
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 2F
☎03-5792-0815

髙田道場
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6ワールドパレス武蔵小山1F＆B1
☎03-5749-5030

UFO
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5OK白金台ビル7F
☎03-5447-2121

ドリームステージエンターテインメント
〒107-0052 港区赤坂8-5-4ルーメリ赤坂103
☎03-5775-5700

S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション
〒150-0021 東京都昭島市大神町1-2-22
☎042-544-6979

マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟
〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-6-5
☎03-3485-7060

全日本キックボクシング連盟
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-6-21
☎03-3365-1171

日本キックボクシング連盟
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩5-2-7江戸屋ビル4F
☎03-3691-4536

新日本キックボクシング協会
〒150-0034 東京都渋谷区代官山町7-8
☎03-3780-1350

ニュージャパンキックボクシング連盟
〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-14-1サガノビル2F
☎03-5625-2371

J－NETWORK
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-12三元ビル5F
☎03-3419-0536

K－U（キック・ユニオン）
〒195-0834 東京都八王子市東浅川町8-1
☎0426-66-9541

シュートボクシング協会
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8ワコー花川戸ハイツ1,2F
☎03-3843-1212

極真会館総本部道場（松井派）
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-38-1
☎03-5992-9200

バックナンバー インフォメーション

これ以前の号をお求めの方は、グレート・アントニオへお越しを！（ただし、完売した号もございますので、ご確認ください）

《2・28　64号》

●緊急特集/揺れる猪木イズム　21世紀のプロレスとは？　アントニオ猪木、蝶野正洋、馳浩、週刊ゴング・金沢克彦編集長インタビュー
●K-1特集/ミルコ、ハント、中迫インタビュー、特別寄稿「プロレスマスコミから見たK-1」…紙のプロレスRADICAL・山口日昇編集長、週刊ファイト・井上義啓元編集長
●『プライド19』直前情報/エンセン井上、ブッカーKインタビュー
●『SRS・DX』特別企画/夢の競演！　ヤノタクvsルチャ
●大会レポート/2・1SB後楽園大会、1・27K-1 JAPAN静岡大会、1・27パンクラス後楽園大会、1・27新日本キック後楽園大会、1・26NJKF後楽園大会　ほか

《3・14　65号》

●大会速報/2・24『プライド19』さいたまスーパーアリーナ大会
●大会詳報/2・11『K-1 WORLD MAX日本代表決定トーナメント』代々木第2体育館大会、2・15リングスラストマッチ横浜文化体育館大会
●ターザン山本復活！『K-1 WORLD MAX』座談会
●SRS・DXの注目/小比類巻貴之&黒崎健時インタビュー、カーロス・ニュートンインタビュー、3・30DEEPに向け佐伯代表がメキシコ視察「これが噂のルチャ最強軍団だ！」
●大会レポート/2・11修斗神戸大会、2・15全日本キック後楽園大会、2・17パンクラス大阪大会、2・22THE BEST後楽園大会

《3・28　66号》

●特集「次は『K-1vsPRIDE』か？」/ミルコ・クロコップ、桜庭和志インタビュー
●徹底検証/WWF緊急座談会、武藤敬司、島田裕二インタビュー、石井館長、鈴木健想、村浜武洋、篠原光に聞く「あなたはWWFをどう見ましたか？」
●大会詳報/3・3『K-1 ワールドGP2002』名古屋レインボーホール大会
●3・30『DEEP2001』名古屋大会情報/和田良覚、横井宏考、エル・ソラールインタビュー
●SRS・DXの注目/ホドリゴ・グレイシーインタビュー、前田日明vs山崎一夫トークショー
●大会レポート/2・24K-1オランダ大会、3・2ZERO-ONE1周年記念両国大会、3・2SMACK GIRLディファ有明大会　ほか

《4・11　67号》

●《緊急特集K-1vs『プライド』》/K-1&『プライド』ファイターを徹底検証、セーム・シュルト、山本憲尚インタビュー、ボブ・サップとは何者か？、ブッカーKが語る総合ファイターの打撃力　ほか
●大会速報/3・22『UFC36』ラスベガス大会
●SRS・DXの注目/田村潔司、女子中学生ファイター・Elkaインタビュー
●3・30『DEEP2001』最終情報/滑川康仁、渡辺大介インタビュー
●大会レポート/3・15修斗後楽園大会、3・17全日本キック後楽園大会、3・24コンバットレスリング選手権大会、3・24新日本キック後楽園大会

《4・25　68号》

●特集「『K-1vsPRIDE』ルール問題こそエンターテインメントだ！」/ミルコvsシウバ戦のルールはどうなる!?、関係者に聞く『ルール問題』、ギルバート・アイブル、ヴァンダレイ・シウバインタビュー　ほか
●大会詳報/3・30『DEEP2001』名古屋大会
●SRS・DXの注目/3・17『2H2H・SIMPLE IS THE BEST 4』オランダ大会、マルコ・ファス、ユセフ・トルコ、闘魂カメラマン原悦生インタビュー、PRIDE公認・BCGオープンセミナー情報
●大会レポート/3・25パンクラス後楽園大会、3・31修斗名古屋大会、3・30MAキック後楽園大会、4・7スマックガール、3・31SB後楽園大会

《5・9&5・23　合併号　69号》

●完全速報/4・21『K-1 BURNING 2002』広島大会
●SRS・DXの注目/ヴァンダレイ・シウバインタビュー、編集部トーク覆面座談会Special、郷野聡寛インタビュー、中井祐樹&主催者に聞く日本初のプロ柔術大会『G-lum』の見方
●4・28PRIDE.20横アリ大会最終情報/アレクサンダー大塚vsターザン山本対談、菊田早苗、パンクラス尾崎社長インタビュー
●5・11K-1ミドル級世界一決定戦直前情報/魔裟斗、小比類巻貴之、アルバート・クラウスインタビュー
●大会情報/4・12全日本キック後楽園大会、3・23極真バリ大会、4・14修斗下北沢大会

《6・13　臨時増刊号　70号》

●完全速報/4・28『PRIDE.20』横アリ大会
●直前情報/5・11『K-1 WORLD MAX 2002～世界一決定戦～』、黒崎健時インタビュー、ガオラン・カウイチットとは何者か？
●これからどうなる？　K-1vsPRIDE/セーム・シュルト、武蔵インタビュー
●SRS・DXの注目/5・11パンクラス直前情報…DDT橋本友彦インタビュー、ノゲイラ兄弟&マリオ・スペーヒーvsターザン山本対談
●大会レポート/4・21J-NETWORK後楽園大会、4・25木口道場下北沢大会、4・21極真全アジア空手選手権大会

《6・13&6・27　合併号　71号》

●特集/2002年マット界上半期総括座談会
●完全詳報/5・11『K-1 WORLD MAX 2002～世界一決定戦～』、初代王者アルバート・クラウスインタビュー、黒崎健時インタビュー
●直前情報/6・2『K-1 SURVIVAL 2002』富山大会…ボブ・サップ、中迫剛インタビュー
●GW前後の大会大特集/5・10『UFC37』ルイジアナ大会、5・11パンクラス大阪大会、5・2プロ柔術『Gl-um』、5・5修斗後楽園大会、5・6プレミアム・チャレンジ、5・6スマックガール&5・4AX、5・13 SB大阪大会、5・5北斗旗仙台大会、4・28 MAキック後楽園大会、5・4全日本キック下北沢大会、5・12ニュージャパンキック後楽園大会、4・29女子ボクシング下北沢大会

バックナンバー　通信販売方法

定価／各680円　送料／1冊＝110円、以下一冊増えるごとに50円増し。希望冊数×680円と冊数分の送料を、現金書留にて下記までお送りください。
住所、氏名、希望号数の明記をお忘れなく。発送まで1～2週間ほどかかりますのでご了承ください。

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F　『SRS・DX　バックナンバー係』まで　お問い合わせは ☎03-3295-4445

おかげさまでSRS・DXは4年目に突入！

人との出会いに感動し
思わず涙があふれ出た
日頃の心に言い聞かす
「いつでも、どこでも、誰にでも」
すべてのことに感謝する
そんな自分でありたいと
合した掌　汗ばんで
感謝の階段　登ってた
（猪木詩集『馬鹿になれ』より抜粋）

次号予告 ―――― NEXT ISSUE

6・23 完全速報！ PRIDE.21 たまアリ大会

大山峻護、強豪ヘンゾ相手に復帰戦を飾れるか!?

コールマン vs フライ ほか

全試合完全レポート！

大会詳報 6・8～9極真全日本ウェイト制大会 2003年世界大会、“王座奪回”に向けてシ烈な争いスタート
6・9DEEP2001 5th IMPACT ほか

2002 7/11 No.73

SRS・DX スペシャル・リング・サイド

6/27(木)発売　毎月第2・第4木曜日発売　定価680円
発行/フジテレビ出版・ローデス　発売/扶桑社

浅草キッドの底抜けアントンハイセル

◎浅草キッドHP『キッドリターン』
http://www.asakusakid.com

ワールドカップより格闘技！ キッドの上半期大総括!!

博士 世間じゃワールドカップ真っ盛り！

玉袋 格闘技一筋の俺たちにゃ～サッカーなんぞ関わりのねぇことでござんす！

博士 言い切ったねぇ！

玉袋 俺も、新日のレフェリー陣と同じくプロレス一途ですよ！

博士 あの人たちはサッカー日本代表のユニフォーム着てレフェリングしてたろ！

玉袋 俺は、SRS・DXのHPの『ニュースジャッジ』でもW杯なんて「のれない」のほうに投票しましたよ。

博士 その「のれる」、「のれない」の表現は改めることになっただろうが！

玉袋 このSRS・DXのWebバッシングこそ上半期一番のニュースですよ。

博士 やかましい！

玉袋 それにしても、W杯で各局キャスターをやるタレントを見てると、ちょっと首を傾げるところがあるんですよ！

博士 なんだよ、いきなり！

玉袋 あれだけサッカープロ化の時に旗振っていた清水圭さんがどこのキャスターにもなってないんですよ！

博士 知るかよ！

玉袋 俺たちもいつか格闘技のワールドカップが行われたら、清水圭さんみたいに端っこに追いやられそうで怖いんです！

博士 余計な心配するな！ 今年も半分終了したから上半期を総括だ！

玉袋 その前にK―1おフランス大会に触れましょうよ！

博士 バンナVSハントの試合は凄い試合だった。

玉袋 K―1にはああいった試合があるからソフトとして凄いんですよ！

博士 今のご時世あれやられたら、プロレスも『プライド』もUFCもかなわないよな。

玉袋 K―1は客の期待がインフレしてるじゃないですか、そのインフレのおかげで肩透かしが多いんですけどね。

博士 でも、バンナVSハントの試合があなったら、それまでの肩透かしなんか一気にチャラになるんだからK―1の底力を見せつけたよ。

玉袋 フランス大会も大成功！ いまやバンナはフランス大統領選で落選した極右のルペンより人気ありますよ！

博士 でも、去年のK―1王者が今年の上半期だけで2回負けて、1回は大苦戦！ この惜しげもないカード編成のスピード感は凄い！

玉袋 このスピードに『プライド』も追いつけ追い越せしてるじゃないですか！

博士 ワールドカップは4年に一度熱狂するだけだけど、もはや格闘技は年中がワールドカップ状態だから、俺たちサポーターはたまらないよ！ そしてK―1フランス大会の当日、日本の後楽園ホールでは、強敵に挑んだ日本人選手の試合が衝撃的な結末に！

玉袋 アルシオンの社長ロッシー小川が堀田祐美子にまたやられそうになってましたよ！

博士 それは昼間の大会だよ！ 夜の興行でキックの武田幸三がムエタイ選手にあっけないKO負け。

玉袋 あの武田が何もできなかったですよ！

博士 ここで勝って今年注目されたK―1中量級の選手たちの中から、頭一つ抜けるチャンスだっただけに、この敗北は大きい！

玉袋 しかも勝った選手はK―1中量級に色気マンマンでしょ。

博士 そこらへんが絡み合っていくと、ガ然、中量級にコクが出てくるよ！ さぁ、そろそろ上半期を振り返るぞ！

玉袋 なんといっても上半期一番話題になったのは、中西学カール・ゴッチ教室入門ですね。

博士 たいした話題にならなかっただろ！ それより2・1札幌での史上初、リング上での公開経営戦略会議事件だろ。

玉袋 あの日の中西は猪木様に「そうか、オメエはそれでいいや」と軽くいなされて最高でしたよ。

博士 だからもう中西はいいよ！ 上半期はミルコVSシウバっていう『プライド』VSK―1の出現が一番じゃないか？

玉袋 ボクはパンクラスVS修斗の争いが面白かったですけど。

博士 あのやりとりをネット上の文字で読むの大変だったよ！ とにかく、実現不可能っていうカードが実現する世の中だから、『プライド』VSUFCとかK―1VSUFCなんかもありうるってことだよ！

玉袋 それに負けじとプロレス界もノアのGHCVSDHCの対決なんかも実現させますよ！

博士 なんで、プロレスと化粧品が闘うんだよ！

玉袋 なら、UFCVSUFJなんかも実現したりして。

博士 あきらかにオンライントラブル連発のUFJの負けは決定だよ！

玉袋 ボクはどうせならUFCVSUFOが見たいですよ！

博士 小川は8・8大勝負に出るだろ！

玉袋 それと他に橋本&小川のポーク&チキンのタッグは絶好調！

博士 俺はこのまま突っ走るならば、下半期この2人が『笑っていいとも』の曜日レギュラーになるぐらい頑張ってほしい。

玉袋 今年、突っ走ったといえば、サムライの『生でゴンゴン』月曜日のターザンの切れっぷりでしょう。

博士 はっきり言って最近のターザンの狂いっぷりは、もはや地上波じゃ無理！ だからこそああいった電波系はCSパラボラアンテナで受信する時代になった。

玉袋 まぁ、お金払って壊れた人を見る時代！ 毎週『ゆきゆきて神軍』の続編を生放送で流しているようなもんですよ！

博士 ヒッチャカメッチャカすぎるだろ！

玉袋 スカパー加入者が増えたのは「俺のおかげだ」とまで言ってますよ！ 単なるワールドカップ効果なのにね。

博士 でも、番組は面白い！ 過激な仕掛人だった新間寿を呼んだりしてるからな。しかも、ここで新間さんは番組に出るなり、いきなり「なぜ、永島がいない！ 永島と徹底討論して負かしてみせる」と豪語！

玉袋 俺たちも、この番組で「新間寿VS永島勝司」の実現に向けて動き出した。もちろん裁くレフェリーはミスター高橋だ！

博士 過激すぎて、いつ打ち切りになってもおかしくない番組だ！

玉袋 ファンが見たい夢のカードを提供するのが、我々の役目なんですよ！

博士 たしかに格闘技界が実現できないカードを提供してるんだから、『生ゴン月曜日』も負けてられない！

玉袋 そんなプロレス界も激震が走りましたよね。

博士 武藤離脱、永島退社、長州退社、荒井社長自殺、などなどネガティブなニュースが続いたな。

玉袋 その中でWWFが来襲してきたのはハッピーなニュースですよね。

博士 それはどうかな？ 海外の団体が日本の市場を食い荒らしに来たってことは、日本のプロレスとしてはもう末期症状だってことだよ。

玉袋 ギョギョギョ！

博士 もはや日本に真剣にWWEに対抗すべく興行が打てるのは『プライド』とK―1しかない！

玉袋 もはや企業戦争！ ライバルは新宿大型家電ショップ戦争、ラーメン戦争なんですよ！

博士 日本人感覚で言うと、日本人は下半期に行けば行くほど盛り上げていく気質がある！

玉袋 去年の『猪木ボンバイエ』なんか、その最たるもんですからね。

博士 っていうことは、年末に向け大爆発が待っている！

玉袋 7月には『プライド』VSK―1もあるし。

博士 桜庭和志復帰はもちろん、柔道の吉田&ゴールドバーグ『プライド』参戦なんて噂もあるし、ますます目が離せないよ！

玉袋 目が離せないといえば、徳間書店から発売された『浅草キッドのお笑いアサヒ芸能人』も目が離せないですよ！

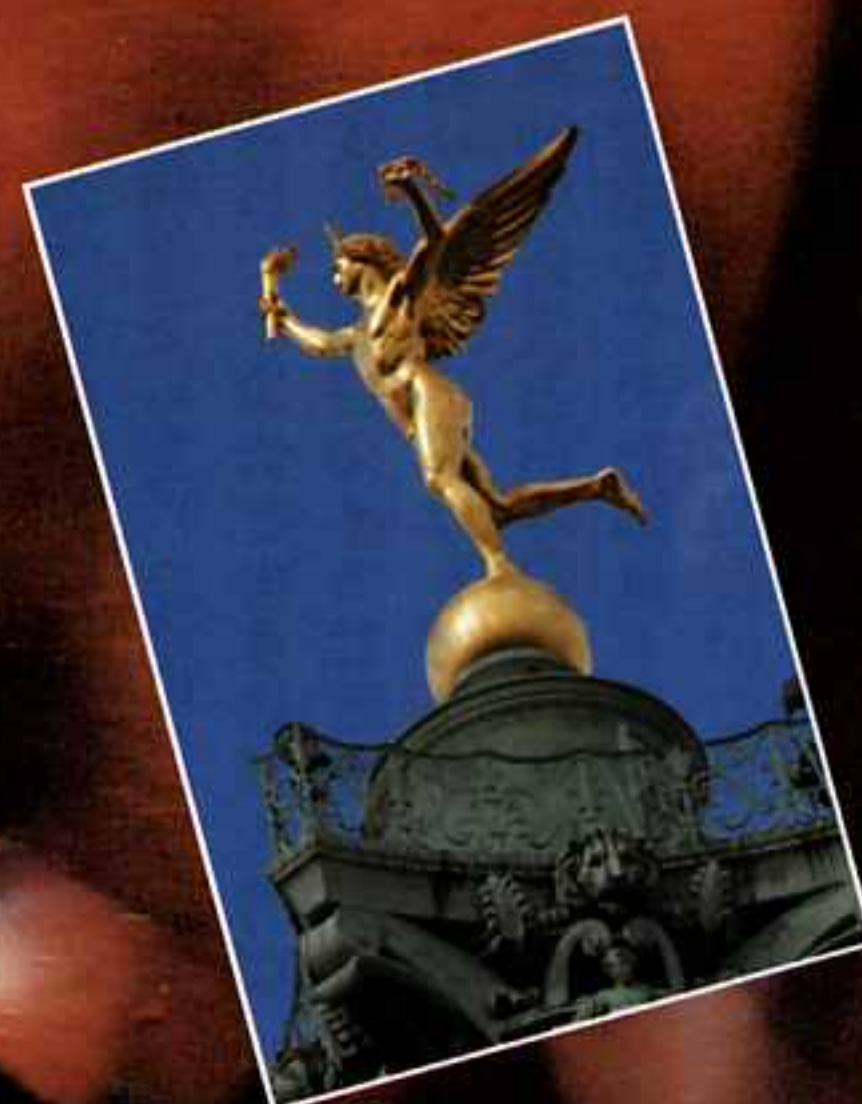
博士 この間ロッキング・オンから『発掘』が発売されたばかりなのに、もう新刊が発売ってか？

玉袋 そうなんです！ とにかく、キーワードは「出し惜しみしない」ってことですから、是非ご一読を!! ■

ARUZE
K-1 WORLD GP 2002
PARIS
5・25 フランス・パリ◎ベルシー体育館

これぞ、K−1史上最高のベストバウト！

見たか、パリっ子たちよ、イッツ、ジャパニーズ・スタイル！

文◎谷川貞治　写真◎S.NOMA／IMC、©K−1

この破壊王決定戦のど迫力に石井館長も
"フランスはもらった"

ハントはとにかくバンナの猛攻に耐えて、そしてパンチで反撃に出る！　見応えのある攻防が続いた

バンナが最近多用しているハイキック。ハントがここのところハイキックでダウンを喫しているということもあり、積極的に出していった

石井館長がめざすK—1のコンセプトは、"日本発世界"。そのため、K—1は日本国内の興行的成功に飽きたらず、これまでスイス、ラスベガス、オーストラリアなどでビッグイベントを成功させ、今や海外10カ国以上で予選を行うまでに成長した。これは、プロレスなどでは30年以上かかってもできなかった世界戦略である。それだけを見ても、石井館長の行動力がいかに秀でているかが分かる。

そして、今回のK—1フランス初上陸。アンディ・フグ亡き後、ヨーロッパを拠点として年に1回開かれていたK—1スイス大会が自然消滅したこともあり、このフランス大会は重要な意味を持つ。ヨーロッパ人が強いK—1だが、そのヨーロッパで普及させるためには、経済的に豊かなフランスかドイツでK—1を根付かせるのが一番の方法だからだ。

しかも、フランスにはジェロム・レ・バンナという切り札的な存在がいる。スイスでK—1が毎回ソールド・アウトになり、視聴率50％以上という信じられない数字を出していたのは、まさにアンディがスイスの力道山になれたから。このフランス大会を成功させるにも、バンナのようなスーパースターが必要なのである。

ところが、アンディが自覚して英雄になろうとしていたのに対し、バンナは待ちに待った母国での開催に対して、次のようなコメントを吐き続けていた。

「オレはフランス人が大嫌いだ。だから、フランスという国でK—1をやることに対して特別な感情はない。むしろ、オレのファイタ

ARUZE K-1 WORLD GP 2002 PARIS
5・25 フランス・パリ◎ベルシー体育館

1Rからこれでもかと続いたパンチの打ち合い。最初からこんな凄絶な攻防になるとは……

バンナが攻めていた時の表情は凛々しかった

観客1万200人総立ち！
ヨーロッパ56カ国の視聴者、絶句！
K－1はボクシングより面白い！

途中から目が見えない状態だったハントだが、最後まで必死にパンチを出していった

▲ハントもバンナを攻め立てるが、バンナは地元での開催とあって意地でも倒れない

バンナのパンチを頭で受けるハント

ーとしての経済的な基盤は日本にあるので、日本のファンの前でハントとやりたかったくらいだ。フランス人はみんな個人主義で、冷たいヤツばかり。オレはフランスという国が大嫌いなんだ！」

このバンナの発言は謎めいているが、実は95年、バンナはフランスでモーリス・スミスと試合をやっているのだが、あまりの膠着ファイトのため、観客から大ブーイングをあびたという苦い経験がある。それから、バンナはほとんど母国フランスで試合をしなくなった。フランスの観客は、日本ほど優しくない。同じフランス人の試合でも、面白いものは面白い、つまらないものはつまらないとハッキリ評価を下す。勇気を出して倒し合いをしなければ、大ブーイングの嵐をあびせられるのだ。

「フランスは大嫌い！」と言ったバンナの発言は、このプレッシャーをカモフラージュするものであることは間違いなかった。本当はバンナ自身はアンディくらいに自分の立場を感じとっていた。バンナほど観客論が分かっているファイターなら、自分が何を期待されているか十分分かっているはず。

もしここでバンナが無様な試合をしようものなら、自分の名声に傷が付くどころか、フランスでのK―1人気はない。そういったプレッシャーに対して、アンディは堂々と受け止めようとしたのに対し、バンナは思いっきりナーバスになっていたのである。

しかも、対戦相手は昨年のGP1回戦で実現した、「事実上の決勝戦」と言われたマーク・ハントとの一戦。試合前、それこそ「この

ミラクル3(スリー)ミニッツ！

最初のダウンはハント！

お互いにダウンもしないまま迎えた2R。開始早々にバンナが最初のダウンを奪った

すぐにバンナが逆転のダウン！

◀先にダウンを奪って一気に攻め立てに行ったバンナだが、ハントが粘って逆に右ストレートでダウンを奪い返す。これで勝負は振り出しに戻った。ハントの根性も凄い！

▲ダウンを喫した時のハントは「チクショー」という感じで笑みを浮かべた

世はオレのためにある」とばかりに豪語していたバンナだが、壮絶な失神KO負けをした。ビッグマウスが売りだったバンナもさすがにショックを受け、それ以降は景気のいい言葉が出なくなった。

バンナにとって、背の低いハントはパンチが入れにくい苦手な相手でもある。しかも、打たれ強くて一発の破壊力は完全にハントのほうが上だということも十分知っている。その大事なリベンジ戦をフランスでやるのも、バンナにとっては大きなプレッシャーとなった。そう考えると、自らピーター・アーツとかマイク・ベルナルドといった強敵を母国での対戦相手として指名していたアンディは凄いヤツだった。

しかし、ハントはハントで不安材料も多かった。中迫、ミルコと、立て続けにハイキックでダウンを奪われ、王者になってからはまるでいい勝ち方をしていない。そのため、ハントのほうも心療内科に通うほど落ち込んで「オラ、バンナとやるのは嫌だ」とダダをこねていたほど。K－1関係者やマネージャーが無理矢理、パリ行きの飛行機に乗せたというから、「ダメだ、こりゃあ」と思っていたのだ。

ところが、ところがである。K－1初のフランス大会で見たバンナVSハント戦は、K－1史上最高のベストバウトとなった。もう10年も歴史を重ね、大概のパターンは見慣れているはずなのに、あれほどの倒し合いは見たことがないほどのど迫力。なにせ、2人のKOマシーンが、どちらが倒れてもおかしくない魔界に入り込み、壮絶な殴り合い、壊し合いを繰り広

ARUZE K-1 WORLD GP 2002 PARIS
5・25 フランス・パリ◎ベルシー体育館

▼インターバルの間に試合中に気にしていた目の具合をセコンドがハントに尋ねる。そして、無情にもタオルが投げ入れられた

そして、ハント陣営がタオル投入！ されど、魔界に引き込んだのはこの男だ！

新秘密兵器のハイで再びハントがダウン！

▲▼いつもならダウンを食らって諦めてしまうバンナだが、最近磨きをかけているハイキックで徐々にペースを取り戻し、2R終了間際に左ハイキックでハントから2度目のダウンを奪い返す。今大会は1試合で3度しかダウンをできないルールのため、ハントは大ピンチ！　ゴングに救われたが……

げたから凄い。1Rにハントが2回のダウンを奪われ、バンナが宙を舞うような逆転のダウンを奪われるなんて劇画でも描けない。

緊張感あふれる名勝負として、これまでホーストVSフィリォ、バンナVSフィリォの〝間合い地獄〟パターンがK—1の名勝負と言われていたが、壮絶な倒し合いでは〝我慢〟を見せたハントVSセフォー戦以上の迫力が、このバンナVSハント戦だったと思う。

な、なんでこんな凄い試合をフランスなんかで！　日本でテレビを見たファンも、予想外のど迫力に度肝を抜かれたのではないだろうか。

「今年のK—1シリーズのベストバウトはこれで決まり！」と言うどころか、過去のK—1史の中でもベストバウトと言ってもいいほどの内容だ。一連のアーツVSベルナルド、アンディVSベルナルド以上の衝撃と言っても過言ではない。まさに名勝負数え唄である！

さすがに見る目の厳しいフランスのファンも総立ちで声援を飛ばし、最後はスタンディング・オベーションで2人の激闘を労った。解説席の石井館長も興奮して立ち上がり、試合後は「これでフランスはもらった！」と歓喜していたほどだった。

何がどうしてここまで2人のモチベーションを上げたのか。あんなにナーバスになっていた2人がなぜ、前回以上にレッドゾーンを超えていったのか。

それは〝K—1魂〟がそうさせたとしか、私には説明がつかない。2人は勝つこと以上に、どんな試合をやれば他者（ファン）が評価

K—1の帝王（バンナ）、完全復活！

すっかり自信を取り戻したバンナ。この勢いでK—1GP制覇なるか？

▲勝者バンナの手が高々と挙げられる横で、いつものようにグローブでポンポンと拍手をしていたハント

視聴率でもK—1、F1に勝つ！

▲大成功に終わったパリ大会。26日にフジテレビで放送された視聴率は10%（占拠率44・9%）の高視聴率を記録。最高瞬間視聴率は13・5%だった。その1時間半前に放送されたF1の9・4%にK—1は勝った

★第6試合／（K—1ルール・3分5R）
○ジェロム・レ・バンナ（2R終了時TKO勝ち）マーク・ハント●
<フランス／ボーアボエル&トサジム>　<ニュージーランド／リバプール・キックボクシングジム>
※ハントは2Rに右フック、左ハイキックでダウン2あり。バンナは2Rに右ストレートでダウン1あり

してくれるか、よく分かっているファイターである。それは、バンナやハントのこれまでの試合を見れば証明済み。彼らは〝勝つ〟という結果以上に〝記憶に残る内容が全て〟だということを身に染みて知っているタイプなのだ。

かつてのアンディがそうだった。バンナの発言や闘いっぷりもそう。セフォーのパンチをノーガードで顔面受けしたハントもそう。基本的にK—1のベスト8ファイターは、そういう〝K—1魂〟というプロ魂を身に付けている。だから、肉体を削ってでも、期待以上の闘いをしてしまうのだ。そう考えると、バンナが「フランスは大嫌いだ」と発言していたことも、ハントが「オラ、パリには行きたくない」と発言していたのも納得。2人にとっては、そこまでの闘いをしなければならないことが、本能的に分かっていたのである。

同じK—1のシステムながら、世界予選があまりパッとしないのは、そうした〝K—1魂〟のある選手がいないからである。ハントもオーストラリア予選では、まだそこまでの〝K—1魂〟はなかった。もちろん、K—1に出る前のバンナもそうだったはずである。

では、なぜ彼らは〝K—1魂〟を身に付けたのか？　それは紛れもなく、日本のファンが彼らを育て上げたからだ。日本のファンが感動するような試合をやれば、世界中でもウケることが今回2人の闘いによってあらためて証明された。ただ勝つだけじゃダメだ。

イッツ・ジャパニーズ・スタイル！——それが世界進出の合言葉なのだ！　トレビア〜ン！■

ARUZE K-1 WORLD GP2002 PARIS
5・25 フランス・パリ◎ベルシー体育館

自分の国で大会をやったから負けるわけにはいかなかった

ジェロム・レ・バンナのコメント

――試合を終えてどんな気持ちですか？

バンナ　非常にいい気分だ。

――最初のダウンで試合が決まると思いましたか？

バンナ　こういう大きな試合の時は何も考えずにただ闘うだけだと考えてた。

――逆にダウンを奪われた時は？

バンナ　何も考えてない。試合をやってる時はとにかくやらなきゃいけないことをやってるだけだ。

――戦略どおりに闘えましたか？　それとも本能で闘ってましたか？

バンナ　戦略ということで言えば、ハントと距離を保つことが戦略だった。

――これほどまでに満足だった試合は最近ありましたか？

バンナ　自分の国で勝ったということと、フランスのプレスが来てくれたことも嬉しいし、自分の国で勝てたことが、非常に大きな喜びがある。この勝利が人間としての価値を与えてくれて、それから今回の試合で日本人のファンに感動を与えたと思うけど、試合の目的は勝つことや負けることだけではなくて、歴史に残るような良い試合をすること。今日の試合は歴史に残った試合になったと思う。今の時期はサッカーのワールド・カップが行われている時期なので特にいい試合をすることが大事だと思っていた。

――初めてのフランス大会で、さらにメインイベントということで、今までにないプレッシャーはありましたか？

バンナ　プレッシャーはあった。歳を取ることも感じている。ただ、この6カ月間、いいチームに囲まれていた。オレのような人間は難しいから、6カ月間も支えてくれるというのは大変だと思うけど、今日勝つことができて、彼らにもお返しができた。

――今日の大会でフランスにもK―1の素晴らしさは伝わったと思いますか？

バンナ　もちろん、フランス人に良さや価値を知らしめたと思う。レベルはまだ日本に比べたら中くらいだと思うけど、フランスの観客に対して、プロというものがどういうものかは見せられたと思う。

――前回と今回のハントで違いはありましたか？

バンナ　ハントが変わったとは思わなかった。以前と同じように大きくて強い選手だ。それよりも自分が前進するしかない。ハントもまた前進するだろうし、それに向けてやっていくしかない。オレの全てのファンに対して頑張ってやっていかないといけない。マイナスに行くわけにはいかない。ファンのために負けるわけにはいかないんだ。もし負けたらピンポンや縫いものをするしかなくなるからな。

――ヒザ蹴りを使えなくて大変だったか？

バンナ　6カ月間、ヒザ蹴りの練習をしてきたけどしょうがない。ハントは低い体勢になるので、試合をするのは大変だった。反対にそれが有利になったこともある。

――試合自体は大変だったか？

バンナ　もちろん、大変だったけど、さっきも言ったように自分の国で大会をやったから負けるわけにはいかなかった。自分が負けることによって大きなリスクを背負うし、観客はこのイベントを待っていたから、とにかく負けるわけにはいかなかった。■

石井館長のコメント

パリっ子の心を掴んだK-1になったと思います

石井館長　無事に終わりまして、ありがとうございます。初めてのパリ大会ということで不安もありましたけど、お客さんもたくさん入りまして、試合内容も近年希に見る試合内容で、特に最後のメインイベント、そしてホーストの試合、ハイキックで決まった2試合、そしてシリル・アビディらしい試合と好試合が続出しまして。パリはもらったなという感じがしました。特に最後のジェロムとマーク・ハントの試合は2人とも勇気のある闘い方をしましたね。僕はジェロムは距離をとっていくかなと思ったんですけど、やっぱり最初からガンガンいったという。やっぱり凄いパンチ効いてたんですけど、ジェロムが地元のパリでどうしても倒れちゃいけないという踏ん張りと、ハントが打ち合った勇気というか、勇気と勇気がぶつかったいい試合だったと思います。K―1史上に残る名勝負だと思いますし、初めてのパリ大会で素晴らしい試合ができたので非常に満足してます。あとはファンの人たちの反応を見れば分かると思いますが、最後は僕も解説席で久しぶりに立っちゃってね。総立ちになりましたね。僕の感想はこんな感じです。これから毎年パリのほうでK―1を根付かせていく試合を続けていきたいなと思います。以上です。

――今回ヒザ蹴りなしでしたが、KOが続出しましたね。

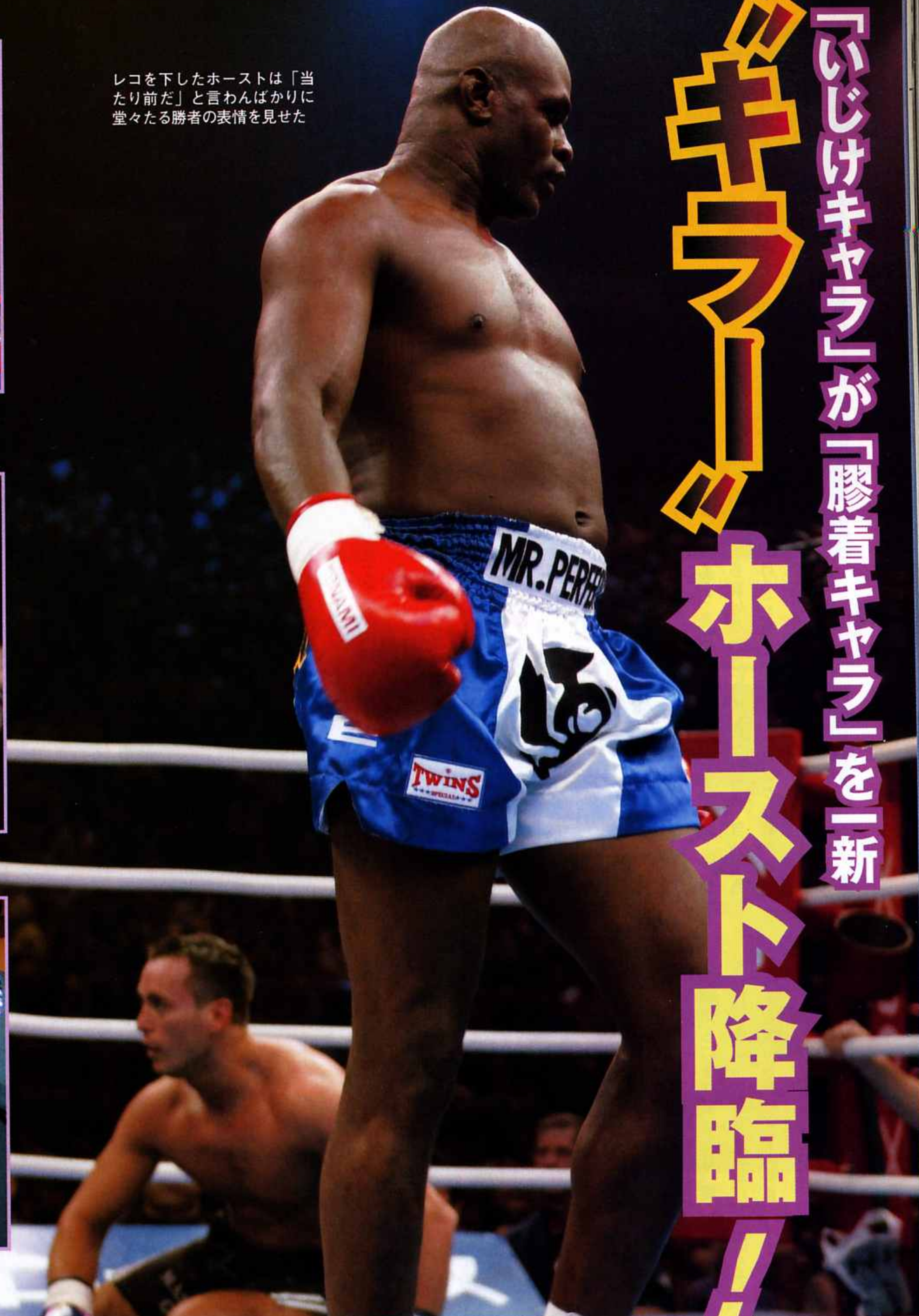
石井館長　もともとK―1はクリンチのヒザ蹴りをなくす方向で審判団に指導してまして、今日みたいにクリンチがない試合になるとパンチの攻防がありますし、その分ハイキックとかミドルキックとかが対応できるということで、試合がスピーディーになってるし、ブラウン管スポーツとしてもヒザ蹴りがないのはいいのではないかというのが見えました。クリンチがあるとどうしても試合が止まりますんであんまり良くないなと。特別ルールは今回のK―1の大会に関しては、凄くいい方向に向いたルールだったと思います。ジェロムの性格っていうのは、作戦を立てても作戦どおりにやらないっていうかね、でも逆にそれが彼の良さであり、彼のモチベーションだと思うし。

――今後のハント選手とバンナ選手の試合のスケジュールは、10月の開幕戦までないんですか？

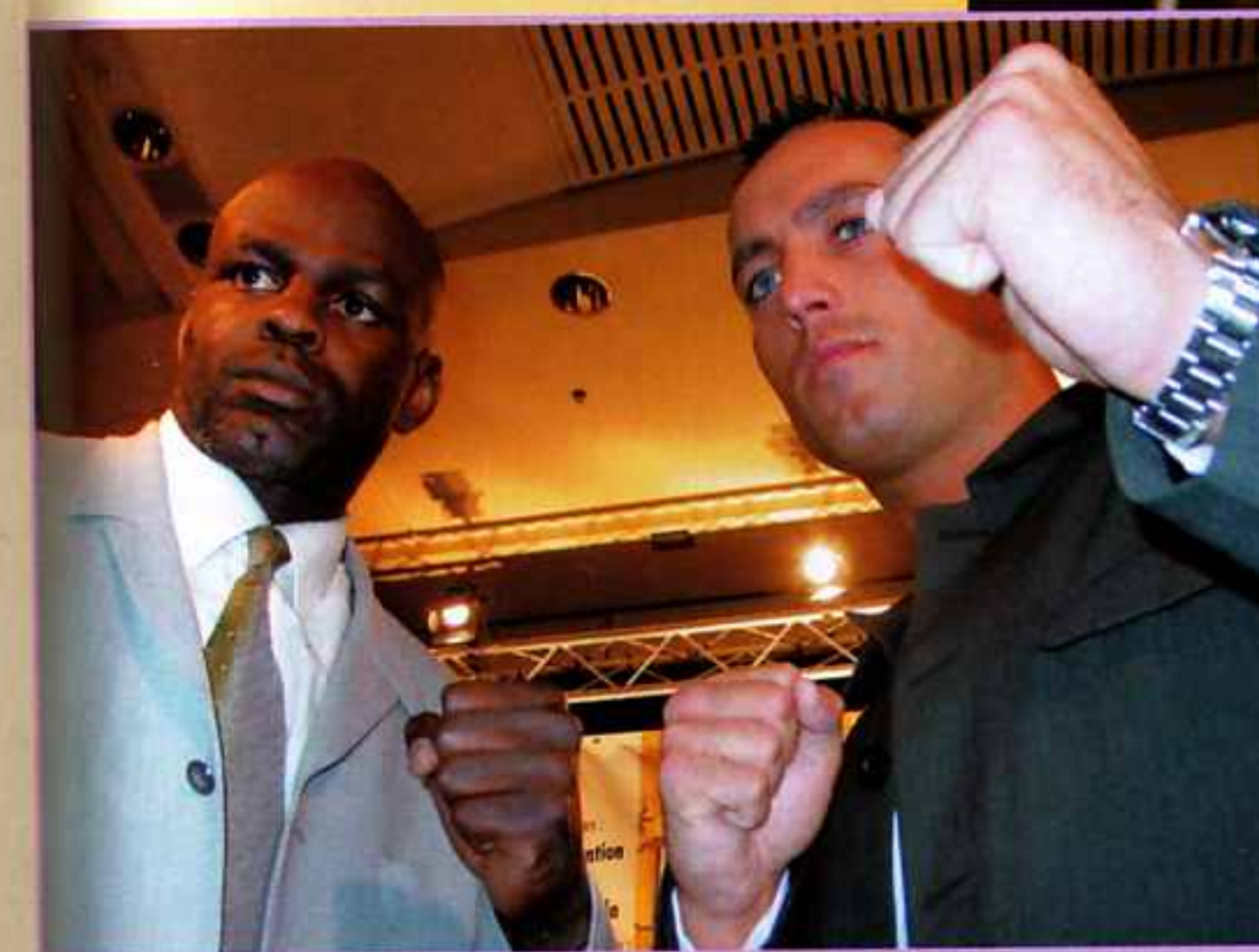
石井館長　そうですね、彼らの試合はグランプリシリーズに関連する試合はひとまずないですね。8月はシードされてるし。ハントはチャンスがあればどこかで出せれば。ジェロムのあれだけのパンチ力を持ってあれだけ叩かれても倒れないハントは凄いなと改めて思いました。

――チャンピオンが2連敗という形ですけども、レベルが上がってるということですか？

石井館長　上がってるということですね。あと、アーネスト・ホーストの神懸かり的な強さにもビックリしましたね。中迫がショートフックの2連打で倒れて、中迫打たれ弱いなと思ったけど、そうじゃなくてホーストのパワーがアップしてるんじゃないですかね。今日も接近してからのショートの連打でレコは何もできないで崩れ落ちましたから。レコは絶好調だったと思うんですよ。まだまだホーストも進化してる。パーフェクトですね。■

「いじけキャラ」が「膠着キャラ」を一新 〝ギラー〟ホースト降臨！

レコを下したホーストは「当たり前だ」と言わんばかりに堂々たる勝者の表情を見せた

▲1987年からフランスで試合をしているホーストは、地元ではないが大歓声で迎えられた。このことに関してはちょっとご機嫌だった

▲試合前に向かい合う両者。この時点でホーストはレコの態度にブチ切れ状態だったのだ

▲試合前々日に行われた個別会見でレコは「今回は体調もばっちりだし、ホーストに勝てる！」と自信満々だったのだが……

「日本のマスコミはジェロム、ジェロム、ジェロムと言うけど、俺はK―1でスリータイム、チャンピオンになっている。だけど、ジェロムは1回もチャンピオンになってないじゃないか。みんな、もっと俺のことを尊敬するべきだ」

アンディ亡き後、K―1がバンナ中心に回りはじめると、ホーストはことあるごとに、こうコメントしてきた。今回のパリ大会の前にも、ホーストは「たしかに今回の大会はジェロムの母国ということで、彼が主役と言っていい。けれど、俺も主役の一人だ。なぜなら、俺はこれまでスリータイム、チャンピオンになっているからだ」と、いじけキャラが爆発。今やホーストの口から「スリータイム、チャンピオン」という言葉が出るだけで「よっ！　千両役者！」（笑）と掛け声を飛ばしたくなるほど、キャラが立ってきている。

今のホーストはちょっと面白い。これまで地味で、面白味のないチャンピオンと言われ、勝ってもタメ息しか出ないホーストだったが、バンナやハントといった個性豊かなキャラに嫉妬を抱けば抱くほど妙な味が出てくるようになった。

「どいつもこいつも馬鹿にしやがって！」

ホーストは日本のマスコミ、ファンに強い不信感を抱くことで、ここにきていい意味で精密機械が壊れはじめているのだ。なにせ、今回のヒザ蹴りなしの特別ルールも、ホーストだけには知らされてなかった（忘れられた？）という微笑ましいエピソードがある。

そうなると、ホーストという精密機械のあちらこちらで〝プチッ〟

ARUZE K-1 WORLD GP 2002 PARIS
5・25 フランス・パリ◎ベルシー体育館

こんな強さを見せつけられたら、優勝候補ナンバー1は揺るぎなし！
37歳にして、パワーアップ！

ホーストのコメント

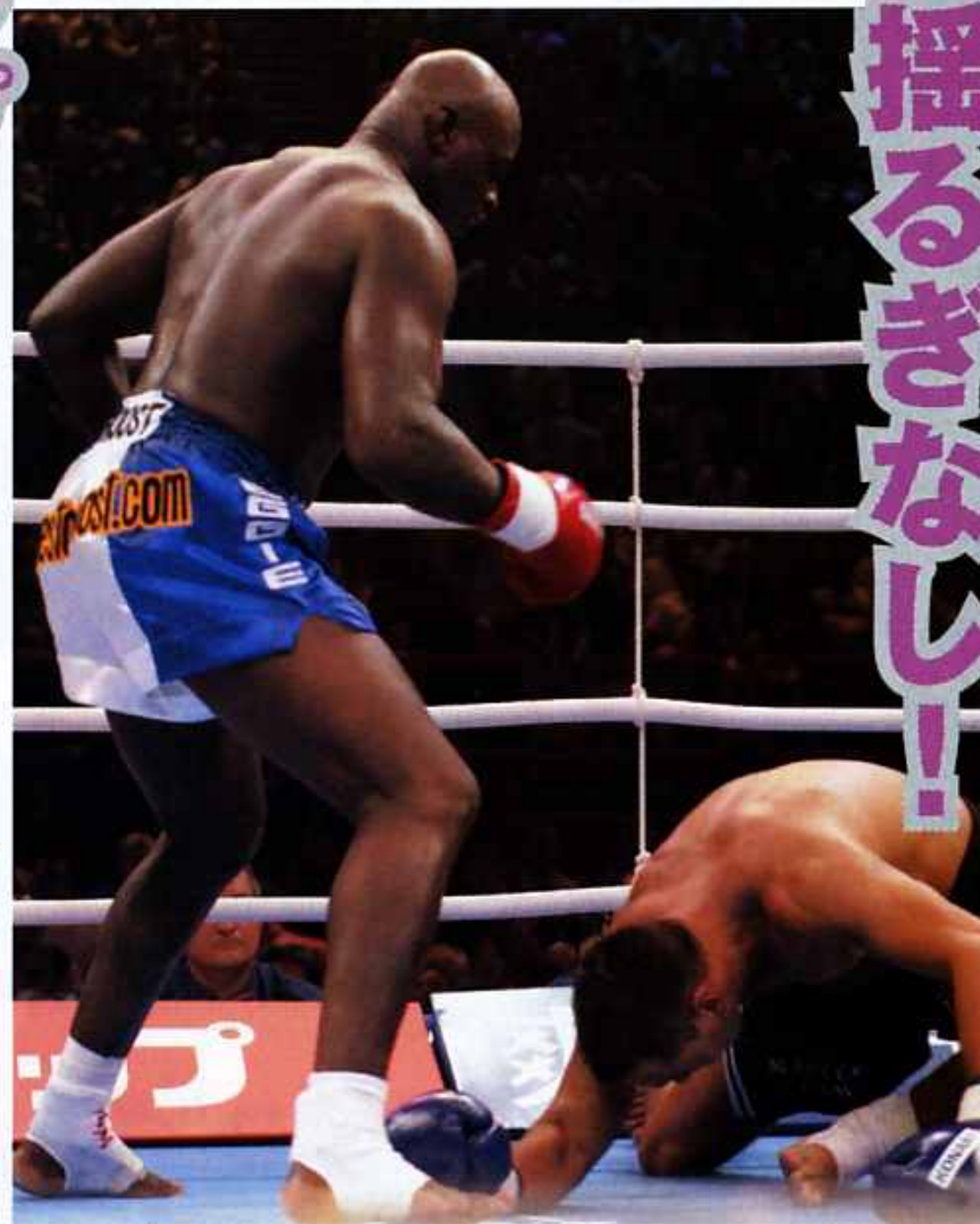
「今は誰とやっても勝てるし、それがみんなにも見せることができたと思う。常にトレーニングをすることで、歳をとったとしても誰にでも勝てるんだ。（パンチのラッシュは）少し怒っていた。レコはボクのことをリスペクトしてなかったからね。だから、壊してやろうと思ったんだ。リング上に上がる前から（リスペクトしてないと）思ったけど、リングに上がってさらに感じたよ。（レコを倒したパンチは？）気に入ってるパンチだけど、このために特別に練習したものじゃない。本能にしたがってやってるだけだ」

▲怒った時のホーストがいかに怖いかを象徴していた最後のシーン。めった打ちなのだが正確なパンチなのだ。これではレコもたまらない

▲試合開始からエンジン全開で膠着はどこ吹く風？　とばかりに攻め立てたホースト。レコがなんにもできずにダウンを奪われた

▲一方、いきなりダウンを奪われ出鼻をくじかれたレコ。たしか、絶好調だったはずなのだが……

▲かなりキレていたホーストはダウンを奪ってもまだ満足気ではなかった

◀いくら勝つ自信があっても「K―1GPで3度もチャンピオンになっているんだ」（byホースト）という男をバカにすると痛い目にあうのだ（きっと）

▲最後は1度目のダウンを奪ったのと同じ右フック。レコはヒザからガクンと落ちた

◀勝利後、息子のレジー君をだっこしてリングで勝利の雄叫びをあげたホースト

▶パワーアップを果たし、完璧な試合を見せたホースト。この男を止められるのは誰なんだ？　一方、UFC参戦も噂されているレコは、試合後に泣きながら控室へ帰って行った。このままK―1を去るのか？　それとも……？

レコ、泣きながら帰る……

★第5試合/（K―1ルール・3分5R）
○アーネスト・ホースト（1R1分48秒、KO勝ち）ステファン・レコ●
〈オランダ/ボスジム〉　〈ドイツ/マスターズジム〉
※右フック。レコは右フックでダウン1あり

と火花が飛びはじめる。しかも、今回の対戦相手レコは「俺はパワーファイターよりも、テクニシャンのホーストのほうがやりやすい」と断言し、入場時のリング上ではホースト・ダンスを楽しそうに踊って待ち構えているではないか。

この時、ホーストのスキンヘッドからは完全に血管が浮き上がっていた。ホーストはリスペクトしない相手には、キラーに豹変する。「スリータイム、チャンピオンにもなっている男をナメたら、ただじゃすまない」というモチベーションで、よく分からないけど、たぶん全身真っ赤にゆで上がるのだ。

フランス特別ルールのヒザ蹴りなしは、はっきり言ってホーストに不利。しかし、ゴングが鳴るやそんなことはまるで問題なし！と言わんばかりにホーストがパンチだけで猛ラッシュ。あのベスト8ファイターのレコが、1Rであっという間にKOされた。

これまで技術で相手を翻弄し、ポイント稼ぎで試合を膠着させてきたホースト。しかし、この男を怒らせたら、K―1の誰よりも恐い。しかも、37歳にして技術で勝つだけでなく、パワーで相手をブッ倒すために106キロに増量。今回の強さを見せつけられたら、誰も手がつけられないんじゃないかと思えるほどの強さだった。

中迫が1Rで負けたことも、不甲斐ないからだけじゃなかった。レコも倒されたところを見ると、今のホーストが強すぎるのだ。

今回でK―1の契約が切れるレコは、ショックのあまり、泣きながら試合場をあとにした。さすがスリータイム、チャンピオン！■

勝っても、負けてもアビディ最高！

かつてのマルセイユの悪童が母国で英雄になった日。

7カ月ぶりのK－1ファイトとなったアビディはイケイケモードで攻めまくった

かつて、どうしようもない不良少年がプロボクサーとなり、昔さんざん迷惑をかけた警察隊のブラスバンドの演奏で、世界タイトルマッチに挑むという話があった。劇画『あしたのジョー』のワンシーンである。

この日、ベルシー体育館に集まった1万人以上の観客に迎え入れられたアビディが、まさにそんな感じだった。母国フランスのマルセイユでは喧嘩に明け暮れ、毎日顔じゅう傷だらけとなり、少年院にまで入れられた悪童。そして、将来はマフィアになるか、ボクサーになるか真剣に悩んだ男が、K―1のスターとなり、こうして母国に凱旋帰国してきた。

会場には母親や妻子、そして昔の遊び仲間が、アビディの晴れ姿を見に駆け付けている。しかも、アビディには、K―1フランス初上陸の歴史的オープニング・マッチを務めるという大役が課せられた。K―1フランス大会が成功するかどうかは、この第1試合で火がつけられるかどうかにもかかっていたのは間違いない。

そんな使命が与えられたんだから、アビディが燃えないわけはない。普段、アビディは試合前になると、イライラしすぎて自分の爪を噛むという幼児癖を見せるが、今回は両手の爪をぜーんぶ食べちゃって、いつもより余計に気合いを入れてリングに登場してきた。

「もう、この子は死んだほうがまし！」と家族や近所の住人から言われ続けてきた悪童が、感動を与えるプロのファイターになって声援を受けている。今日だけは負けたくないと思っていたのは、この

ARUZE K-1 WORLD GP 2002 PARIS
5・25 フランス・パリ◎ベルシー体育館

アビディ、技術論無視

強くなってんだか、弱くなってんだか、まっ、いいか！

アビディのコメント

「勝てて非常に嬉しい。試合がすぐに終わったことは自分にとってはいいことだった。パリで試合ができて誇りに思っている。マルセイユじゃなかったけど、自分の国で勝てて嬉しい。満足してます。（7・14K－1福岡大会でVTファイターと対戦することについては？）問題ない。（フライにK－1ルールで勝てるか？）やってみないと分からない。まだ、出ることさえ聞いてないから。メルシー、メルシー、メルシー（と3回言って控室へ走って帰った）」

▲2度目のダウンを奪った右フック。これでもかと打ち込んで行くところがアビディらしい

▲1度目のダウンシーン。これでアビディに勢いがついた

▲前へ前へ技術論無視で突き進むアビディ

▶3度目のダウンは左フック。マレーはバタンッとマットに沈んだ

◀久々の勝利に喜ぶアビディ。マレーはボーッとしていた

▲マレーのパンチをここまでかというくらい低空で避けるアビディ

▲組み付きそうになる場面も見られたアビディ。『イノキ・ボンバイエ』の影響か？

◀試合前のインタビューは絶品ものだったマレー。試合中もなんとなくいい味が醸し出されていた

ニック・マレーはジャパン行き決定

▲試合に敗れてシュンとするマレー。そんなにがっかりすることはない。そのキャラクターを全面に出せばもっとファンが増えるはず！（おそらく）

★第1試合／（K－1ルール・3分5R）
○シリル・アビディ（1R2分05秒、KO勝ち）ニック・マレー●
＜フランス／チャレンジ ボクシング マルセイユ＞　＜イギリス／ビーストマスターズ＞
※3ノックダウン。マレーは左ストレート、右フック、左フックでダウン3あり

アビディも同じだった。

「俺の悪いところは、ゴングが鳴ると何も考えられなくなり、カッとなって打ち合ってしまうところ。こんなんじゃ、いつまでもチャンピオンにはなれないし、壊されてしまう」と、昨年から長期的展望に立って技術を磨くことを決意したアビディ。しかし、今回もゴングが鳴るや、アビディの闘争本能はすぐにレッドゾーンを超えた。

ビュン、ビュンとうなる大振りのパンチ。いきなり、倒せるかもしれないが、最も倒されやすい死の間合いに平気で入っていく。うまくなっているのか、ヘタになっているのか、まるで分からない。でもアビディの喧嘩ファイトは勝っても負けても面白い！

K―1を見ていると、つくづく人を感動させるのは技術論じゃないんだなぁと思わされるのだが、その典型がこのアビディだ。

特にフランスの観客は、勇気のない消極的なファイトに対しては容赦なしのブーイングをあびせる。初のフランス大会ということもあって、ナショナリズムが高揚し、フランス人だけを特別に応援する国民かと言えばそうじゃない。フランス人の個人主義はここでも発揮し、凄いファイトをする人間だけを応援する気質なのがハッキリと分かった。その証拠に、第2試合のトニー・グレゴリーは、フランス人なのに、大ブーイングをあびてしまったのだ。これは面白い。

そんなフランスのファンは、かつての地元の悪童に大声援を送った。技術的にアビディのアラはたくさん見えたが、今日は母国で勝ったんで、まあいいか！■

毒針を封じられたイグナショフ死んだふり作戦で見事KO！

この男が狙っていたのは、反則負けじゃなかったのだ

得意技のヒザ蹴りを封印されたことで、いつもの殺気がなかったイグナショフ。場内からはブーイングも

▲ポイントを取っていたイグナショフの右ミドル。しかし、左ミドルじゃないのでダウンは奪えない

▲ほとんど互角に渡り合っていたボスジムの大巨人ブレギーだが、KO負けを食らってしまった

▲しかし、イグナショフの右ミドルはおとりだった。このあと、この日初めて右ハイを出し、一発でブレギーをKO！

▲ブーイングをあびたものの、最後はKOで仕留めるあたりは、さすがベスト8ファイターだ

イグナショフのコメント

「今回はヒザ蹴りなしのルールに自分を適応させるのが難しかった。試合のリズムを掴めなかった。ヒザ蹴りがあると自分らしく闘える。まだ若いので経験不足であるし、肉体的にも満足していないので肉体改造をやっていかないといけないと思う」

★第4試合/（K―1ルール・3分5R）

○アレクセイ・イグナショフ（5R2分12秒、KO勝ち）ビヨン・ブレギー●

〈ベラルーシ/チヌックジム〉　〈スイス/ボスジム〉

※右ハイキック。4R に掴みによりイグナショフに注意1あり

あと数年もしたら、K―1にはホーストもアーツも、ベルナルドもいなくなるだろう。今のトップファイターで残っているのは、バンナでギリギリといったところか。K―1も10年にして、確実に世代交代の波が押し寄せている。

そんなK―1の新世代を担うのは、前年王者のハント、そしてベスト8ファイターのイグナショフはもちろんだが、ミルコ、アビディ、そしてオランダの新星レミー・ボンヤスキーもその中に入る逸材だと、私は見ている。

考えてみれば、そんな金の卵たちが一堂に会したこのフランス大会は、後世になればなるほど、「凄い大会だった」と評価されるイベントだったのではないだろうか。

中でも、イグナショフはホーストさえも対戦を嫌がる選手で、ボンヤスキーに関しては、身体能力の高いホーストといった感じの選手だ。イグナショフは、若くしてすでに完璧なムエタイ・テクニックを身に付けているし、ボンヤスキーに関しては、全身バネのような筋肉の持ち主。ルックスもカール・ルイスに似ていいから、スター性抜群の存在である。

しかし、イグナショフにしても、ボンヤスキーにしても、今回のフランス大会では、自分が最も得意とする必殺技をルール上で封印された。K―1のようなキックスタイルの興行をフランスでやる場合、ヒザ蹴りは全て反則になってしまうのだ。

この2人にとってヒザ蹴りなしで闘えということは、翼をもがれた鳥と同じ。しかし、ハンディを背負った時に、何が見せられるか

ARUZE
K-1 WORLD GP 2002 PARIS
5・25 フランス・パリ◎ベルシー体育館

▶カール・ルイス似のいい男でホーストばりのテクニシャンであるボンヤスキー。オランダ予選で負けたものの、見事クロアチア予選王者マイストロビッチをKOで破った

レミーはやっぱり金の卵！ 未来のK－1王者、最有力候補だ！

▲ダウンを奪われたボンヤスキーはハイキックで猛反撃。同じく3Rにすぐにダウンを奪い返した

▲アンディの弟子マイストロビッチの得意技はこの後ろ回し蹴り。3Rにはテンプルにヒットさせて最初のダウンを奪った

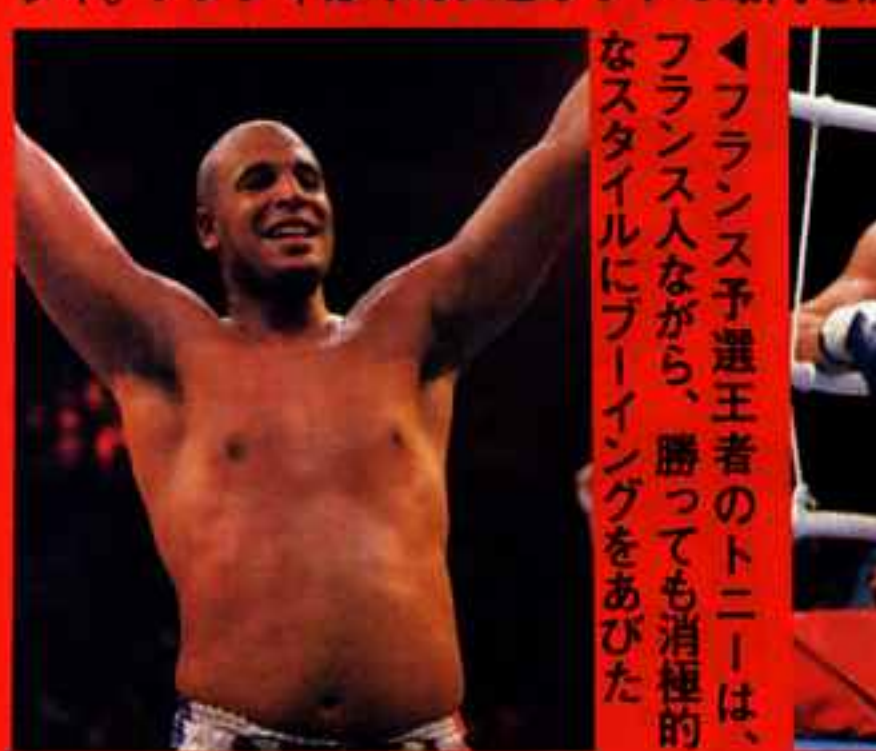
▲失神KOされたマイストロビッチは担架で運ばれるほどの重傷を負った。試合後、顔面骨折が判明

▲最後はホーストばりの離れ際のハイキックが炸裂！　しかし、もの凄いキックだ！

アゼム、負けるも大喝采！

えっ！アンディ……？

▲本当にアンディにそっくりな弟子アゼム・マクスタイ。アンディばりのスピリットで場内を沸かせた

◀自分より体格の上回るフランス予選王者のトニーに対し、積極的に懐に飛び込んでいったのだが、5Rに惜しくもダウンを奪われた

◀フランス予選王者のトニーは、フランス人ながら、勝っても消極的なスタイルにブーイングをあびた

★第3試合/（K―1ルール・3分5R）
○レミー・ボンヤスキー（4R0分27秒、KO勝ち）ピーター・マイストロビッチ●
〈オランダ／メジロジム〉　〈スイス／正道会館〉
※右ハイキック。3Rに上段後ろ回し蹴りでレミーにダウン1、右ハイキックでピーターにダウン1あり

でそのファイターの真価が問えるというもの。その意味で、私はこの日、イグナショフとボンヤスキーが何を見せるか非常に楽しみにしていた。必殺技が使えないから負けたというんじゃあ、ただの凡人だし、負けるのを分かってて、のこのこ出てくるのはアホである。

せめて、あえて反則技のヒザ蹴り一撃でKOし、確信犯的にヒールになるくらいのプロ意識がなければ、とてもトップには立てない。そうやって、物議を醸したほうが、よほど見出しになるからだ。ヒザ蹴りなしをアングルに変えるほどの逞しさが、プロとしては必要なのだ。

しかし、イグナショフもボンヤスキーも極めてクリーンな闘いで、ハンディを抱えたまま試合をしようとした。2人ともつまりスポーツマンだったのだ。

イグナショフは、ずっと手数が少なく、ディフェンス主体のファイトをして観客からブーイングをあびた。だが、これはイグナショフの「死んだふり作戦」で、右ミドルで再三ブレギーのワキ腹を痛めつけたあと、5R、意表を突く右ハイ一発でマットに沈めた。イグナショフはそれまで、右ハイをまったく温存していたのだ。

一方のボンヤスキーは、最初に空手家のマイストロビッチの右後ろ回し蹴りで不覚のダウン。しかし、その後はホーストばりの離れ際のハイキックで2度倒し、最後は失神KOで葬った。なんだかんだと言って、最後にきっちりとKOで勝てば誰も文句は言えない。この2人は、やはりトップを狙える器であると確信した。■

◎総評

〈フランス・ルール〉ヒザ蹴りなしで逆にKO乱発！
格闘技を面白くするには選手をルールに慣れさせないことだ！

文◎谷川貞治

「よし、今回こそはセーヌ川のほとりで絵を描いてやろう！」

そう決意して旅立ったK—1フランス大会。私がパリに来るのはこれで6度目だが、ヨーロッパの街並みが好きなのか、何度来てもパリは飽きないのだ。トレビアーン！

しかし、私はパリでブランド物を買い漁って喜んでいるようなヤボな男ではない。それよりも、パリの街並みを散歩したり、美術館巡りをしながら、歴史と芸術を味わうのが性に合っている。そうしていると、普段の運動不足も解消されて非常にリフレッシュできるのだ。

そうは言っても、これまでパリに来たのはぜーんぶ仕事。セーヌ川で絵を描く余裕なんてとてもない。私の夢は、いつかヨーロッパ中を回って、風景画を描き続けることだ。そういう感性を持った友人と旅をしたいものである。『紙プロ』の山口編集長、いかがですか？

で、K—1フランス大会の話である。

今回のK—1フランス大会は、はっきり言ってあまり期待していなかった。カード的にはヨーロッパの選手中心に組まれた純K—1のオンパレード。メインのバンナVSハントにしたって、セミのホーストVSレコにしたって、日本的に見ればそれほど触発されるカードではない。せめて、そこに日本人がいれば、もうちょっと感情移入できるのだが、それも残念ながらなかった。

ところがドッコイ！　いざ蓋を開けてみると、K—1フランス大会はKOにつぐKOで大成功！　日本でもこれだけいい試合は見られないと思うほどの内容だった。特にバンナVSハントがあんなに凄いモチベーションで行われるとは思わなかったし、ホーストがキラーに豹変してレコを1RでKOしてしまうのも予想外の出来事だった。これは、ヨーロッパのファイターが、ヨーロッパの市場をいかに大切に考えているかを物語っている出来事だったが、さらにルールが変わったのも大きな要因となったはずである。

詳しく説明すると、フランスにはスポーツ青年省という役所があって、そこの認可を受けないとプロの興行はできない。K—1はそのスポーツ青年省の認可をいきなり受けられないので、その下部組織にあたる仏キックボクシング協会か、仏ムエタイ協会の傘下に入ってイベントを開かねばならなかった。

そこで、K—1が選んだのが、通常のキックボクシングが行われているキック協会のほう。それは、今大会の主催者でもある『カラテ・ブシドー』社とキック協会との関係もあったからだ。

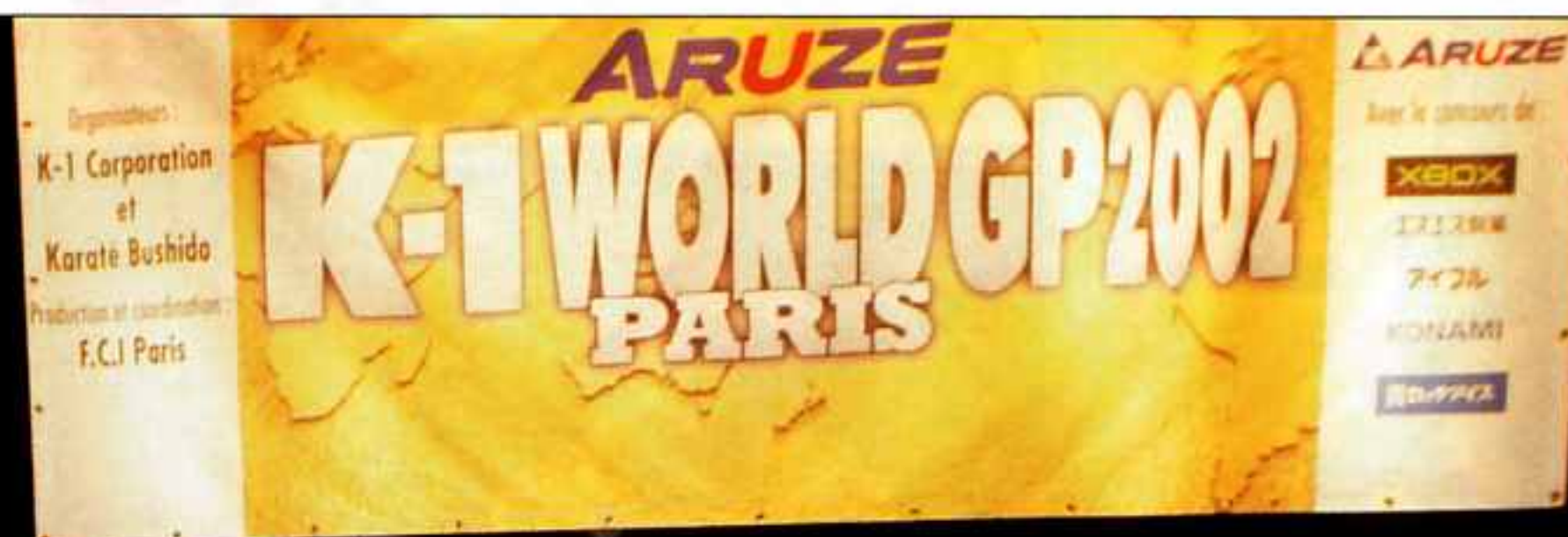
キック協会はこのフランス初のK—1イベントに対し、最初は「K—1ルールで行ってもいい」という許可を出していた。ところが、しばらくするとムエタイ協会からの横ヤリが入った。ムエタイとの差別化を理由に、ヒザ蹴りなどの禁止を求める内容証明を、政府管轄のスポーツ青年省に提出したのである。

キック協会、K—1ともに何日にもわたって説得を試みたが、スポーツ青年省は一切聞く耳を持たなかった。「ダメなものはダメ。我々の指導を聞き入れるか、それともやめるかのどちらかだ」と強行な姿勢を崩さない。

K—1フランス初上陸なのに、K—1の試合ができない。これは由々しき問題である。キック協会が最終的にK—1に課した条項は、①全てのヒザ蹴りの禁止、②全ての掴みの禁止、③1試合中、3度のダウンでTKO（K—1は1R中に3度のダウンでTKO）、④バックブローの禁止、⑤トランクスにタイ語を入れない、⑥足首にサポーターを巻く、⑦ワイクーを踊らない、⑧掴んでの攻撃は一切無効など。これらは、K—1にない条項だが、それでも粘って交渉した結果、譲歩した内容だった。キック協会ルールに従うと、本当はスネ当てをつけさせられて、2分12Rの試合をさせられそうだったのである。

これじゃあ、いくらなんでも納得できない。海外では、去年のラスベガス大会でも判定の採り方が日本と違うので、フィリォの試合などは大モメにモメたが、必ずしも100%K—1ルールで行うことができないことも多いのだ。

イグナショフ、ホースト、ボンヤスキーといったヒザ蹴りの得意な選手は、猛反発した。イグナショフなどは、「これはまったく別競技だ」と嘆いていたほどだった。実際、ヒザ蹴りがあるかないかは大きい。それもあって、このフランス大会はどこか不安材料の多い大会だったのである。

しかし、そのルールが変わったことが試合を好転させた。ヒザ蹴りができない分、今回のフランス大会では接近戦ができない。そのため、間合いを大きくとって、ファイターは相手の顔面にパンチを叩き込むか、ハイキックで倒すしかないというモチベーションに変わっていった。その結果、ほとんど掴みのない、極めてクリーンな闘いから、壮絶なKOシーンを量産したのである。

今回のK－1フランス大会はルールが変わったことで、KOを量産した。早くもパリっ子は第2回大会を待ち望んでいる

ヨーロッパで再びK－1人気爆発の予感

あれほど反対していた関係者も、終わってみれば「ヒザ蹴りなしのルールは、案外面白いんじゃないか」という認識に変わった。「とにかく首相撲がないのがいい。もしヒザ蹴りを認めるにしても、掴みのないテンカオや飛びヒザ蹴りだけに限定すれば、K―1はより面白くなるんじゃないか」。そういった意見が多く試合後のパーティーなどで聞かれたのである。

たしかに、ヒザ蹴りなしのK―1は大いなる実験だった。KOがたくさん出たことで、私もこのルールに変えてみてもいいのではないかと思ったほどだ。

しかし、格闘技的に見ると、今回の試合はヒザ蹴りがなかったから、KOが多かったというのはまったくの偶然の出来事である。では、なぜKOが多かったのかと言うと、ヒザ蹴りがなかったからではなく、ルールが〝変わった〟という部分が重要なのである。

これはどういうことかというと、格闘技的に見れば、攻め手の数を増やせば増やすほど、相手を倒しやすくなるという法則がまずある。つまり、本当はヒザ蹴りをなくすという制限する行為は、KOを生みにくくするシステムなのだ。

ところが、今回は制限しながらも、KOが増えた。それは、K―1ルールに慣れ親しんだファイターの体が、ルールが変わったことに対して反応しきれなかったからである。

イグナショフが言うとおり、ヒザ蹴りがあるかないかで、別競技と思えるほど間合いから戦法が変わってくる。ファイターというのは、普段どんな練習をしているかというと、いかにその競技で効率の良い勝ち方をするか、そのために体に染み込ませるように闘いを覚えていくのだ。それは上級者になればなるほど完成されていくので、そこにひとつルールを変えて与えると、いっぺんにバランスを崩してしまうのである。

今回のフランス大会で、ファイターは単純にヒザ蹴りを使っちゃいけない、という意識のもとで試合を行っていたのではない。ヒザ蹴りがないことで、間合いも攻防もかなり戸惑った。その戸惑ったことでKOシーンが多く生まれたのだ。

しかし、このヒザ蹴りなしのルールもしばらく続ければ、選手の体は必ず慣れる宿命にある。どんな過激なルールにしようが、どんな制限付きのルールにしようが、やる側は経験を積むことで必ず対応力を身に付け、やられる確率を低くさせていくのだ。つまり、長いこと同じルールでやっていれば、どんな格闘技でも必ず〝膠着〟という現象が生まれるのである。

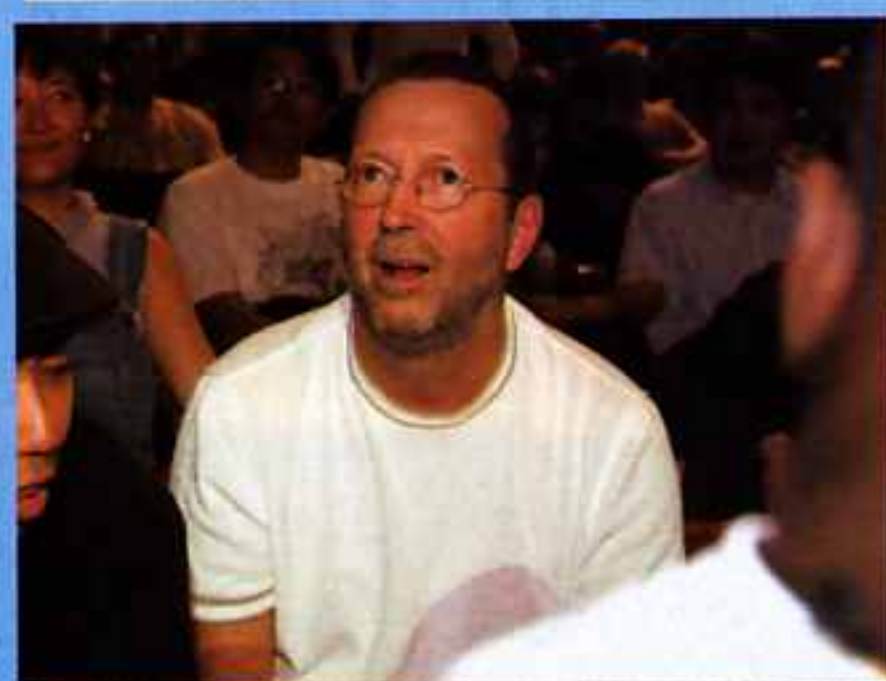
これはスポーツの共通した真理である。なぜ運動能力が優れた野球選手が小学生とサッカーの試合をやっても勝てないかというと、スポーツは〝対応力〟が重要な決め手になるからである。だから、その競技がなかなか点が入らず、ゲームに面白味が欠けると、他のスポーツでもルールを変えようとするのである。

今回のフランス大会でハッキリした真理はひとつ！　その競技が膠着したらルールを変えろ！　そうすれば、いっぺんに面白くなる。格闘技だったら、途端にKOが増えて、初期の頃のようなど迫力が生まれる。それは、今回のヒザ蹴りなしのルールでも、『プライド』に4点ポジションの蹴り技を導入した時も、まったく同じ現象を生んだことを見ても明らか。それが競技を面白くするひとつのポイントなのである。トレビアーン！　■

エッフェル塔をバックに館長が芸・舞妓と大会成功祈願？

▲エッフェル塔をバックに一番ポーズを決める館長。フランス人の子供たちが興味深そうに彼女たちを見ていた

5月24日、フランス・パリ市内で石井館長が主催したマスコミ昼食会が行われた。この席上で発表されたのは、本誌で速報をお届けした6月2日富山大会で当初ニコラスの対戦相手であったブラガがケガのために欠場し、代わりに製圏道のセルゲイ・グールに変更となったこと。そして、7月14日、マリンメッセ福岡で開催されるK－1福岡大会でK－1 VS『プライド』7対7全面対抗戦が行われることも発表された。『プライド』側の出場予定選手として、アイブル、シュルト、ランペイジ、テリグマン、メッツアー、ジョシー・デンプシーが挙がったが、詳細については富山大会後に発表されるようだ。

K－1フランス初上陸は大成功！ クラプトンから芸・舞妓までゲストも多彩！

▲『プライド』好きなクラプトンがK－1フランス大会を観戦した

▲紀香ちゃんはフランスまでK－1を追っかけてきたゾっ！　バンナVSハント戦に大満足

▲綺麗な芸・舞妓さんがゲストとしてアビディに勝利者トロフィーを渡した

▲会場内には大きなビジョンがドーンとあった。ここに選手紹介VTRなどが流れていた

▲会場のベルシー体育館。10200人の観客で沸き上がった

▲日本からもラウンドガールがやってきた！

▲石井館長は開会式の挨拶の出だしをフランス語で行った

大会直前記者会見での注目はやっぱりバンナとハント！ おや？　会見中にアビディが……

5月23日、フランス・パリ市内にあるホテルで大会直前記者会見が行われた。会見には出場全選手が出席してそれぞれ意気込みを語った。中でも注目は地元選手のバンナ。会見が終わった後もフランスのマスコミ勢の取材攻勢を笑顔で受けていた。さて、会見場にはプレスの各席に便箋とボールペンが用意されていたのだが、それは選手の席にも設けられていた。会見中にふとアビディを見ると、なにやら必死に絵を描いている模様。そこで、こっそりその様子を取材。アビディ画伯の絵をゲットすることに成功した。これに触発されたサダハルンバ編集長と島田レフェリーが、頼みもしないのにアビディへの対抗意識からか、アビディの似顔絵に挑戦した。似てる？　それとも似てない……？

▲ズラリと勢揃いした選手たち。一番左端に座っていたアビディは会見中に何やらせっせと書いていた

▲この2人が登場すると、マスコミのカメラの数がド～ッと増えた

▲アビディ画伯が絵を描いているところの証拠写真です

▼サダハルンバ画伯のシリル・アビディ氏の絵。編集長はパリ滞在中に毎日のように「んあ～、絵が描きたい～、画用紙買ってきたってぇ～」とはしゃいでいた

◀どうよ、アビディ画伯の絵。これはなんだろう？　でもサイン入りだ

▲島田レフェリー画伯のシリル・アビディ氏の絵。に、似てるか……？　ムムム、芸術とは奥深いものなのよ

アビディ画伯渾身の作品……のはず　世界で1枚しかないこの絵をプレゼント！

◀アビディ画伯と島田画伯がにこやかに記念撮影！

アビディ画伯の絵をプレゼント！

シリル・アビディ画伯会心の作品を1名様にプレゼント。ついでにサダハルンバ画伯、島田レフェリー画伯もセットにしちゃいます。世界にたった1点しかない貴重な（？）画伯たちの絵をご希望の方は、ハガキに氏名、年齢、職業、住所、電話番号、画伯たちへのメッセージを添えて下記のあて先までご応募を。締め切りは6月27日（木）まで。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。ご応募お待ちしてまーす。

◎あて先／〒101－0054　東京都千代田区神田錦町3－14－12　神田NSビル8F
SRS・DX編集部「画伯の絵」係

SRS SPECIAL RING SIDE

番組インフォメーション
6/7、6/14、6/21の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によって放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは5月30日現在のものです。
都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

『SRS』は金曜日深夜26時15分～26時45分フジテレビ系で絶賛放映中。（時間は変更することがあります）

6/7
中継未公開の映像もタップリ！
K-1パリ大会&極真ウェイト制直前情報
6月7日(金)26:15～26:45

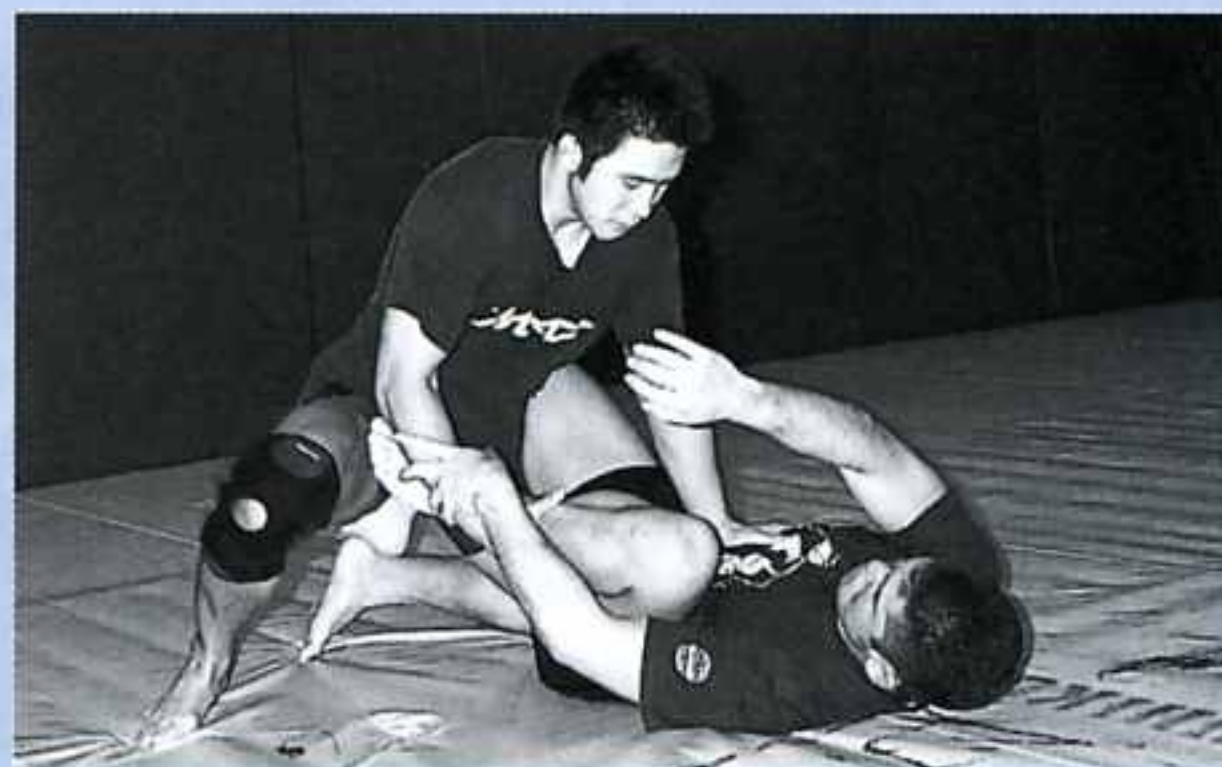
5月25日にフランスのパリで開催された『K-1 WORLD GP 2002 in パリ』の試合の中から、5月26日の中継では未公開だった映像をお届けいたします。バックステージでの選手インタビューをはじめ、貴重映像がタップリです、お見逃しなく！　そして後半は6月8日、9日の両日、大阪府立体育会館で開催されます『全日本ウェイト制選手権大会』直前企画として、今大会の注目株、一撃製造器こと大阪南支部の中川正士、昨年の全日本大会でベスト8入りを果たした正道会館の加藤達哉、今年が正念場、来年の世界大会を目指して最後の賭けに挑む入澤群の3名をクローズアップ。インタビューも含めてタップリどうぞっ！

一撃の魅力タップリの中川　　正道会館・加藤が上位入賞の可能性も

6/14
他流派、ロシア勢の浸食を押さえられるか！？
6・8～9 極真カラテ全日本ウェイト制特集
6月14日(金)26:15～26:45

フランシスコ・フィリォが、外国人選手として初めて世界王者に輝き、日本の牙城が崩壊した第7回世界大会から早3年の月日が経とうとしていて、時の流れの早さを痛感する今日この頃……。さて、今年11月に行われる全日本空手道選手権大会は、2003年に開催されます第8回世界空手道選手権大会の選抜を兼ねた重要な大会！　その全日本への出場権を獲得するためにも、今回開催される『ウェイト制』の結果がメチャクチャ大切なのです。数見肇や木山仁も通ってきた登竜門、それが『ウェイト制』なのです。今後、頭角を現してくるだろう新進選手も多数出場するこの大会。極真の未来を担う若手選手を要チェック！

6/21
注目カード、出場選手をクローズアップ
6・23 PRIDE.21 直前情報
6月21日(金)26:15～26:45

この日の放送に関しては、詳細は未定なのですが、目前に迫った6・23『プライド21』の直前情報が濃厚です！？　このコーナーの締め切り時点では、『プライド21』の決定カードとして発表されているのは、大山峻護vsヘンゾ・グレイシー、ドン・フライvsマーク・コールマンの2試合のみ。そのため6月21日の放送が、どういった内容になるかは正直言って、分かりません。ただ言えるのは、『プライド21』で注目されるカード、出場選手を総力をあげて取材し、皆さんに満足してもらえる内容をお届けするってことだけ。ひじょ～にアバウトな言い方でゴメンナサイ。とにかく見てのお楽しみってことで！

フジテレビ系列の番組から

●CS721
6/8(土) 16:00～17:20　K-1ワールドシリーズ Part1
17:30～　K-1 WORLD GP 2002 in パリ　再放送

SRSホームページのアドレスはこちら
http://www.fujitv.co.jp/

SRSのホームページでは、詳しい放送日程や最新・格闘技情報、『ロケ現場潜入日記』など内容満載です。また、人気コーナー『SRS FIGHT CLUB』では皆さんからの原稿を募集中です。エッセイ、観戦記、プチ情報などお送りください。『はせキョーのメッセージ』もあるよっ！

TV

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
6/6（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	4：00～5：00	ミハエル・アビティシャン特集。vsレオニード・クルコフ戦ほか7試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、後楽園ホール大会（00.9.7）
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	13：00～13：30	東海テレビ『PRIDE王』と同内容。再放送6/8・8：30～
	Jスカイスポーツ3	プロフェッショナル修斗	15：00～17：00	5.28北沢大会。再放送6/7・13：00～
	GAORA	角田信朗のすぼ魂	18：00～18：30	『愛と涙と感動の浪花男』角田信朗が様々なスポーツを紹介。GAORA独自のインタビュー映像やゲストを迎え内容盛りだくさんの30分。再放送6/16・12:30～
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00～21：00 26：00～28：00	5.12に後楽園ホールで開催のニュージャパンキック連盟『DREAM RUSH4』を放送予定。再放送6/7・9：30～、12・14：00～
	GAORA	バトルインフォメーション	21：30～22：00	『週刊格闘JAM』『info@闘龍門』などGAORAのプロレス・格闘技の情報が満載。再放送6/7・14：45～、8・9：30～、9・19：00～
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	22：00～24：00	5.28後楽園ホール大会
6/7（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、後楽園ホール大会（00.10.1）
	GAORA	K-2カラテエクストリーム	10：00～12：00	5.3『第13回新空手道選手権大会』。再放送6/25・16：00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	6人の侍　タイを往く	14：00～16：00	5.9ラジャダムナンスタジアム＆5.10パタヤ。修斗の植松直哉や、キックの山口元気、大道塾の飯村健一など、6人の選手のタイ遠征の模様を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00～21：00 26：00～28：00	5.26に後楽園ホールで開催の新日本キック協会『LOOK ON！～奪還～』を放送予定。再放送6/9・5：00～、13・14：00～
	Jスカイスポーツ3	SHOOT 3/60	25：00～26：00	15分のショートドキュメンタリー3本で構成する"60分3本勝負"の格闘技専門スポーツドキュメンタリー番組。再放送6/8・12：00～、9・25：00～
	フジテレビ	SRS	26：15～26：45	➲P69
6/8（土）	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	10：00～11：00	海外で行われた修斗の大会を放送。内容未定
	フジテレビ721	K-1ワールドシリーズPart.1	16：00～17：30	昨年12月より行っている、K-1ワールドGP世界地区別予選をダイジェストで放送
	フジテレビ721	K-1ワールドGP2002 IN パリ	17：30～20：50	5.25K-1ワールドGPパリ大会を放送。マーク・ハントvsジェロム・レ・バンナほか
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	20：30～21：00	6/6を参照。再放送6/9・4：30～、10・8：30～と18：00～、11・23：30～、13・13：00～、15・8：30～
	Jスカイスポーツ1	プロフェッショナル修斗	24：00～26：00	6/6のJスカイスポーツ3と同内容。再放送6/9・13：30～
	BSジャパン	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	お休み
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	25：40～26：40	6.5大阪府立体育館大会を放送。『BEST OF SUPER Jr.IX』決勝戦、IWGPタッグ選手権試合蝶野・天山組vs中西・西村組
6/9（日）	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15：00～17：25	5.24後楽園ホール大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	プライド侍！	19：00～21：00 26：00～28：00	月1回放送の『プライド』情報満載の話題のバラエティ番組。今回は『プライド21』直前情報を放送する。再放送6/11・9：30～、14・14：00～
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	19：45～21：55	船木ヒストリー14。再放送6/13・22：00～
	テレビ東京	ハマラジャ	21：00～21：54	内容未定
	日本テレビ	プロレスリング・ノア中継	24：55～25：25	内容未定
6/10（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、神風大会（00.10.15）
	GAORA	2002北斗旗全日本体力別選手権大会	15：00～17：00	5.5宮城県スポーツセンターで大道塾が開催した同大会を放送。再放送6/13・23：00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	18：30～19：00	6/6を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	19：00～20：00	6/8を参照。内容未定。再放送6/11・13：00～、12・23：30～、15・10：00～
	TBSテレビ	ワンダフル	23：50～24：50	『格闘新世紀』／　6.1『スマックガール』ディファ有明大会を放送
	日本テレビ	最強魂	25：30～26：00	内容未定
6/11（火）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、本川越ペペホール大会（00.12.3）
	東海テレビ	PRIDE王	24：40～25：10	『プレ・プライド』にRJWの光岡が推薦する選手が登場
	テレビ東京	格闘Xパンクラス	26：35～27：05	5.28パンクラス後楽園ホール大会を放送
6/12（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、後楽園ホール大会（01.1.7）
	GAORA	全日本キックボクシング	23：00～25：00	5.30後楽園ホール大会。再放送6/15・14：00～、17・15：00、
	フジテレビ	すぽると	23：50～24：30	毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる
	TBSテレビ	闘魂筋肉	24：55～25：25	内容未定
6/13（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	4：00～5：00	WCFレアマテリアル・レビューPart3
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、TOKYO FMホール大会（01.1.28）
	GAORA	バトルインフォメーション	25：00～25：30	6/6を参照。再放送6/14・14：45～、15・9：30～と17：30～、16・19：00～
6/14（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	バトラーツ、TOKYO FM ホール大会（01.3.31）
	フジテレビ	SRS	26：15～26：45	➲P69
6/15（土）	Jスカイスポーツ2	SHOOT 3/60	12：55～13：55	6/7のJスカイスポーツ3を参照。再放送6/17・19：00～、20・12：00～
	GAORA	LADY GO! 女子ボクシング中継	13：00～14：00	4.29下北沢タウンホール大会。再放送6/18・11：00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	20：30～21：00	6/6を参照。再放送6/16・4：30～、17・8：30～と18：00～、18・23：30～、20・13：00～、22・8：30～
	BSジャパン	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	6/11のテレビ東京と同内容
	Jスカイスポーツ2	プロフェッショナル修斗	25：00～27：00	6/6のJスカイスポーツ3と同内容。再放送6/16・20：00～、18・26：00～
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	25：40～26：40	お休み
6/16（日）	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15：00～17：25	5.28宮城県スポーツセンター大会
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	18：30～20：30	5.11梅田ステラホール大会。再放送6/21・22：00～
	テレビ東京	ハマラジャ	21：00～21：54	内容未定
	日本テレビ	プロレスリング・ノア中継	24：55～25：25	内容未定
6/17（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	日本キック連盟、後楽園ホール大会（00.10.4）
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	18：30～19：00	6/6を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	19：00～20：00	6/8を参照。内容未定。再放送6/18・13：00～、19・23：30～、22・10：00～

ON THE AIR 6/6～6/27

格闘技番組ガイド TV&RADIO

TV（右ページから続く）

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
6/17（月）	GAORA	角田信朗のすぼ魂	23：00～23：30	6/6を参照。再放送6/18・9：00～、23・12：30～、25・21：30～
	TBSテレビ	ワンダフル	23：50～24：50	『格闘新世紀』／内容未定
	日本テレビ	最強魂	25：30～26：00	内容未定
6/18（火）	東海テレビ	PRIDE王	24：40～25：10	『プライド21』直前情報。6.9バトラーツ再旗揚げ戦の松井大二郎vs原学戦の結果を放送
	テレビ東京	格闘Xパンクラス	26：35～27：05	5.28パンクラス後楽園ホール大会を放送
6/19（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	日本キック連盟、後楽園ホール大会（01.4.28）
	フジテレビ	すぽると	23：50～24：30	毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる
	TBSテレビ	闘魂筋肉	24：55～25：25	内容未定
6/20（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	4：00～5：00	WCFレアマテリアル・レビュー・パート4。『ADCC US TRIALS』（99.11.6）アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsアレッシャンドリ・カフェ・ダンタスと『スーパーブロウル3』フランク・シャムロックvsジョン“ザ・マシン”ローバーを放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	日本キック連盟、後楽園ホール大会（01.6.3）
	GAORA	バトルインフォメーション	25：00～25：30	6/6を参照。再放送6/21・16：00～、22・9：30～、23・26：00～、26・21：30～
6/21（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	日本キック連盟、後楽園ホール大会（01.10.13）
	フジテレビ	SRS	26：15～26：45	➲P69
6/22（土）	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	20：30～21：00	6/6を参照。再放送6/23・4：30～、24・8：30～と18：00～、25・23：30～、27・13：00～
	BSジャパン	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	6/18のテレビ東京と同内容
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	25：40～26：40	6.7日本武道館大会を放送。IWGP選手権試合永田裕志vs佐々木健介、中西学vs高山善廣
6/23（日）	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15：00～17：25	6.5大阪府立体育会館大会
	スカイパーフェクTV!	『プライド21』	16：00～試合終了まで	当日行われる、『プライド21』さいたまスーパーアリーナ大会をPPV生放送。Ch.123で、視聴料金は2,000円、生中継前に事前カウントダウン番組あり。再放送は、Ch.111で6/23・21：00～、Ch114で24、27・20：00～、Ch120で25、26・18：00～
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	19：00～21：00	船木ヒストリー15。再放送6/27・22：00～
	テレビ東京	ハマラジャ	21：00～21：54	内容未定
	日本テレビ	プロレスリング・ノア中継	24：55～25：25	内容未定
6/24（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	日本キック連盟、後楽園ホール大会（01.12.2）
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	18：30～19：00	6/6を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	19：00～20：00	6/8を参照。内容未定。再放送6/25・13：00～、26・23：30～
	TBSテレビ	ワンダフル	23：50～24：50	『格闘新世紀』／内容未定
	日本テレビ	最強魂	25：30～26：00	内容未定
6/25（火）	Jスカイスポーツ1	SHOOT 3/60	7：00～8：00	6/7のJスカイスポーツ3を参照。再放送6/26・15：00～、27・19：00～
	東海テレビ	PRIDE王	24：40～25：10	内容未定
	テレビ東京	格闘Xパンクラス	26：35～27：05	内容未定
6/26（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	極真空手（緑健児代表）、大阪府立体育会館（00.6.24～26）
	FIGHTING TV SAMURAI!	パンクラスハイブリッドアワー	19：00～21：00 26：00～28：00	5.28『PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR』後楽園ホール大会を放送。再放送6/27・9：30～
	フジテレビ	すぽると	23：50～24：30	毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる
	TBSテレビ	闘魂筋肉	24：55～25：25	内容未定
6/27（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	4：00～5：00	内容未定
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	5：00～7：00	WK-NETWORK、ZEPP TOKYO大会（01.7.1）

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

■スカイパーフェクTV！
☎0570-039-888
（10：00～20：00）

■GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-000-302
（月～金10：00～18：00）

■フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-8888
（10：00～18：00 土日祝除く）

■WOWOW
☎0570-008-080
（9：00～20：00）

■スポーツ・アイ-ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5474-3344
（月～金10：00～18：00）

■FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-039-888／03-5351-4055
（16：00～21：00）

■Jスカイスポーツ
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-3488
（9：30～18：00）

■スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
☎06-6452-1161
（10：00～18：00）

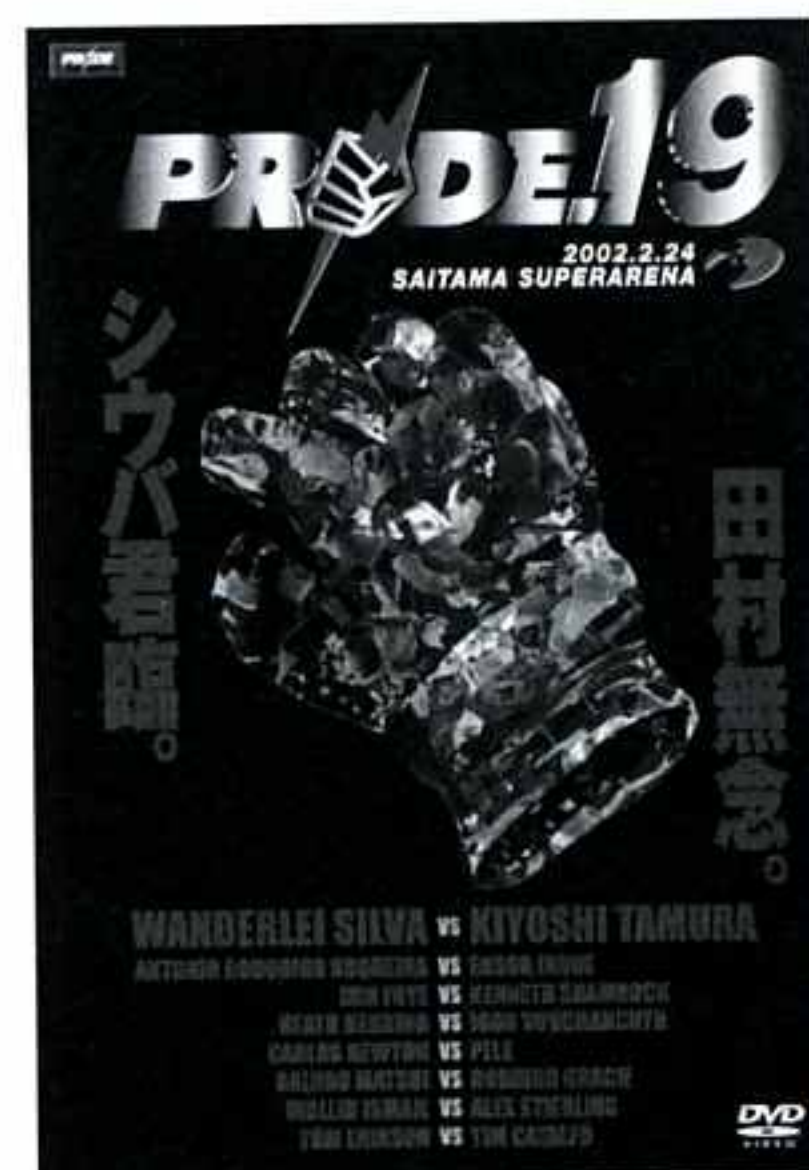
VIDEO & DVD
注目作品＆NEWリリース情報

〈新刊紹介〉 It's HOT!

『PRIDE.19』

発行＝フォーブリック　発売＝プレスト　販売＝B.B.J
6月21日発売
©ドリームステージエンターテインメント
VHS=120分　DVD=2枚組
VHS=9,800円　DVD=6,800円
※セルDVDのみ桜庭ベルト携帯ストラップ付（非売品）

田村潔司が『プライド』にケンカを売った！

『プライド19』が、遂にビデオ＆DVD化されるぞ！　地上波の放送ではカットされた、入場シーンや試合後のインタビュー、バックステージの様子はもちろん、TVでは決して見ることのできないマルチアングル映像や、独自取材の大会ドキュメンタリーをプラスしたことで、内容充実、ファン必見の作品となっている。見所はやはり、初参戦となる田村潔司の試合だ。リングス電撃退団から10カ月、孤高の天才・田村が、とうとう『プライド』にやって来た！　以前から「『プライド』に出てほしい選手アンケート」でナンバー1に選ばれ続けてきた田村。『プライド』で日本勢がなかなか勝てない中、果たして救世主となれるのか注目された。『プライド』ミドル級王者ヴァンダレイ・シウバ相手に、田村は自分にとって未知の領域であるグランドの顔面パンチに苦しめられ、見る見るうちに顔が変形していく。果たして、田村の意地はどう爆発したのか？　そして、救世主にはなれたのだろうか？　壮絶ファイトのディテールをビデオ・DVDで確かめよう！　他にも、全米で大注目となったドン・フライVSケン・シャムロックの長きにわたる因縁の決着や、地上波では未放送だったエンセン井上VSアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの大和魂最後の闘いなど、大会の全試合がビデオに収められているぞ！　なお、初回限定特典として桜庭ベルト携帯ストラップ（セルDVDのみ、非売品）が付く。絶対手に入れたいという人は、まず予約しよう。

〈おすすめの一本〉 Recommend

『ファス・バーリ・トゥードVol.1～7』

クエスト/全7巻
各5,600円/発売中

“安田を強くした男”がテクニックを伝授！

“路上の帝王”と呼ばれ、ヒクソン・グレイシーが対戦を避けたとまで言われたマルコ・ファス。柔術、ムエタイ、レスリングといった様々な格闘技に精通した彼の、技術と戦略の全てを収めたビデオが発売中だ。去年の大晦日、猪木軍の安田忠夫がK-1のジェロム・レ・バンナを破り、日本中を感動させた。実は大会前、安田にバーリ・トゥードの闘い方を一から叩き込んだのがこのマルコなのだ。マルコに出会うまで安田は、関節技一つ満足にできなかった。にもかかわらず、マルコはわずかな期間で安田を怪物のような強さにしたのである！　このビデオを見ればリアルファイトはバッチリ！　安田のように強くなろう。

〈おすすめの一本〉 Recommend

『SHOOTO TO THE TOP マモルVS大石　ノゲイラVS勝田』

クエスト/90分
6,600円/発売中

修斗の頂上決戦はここまで凄い！

修斗における軽量級のレベルの高さは、世界でもトップクラスだ。その中でも、タイトルマッチは群を抜いている。このビデオには、2001年に行われた軽量級の2大タイトルマッチを収録。ライト級不動の王者と謳われたアレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラは、5月、勝田哲夫との初対決で、ノンタイトルとはいえ、まさかの負けを喫した。怒りに燃えるノゲイラは、己のベルトとチャンピオンとしての誇りを懸け、勝田に再戦を挑んだ！　また、デビュー以来無敗のままフェザー級王者になったマモルは、ベテランのテクニックに加え、身長とパワーで自分を上回る強敵・大石真丈との、厳しい初防衛戦を行った！

『フィットネスショップ』で格闘技ビデオレンタル開始！

格闘技グッズを豊富に取り揃えた『フィットネスショップ』水道橋店、御茶ノ水店、難波店の3店で、6月1日より格闘技ビデオレンタルが開始されたぞ！　『プライド』をはじめK-1、極真、修斗、キックなど格闘技ファンなら大マンゾクのラインナップ。新作はもちろん、過去の名勝負を収めた貴重なビデオもあるからビギナーファンも安心だ。難波店ではプロレスビデオのレンタルもあり。入会金500円＋保障加入料300円、レンタル料は2泊3日で600円、延滞料が1日300円となっている。水道橋店は後楽園ホール、東京ドームからも徒歩3分と抜群の立地。プロレス・格闘技観戦の際に立ち寄っても決して損はない。スタッフも「お客様は神様です！」（破壊王風）と本誌読者の来店を心待ちにしているとのこと。さぁ、『フィットネスショップ』へ迷わず一歩踏み出せ！

水道橋店
東京都千代田区三崎町3-6-13 寺元ビル2F
☎03-3265-4646
御茶ノ水店
東京都千代田区神田小川町3-6-9 神田第2アメレックスビル6・7F　☎03-5281-2711
難波店
大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-5-15 ホリディイン南海大阪2F　☎06-6214-7951

『フィットネスショップ』水道橋店の店内。ビデオやTシャツはもちろん、グローブやトランクス、サプリメント、さらにサンドバッグまで“やる側”グッズも充実！

※表示価格は全て税別価格

GOODS
最新&売れスジグッズをご紹介!

〈新作紹介❶〉 It's HOT!

『坂口征二 ビッグサカTシャツ』
グレート・アントニオ/4,000円（税別）

男は黙って『ビッグサカT』だろ！

息子・坂口憲二クンの100倍強くて、1000倍かっこいい！　コギャルどもには分かるかな〜、分かんねえだろうな〜？

Back

〈新作紹介❷〉 Recommend

『TPG Tシャツ』
グレート・アントニオ/3,500円（税別）

知る人ぞ知る懐かしの『TPG』

グレート・アントニオが浅草キッドばりに発掘！！　知る人ぞ知る懐かしのTPGがTシャツになって復活！　リング上でも殿のコマネチポーズが見たかった！

グレート・アントニオ
西山千尋 店長

「6.23『プライド21』のチケットを販売中です。毎回恒例の特典付き！　今回もチケットをお買い上げいただいたお客様にグレート・アントニオオリジナルTシャツをプレゼント。『プライド』のチケットはグレート・アントニオでキマリ！」

グレート・アントニオ
東京都千代田区神田錦町3-14-12神田NSビル1F ☎03-3219-9550
通信販売受付 ☎03-3295-4450 or 0570-007800
ホームページアドレス http://www.great-antonio.jp
営業時間/11:00〜20:00（月曜定休）
通信販売受付/10:00〜18:00（月〜土曜）

GOODS RANKING (3/15〜3/31)

1. 『マサ斎藤Tシャツ』 グレート・アントニオ/4,000円（税別）
2. 『坂口征二 ビッグサカTシャツ』 グレート・アントニオ/4,000円（税別）
3. 『ファスティング・ダイエット』 グレート・アントニオ/18,000円（税別）
4. 『ヤマハブラザースTシャツ』 グレート・アントニオ/4,000円（税別）
5. 『木戸修Tシャツ』 グレート・アントニオ/4,000円（税別）

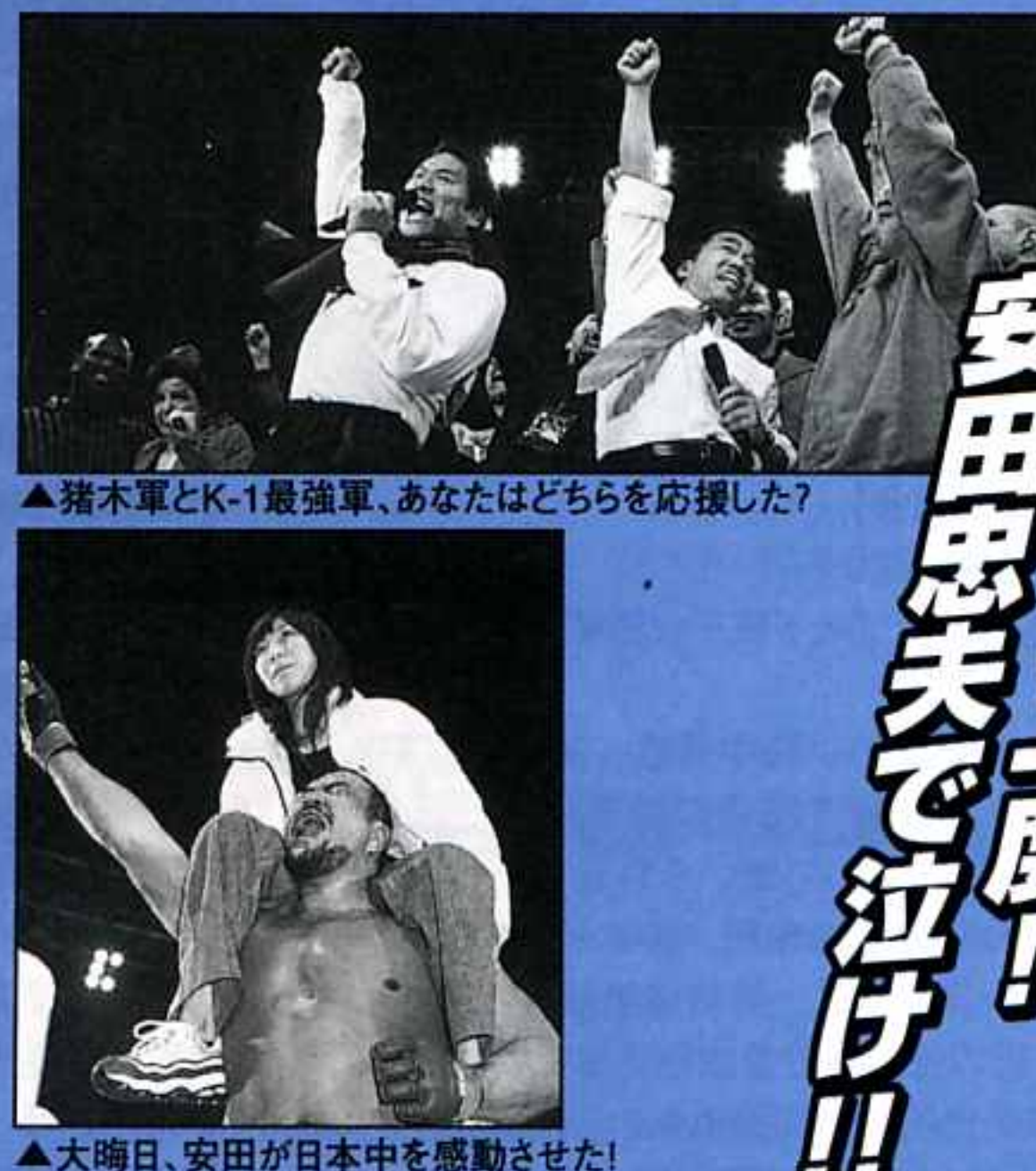
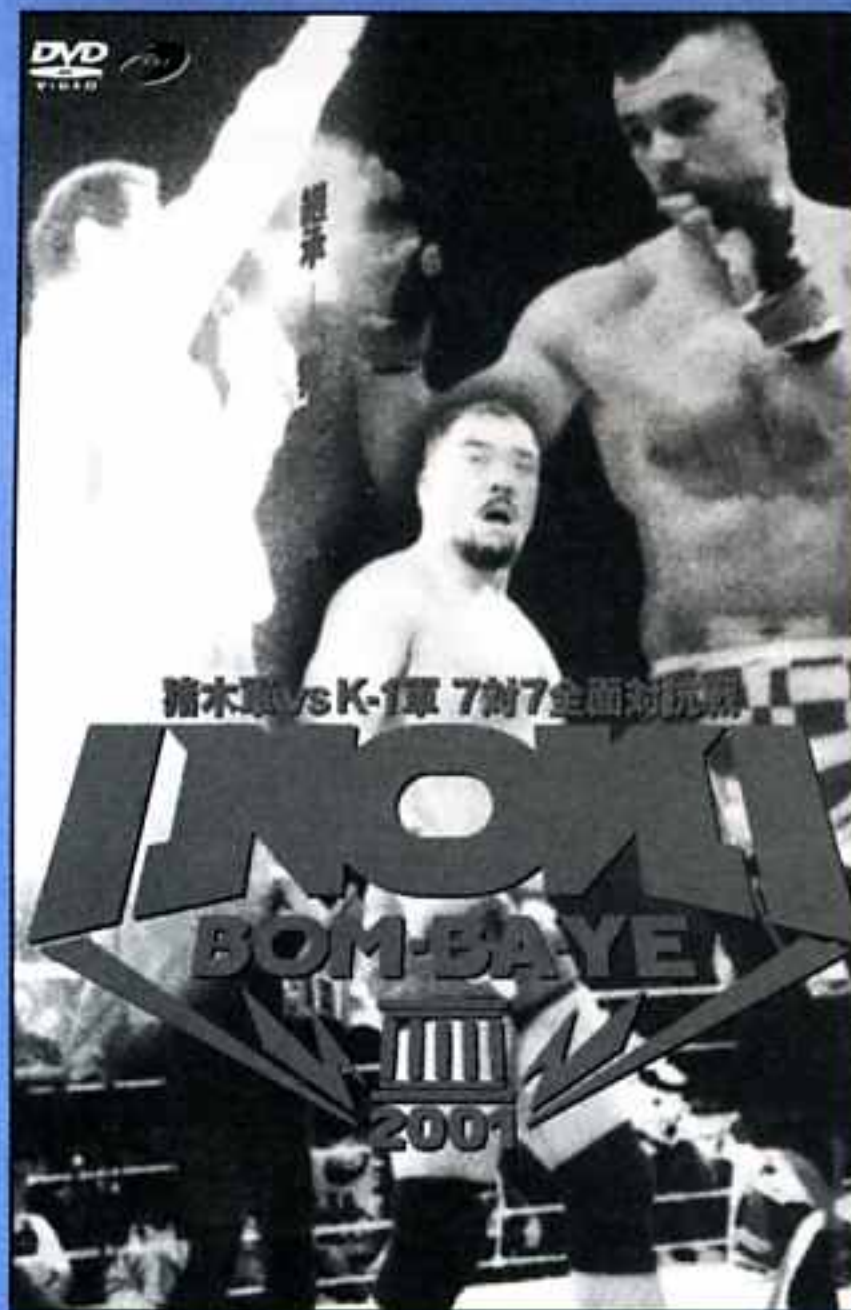
1位 『マサ斎藤Tシャツ』

この夏、みんなの視線独り占め!?

売れないワケがないと思ってたら、案の定大爆発!! ゴキータ最強！　こんなTシャツ着てる女子とつき合おう！

INFORMATION

史上最大の格闘技イベント『INOKI BOM-BA-YE 2001』ついにビデオ&DVDで発売!

◆タイトル/『INOKI BOM-BA-YE 2001』
◆価格/VHS 9,800円・DVD 6,800円（ともにセル&レンタル）
◆発売日/6月21日（金）
◆収録時間/VHS 120分・DVD 2枚組
◆発行・発売/フォーブリック
◆販売/B.B.J

あの感動をもう一度！安田忠夫で泣け!!

▲猪木軍とK-1最強軍、あなたはどちらを応援した?

▲大晦日、安田が日本中を感動させた!

2001年12月31日、さいたまスーパーアリーナにて行われた『INOKI BOM-BA-YE 2001』。アントニオ猪木率いる猪木軍に、石井和義館長率いるK-1最強軍が闘いを挑んだ史上最強の異種格闘技フェスティバルが、遂にビデオ&DVD化された！　試合は、髙田延彦VSマイク・ベルナルド、ドン・フライVSシリル・アビディ、永田裕志VSミルコ・クロコップ、といった夢のカードばかりである。中でも注目なのは、メインイベントだ。大会直前、藤田和之・小川直也の両エース不在によって猪木軍に最大のピンチが訪れた際、急遽、総大将に抜擢されたのは、自称「猪木軍最弱」の安田だった！　バクチによる借金が原因で私生活をメチャクチャにした男・安田が、別れた妻の元で暮らす娘に勝利を誓い、ジェロム・レ・バンナ相手に人生最大の勝負に打って出たのである。そして、奇跡が起きた！　あの感動をもう一度味わいたい人は、ビデオ（もしくはDVD）を買おう！

Et cetra

みのる＆菊田の解説による上映会大盛況！

パンクラスGRABAKAの郷野聡寛が復活を果たした梅田大会の翌日、5月12日（日）にP'sLAB大阪にて鈴木みのると菊田早苗解説による映像上映会が行われた。このイベントは、両選手が参加者50名と共に、パンクラス所属選手が出場した大会を振り返るというもの。3・30『DEEP2001』のソラール戦を振り返って鈴木が語った「忘れかけていた闘いの一面を、思い出させてくれた」というコメントには参加者一同、真剣な眼差しで聞きいっていた。また、ビデオ上映以外に、菊田は以前のプロレス批判と言われた真相を語り、鈴木は注目の佐々木健介戦についてコメントするなど、両選手から大変興味深い話が飛び出し、中身の濃いイベントとなった。

▲パンクラス内では対立関係にあるismとGRABAKAのリーダー同士が、一緒に肩を並べることは珍しい!?

長野県初の格闘技フーズバーオープン！

長野駅東口に格闘技フーズバー『ファイティングフーズバー ドリーム・コロッセオ』がオープンした。店内には80インチのプロジェクターと4台のモニターを設置され、名勝負の数々が常時放映されるほか、Tシャツやフィギュアなどのグッズも販売も行われ、格闘技ファンには堪らない空間となっている。また、ドリンクメニュー、本格フードメニューも豊富に取り揃えているので、格闘技ファンならずとも楽しめるお店だ！

◆営業時間/18:00～25:00
◆場所/長野市栗田950-10あさひスプレッド東口ビル1Ｆ
◆定休日/火曜日
◆座席数/68席
◆メニュー/SAKUコロッケ（380円）、橋本スペシャル（480円）、ボブチャンチン・フライ（580円）、小川スペシャル（580円）、アントン・リブ（680円）など
◆お問い合わせ/ファイティングフーズバー ドリーム・コロッセオ☎026-229-9770

名古屋発の『プライド21』観戦バスツアー情報！

名古屋駅発の『プライド21』観戦バスツアーが決定した。ツアープランは、大会当日朝に名古屋駅を出発、さいたまスーパーアリーナにて『プライド21』を観戦し、翌日の6月24日（月）朝までに名古屋駅に戻るというもの。また、チケットをすでに持っているという人も申し込みできるので、東海地区から『プライド21』観戦に行くという人は利用してみよう！

◆期間/6月23日（日）～6月24日（月）
◆費用/20,000円（スタンドA席チケット付き）
※スタンドS席を希望の場合は8,000円、RRS席を希望の場合は18,000円アップ。また、既にチケット購入済みの場合は13,000円
◆特典/大会当日のオフィシャルパンフレット付き、オリジナル記念品プレゼント、車中にてビデオ上映会、車中にてお楽しみ抽選会あり
◆お問い合わせ/東洋ツーリスト（担当：村上、羽田）☎052-961-4891、またはhttp://www.toyo-pi.co.jp/travel/

マァ☆ティンが女の子限定の総合格闘技サークルを始動！

マァ☆ティンこと星野育蒔が女性のための総合格闘技サークルMRC（マァ☆ティン練習サークル）を始める！　選手になりたい、ダイエットしたい、護身術を身に付けたいという女性を対象に、マァ☆ティンが打撃から寝技まで、総合格闘技の全ての技術を徹底指導してくれる。素人も経験者も大歓迎ということなので、少しでも格闘技に興味を持った女性は参加してみよう！

◆日時/第1回6月14日（金）、第2回6月28日（金）
◆会場/都内某所（都内公共体育館、交友のある格闘技ジムを予定）
◆条件/年令、職業、運動＆格闘経験不問。女性限定
◆料金/無料（但し、スポーツ保険年間1400円には必ず加入）
◆開催周期/月2～4回を予定
◆お問い合わせ/m-r-c-55@mail.goo.ne.jp

▲マァ☆ティンと一緒に強くなろう！

女性インストラクターによる女性のための格闘技クラスが誕生！

女性インストラクター深瀬晴海が、6月8日（土）より格闘技スタジオ水道橋で女性のための格闘技クラスを開始する。キックミットやパンチミットを思いっきり蹴りたいけれど、どうしても異性の目が気になってしまうという女性にはピッタリのクラスだ！

◆日時/第2・3・4土曜日11:00～12:30　※6月8日（土）よりスタート
◆場所/格闘技スタジオ水道橋（JR水道橋駅西口より徒歩1分）
◆入会費/12,000円
◆月会費/6,000円　※ビジターは1回2,000円
◆お問い合わせ/株式会社スィンク☎03-3265-4646

出場者募集

【第67回新空手道交流大会】
◆日時/7月21日（日）12:00～
◆東京武道館・第1武道場（地下鉄千代田線綾瀬駅より徒歩5分）
◆階級/軽量級（60キロ以下）、軽中量級（65キロ以下）、中量級（70キロ以下）、重量級（75キロ以下）
◆出場資格/各階級で異なるので問い合わせ
◆参加費/K-2トーナメント9,000円　K-2・K-3ワンマッチ6,000円　※大会パンフレット、障害保険加入金込み
◆申し込み方法/下記の住所まで参加申込書を請求
〒101-0065東京都千代田区西神田2-8-7
◆締め切り/7月5日（金）当日消印有効
◆お問い合わせ/新空手・本部☎03-3239-4994

【第8回西日本グローブ空手選手権大会】
◆日時/7月14日（日）11:00～
◆会場/善通寺市民体育館メインアリーナ（香川県善通寺市金蔵寺町398-6）
◆出場資格/16歳以上の男子
◆試合形式/ウェイト制個人戦トーナメント
◆階級/軽量級（60キロ未満）、中量級（70キロ未満）、軽重量級（80キロ未満）、重量級（80キロ級以上）
◆参加費/7,000円（保険料を含む）
◆申し込み方法/参加申し込み書、参加費を現金書留にて、下記の住所まで7月1日（月）必着で申し込み
〒763-0093香川県丸亀市郡家町878-1　日本空手道勇健塾
◆お問い合わせ/日本空手道勇健塾☎0877-57-2207

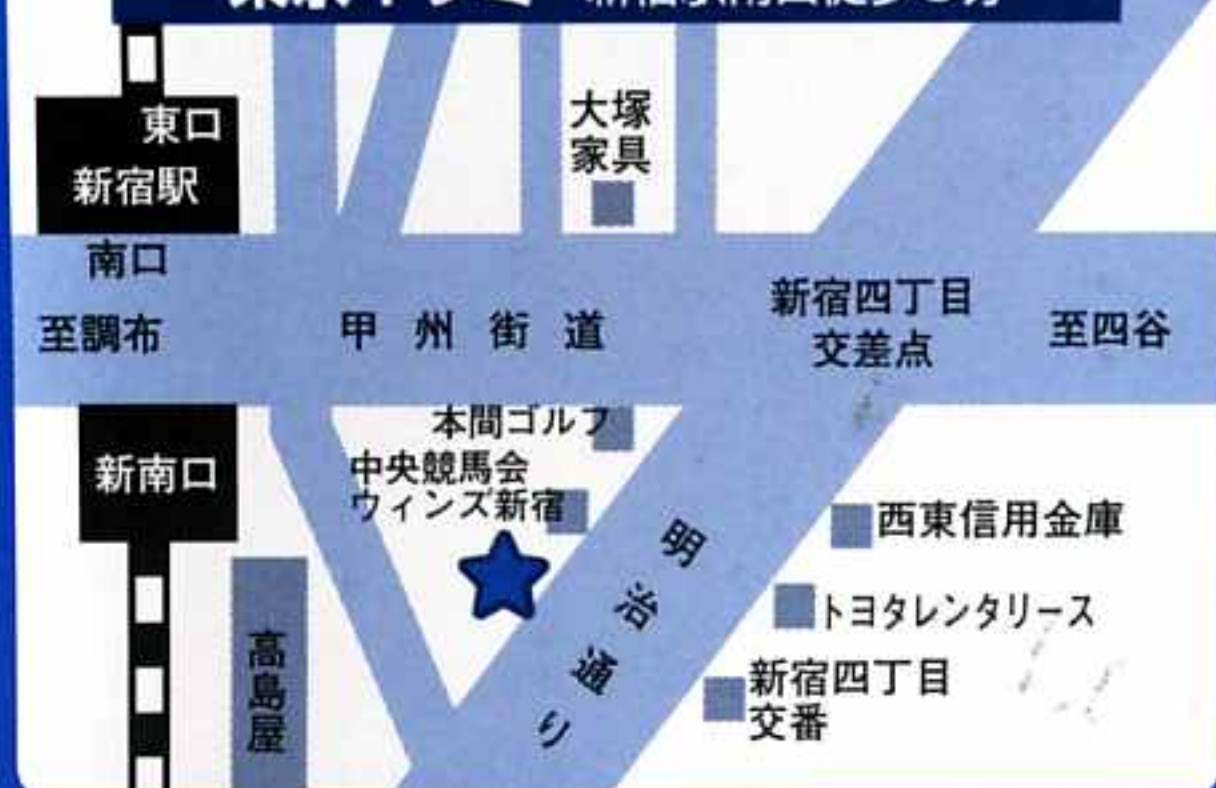
【第6回勇志会全日本空手道選手権大会】
◆日時/9月29日（日）9:00～
◆会場/川崎市とどろきアリーナ・メインアリーナ（JR南武線武蔵小杉駅前1番乗り場より市バス［溝05，杉40］系統で「春日神社」下車。または、2番乗り場より東急バス「宮内経由溝口」行で「等々力グランド入口」下車）
◆出場資格/18歳以上で茶帯以上の健康な男子（医師の診断書が必須）
◆参加費/11,000円（申込金1,000円＋出場費10,000円）
◆申し込み方法/①大会申し込み書②医師の診断書③顔写真3枚（1枚は申し込み書に貼り付け）④申し込み金⑤参加費　以上5点を各団体責任者が一括して現金書留にて、下記の住所まで7月31日（水）必着で申し込み
〒177-0032東京都練馬区谷原2-6-28　勇志会空手道大会事務局
◆お問い合わせ/勇志会空手道☎03-5393-9763

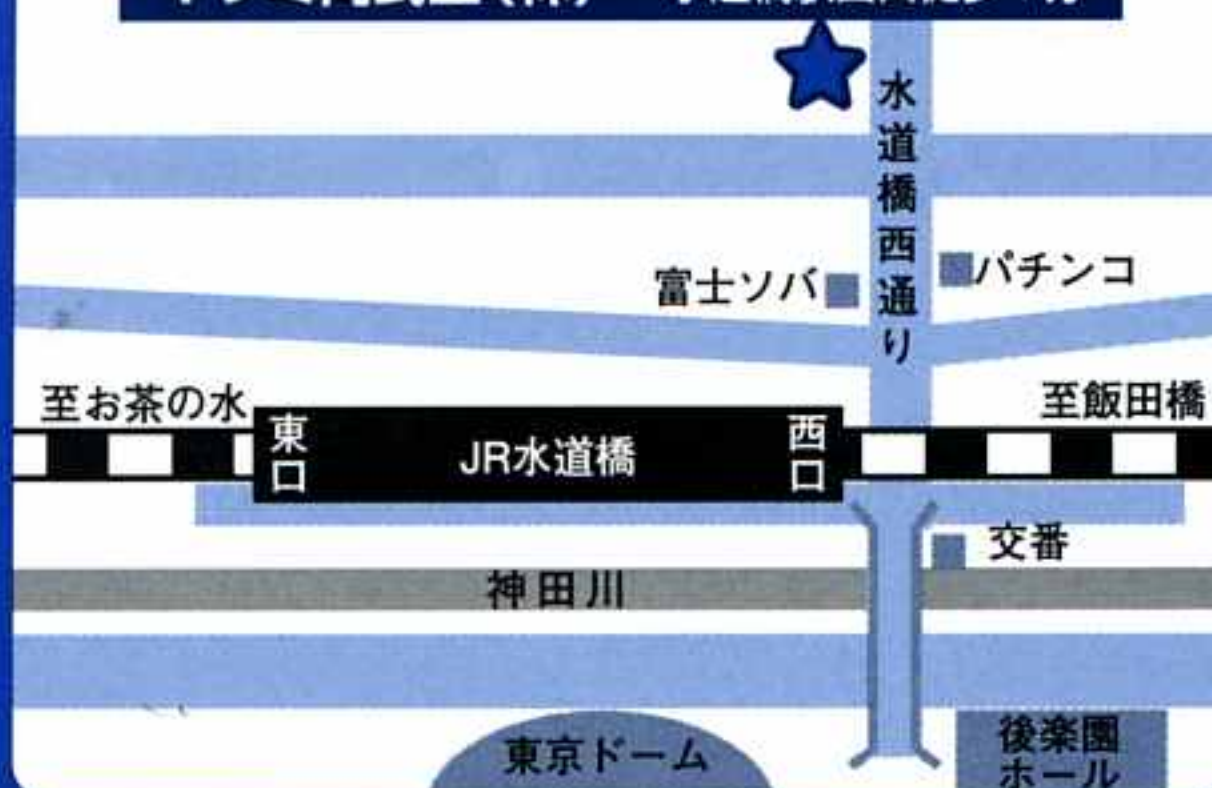
【REAL Jトーナメント】
◆日時/7月20日（土・祝）12:45～
◆会場/小平市総合体育館第4体育室（西武国分寺線鷹の台駅より徒歩5分）
◆試合形式/打撃、投げ、寝技ありの着衣総合格闘技
◆階級/60キロ以下、73キロ以下、無差別
◆ルール/着衣ルール、非着衣ルール
◆参加費/予約5,000円、当日6,500円　※学生1,000円引き。2名以上の申し込みは1人あたり500円引き。但し、団体割引は予約参加のみ適用
◆予約申し込み方法/下記の住所に「参加要綱希望」の旨と送付先住所を郵送。後日、大会参加要綱が返送
〒187-0023東京都小平市上水新町2-2-24　エコクラフト内実践柔道大会事務局
◆お問い合わせ/実践柔道大会事務局（担当：ふち）☎090-7701-3347

大会結果

【真樹道場第4回オープントーナメント2002中部日本新人空手道選手権大会】
※5月19日（日）愛知県・岡崎中央総合公園総合体育館第2練成道場にて開催
◆一般（1年未満）
◎軽・中量級優勝/森弘成（七州会 東海）
◎重量級優勝/大野大輔（闘真会館 常滑支部）
◆一般の部
◎軽・中量級優勝/田川貴章（七州会 天白支部）
◎重量級優勝/上野竜也（闘真会館 秋葉支部）
◆高校の部
◎軽・中量級優勝/日比野雅大（拳流会館 本部道場）
◎重量級武優勝/田竜幸（誠学塾 本部）
◆女子の部
◎軽量級優勝/畑野由衣（真樹道場 愛知支部）
◎重量級優勝/飯塚則子（真樹道場 総本部）
◆壮年の部
◎軽・中量級優勝/三上忠博（新格闘塾 小塚道場）
◎重量級優勝/中田幸三（真樹道場 東京城西支部）

GOODS & TICKET ショップガイド

東京イサミ　新宿駅南口徒歩3分

〒101-0061　東京都新宿区新宿4-2-21 相模ビル3F
03-3352-4083
毎週火曜日、祝日定休　営業時間　11:00～19:00

イサミ尚武堂（株）　水道橋駅西口徒歩1分

〒101-0061　東京都千代田区三崎町2-18-5 京三会館2F
03-5214-6487
年中無休　営業時間　11:00～19:00

チャンピオン　水道橋駅西口徒歩1分

〒101-0061　東京都千代田区三崎町3-8-1 西田ビル6F
03-3221-6237
年中無休　営業時間11:00～22:20

書泉グランデ　書泉ブックマート　地下鉄神保町駅

〒101-0051　東京都千代田区神保町1-21-6（書泉ブックマート）
03-3294-0011
営業時間（平日）10:30～19:00（日祝）10:30～18:30

レッスル渋谷　渋谷駅南口徒歩4分

〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル3F
（1F茜屋）03-3464-0078
営業時間（平日）10:00～19:00（日祝）10:00～18:00

ファイター　地下鉄新宿3丁目駅　C4出口徒歩1分

〒160-0022　東京都新宿区新宿3-3-9-B1
03-3354-1903
毎月第3水曜日定休　営業時間11:00～19:00

アイドール　西武新宿駅徒歩5分

〒160-0023　東京都新宿区西新宿7-1-3　加藤ビル4F
03-3371-5211
毎週月曜日定休　営業時間　11:00～19:00

主要チケット発売所

チケットぴあ	03-5237-9999	渋谷東急文化チケットセンター	03-3406-1513
チケットセゾン	03-3250-9999	レッスル渋谷店	03-3464-0078
ローソンチケット	03-3569-9900	レッスル池袋店	03-3989-0056
CNプレイガイド	03-5802-9999	板橋大山アメリカン	03-3962-6443
オデッセー	03-3408-0331	チャンピオン	03-3221-6237
書泉ブックマート	03-3294-0011	フィットネスショップ格闘技	03-3265-4646
後楽園ホール	03-5800-9999		

格闘技オフィシャルホームページ

- K-1　http://www.k-1.co.jp/
- UFO　http://www.ufojp.co.jp/
- 極真会館（松井派）　http://www.kyokushin.co.jp/
- リングス　http://www.rings.co.jp/
- アントニオ猪木　http://www.inokiism.com/
- 大道塾　http://www.daidojuku.com/
- パンクラス　http://www.so-net.ne.jp/pancrase/
- UFC　http://www.ufc.tv/index1.asp
- 怪獣王国　http://www.monsterkingdom.com/
- シュートボクシング　http://www.shootboxing.org/
- 日本武道佐骨法會　http://www9.big.or.jp/~koppo/
- 修斗　http://www.alles.or.jp/~shooto/index.html
- 新日本キックボクシング協会　http://www1.neweb.ne.jp/wa/kick/
- 全日本キックボクシング連盟　http://www.aj-kick.co.jp/
- J-NETWORK　http://www.kickboxing.co.jp/
- PRIDE　http://www.so-net.ne.jp/pride/
- 高田道場　http://www.takada-dojo.com/
  http://www.takada-dojo.com/i/（iモード用）
- 掣圏道　http://www.seiken-do.com/
- 全日本新空手道連盟　http://www.shinkarate.net/

宇月田麻裕の北斗占い

Mahiro Utsukita

破軍　武曲　廉貞　文曲　貪狼　禄存　巨門

6/6〜6/26

★北斗占いとは★

古来インドの「北斗七星の信仰」が中国に伝来し、陰陽五行説と結合。そして、日本密教の１つとして発展していった。平安時代以降は、北斗七星の中の１つの星を、自分の守護星として、除災招福を祈願したものである。この「北斗七星の信仰」を、宇月田麻裕が「北斗占い」として蘇らせた。絶好調の星には、吉兆星が輝き、不調の星には凶兆星が現れる。

北斗本命星早見表（ホクトホンミョウジョウ）

貪狼星	巨門星	禄存星	文曲星	廉貞星	武曲星	破軍星
	1959	1958	1957	1956	1955	1954
1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966
	1971	1970	1969	1968	1967	1978
1972	1973	1974	1975	1976	1977	
1984	1983	1982	1981	1980	1979	
	1985	1986	1987	1988	1989	1990
1996	1995	1994	1993	1992	1991	

★あなたの生まれ年で、本命星が分かります。
例）1972年生まれの人は貪狼星　※節分前の生まれの人は、前年の星になります

貪狼（タンロウ）……社交家タイプ。現実的で、交友関係の幅広く、交際の達人
巨門（キョモン）……研究家タイプ。話術に優れ、研究熱心に取り組みます
禄存（ロクゾン）……経済家タイプ。悠長な雰囲気を醸し出し、経済観念に優れています
文曲（モンゴク）……芸術家タイプ。あなたが奏でる芸術的センスは、全てを魅了します
廉貞（レンテイ）……聡明な自信家タイプ。聡明なうえに実行力が伴い、勝負強いです
武曲（ブコク）……権威タイプ。情熱的で、権威を好み、リーダーシップを取っていけます
破軍（ハグン）……個性派タイプ。自立心、独立心があり、劇的な人生を歩みます

破軍星

全体運
アナタの持っている力を全て出し切っていくことで、吉兆星が輝くはず。接戦の末、もう一歩届かずな〜んてことになったら、後悔先に立たず。１２０％の意気込みでぶつかっていけたら、ライバルに勝てる可能性は十分にあり。

恋愛運
恋人が浮気していそうな雰囲気。エッチはまだでも気になる人がいる場合もあり。直接聞くより、何気なく探りを入れたほうが、トラブルにならなさそう。

勝負運
音楽を聴いてイメージングしていくとOK。

健康運
手首を傷めやすいので事前にテーピング。

金運
情報を集めると金運UPの朗報あり。

★ラッキーカラー★
クリーム
★ラッキーアイテム★
アニマルグッズ
★ラッキースポット★
スタジアム

武曲星

全体運
引き続き好調なので、あなたの武勇が期待できる時。中断していたことが動き出したり、温存していたことが陽の目を見たりする暗示。試合に向けて、トレーニングを積んでいた人は、予想以上の結果が得られて周囲も大喜びしそう。

恋愛運
周りから反対されていたカップルに朗報。結婚や交際を認知してもらえる暗示。片思いの人はそろそろ決着をつける時。戦略次第で勝率がグっとUP。

勝負運
無我夢中に闘うことで勝利の女神は味方に。

健康運
多忙でも最低限の睡眠をとることが大切。

金運
不要なものはネットオークションに出しては？

★ラッキーカラー★
レッド
★ラッキーアイテム★
バッグ
★ラッキースポット★
書店

廉貞星

全体運
レジャー運がUPするので、至福の時を過ごせそう。ただし、合コンやクラブ通いと、遊びに夢中になりやすいので、試合や審査が控えている人は要注意。気を引き締めないと、幸せにアグラをかいてダラダラしてしまうことに。

恋愛運
アナタのワガママが原因でケンカが勃発。甘えること＝ワガママだと勘違いしていない？このままだと亀裂が入りそう。フリーはじっくりとリサーチを。

勝負運
イベント的な勝負にツキがある時。

健康運
ホルモンバランスが狂いやすいので注意。

金運
ネットワークビジネスの誘いには要注意。

★ラッキーカラー★
ホワイト
★ラッキーアイテム★
リング
★ラッキースポット★
ビルの地下

文曲星

全体運
のんびりムードが漂う時。梅雨のジメ〜としたシーズンに入り、なんとなく動きも悪くなりそう。こんな時は、無理してアクティブになる必要なし。基礎体力をつけたり、仕事では、顧客整理やプランを書きためておくと良さそう。

恋愛運
カップルは、肉体的な関係は続いていても、精神的な距離を感じる時。フリーはアプローチはまだ。何気に近付いてアナタの存在をアピールする程度に。

勝負運
身近な人が敵か味方かを観察してみる必要が。

健康運
筋を痛めやすいのでストレッチが大切。

金運
コツコツと節約することが貯金の近道。

★ラッキーカラー★
スカイブルー
★ラッキーアイテム★
筆記用具
★ラッキースポット★
インターネットカフェ

禄存星

全体運
吉兆星が輝いています。体力気力ともに充実してやる気満々。エネルギーがUPしているので、今なら目の前に立ちはだかる壁を全てクリアできそう。年配の男性からの評価を受けやすいので、センスを生かして狙い撃ちしてみては。

恋愛運
力づくで恋をゲットしようとする程パワーはあるけど、それだけではNG。セクシーなフェロモンと優しさを演出することで、女性をアナタの虜にさせて。

勝負運
新しく知り合う人の中に勝利のキーマンが。

健康運
好調。記録にチャレンジしてみては？

金運
ギャンブル運がUP。スクラッチなどどう？

★ラッキーカラー★
ライトパープル
★ラッキーアイテム★
ファッショングッズ
★ラッキースポット★
カフェ

巨門星

全体運
目標を決めてスタートさせるのに良い時。現実的になれるので、今までを振り返り、理想と現実のギャップがなかったかを確認して、適切な目標を立てて。試合や仕事で成績が残せなかったら、ギャップや無理があった可能性あり。

恋愛運
自信が溢れているので、自然とモテるようになるハズ。フリーは共通の趣味や話題を見つけてアプローチすると効果的。カップルは、夢を共有してみて。

勝負運
体のキレやスタイルのキープが勝負の鍵。

健康運
歌ったりしゃべったりしてストレス解消。

金運
懐かしい友達が金運UPの情報源になる予感。

★ラッキーカラー★
パープル
★ラッキーアイテム★
カード
★ラッキースポット★
スポーツフィールド

貪狼星

全体運
心は梅雨空。アクティブに遊ぶより集中力がアップしている今は、屋内トレーニングをしたり、スキルの分析に時間を費やそう。職場でも同様に、営業よりも事務処理や企画書の作成に精を出すと、交際運が好調な時に花開くハズ。

恋愛運
二人の世界に入り込むのに良い時期。フリーは、不倫や三角関係にハマるキケンがあるので、イヤな予感がしたら素早く撤退したほうがアナタのため。

勝負運
アナタ独自のスキルを使うと勝運UP。

健康運
笑顔が健康キープの秘訣。辛くても微笑を。

金運
貯蓄のプランニングや収支表をつけてみて。

★ラッキーカラー★
ブラック
★ラッキーアイテム★
アクセサリー
★ラッキースポット★
フィットネスクラブ

宇月田麻裕プロフィール
ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「北斗占い」を中心に、TBS「ワンダフル」出演をはじめ、雑誌、webなどで活躍中。NTT Vポータル tel 0570-0033-03「テレフォンナンバー占い」オープン。URL http://www.happiness-f.com/

イラストレーション＝松本晴夫

ザッツ・ムチャリブレ ④

荒井さんはＦＭＷのロミオだったのだ

山本隆司

日常生活の中でふとあるメロディが頭に浮かんできて、知らない間にそれを思わず口ずさんでいる自分がいたりする。

　私の場合、映画『ロミオとジュリエット』のテーマミュージックが最も多い。映画音楽で一番好きなのは、〝ムーンリバー〟なのだがあれは口ずさむ曲ではない。

　フランシスコ・ゼフィレッリ監督の『ロミオとジュリエット』。オリビア・ハッセー主演の名画である。私はロミオとジュリエットほど、美しい愛はないと考えてきた。お互いに大人になりきっていない未成熟な若者。

　だからこそ彼らの愛の純度は限りなく高い。しかも2人の愛は未完に終わる。そこがいいのだ。

　未熟にして未完。成熟と完成の逆。だからロミオとジュリエットは、私にとっていつまでもあこがれの対象になるイノセントな世界なのだ。あれ以上の愛はない。

　つまりこれは失ったものに対する私自身の郷愁の感情でもある。今、生きていて何がリアリティーあるかといったら、この「失った」という感覚しかない。

　喪失感はすでに私の友達でもある。先日、私はひとりの友を失った。元ＦＭＷの社長だった荒井昌一さんである。彼は首吊り自殺をして、この世を去っていった。

　私は荒井さんのことは社長とは思いたくなかった。荒井さんはリングアナウンサーでよかったのだ。誰もプロレス界の人間は荒井さんを助けることも、救うこともできなかった。もちろん私もだ。

　それが悲しい。じゃあ、私に何ができるのか？　『ロミオとジュリエット』のメロディを、自分の家でひとり口ずさむだけ。この曲を荒井さんの鎮魂歌にしたい。

　そう思って目を閉じた時、突然真っ暗な世界の中から四角いリングが見えてきた。無人の荒野にポツンと一つだけリングがある。

　風が吹いている。寒い感じがした。リングに〝ＦＭＷ〟の三文字が見えた。夜か？　空には三日月が輝いている。

　どこからともなく聞こえてくる映画『ロミオとジュリエット』のテーマ曲。凄く音が小さい。聞きづらい。たしかにあの曲だ。

　まるで入場テーマ曲みたいではないか？　誰か花道からやって来るのか？　来ない。少しずつメロディの音が大きくなっていく。

　ただ、吹きすさぶ風。ただ、夜空に輝いている月。ただ、鳴り続ける『ロミオとジュリエット』の曲。そこにあるのはリング。

　風、月、夜、リング。そして荒野。そこは〝無〟の世界。いいんだよ無で。その時である。リングに人影が。あ、荒井さんだ。

　手にマイクを持っている。口にそれを持っていった。赤コーナーと言ってコールを始めた。でもリングには誰もいないんだよ。

　記憶が蘇ってきた。荒井さんのコールには、透明感があった。その声の質は透き通っていた。

　私は「ああ、あれこそがＦＭＷだったのだ！」と確信した。リングアナは会場の気分を支配する力を持っている。今となってはＦＭＷに残っている最後のものは、もしかすると、荒井リングアナのあのコールかも。荒井さんはＦＭＷのロミオだったのだ。■

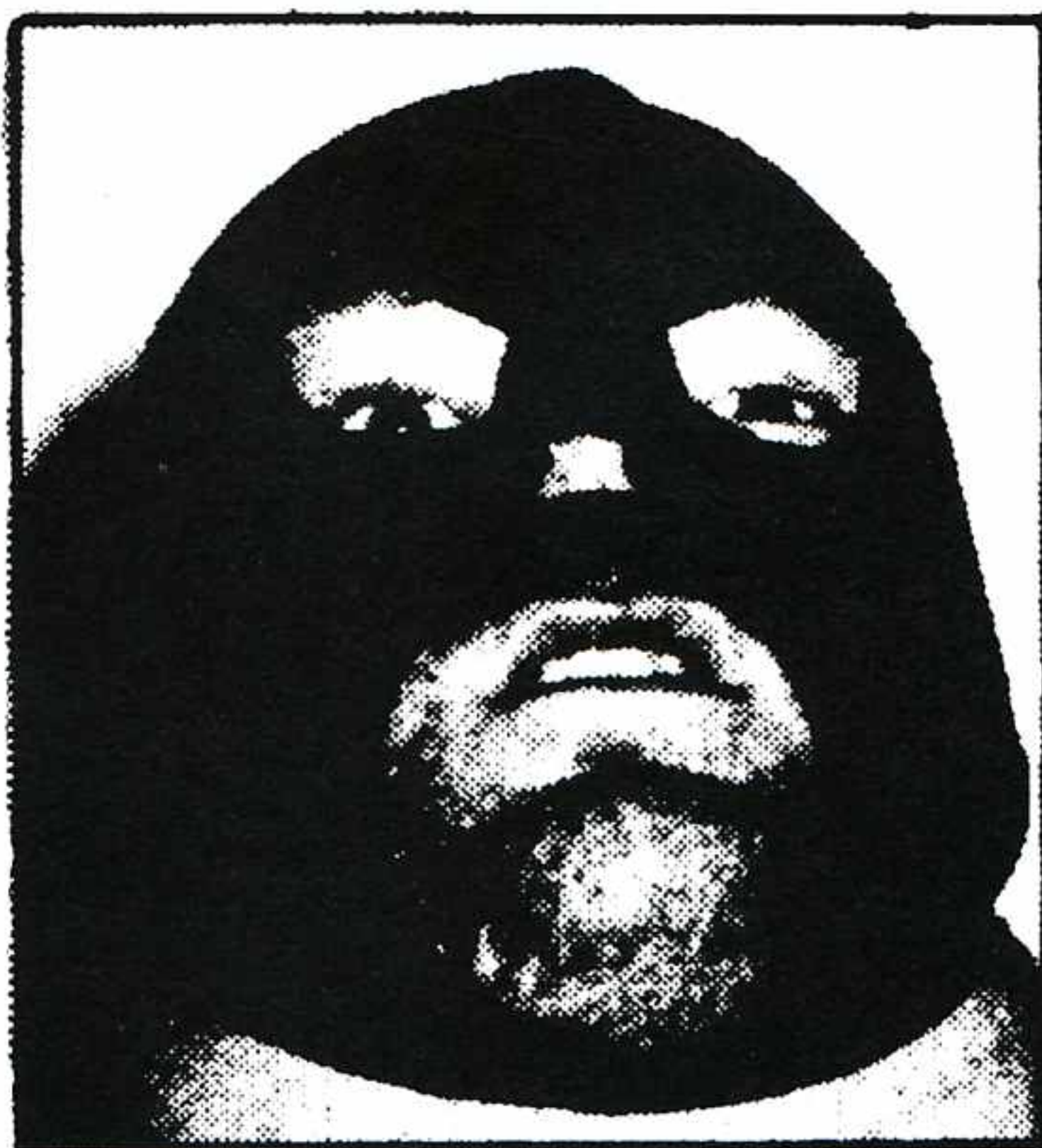
～お客様は神様です～

あぶもぐ 大阪場所

9日目

ABNORMAL★MOGUTAN

親方◎小松モグタン

VADER

BASS AND ELECTRONIC PERCUSSIONS

お客様は神様です！　破壊王を見習って、『あぶもぐ』のスローガンにしようと思います。ハガキを送ってくれた方は、皆さん神様です。この精神で、今後とも頑張りたいと思います。

仰天写真発見！ ターザンがベルト強奪!?

（小松魔裟夫・？・26歳）
◆破壊王が「こんな地方のベルトいらねぇ」と捨てたベルトをターザンが強奪した瞬間をとらえた写真です。この恍惚の表情をお楽しみください。

（上）超高級松阪牛VS（下）野菜だけ

本当は肉にしたいんですが予算が無いのでスミマセン。

（安田顔・石川県金沢市・？歳）
◆こんな悪意に満ちた作品を送ってくるなんて……。あんたは恐ろしい！

質問コーナー？

モグタンさん、質問に答えてください。今回の『プライド20』と5・2『闘魂記念日』のどっちが面白かったですか？　私は『闘魂記念日』のほうが良かったと思うのですが、モグタンさんは、どっちですか？　申し訳ないですけど、絶対に答えてください。
（はずきの果実・京都府京都市・16歳）
◆ズバリ、『プライド20』！　でも、『闘魂記念日』の破壊王は最高だったぞ！　ところで、「はずきの果実」ってどういう意味？　絶対に答えてください!?

名無しの男から、タイトルなしの投稿！

K―1トーナメントっていつも思うけど、なんで1日でやるんでしょう。1日1試合（1カ月おき）のほうがいいのでは？　みんな力を抜いているのが分かるし、中途半端な試合が多い。あの人とあの人がとなっても、先があったり、もう一回闘ってたりするから全力でできずに、何がなんだかどっちが強いって印象の試合にはならない。いつもそうなって次にいくのがK―1のパターンだけど、そうやってボクシングみたいなチャンピオン戦絶対性を作らずに、多くの試合を高度にしたのはK―1の面白さではあるけれど。

総合参戦でも、総合って色々な競技が競うというものだけど、やっぱり実質寝技系なわけで、K―1の人が出るということは寝技系の人がK―1に出るくらいのものはあると思う（大まかに言って）。石井さんの度胸のよさにはビックリするけど、選手はよく出るなぁ。K―1の人ってよく言うこと聞くなぁという気がする（色々な面で）。本当に「モーニング娘。」状態。

今はみんなK―1に出ることに価値があるから出ているけど、そのうち他の有力団体が出てきたら、みんな引き抜かれちゃうんじゃないかな。石井さんのことだから、上手く手を結んでやっていきそうだけど。

あのトーナメントは英国グランドナショナルというか、ショートトラックというか、タイムレース化してない頃のマラソンというか、いつもハチャメチャですね。それがいいと言えばいいんだろうけど、選手は大丈夫なんでしょうか？　危険じゃないかと思うんですが。1人だけ強い人がいて、その人の強さをいろんな角度から確認できるという面がある時はいいですが（圧倒的に強い人がいる場合）。

例えば、本当はどうか分からないけど、ヒクソンがトーナメントに出たら面白いですね。追い詰められたらどういう強さを発揮するとか、選手の底が出てくるという点はいいんでしょうけど。その辺は「見るほうの気持ち」と「選手の体」のバランスをとってやったほうがいいかなと思う。でも、みんなトーナメントに慣れているから、個々の選手の強さより、トーナメントの流れの激しさのほうがひきつけられるのもあるのかなぁ。もう定着してますもんね。
（？・？・？歳）

◆おい、おい、おい、名前ぐらい付けてきてくれよぉ！　でも、今年はトーナメントが少ないから、選手も一試合一試合に気合いが入っているよ。私は、トーナメントよりも、1日1試合、15日間同じ場所でやる相撲方式のほうがいいと思うんだが……。

非常に非現実的な話。格闘技・プロレスファンが出資するお金でマッチメイクを助けたり、不況で苦しむプロレス団体に融資する「破壊王折り鶴方式スポンサー」なるものはできないでしょうか？
例：8000円×5万人＝4億　1000円×5万人＝5000万　※5万人はドーム指定
（SRS＝DX・東京都新宿区・20歳）
◆これは素晴らしいアイデアですよぉぉぉ。折り鶴兄弟に負けずに頑張ってやってみてくれ！

ボクはシュート・ボクセのファンで、シウバがちょー大好きです。ターザン山本さんがシュート・ボクセを好きになってくれて、本当に嬉しいです。谷川さんもシュート・ボクセの技術をほめてくれて嬉しかったです。ヴァンダレイ・シウバはボクの中の神様みたいな存在なので、Tシャツお願いします。
（箇野康平・神奈川県横浜市・18歳）
◆ブラックバスが神様だなんて、ムチャですよぉぉぉ！　こうなったらTシャツくれてやれ、チャ●ペ娘！

中迫インタビューが面白かった。動物園って……。しかも、ゴリラの名前は〝ムサシ〟。
（六車仁・兵庫県尼崎市・27歳）
◆おい、おい、おい、動物園のネタはうちの雑誌ではやってねぇぞ！　ハガキを送る際には、ちゃんと雑誌名を確認するように。

P56の『噂の三面記事』は、決定全カードと写真入りのとこがいい。ニック・マレーってどんなヤツやろうと思っていて、写真入りだったから嬉しい。P61、P62、P63、P65は面白くなかった。字を読むのが嫌いだから。
（岡本朋也・京都府宇治市・13歳）
◆字を読むのが嫌いなんて言ってたら、ちゃんとした大人になれねぇぞ！　字を読め、字を！

親方、安田弁当食べた？　けっこーうまいよネ。今回の弁当発売で、安田の知名度はかなり上がるぜぃッ！　たくさん売れて第2弾『ファウルカップ釜めし』につながりますように！
（安田顔・石川県金沢市・？歳）
◆正直言って、スマン！　食ってない！

あて先

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3-14-12神田NSビル8F
SRS・DX編集部『あぶもぐ』係

★作品募集

『あぶもぐ』では、読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。相撲関係オンリーと言いたいところですが、べつになんの作品でも結構！　質問もOK！　強烈なぶちかましをお待ちしております。

6・8～9 2002オープントーナメント
第19回全日本ウェイト制空手道選手権大会
極真カラテ“大阪夏の陣”プレビュー

『2002オープントーナメント 第19回全日本ウェイト制空手道選手権大会』が6月8日（土）、9日（日）の両日、大阪府立体育会館で開催される。第8回世界大会まであと1年あまりとなり、第7回大会で初めて海外へ流出した王座の奪回に向け、徐々に志気が上がってきている日本勢。日本代表選手の選抜戦は今年11月の第34回大会だが、今回のウェイト制は、その代表を占う意味でも、非常に重要な大会であることは間違いない。ロシアからの未知なる強豪、さらに正道会館をはじめとする他流派からも実力者が参戦する今大会。果たして各階級の優勝の行方は？

重量級
（90キロ超、30名出場）

昨年の全日本ベスト8の正道・加藤＆ロシアの実力者・クレバノフを止めるのは誰だ！？

優勝

No.	氏名	所属、段位、身長、体重、年齢
216	徳元 秀樹	[横浜港南支部、弐段、180、107、28]
217	仲沢 欣規	[駿河支部、2級、175、97、29]
218	宇多村大介	[東京城西支部、初段、188、100、27]
219	佐久間新一	[城西国分寺支部、2級、179、97、25]
220	高橋 恒治	[千葉中央支部、初段、179、93、30]
221	樋口 恵士	[京都支部、初段、178、94、24]
222	入澤 群	[総本部、四段、180、98、29]
223	林 輝明	[大阪東支部、初段、178、94、27]
224	佐藤 裕司	[城西国分寺支部、1級、180、96、27]
225	阿曽健太郎	[千葉北支部、2級、186、121、23]
226	藤田 雅幸	[石川支部、初段、180、92、27]
227	松村 典雄	[総本部、2級、180、102、24]
228	鈴木 憲一	[直轄横浜桜木町道場、初段、185、98、33]
229	佐々木 徹	[富山支部、1級、180、98、23]
230	山辺 光英	[東京城西支部、弐段、182、93、27]
231	瀬戸 哲男	[直轄浅草道場、初段、174、90、29]
232	平野 武史	[群馬東支部、初段、182、92、29]
233	村上 有司	[大分支部、初段、175、92、28]
234	寺尾 泰	[城西下北沢支部、1級、181、106、22]
235	佐藤 誉仁	[世田谷東支部、1級、179、94、25]
236	木村 浩司	[総本部、弐段、175、93、24]
237	道祖田 亮	[鹿児島支部、1級、170、108、22]
238	クレバノフ・レチ	[西ロシア、初段、180、92、24]
239	徳田 忠邦	[大阪南支部、初段、180、100、26]
240	近藤 博和	[世田谷東支部、初段、180、125、32]
241	谷口 誠	[大分支部、初段、177、100、25]
242	加藤 達哉	[正道会館、初段、187、99、25]
243	小野瀬 寧	[千葉北支部、初段、178、92、30]
244	黒岩 秀輝	[直轄浅草道場、初段、176、93、37]
245	洪 太星	[横浜港南支部、2級、185、90、21]

222 入澤 群

240 近藤博和

242 加藤達哉

軽重量級
（90キロ以下、47名出場）

昨年の中量級王者・進、御子柴、中川、住谷のシ烈な優勝争い。正道・沢田にも注目！

優勝

No.	氏名	所属、段位、身長、体重、年齢
169	辻本 諭	[総本部、初段、173、85、25]
170	西田 憲治	[岡山支部、初段、174、81、32]
171	竹石 修	[千葉中央支部、参段、172、84、31]
172	池端 孝夫	[京都支部、初段、177、84、24]
173	西川 益夫	[関西本部、初段、173、89、27]
174	勝見 淳史	[世田谷東支部、4級、180、88、20]
175	大迫 元喜	[滋賀支部、初段、171、88、20]
176	佐藤 修	[横浜北支部、参段、178、89、34]
177	小竹 一也	[茨城古河支部、初段、182、89、34]
178	セルゲイ・メルユーク	[西ロシア、2級、190、85、20]
179	村田 昌彦	[愛知東三河支部、初段、171、87、23]
180	住谷 統	[兵庫支部、弐段、176、85、28]
181	御子柴直司	[横浜東支部、弐段、177、87、26]
182	渡辺 恵介	[埼玉支部、初段、175、83、22]
183	政浦 浩行	[石川支部、初段、171、84、26]
184	毛利 秀彦	[下総支部、初段、173、85、25]
185	赤石 誠	[総本部、初段、186、99、20]
186	井野 真孝	[三重支部、初段、170、84、26]
187	岡本 圭	[城南川崎支部、初段、177、85、28]
188	鈴木 健朗	[直轄札幌道場、弐段、178、88、29]
189	山田 幸信	[城東支部、初段、175、88、28]
190	本間 徹	[京都支部、弐段、172、88、29]
191	別府 良建	[鹿児島支部、弐段、174、85、21]
192	佐藤 賢	[世田谷東支部、1級、185、84、20]
193	進 裕治	[世田谷東支部、初段、176、85、30]
194	本山 久司	[関西本部、2級、176、86、26]
195	松永 光正	[石川支部、初段、174、85、28]
196	西岡 慎悟	[福井支部、4級、171、88、23]
197	加藤 隆司	[直轄浅草道場、弐段、167、84、30]
198	佐藤 正博	[千葉北支部、初段、178、90、27]
199	菅野 秀行	[城南川崎支部、初段、173、88、29]
200	沢田 秀男	[正道会館、初段、180、89、23]
201	弓場 祥生	[京都支部、1級、178、89、24]
202	佐藤 匠	[直轄横浜桜木町道場、2級、186、88、18]
203	吉田 敬一	[栃木南支部、1級、177、88、27]
204	中川 正士	[大阪南支部、初段、186、88、26]
205	田村 隆行	[世田谷東支部、弐段、173、87、31]
206	日置 亮介	[兵庫支部、初段、177、85、25]
207	寺口 徹	[愛知東南・知多支部、1級、174、87、23]
208	萩原 強	[総本部、弐段、182、86、22]
209	田中 正信	[大阪東支部、2級、180、85、22]
210	平野 裕士	[茨城古河支部、弐段、179、89、29]
211	村上 友英	[大分支部、初段、171、84、31]
212	竹内 智明	[世田谷東支部、1級、178、82、27]
213	玉田 陽介	[埼玉支部、2級、186、87、24]
214	日野 峰郎	[愛媛支部、1級、182、87、29]
215	矢島真保呂	[城南川崎支部、初段、180、89、31]

181 御子柴直司

193 進 裕治

200 沢田秀男

中量級
（80キロ以下、88名出場）

優勝候補筆頭はウェイト制3年ぶりの伊藤慎 しかし、新鋭の台頭にも期待大！

優勝

No.	氏名	所属、段位、身長、体重、年齢
81	金森 俊宏	[兵庫支部、初段、183、78、24]
82	三善 泰洋	[山口支部、初段、169、80、33]
83	尾崎 圭司	[JTA、弐段、168、73、22]
84	土器手正之	[鹿児島支部、初段、167、78、22]
85	中田 功章	[富山支部、初段、172、73、27]
86	藪崎 右馬	[直轄柏道場、1級、173、76、23]
87	高橋 圭太	[直轄飯田橋道場、初段、176、75、28]
88	能勢 正崇	[新潟支部、初段、174、75、23]
89	古賀 裕和	[城南川崎支部、初段、174、80、32]
90	小森 吉親	[尾張名古屋支部、初段、173、76、24]
91	及川晋太郎	[城西下北沢支部、1級、175、75、20]
92	生川 智大	[三重支部、2級、169、78、24]
93	倉田 尚彦	[兵庫支部、初段、176、77、26]
94	入江 弘泰	[埼玉支部、初段、168、74、29]
95	山内 寛史	[熊本支部、1級、177、78、25]
96	幸田 敏明	[奈良支部、初段、182、78、27]
97	松橋 郁弥	[直轄浅草道場、初段、186、75、20]
98	佐藤 康貴	[群馬東支部、初段、178、79、26]
99	廣末 修三	[北大阪支部、初段、168、70、34]
100	本多 悟朗	[城西国分寺支部、初段、174、78、27]
101	篠崎圭太郎	[宮崎支部、2級、181、77、22]
102	河村 吉康	[愛知東南・知多支部、2級、175、79、28]
103	成田 武治	[直轄横浜桜木町道場、四段、170、78、36]
104	金田 宏臣	[大分支部、1級、178、78、28]
105	秋本 勝宏	[富山支部、初段、180、80、25]
106	青木 宏至	[京都支部、初段、170、78、28]
107	芝田 真輔	[兵庫支部、初段、175、75、28]
108	三好 英之	[香川支部、1級、170、79、25]
109	高山 将士	[直轄浅草道場、初段、175、75、24]
110	梅田 文久	[福井支部、初段、170、77、31]
111	松井 潤一	[城南川崎支部、初段、167、79、35]
112	瀬戸 康善	[新潟支部、初段、177、79、26]
113	戸田 直志	[相模原支部、参段、168、73、33]
114	平 昭一郎	[千葉北支部、1級、182、80、26]
115	澤井 幸一	[大阪南支部、初段、178、78、28]
116	井上 文夫	[茨城古河支部、初段、168、75、28]
117	村椿 秀幸	[埼玉支部、弐段、170、77、31]
118	名城 裕司	[奈良支部、初段、168、75、18]
119	外屋敷信宏	[兵庫支部、初段、165、78、28]
120	水木 都応	[秋田支部、初段、174、80、24]
121	南 和幸	[総本部、参段、160、74、37]
122	阿部 大介	[尾張名古屋支部、初段、166、77、19]
123	斎藤 友康	[千葉中央支部、初段、168、80、23]
124	野加 久詞	[城西国分寺支部、初段、175、79、22]

No.	氏名	所属、段位、身長、体重、年齢
125	鈴木 由一	[城南川崎支部、初段、178、77、31]
126	池本 理	[大阪南支部、弐段、177、73、25]
127	谷川 誠	[京都支部、2級、173、80、23]
128	船先 雄	[奈良支部、初段、174、79、22]
129	長塚 豪己	[直轄柏道場、初段、168、75、27]
130	山本 雅樹	[千葉北支部、弐段、173、79、32]
131	溝口 清	[兵庫支部、弐段、166、75、34]
132	伊澤 寿人	[栃木南支部、初段、174、78、21]
133	大谷 善次	[城西国分寺支部、弐段、170、75、33]
134	西村 淳平	[総本部、弐段、178、78、27]
135	アレキサンダー・カルパチェフ	[東ロシア、弐段、165、76、23]
136	首藤 優	[愛媛支部、5級、174、72、23]
137	大塚 裕樹	[横須賀支部、初段、176、77、28]
138	崔 哲樹	[茨城古河支部、初段、179、80、26]
139	小坪 功昌	[富山支部、初段、163、74、25]
140	中茎 一彦	[直轄札幌道場、弐段、168、78、23]
141	小坂 武史	[山梨支部、参段、172、72、31]
142	大野 将人	[大阪南支部、弐段、166、80、30]
143	村田 達也	[埼玉支部、初段、173、74、19]
144	冨田 好志	[愛知東南・知多支部、初段、177、79、20]
145	佐久間伸司	[福島支部、2級、174、74、29]
146	里山 義和	[世田谷東支部、初段、170、77、30]
147	桜井 貴光	[群馬東支部、弐段、177、80、26]
148	村尾 健司	[正道会館、初段、177、77、23]
149	高見 渉	[愛知東南・知多支部、初段、174、76、30]
150	宮野 大輔	[石川支部、2級、166、74、25]
151	渡辺 猛	[静岡西遠支部、初段、173、78、32]
152	柴田 英樹	[兵庫支部、参段、168、76、37]
153	櫛田 昌之	[直轄浅草道場、1級、172、77、28]
154	菅野 圭一	[川崎東支部、初段、176、77、26]
155	石田 稔人	[富山支部、初段、182、77、33]
156	青木 修	[新潟支部、初段、174、78、25]
157	川崎 雅央	[城西国分寺支部、弐段、173、78、32]
158	岩橋 勝治	[横浜港南支部、1級、169、73、25]
159	谷 俊和	[兵庫支部、2級、185、74、22]
160	岡村 龍之	[尾張名古屋支部、弐段、168、79、32]
161	香取 宏明	[茨城古河支部、弐段、171、79、32]
162	伊原 純	[山陰支部、初段、169、76、32]
163	宮崎 清孝	[山口支部、初段、171、79、29]
164	前田 和清	[京都支部、初段、171、80、29]
165	菅原 成典	[大阪南支部、初段、171、77、36]
166	高橋 徹	[埼京支部、初段、173、78、32]
167	有働 直樹	[熊本支部、初段、175、79、27]
168	伊藤 慎	[総本部、弐段、173、77、29]

124 野加久詞

148 村尾健司

168 伊藤 慎

史上最強の外国人空手家フランシスコ・フィリォが、日本の大黒柱・数見肇を破り世界王者に輝いたのが1999年11月の第7回世界大会。あれから早くも2年半の歳月が過ぎた。

2003年第8回大会での王座奪回を宿命づけられた日本勢にとって、第3コーナーを曲がった今年の全日本ウェイト制が、非常に重要な大会であることは言うまでもないだろう。11月の全日本大会が代表選抜戦とは言え、この大会で実績を上げ、一気に日本代表を狙おうと野心満々の若武者も当然いるし、そういった意味では若者の登竜門的な要素も含んでいるのがこの大会なのだ。

さて、有力選手が欠場している階級もあるが、それだけに上位争いはシ烈を極めることが予想される。さっそく各階級、トーナメントの行方を占ってみよう。

■重量級　このクラスの見所は、ロシアのクレバノフ・レチと正道会館重量級王者の加藤達哉、2人の外敵から、極真の猛者たちがいかに牙城を死守するかにある。加藤は昨年の極真全日本大会で8強入りを果たしており、その実力は推して知るべし。昨年の全日本で勝ち方を知っただけに、今大会さらに上位に進出することも十分に考えられる。また、クレバノフは今年のロシアンカップでセルゲイ・オシポフと優勝を争った選手。かなりの実力者と予想される。昨年の世界ウェイト制に続き、驚異のロシアン旋風を巻き起こすのだろうか？　極真としては徳元秀樹、徳田忠邦、近藤博和ら重量勢の活躍に期待したいところだ。

■軽重量級　もっとも激戦が予想されるのがこの軽重量級。昨年の準優勝で、一撃必殺のヒザと上段回し蹴りで観客を魅了する中川正士、スピードのある動きに

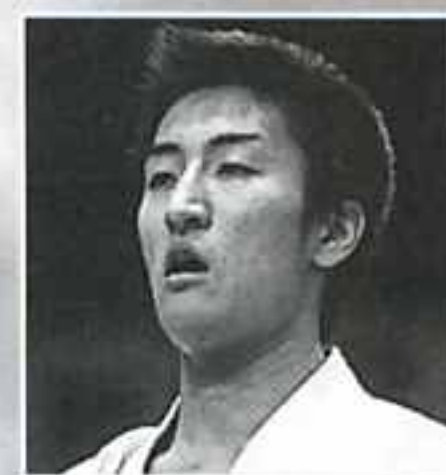
軽量級
（70キロ以下、80名出場）

世界王者・田ケ原、実力者・八木沼、安田が欠場 世界軽量級2位の福井の連覇濃厚か！？

No.	氏名	所属、段位、身長、体重、年齢
1	塩島　修	[下総支部、初段、162、69、27]
2	藤井　剛	[関西本部、初段、173、70、28]
3	巖川　裕士	[直轄西多摩道場、初段、158、63、30]
4	大渡　博之	[正道会館、初段、180、69、25]
5	和田　誠司	[大阪南支部、初段、164、69、25]
6	徳山　佳史	[富山支部、初段、176、69、25]
7	有元　雅則	[世田谷東支部、初段、170、69、30]
8	山田　哲也	[京都支部、初段、172、70、27]
9	茂手木享明	[茨城古河支部、初段、174、66、20]
10	新名　一仁	[横浜東支部、1級、167、67、30]
11	真武　勇城	[兵庫支部、初段、173、65、17]
12	竹田　大介	[直轄名古屋道場、1級、170、69、23]
13	井戸口啓吾	[京都支部、1級、173、69、31]
14	谷口　雅春	[山陰支部、初段、173、69、31]
15	森田　祐一	[世田谷東支部、初段、168、69、30]
16	岩月　彰	[城東支部、初段、167、70、30]
17	中島　純次	[直轄四谷道場、1級、168、68、30]
18	橋本　幸憲	[川崎東支部、1級、168、67、24]
19	田中　浩二	[埼玉支部、弐段、157、68、34]
20	松元　直人	[鹿児島支部、初段、164、68、25]
21	安芸　晴康	[埼玉支部、初段、166、66、28]
22	山川　知房	[千葉北支部、初段、169、70、25]
23	守屋　章吾	[魚本流、弐段、168、69、26]
24	前川　克信	[駿河支部、弐段、175、69、30]
25	若月　正浩	[世田谷東支部、1級、172、68、27]
26	棟本　泰樹	[徹武館、初段、177、70、31]
27	生方　旭	[城東支部、初段、171、64、25]
28	大村　光矢	[愛媛支部、3級、170、67、21]
29	服部　和弘	[福島支部、初段、178、68、33]
30	浅郷　剛志	[東京城西支部、初段、168、65、20]
31	林　亮	[総本部、初段、170、63、26]
32	谷口　真士	[宮崎支部、2級、166、60、34]
33	濱田健太郎	[兵庫支部、初段、165、65、31]
34	長井ロジェリオ正樹	[湘南支部、初段、168、69、23]
35	渡辺　英明	[愛知東南・知多支部、初段、163、64、33]
36	林　太郎	[京都支部、1級、176、69、32]
37	井上　智志	[埼京支部、2級、171、69、21]
38	大木マリシオ	[静岡西遠支部、初段、166、65、25]
39	大垣内　毅	[石川支部、初段、163、65、29]
40	伊藤　貴博	[世田谷東支部、初段、169、68、26]

優勝

No.	氏名	所属、段位、身長、体重、年齢
41	尾崎　亮	[世田谷東支部、初段、165、68、31]
42	佐藤　雅典	[北大阪支部、初段、173、69、28]
43	木村　敦史	[茨城古河支部、初段、170、70、25]
44	帰山　宗久	[城東支部、初段、167、63、31]
45	川本　真也	[新潟支部、初段、169、69、30]
46	神原　敏行	[兵庫支部、初段、165、69、20]
47	嶋田　俊英	[秋田支部、1級、165、68、24]
48	福田　高広	[愛媛支部、初段、178、69、26]
49	宍倉一太郎	[横浜港南支部、弐段、167、67、27]
50	廣　直明	[川崎東支部、初段、174、70、27]
51	石井　武志	[京都支部、2級、172、69、26]
52	山下　輝貴	[世田谷東支部、初段、174、69、19]
53	能正　秀明	[関西本部、初段、167、67、30]
54	朝妻　祐人	[直轄四谷道場、初段、168、68、19]
55	山本　雄二	[埼京支部、初段、175、68、27]
56	加藤　雅也	[静岡西遠支部、初段、176、70、26]
57	西村　直也	[東京城西支部、弐段、163、65、38]
58	松田　和也	[魚本流、弐段、170、66、22]
59	菊野　克紀	[鹿児島支部、初段、170、70、20]
60	ビクター・ゴーン	[東ロシア、初段、161、69、20]
61	関口　純也	[埼玉支部、2級、165、69、27]
62	中橋　光司	[富山支部、初段、169、69、33]
63	長原　士郎	[関西本部、弐段、167、69、25]
64	加藤　邦顕	[東京城北支部、初段、174、70、24]
65	平野　裕士	[駿河支部、初段、173、70、26]
66	船曳　正清	[兵庫支部、初段、173、67、22]
67	永山　卓秀	[福島支部、初段、159、68、29]
68	藤野　尊秀	[京都支部、初段、170、69、33]
69	小山慎太郎	[静岡西遠支部、初段、165、64、27]
70	岡本　啓	[世田谷東支部、2級、165、68、25]
71	松田　省吾	[横浜東支部、弐段、172、69、38]
72	田辺　正人	[城東支部、初段、166、70、25]
73	近藤　邦友	[熊本支部、初段、165、69、26]
74	渡辺　季之	[葉隠塾、弐段、172、68、31]
75	和田　義史	[愛媛支部、初段、176、68、29]
76	松岡　朋彦	[兵庫支部、弐段、171、67、24]
77	中澤　潔	[茨城古河支部、初段、162、67、28]
78	小野　篤司	[京都支部、初段、161、70、26]
79	山下　武範	[宮崎支部、初段、167、70、29]
80	福井　裕樹	[直轄浅草道場、初段、171、69、26]

1　塩島　修

4　大渡博之

41　尾崎　亮

80　福井裕樹

定評のある御子柴直司、乗り出したら手がつけられない住谷統、昨年の全日本で世界王者・木山仁相手に一歩も引かない接戦を演じた弓場祥生、昨年の中量級王者で今回階級を上げて出場の進裕治、さらに、正道会館軽重量級王者の沢田秀男ら実力者がひしめき合う。混戦を抜け出し頂点に立つのは果たして誰だろうか。

■中量級　優勝候補ナンバー1は、やはり〝褐色の恋人（？）〟伊藤慎。ウェイト制は実に3年ぶりの参加だが、一昨年の全日本では8強入りしており、無差別でも通用する実力は、やはり頭一つ抜き出た存在と言える。伊藤のブロックには、有力選手がひしめき合うが、中でも注意すべきは正道会館中量級王者の村尾健司。上段の蹴りには定評があり、ハートの強さも折り紙つきだ。また、5月の千葉大会を制した野加久詞は、確実にパワーアップしており、伊藤の反対ブロックから決勝へ進出する可能性は大きい。伊藤と野加による優勝争いとなるか？

■軽量級　この階級は、軽量級世界王者の田ケ原正文、世界3位の八木沼志朗、世界大会代表の安田幸治の3人が出場していないため、世界2位、昨年の全日本ウェイト制覇者の福井裕樹が文句なしの優勝候補筆頭。対抗としては昨年4位の塩島修に注目だ。福井にしても塩島にしても、重量級選手と対戦しても引けをとらない攻撃力を持つ選手だけに、上位進出はまず間違いないだろう。その他で注目されるのは、正道会館の軽量級王者・大渡博之。昨年のウェイト制では、世界王者・田ケ原に敗れはしたがかなり苦しめているだけに侮れない存在と言えるだろう。ロシアから初出場のビクター・ゴーンの存在も不気味。ゴーンという名前からしてかなりのやり手な感じだ。■

「J-DO」、6・17東京進出！

吉田秀彦獲得の噂で脚光を浴びる

取材◎林　毅

柔道の吉田秀彦が、4月29日の全日本選手権を最後に柔道界を引退し、その後の動向が非常に注目を集めている中、写真週刊誌などで『J－DO』なる格闘技との接触が囁かれている。実はこの『J－DO』、昨年末あたりから、柔道関係者などを通じて噂は聞いていたのだが、果たして、その実体はいかなるものなのか？　吉田秀彦獲得の噂は本当なのか？　関係者に会って聞いてみた。

▲『J－DO』の起案者であり、主力選手でもある池田篤志。柔道の名門・天理大のレギュラーとして活躍。吉田秀彦、髙阪剛とは同期で親交がある。吉田獲得の噂に関しては「秀彦とはプライベートのつきあいで会って話しているだけですよ」（池田）

おそらく本誌読者でも知っている人は少ないであろう『J－DO』なる格闘技だが、実はすでに4回の大会を行っているという。開催場所はいずれも関西。第1回大会は昨年7月、神戸の老舗ライブハウス『チキン・ジョージ』で行い、約500人満員のお客さんを集め、その後も、300人〜500人クラスのライブハウスで満員、大盛況となっており、今、神戸ではかなり話題になっていると言う。

では、果たしてこの『J－DO』とはいったいどんな格闘技なのだろうか？　字面というか、音の響きから判断すると、柔道を意識した格闘技であることは容易に想像できる。

『J－DO』の起案者であり、主力選手である池田篤志氏によると、「簡単に言うと、柔道を基盤にした格闘スポーツです。もともと僕は柔道をやっていたんですけど、学生の時から魅せる柔道というのを目指していたんですね。とにかく見に来てくれる人、応援に来てくれてる人に喜んでもらいたくて。普通に組んでじっとしてても面白くないじゃないですか。投げて抑え込んでっていうのも面白くない。だから、豪快に勝つか負けるか。それを演出したりするのは柔道ではできないんで、『J－DO』でやろうと思ったわけです」

第1回大会に出場した選手の顔ぶれは、空手ありボクシングあり日本拳法あり。なんか初期の『UFC』のようないかがわしさが、そこはかとなく漂っていて、ちょっと心躍る。今、流行の先端を行く『プライド』や現在の『UFC』とは明らかにテイストが違う。

この『J－DO』が目指しているのは"プロ柔道"の確立だと言うが、まず"プロ"という概念自体が一般的なものとは異なると、『J－DO』をプロデュースするIam代表取締役・飯田誠一氏は言うのだ。

「例えば、プロと名乗れることが大事なのか、本当の意味で柔道でご飯が食べられることが大事なのか、逆に言うと、なんらかの収入源があって、空いた時に柔道をできるのが大事なのかっていうのは10人いたら10人違うんですよ。だから、そこに関しては既成概念を持たないでおこうと。今、一般的に言われているプロ団体みたいな形にはしたくないんですよ。興行というのは宣伝告知の一環で、自分の道場に人を呼ぶためにやっていたりとか、自分の認知度を高めるためにやったりとか、『J－DO』を一緒に盛り上げるためにやったりとか、それは人それぞれ。とにかく、既存のプロ団体でやられているようなやり方はあえて避けてやってます。そういう意味では理解しにくい団体だと思います」

神戸発、柔道基盤の新格闘スポーツ『J－DO』。目指すは"プロ柔道"の確立

聞けば聞くほど、頭の中に"？"が広がる。

ちなみにルールは、階級は3階級。1試合3分3R。必ず柔道衣を着用し、オープンフィンガーグローブを付ける。スタンドでの打撃ありで、グラウンドでの打撃はなし。関節、絞めはありだが、抑え込みはない（動きが止まったところで立った状態で再開）。勝敗は、SKO（1R中に一本に近い技で2本投げるか2回ダウンした場合）、KO（5カウント）、TKO、もしくは判定による決着。となっていて、やはり柔道を魅せることがベースにあるルールだということが分かる。

全日本柔道連盟や講道館とも敵対するつもりはなく「共存共栄」を望んでいるという。何はともあれ、6月17日には初の東京大会が開催される。まずは、自分の目で確かめてみてはいかがだろうか。本誌でも、実際に大会を見てから改めて紹介したい。■

今後の予定

	月日	場所
2002年		
6月	6/17（月）	東京・オンエアイースト
7月		大阪
8月	8/4（日）	東京・ZEPP Tokyo
9月	9/16（月・祝）	神戸・チキン・ジョージ
10月		大阪
11月	11/24（日）	神戸・チキン・ジョージ
12月	予選会	東京
2003年		
1月	1/26（日）	東京・ZEPP Tokyo
2月		神戸・チキン・ジョージ
3月	予選会	東京

▲▶第1回大会は10人によるトーナメントで行われ、柔道、ボクシング、日本拳法、空手の選手が参加。池田が優勝した

▼『J－DO』は昨年7月、桑名将大、安全地帯、ミスチル、コブクロなど多くのミュージシャンを生み出した神戸の老舗ライブハウス『チキン・ジョージ』で産声を上げた

©Iam

神戸ではすでにプラチナチケット

ホームページアドレス　www.j-do.jp/

SRS・DX Editor's Talk
編集部トーク 裏事情

8・8UFOドームは小川VS三沢？

A 今、マット界の一番の話題は、真夏の格闘技興行大戦争だが、時期的に何かが起こるんだったら、そろそろ発表しなくちゃならないんで、この手の話をするのは微妙だね。もしかしたら、こうやって話していることと違うことが、本誌の発売前後に発表される可能性もあるからな。

B うん、だけど噂は凄いんだけど、現時点で全貌が見えていないんで、もしかしたら何も起こらない可能性だってある。発表できないからには何かそれぞれ事情があるんだろうから。

C 猪木さんはすでに非公式ながら、8・8UFO東京ドーム大会と、8・11国立競技場でK―1VS『プライド』をやるとコメントしてスポーツ紙にも掲載されましたよね。また8・14有明コロシアムで、K―1VS『プライド』をやるという噂も出ています。

A あれは明らかに猪木さんのフライング。関係者が慌てて否定していたらしいよ。

B 俺が思うに、UFOの問題はどんなソフトで勝負するかということで悩んでいると思うんだよね。たとえば、K―1のアーツやミルコがUFOに出るという話も頻繁に出ているんだけど、これはまず不可能な話。去年、小川と石井館長が1億円問題を巡ってモメたからと言うんじゃなく、時期的に無理なんだよ。もし、K―1がその時期に『プライド』とやるんだったら、完全に選手がバッティングしてしまうし、K―1は8・17ラスベガス大会もある。その前にも7・14福岡大会があって、そこにはアーツもミルコも参加予定選手として名を連ねているからね。

A 『プライド』だって、スケジュール的に興行が立て込んでいるだろう。

B うん、だからすでにUFOの川村社長が石井館長や『プライド』関係者と会ったという話もあるけど、もし会ってたとしたら、石井館長らは丁重にお断りしていると思うよ。ま、それか一線級のファイターは出せないけど、なんらかの協力はしましょう！　という話になっているんじゃないかな。

C そう考えると、UFOの東京ドーム大会は、小川VS三沢のシングルになる可能性が高いですね。純プロレス・マッチというか。

A 俺もその線が高いと思う。格闘技の一番いい選手は今、K―1と『プライド』がほとんど抱えている。UFOには小川という凄いタマがいるけど、対戦相手を格闘技系から独自に見つけることは難しいからね。本当に小川と東京ドームでやれるタマは、ヒクソンしかいないだろう。

B あとは、吉田秀彦のような、まったく手アカのついていないような大物選手とかね。タイソンとか(笑)。でも、それをまとめきるには相当の政治力が必要だからな。

A そうなると、やっぱり純プロレスのビッグマッチになってくる。8・8UFOドーム大会が日テレで放送されるんだとしたら、そこに出てくるのは三沢ノア勢だと思うよ。日テレが調整に入れば、それは不可能なことじゃないし。

C でも、純プロレス路線を打ち出したとしたら、新日本プロレスのG1シリーズと完全にバッティングしますね。猪木さんも苦しいんじゃないですか？

B 一番ワリを食いそうなのがG1だよね。うまく、他と連動させられればいいんだけど、そういう問題もたしかにある。

C 一方のK―1VS『プライド』の動きはどうなってるんですか？

A それに関しては、『プライド』やK―1のシリーズですでに協力体制をガッチリ見せているんだけど、全面対抗戦につなげるには大会場が必要。その調整が問題になっているんじゃないかな。

B まあ、そういうことだろうね。噂される国立競技場にしたって、格闘技のイベントに貸し出したことはないからね。

A まあ、いずれにせよ、もし興行戦争が起こったら、必ず勝ち組と負け組がハッキリ出る大勝負になるのは間違いないよ。■

▲昨年4月18日のZERO－ONE旗揚げ第2戦のタッグマッチで実現した小川VS三沢。2人のシングル戦が8・8ドームの目玉か？

◎K―1フランス大会を見て思ったことは、アニメじゃないが、日本の格闘技文化はあらためて世界に通用するソフトだということだった。これまで、世界中で格闘技スポーツが生まれてきたけど、ボクシング以外は世界に通用するソフトになっていない。それはなぜかというと、一生懸命スポーツを作ろうとすることしか考えてないからだ。しかもスポーツを作る上で、システムとかルールばかりに目がいき、肝心の部分が見えてない。ラスベガスに行っても、フランスに行っても、現地で体験するのは、執拗なほど決められたルールに対して頭でっかちになっている関係者たちである。そんなことだけにしか目がいかないで、他者に評価される面白いソフトが作れるのか！　彼らは自分たちの半径何メートルの世界でしかモノが見えていない。それに比べて、日本のプロデューサーやファンは、まず人から入る。自分たちでキャラクターや幻想を作り上げ、どんなファイトをすれば評価されるかということを選手自身に叩き込む。リング上の闘いとファンが、エンターテインメントとしての格闘技を作り上げるために、互いに鍛え合うという関係が成立しているのである。だから、バンナやハントのように、日本のファンやマスコミに鍛え上げられた選手は、どこの国に行ってもプロ魂を発揮し、観客を惹き付けることができる。ただルールを作って、勝ったのは誰々を競い合って満足しているジャンルとは次元が違うのだ。そう考えると、このジャパニーズ・スタイルの格闘技は、まだまだ世界中で想像もできないほどの大きなビジネスになることが今回はっきりと分かった―(谷川)

SRS・DX

次号の発売日は6月27日(木)です。

発行元：株式会社フジテレビ出版／株式会社ローデス
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　☎03-3295-4445
販売元：株式会社扶桑社
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8888
発行人：柳沢忠之　編集長：谷川貞治

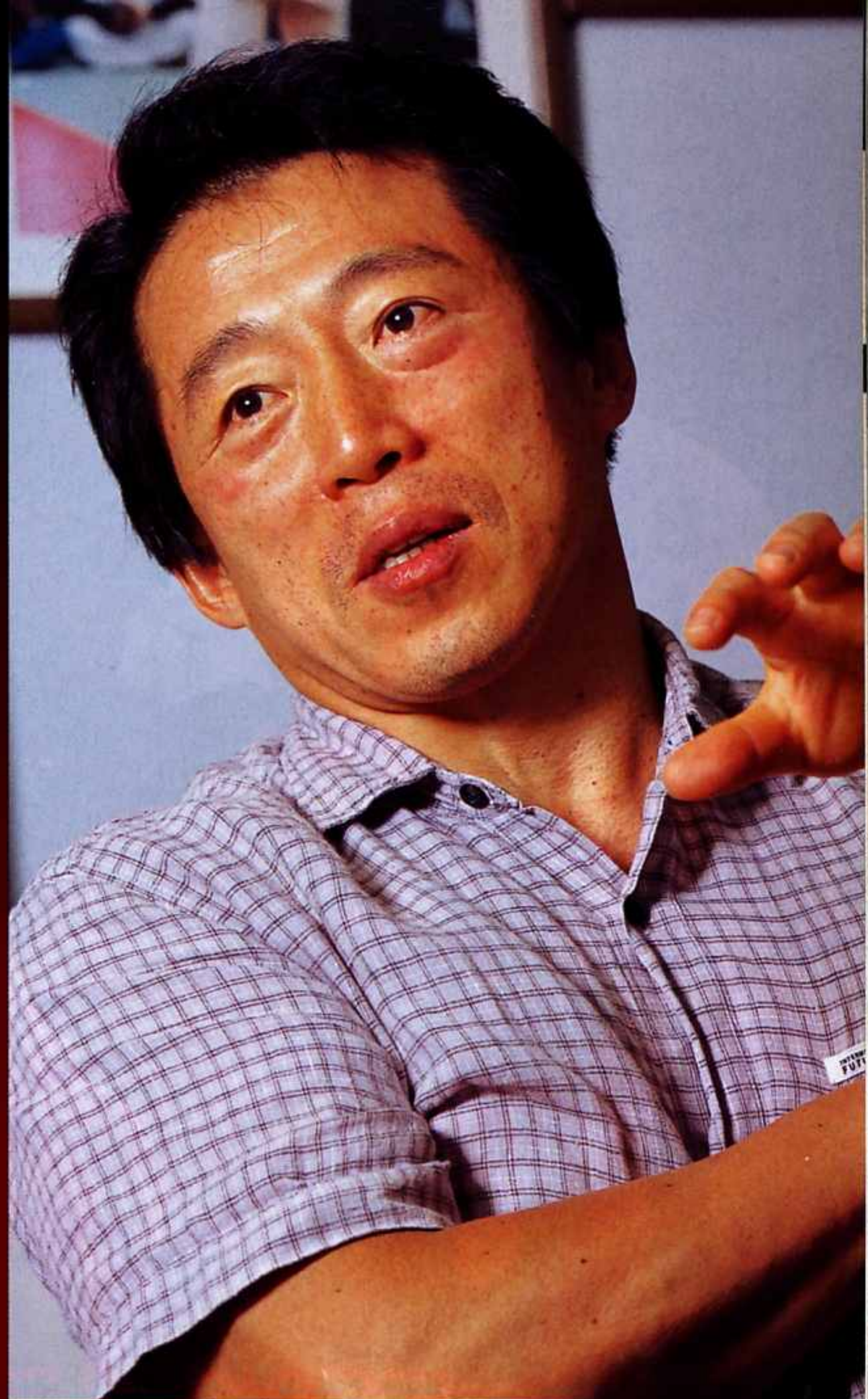
DESIGNER：梅村あゆみ、水町由美子、su・plex、溝口真穂のじ、小林善夫、2in1、ナール企画、NORTON

魁（さきがけ）!! 大道塾

私が大道塾塾長、東孝である！（今日は飲んでません）

日本vsフランス対抗戦
7・17『THE WARS VI』（後楽園ホール）
開催決定!!

顔面パンチに加えて、投げ、関節＆金的まで
導入している大道塾は常に現実の場というものを
厳しく見つめている空手団体と言っていいだろう。
その大道塾がさらに一歩闘いの現場を直視したのが集団戦という
スタイルだ。まさに魁！いかなる状況においても生き残り、
あるいは身内を守り抜くという男気スタイルの具現化が
この闘いには集約されている。そんな大道塾が7月17日、
素面での大会『THE WARS VI』を開くという。
その内容と理念を塾長、東孝氏に聞くのである！

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）
撮影◎中島ミノル

「いつも酔ってばっかり」ってカアちゃんに怒られちゃったんだよ

東　さぁ、今日は飲みに行かないぞ！

――え!?　どうしたんですか！

東　いや、いつも酔って赤い顔した写真ばっかりでカアちゃんに怒られちゃったんだよ。だから、今日はジョッキを大道無門の湯飲みに代えて厳粛に（笑）。

――威厳を持ってと。なんか奥さんが一番強かったりするんですか。

東　もう最高師範です。もしくはサイキョウ師範だね。

――最強ですか（笑）。

東　違う！　妻が恐いと書いて"妻恐"！（笑）。

――ワハハハ！　相変わらず、先生は最高です（笑）。なんていうか、大道塾って先生のそういう個性が凄く生きてるというか。金的ありにしてもそうですし、前回の体力別の大会で行った5対5の集団戦なんかにしても凄く発想が面白いんですよね。

東　うん（笑）。あれをバトルロイヤルみたいに取ってる人もいるみたいだけど、俺としては昔の合戦とかをイメージしたものなんだよ。

――あ！　あれは合戦だったんですか？　ボクは路上の闘いをシミュレーションしたものだと思っていたんですよ。

東　それもあるけど、原点は戦国時代の戦さをイメージしてるんだね。チームマッチっていうか、ラグビーとかサッカーにしても、もともとの発想は戦さから来てるんだよ。ボールを媒体としていかに相手の陣地を奪っていくかっていうね。で、俺は両方の陣地に旗を立てて、それを取り合う、と。そういうふうにしたら、当然、旗を取ってくるための作戦が必要になるし、フォーメーションもあるだろうしね。その中では、さっき言った路上の闘いのシミュレーションである1対複数の闘いもあるだろうし、複数対複数の闘いもあるだろうと思ったんだよね。

――凄く面白いですよ！

東　俺はそれを20年前から考えていたんだよ。

――随分温めてきましたねぇ（笑）。

東　熟考の上ですよ（笑）。あのさ、お正月、元旦にラグビーとかあるじゃない？　あれを見ていつも俺は「なんで、こんなんで国立競技場が一杯になるんだ」って思ってね。だったら、各団体の強いヤツを10人ぐらい並べてさ、ヨーイドンでやりあったら面白いだろうなっていうのもあったしね。

――そんなことをお屠蘇飲みながら考えていたんですか、顔を赤くして（笑）。

東　そうだよ（笑）。

――ワハハハ！　で、さらに素晴らしいのが前回の集団戦では女子選手が旗の役目だったっていうのがいいんですよねぇ。

東　そうそうそう。女の子を守るんだよな（笑）。はっきり言ってまだ実験段階でマットも狭かったからってことでやってみたんだけど、それもまたいいんじゃないかと思ってね（笑）。

――いいです！　ずっとそのままでやってほしいですね（笑）。集団戦ってだけで面白いなって思ってたのに、女子を守るっていうのは理解しやすいんですよ。

東　だいたい男が強くなりたいっていう原点はそこにあるんじゃないの。自分の身内を守りたいとか、早い話、自分の彼女を守りたいとかっていうね。

――だから、先生の考え方の原点は常に男が身体を張って何か守る時にどうするかってところですよね。

東　そうだね。だから、ウチは現実問題として自分の身をどう守るか、仲間を守るにはどうしたらいいかってことをズーッと考えてきたからね。だからこそ、素手にこだわってきたし、着衣にこだわってきたし、あとは集団戦っていうのもそこから出てきた発想だからね。

――現実を真面目に考えたら、それしかないと思うんですよね。実際、1対1の闘いなんてそうはないって喧嘩をしてきた皆さんはよく言いますからね。

東　変な話、俺の経験から言っても10回のうち1回あるかないかだよね。100回のうち数回かなぁ。

――だから、今度の7・17『THE WARS』でも着衣武道の確立というのを謳っているところが現実を見据えているという意味で、ただのVT的な試合とは一線を画してると思うんですよ。

東　いいこと言うねぇ（笑）。でも、それがウチの理念だからね。

――それで集団戦にしてもそうなんですが、やってほしいなってことがいくつかあるんですよ。これはこっちの勝手な要望なんですが、言っていいですか（笑）。

▲5・5『北斗旗体力別大会』の中で実験的に行われた集団戦。キャプテンマークを付けた女子選手を守りながら、5人対5人が一度に闘う斬新すぎる試合形式（大勢に囲まれたり、寝技で極めても後ろから殴られたりするのだ！）は大道塾の理念の塊とも言えよう

魁!!大道塾

東　いいよ、いいよ、参考意見はいくらでも聞くよ。ただ、今回、集団戦はないんだよなぁ。

――あ！　ないんですか、残念だなぁ。例えば、3対3みたいなモノも難しいですか。

東　ああ、そうか、そうか。俺の最初の発想っていうのは昔の合戦だからね。それを部分的に切り取った形としての3対3っていうのは面白いかもしれないね。俺は潜在的にそういうものはプロレスがやるもんだみたいにして、最初から拒否反応があったかもしれないね。

――コンテンダーズという組み技の試合ではタッグマッチですけど2対2とかあるんですよ。

東　そう。でも、タッチしないでいっぺんにやるっていうのは面白いかもしれないね。ただ、そうなると広さが必要になってくるんだよ。人数が多くなるとどうしてもワァ〜と団子状態になっちゃうんだよね。だから対複数でやるっていうのは動ける広さが必要なのよ。

――じゃあ、後楽園ホール全体を使って（笑）。

東　客席になだれ込んでか？　やるとなったらそれしかないな、変な話（笑）。

――見たいなぁ（笑）。

東　それは勘弁してくれよ（笑）。

――残念です。あとは小川さんが着衣の技術を極めた試合をしてるじゃないですか。そこを活かしてほしいなって思ってるんですよ。

東　それは俺もそう思ってるんだよな。

――だって中段突きにいくフリして道衣を掴んでそのまま引き倒したりっていう技術って、可能性を感じるし、何より、発想として刺激的なんですよね。まさに着衣ならではですからね。

東　そうだよな。でね、海外の連中はそういう技術に凄い関心があるんだよね。ところが逆に日本の場合はどうしても倒して勝ちたいっていう意識があるんだよ。

――KOしたい、と。

東　そうだろうね。だから、確実に小川が勝ってるのに、いま一つみんながマネしてやる感じにならないっていうのは、あれは小川の特別編なんだっていう発想なんだよね。やっぱり、その根底には殴って倒したいっていうのがあるんだろうね。まあ、非常に狂暴な人たちだね（笑）。

――自分の弟子ながら（笑）。

東　そうそうそう（笑）。

――だから、ああいうものを生かすような試合形式。例えば、道衣着用っていうのはこれまでもやってるじゃないですか。じゃあ、それを一歩進めて、今回は普段着でやってもいいんじゃないかなと。

東　ああ、そういうのはどっかの団体でもやってるよね。

――そうなんです。だから、考えたんですよ。大道塾らしさを出せる着衣は何か？　で、提案したいのがガクランなんですよ（笑）。

東　ワハハハ！　なんだよ、そりゃ（笑）。

――しかも昔、自分が着ていた長ラン着用（笑）。

"ガクラン"マッチをやってほしい？ なんだよ、そりゃ（笑）

東　高校時代に着てたヤツか（笑）。

――裏地にはもちろん虎とか龍とかの刺繍が入ってるんですよ。そんな2人の男がマットの上でタイマン勝負ッスよ！　"魁!!男塾"ならぬ"魁!!大道塾"ですよ！

東　ワハハハ！　そうなると非社会体育になっちゃうよ（笑）。

――着衣の技術が活かせて、大道塾らしくて、そしてお客さんも楽しめるっていうのがあるかなっていうので言ってるんですけどね。

東　分かるけどさ（笑）。

――ただ、みんな絶対にふざけてるって取ると思うんですけどね（笑）。

東　そこだな（笑）。集団戦の時だって、ふざけてるって言う人もいたんだからさ。

――まあ、実現はかなり難しいと思いながら言ってるんですけど、ただ着衣の技

フランス軍団を迎え撃つ日本代表はこの面々！

稲田卓也
〈大道塾横浜支部/00北斗旗重量級優勝〉

小川英樹
〈大道塾中部本部/93〜97 & 01北斗旗軽量級優勝、99北斗旗中量級優勝、01北斗旗世界大会軽量級優勝〉

飯村健一
〈大道塾総本部/89 & 92 & 94北斗旗中量級優勝、99北斗旗軽重量級優勝〉

山崎　進
〈大道塾総本部/98 & 99北斗旗重量級優勝、01北斗旗超重量級優勝〉

八島有美
〈大道塾横浜支部/女子ボクシング日本フライ級王者〉

藤松泰通
〈大道塾総本部/01北斗旗重量級優勝、01北斗旗世界大会重量級優勝、02北斗旗超重量級優勝〉

◀フランスの着衣総合格闘技大会『ゴールデン・トロフィー』には、日本からも修斗勢を中心に選手が参戦。一昨年は桜井"マッハ"速人がトーナメントで優勝。ワンマッチ大会『グラン・トロフィー』に改称した昨年は大道塾から小川、稲田も出場した

魁!!大道塾

もう俺が政治家になるしかないなと、そう思う今日この頃です（笑）

術は大道塾ならではのものなので、それをうまく出せたらいいなとは思うんですね。実際、大道塾は投げ、関節、そして金的と、革新的なことをしてきた団体で、本当に"魁"だと思うんですよ。

東　だから、さっき言った2対2とか、3対3っていう発想は面白いと思うね。それは俺の中であえて無視していた部分だったね。現実的にはそういうことってあるわけだから、それは面白いね。

――実際、寝技は素晴らしいとは思いますけど、現実問題として寝技に入って相手の仲間に蹴られたらどうするんだっていうのがありますからね。

東　絶対そうだよ。それはもう変な話、俺はもう経験から知ってるんだから。格闘技界の悪いクセは打撃がいいとなったらムエタイ最強でしょ。そうするとウチは中途半端な打撃をやってって言われたわけでしょ。それで寝技の時代になったら、今度は中途半端な寝技なんかやって、と言われてワリ食ってるんだけどさ（笑）。でも、俺は体験上絶対に間違いないって思ってるからやってるんだけど、いくら俺が何回言っても、大量の情報が入ってきたら生徒なんかそれに振り回されちゃうからね。

――ですね。だけど、単純に考えれば分かると思うんですよね。

東　そう！　いい話になってきたね（笑）。

――でも、本当にそうですからね。だから、今回のWARSはそこの部分に着目して見ていくと面白いと思うんですよ。しかも、日本対フランスの対抗戦になるわけですからね。

東　フランス側はリュットコンバットっていうレスリングや柔道にサバットを加えた競技なんだよ。ゴールデン・トロフィーを主催してるんだよね。

――修斗のマッハ速人さんや、大道塾の小川さんも出場していた大会ですね。

東　そう。向こうは国が認めてる競技なんだよな。だから選手の中には柔道のナショナル選手がいたりするわけよ。ましてフランスの柔道は国技に近い競技だからね。

――柔道人口も日本より多いみたいですからね。

東　そうなんだよ。だから、武道の中でも地位が高いんだよね。

――レベルが高そうですね。グローブはオープンフィンガーグローブですか。

東　そうだね。ただ、向こうで使ってるヤツだからアンコの部分が柔いんだよ。パンチ力は削られるよね。ただ、今回はバンテージをしていいってことだからまあ、どっこいどっこいじゃないの（笑）。

――アバウトですね（笑）。

東　そう、アバウト（笑）。基本線としてはゴールデン・トロフィーの上位選手とウチとの7対7でやるんだけど、ウチからは小川、飯村、山崎、藤松、稲田、あとは女子が八島。八島の場合はまだ調整があって、向こうは素面ではやらせたくないって言ってるんで北斗旗ルールになりそうだね。八島は素面でやりたいって言ってるんだけどね。プラスもう1人。

――その中でルールは微調整。

東　そうだね。基本的には北斗旗からマスクを外した状態っていうことを言ってるんだけどヒジが使えるかどうかっていうところ。あとはグラウンドでは打撃は一切なしにしてほしいっていうことだね。さっき言ったように向こうは国が認可してる競技なんでグラウンドの打撃とヒジは政府の要望で認められないって言ってきてるからね。だから調整中だね。

――でも、これに勝ったらフランスでも大道塾は認められるでしょうね。着衣の技術も広まるでしょうし。

東　あんまり広めたくないねぇ。結局、自分の首を絞めることになるから。次の世界大会のことを考えると寿命が縮まるというかさ（笑）。

――先生、なにを小さなことを言ってるんですか（笑）。

東　ワハハハ！　でもさ、こっちはリスク背負って新しいモノに踏み出してさ、やっと確立したものを体力の優れた外人に教えてだよ、それでまた日本人が苦しめられると思うと複雑なものがあるよ。俺の発想はあくまでも護身だからね。向こうは体力があって技術もビデオで分解されたら日本人のアドバンテージはどこにもないんだもん。

――集団戦しかないですね（笑）。

東　そうか。だけど、向こうも集団で来たらどうするよ、ガクランか（笑）。

――ですね（笑）。

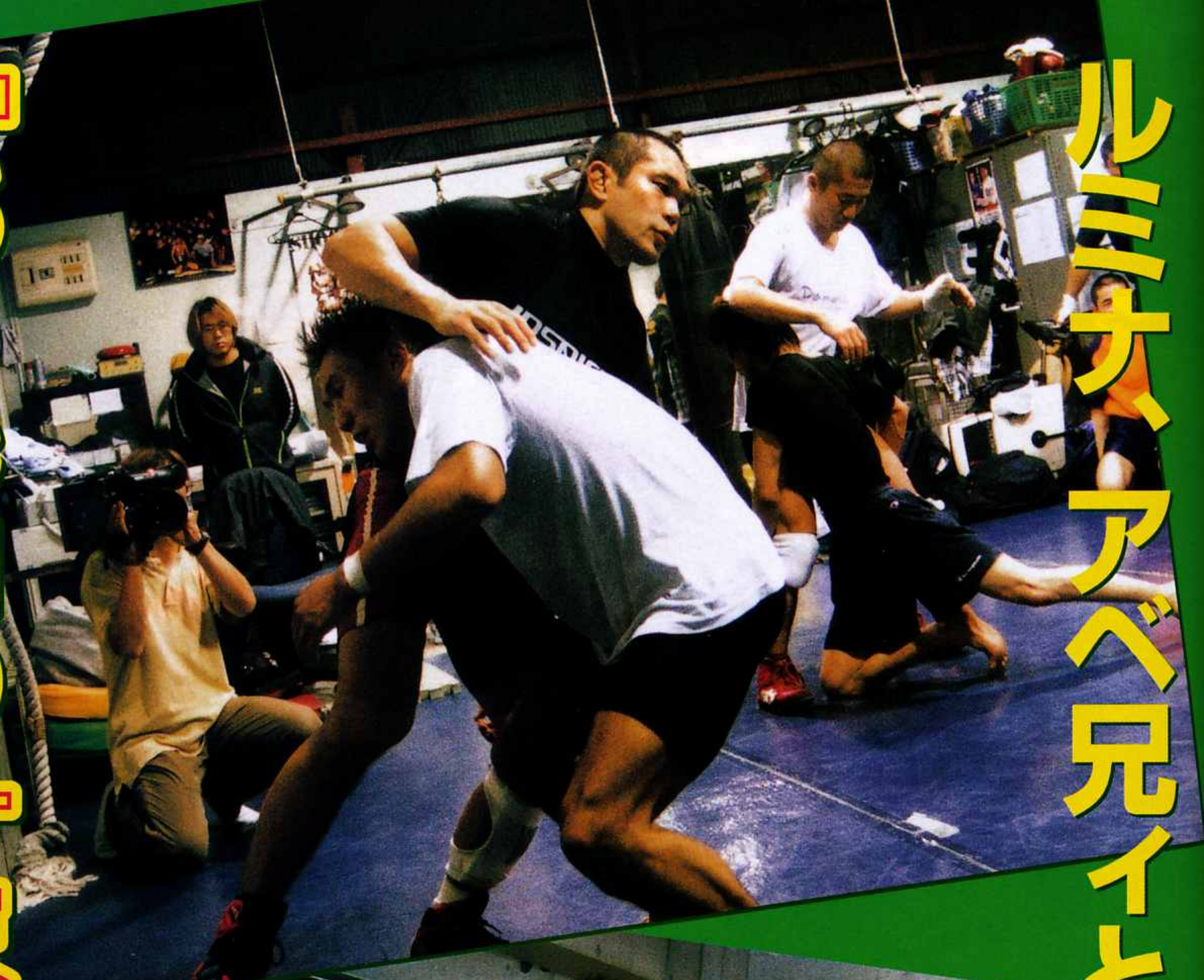
東　だから、柔道は本当にうらやましいよ。今でも半分ぐらいタイトル取れるっていうのはそれだけ支援する組織があるからなんだよね。それに比べると同じ日本を代表する武道文化なのに、打撃の人間はウチみたいに社会人が自分の時間を削って時間をやりくりして作るか、アルバイトしながら、人生のリスク背負ってやるという2通りだからね。もう、政治家は何をやってると！

――政治問題！

東　もう俺が政治家になるしかないなと、まあ、そう思う今日この頃です（笑）。

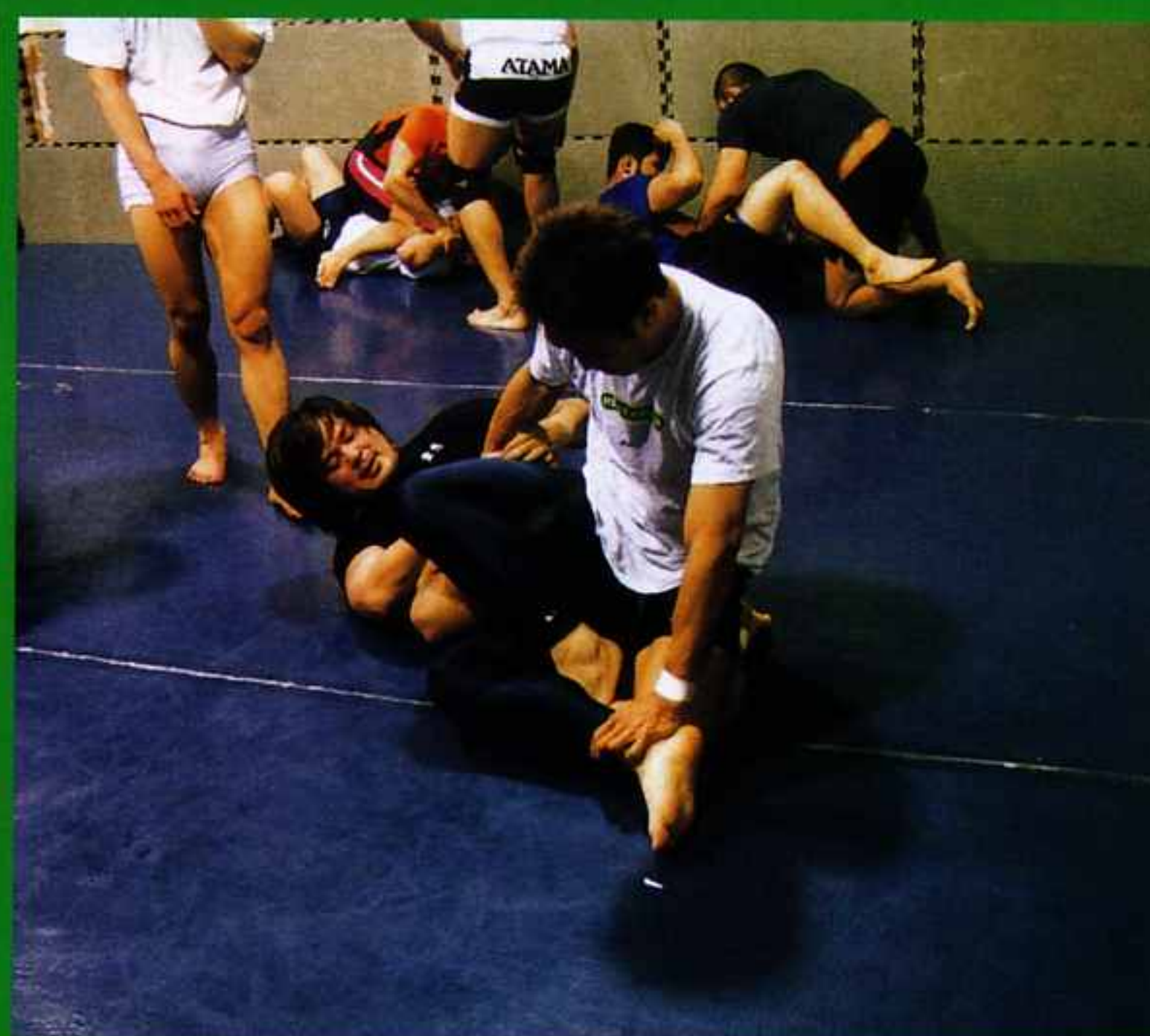
――ワハハハ！　その湯飲みの中身は本当にお茶なんだろうかと思う今日この頃ですが、7・17『THE　WARS』は非常に期待してます！■

『S-cup』まであと1カ月 緒形健一の総合特訓に密着！

ルミナ、アベ兄ィとスパー三昧

7・7『S-cup』でKOKルールの試合を行うことになったシュートボクシングの緒形健一。SBの試合を立て続けに行い、なかなか総合の練習に集中できない状況だったが、いよいよ5月後半から佐藤ルミナのいるK'zファクトリー、阿部裕幸のAACCなどで出稽古を開始。雪辱に燃える緒形の特訓風景をレポートする。

トップシューターも太鼓判を押す オガケンの実力とは……？

▲ルミナのスパーリングを食い入るように見つめる緒形

▶ルミナとはレスリングをみっちり練習。タックルのポイントなどを細かく教わっていた

◀草柳和宏とのスパーリング。足関節の連続攻撃を必死でエスケープ。「ジャンルが違うとはいえ、さすがトップ選手」と草柳

「今度負けたら、ホンットにシャレにならないですよ」

7・7『S—cup』でのKOKルールマッチに備えて出稽古の日々を送る緒形健一が、ふと漏らした一言には恐ろしいまでの覚悟と悲愴感が滲んでいた。

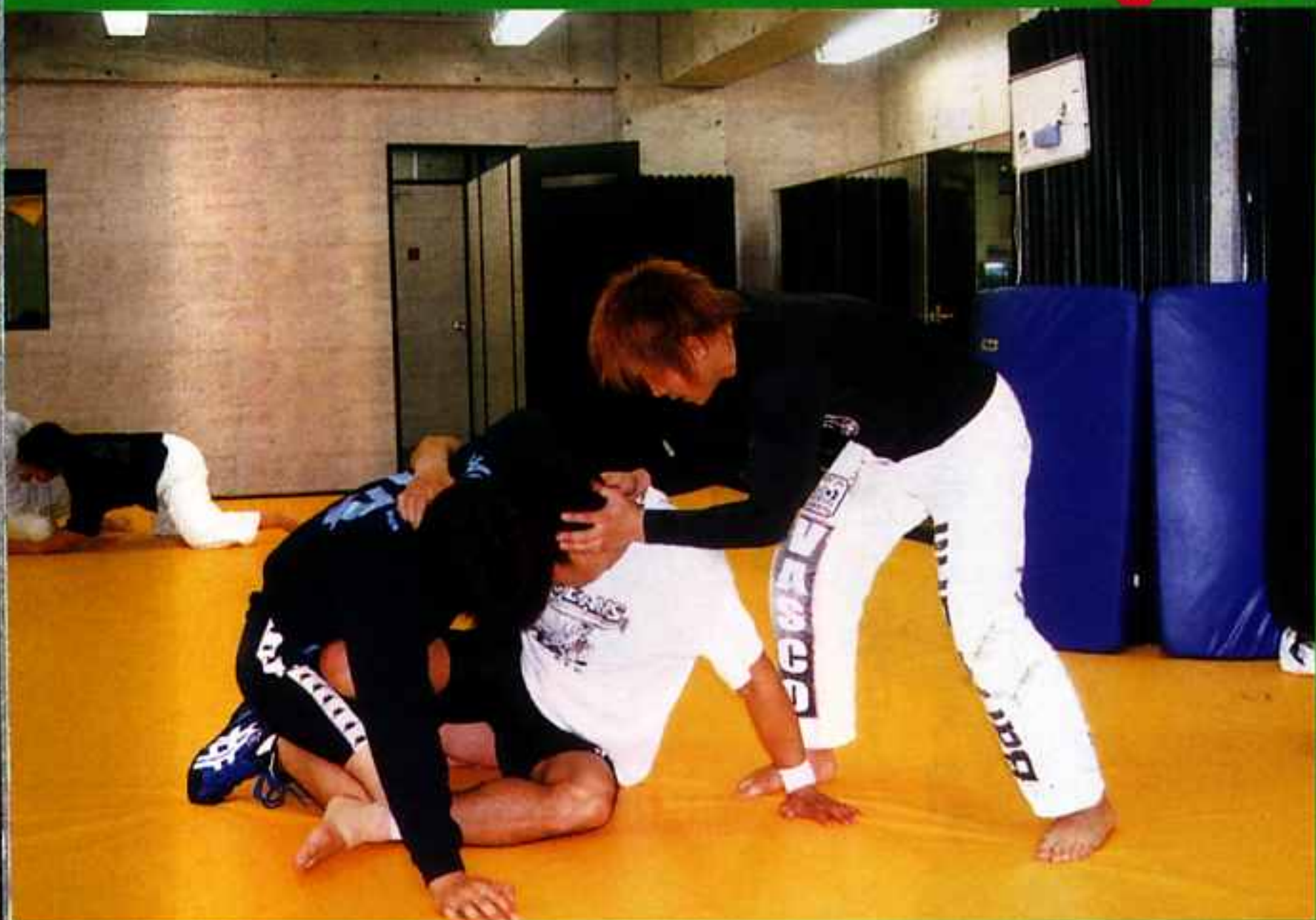
昨年10月のリングス代々木大会で惨敗を喫した緒形。「シュートボクシングの看板を賭けた他流試合」と公言して臨んだ一戦での敗退だけに、今度の試合はまさに崖っぷちだ。総合格闘家たちとのスパーリングにも、おのずと熱が入ってくる。緒形が言うには、総合の練習を始めると自分でもあっという間に体が大きくなってしまうらしい。普段は使っていない筋肉が刺激され、発達するのだ。当然ながら、それだけ肉体的にはハードというわけである。

ただ練習を見ていて意外だったのは、苦しみながらも、いわゆる「ケチョンケチョンにやられる」ような状況にはほとんどならなかったこと。スタンドレスリングでも寝技でも、その道のプロを相手になんとかしのいでいく。取材する側としては「極められまくってボロボロになってるところも絵になるな」なんて目論見があったのだが……。

「前にウチ（Kzファクトリー）に来た時よりうまくなってる」とルミナ。Kzの代表である草柳和宏は「緒形さんとやるといい練習になる」と緒形に声をかけた。そして2人が口を揃えるのが「とにかく力が強い！」ということ。

また、緒形が総合ルールで闘う上で重要となるのがテイクダウンされないことだが、ここで有効に

S-cupまであと１カ月
緒形健一の総合特訓に密着！

首相撲はレスリングでも使える！「SBの技術で勝ちたい」（緒形）

▲スタンドレスリングのスパーでは、かなりの能力を見せた緒形。特に首相撲の形に入ると強い

▲ＡＣＣでの練習では、阿部兄弟から寝技での脱出方法を教わって反復練習

▲タックルの切り方はなかなか様になっていた。"投げあり"のＳＢがどこまで総合で通用するか。それが緒形のチャレンジのテーマだ

▲使う筋肉が違うだけに、普段の練習よりもかなりキツイという緒形。表情からして相当しんどそうだった

▲寝技では「どう動いていいかまだ分からない」という緒形だが、持ち前の体力とセンスでしのいでいく

なるのが首相撲だった。

「これに打撃も使えるんだから強いですよ」というのはアベ兄ィこと阿部裕幸（ＡＡＣＣ）だ。もちろん、勝機を見出すには打撃しかないだろうし、ＳＢの技術で相手を倒すことが本当の勝利だという意識が緒形にはある。

今号の締め切りの時点では、緒形の対戦相手は発表されていないのだが、関係者からの情報では、世界的にもかなり名の知られた選手で、実績からすると前回闘ったカーティス・ブリガムより遥かにランクが上の強豪バーリ・トゥーダーになるらしい。それでも、練習での緒形を見ている限り「なんとかなるんじゃないか」と感じてしまう。いや、マジでいけそうだぞ、と。

何より「前回の負けで会長に恥をかかせたし、ＳＢの看板を汚してしまった」と言う緒形の雪辱を信じてみたくなるというもの。だが、そんな緒形の責任感を危惧する声もある。より近い所で緒形に接している、後藤龍治とシーザー武志会長だ。

「前回の敗因は気負いすぎ。自分のことだけ考えて闘えばいいんですよ」（後藤）

「マジメだから、習ったことを完璧にやろうとしてしまうんだよ、緒形は」（シーザー会長）

過剰なまでにＳＢを背負って闘う緒形には、確かに思い詰めたようなところがあり、試合には常に緊張感がある。だからこそ見ていて胸に迫ってくるのだが、それが慣れない総合の試合で吉と出るか凶と出るか。勝負のアヤは、そこにありそうだ。

（橋本）

S-cupまであと1カ月
緒形健一の総合特訓に密着！

緒形＆関係者が語る 7・7“崖っぷちの他流試合”

「もうここまで来たら、前を見るしかないですよ」

緒形健一

―いかがですか、久々の総合は？

緒形　やっぱり、寝技になるとどう動いていいかまだ分からないんですよね。

―でも、その割に練習では極められる場面もなかったですよね。

緒形　それはみんな、手加減してくれたからですよ（笑）。

―寝技で下になった感じっていうのはどうですか？

緒形　プレッシャーかかりますよね。上になっててもプレッシャーがあるし。

―その局面、局面で冷静に動けますか？

緒形　実際にはなかなか。見てる分には「ああ、こうするのか」みたいなのはあるんですけど。やってると手も足も動かなくなってきちゃうし。でも、やるしかないですからね。

―試合に向けてはどんな練習を？

緒形　総合の練習を週の半分は必ずやっていこうと。基本はシュートボクシングの技で勝ちたいっていうのがあるんで。総合の練習は最悪の場合を想定して。まずはテイクダウンされないように。

―SBの技で勝つのが前提だと。

緒形　逆にそうならないと厳しいと思います。練習でできても試合でできるとは限らないんで。〝練習のチャンピオン〟っていっぱいいますからね。悪い状況で思ったとおり動けるようになるには、ある程度のキャリアが必要ですから。

―試合まであと1カ月ですけど、大阪での試合（5月13日）もあったりとかして気持ちの切り替えも難しかったんじゃないですか？

緒形　いや、もうここまできたら前を見るしかないんで。むしろ大阪の試合もやりたかったですから。前の汚点があるんで。会長に恥かかして、看板も汚して。ホント、今回は負けるわけにいかないんで。やるだけのことをやって臨むしかないですね。■

「逃げ方さえしっかり覚えれば大丈夫です」

阿部裕幸

―緒形選手の練習を見た感想は？

阿部　大丈夫だと思いますよ。技さえ覚えれば。大事なのはすぐ立つっていうことですね。

―今日の練習でも、その辺はかなりやってましたね。

阿部　KOKルールなんで、顔面パンチがないですよね。だから焦らず立てばいい。足の力もあるし、素早く立つようにすれば。立ち（打撃）もあるんで、寝技で無理していかなくてもいいし。

―寝技の対応力っていう面では？

阿部　バックに回るのもうまいし、チョークもできるんで。逆にね、こないだやられたチョークをやり返してもいいんじゃないですか。防御も今日やったような十字とかチョークの逃げ方ができればもう。あとロープエスケープのやり方も後で教えます。得意なんで（笑）。

―緒形選手の強みはどの辺ですか？

阿部　腰が重いですよね。倒れないことが重要なんですけど、その能力がある。首相撲も使えますよ。タックルを切って、そこから打撃にいけますから。だから大丈夫だと思います。■

「あえてSBを背負わずに、自分のために闘ってほしい」

後藤龍治

―緒形選手とはいつもシーザージムで一緒に練習されてますけど、その後藤さんから見て今回はイケると思いますか？

後藤　練習どおりやれば、まず大丈夫やと思いますよ。

―総合の練習もやってるんですか？

後藤　そんなに詰めてやってるわけではないんですけどね。ルミナさんがシーザジムに来た時とか。それを見てても、やっぱり強いですよ。特に力が強いんですわ。

―前回の反省点というと、どんなところになりますか？

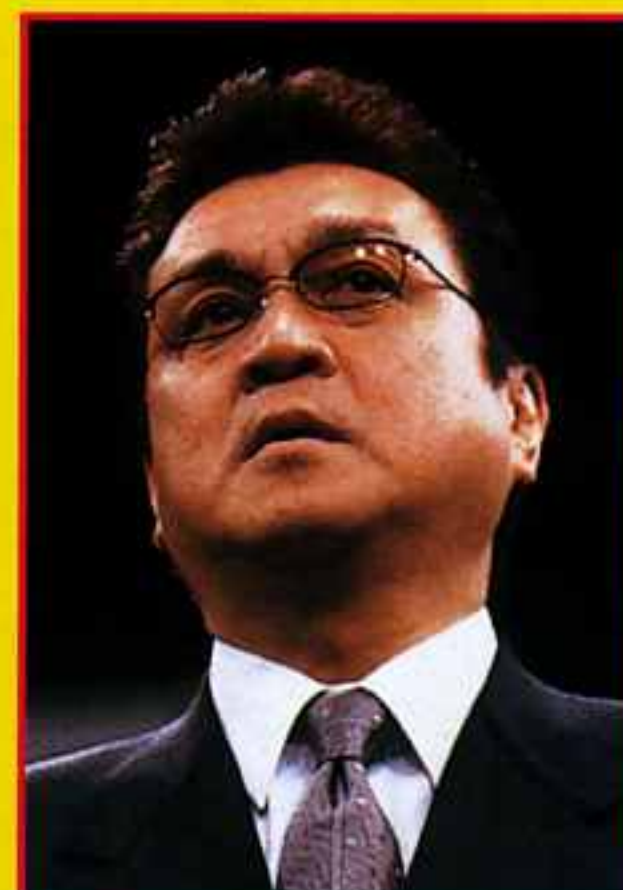
後藤　気負いすぎやないですか。

―ああ～。

後藤　いっつもそうですからね。マジメすぎるというか。それでかえって動きが固くなったと思うんですよ。

―責任感がアダになるというか。

後藤　だからね、今回はもう、何も背負わんとやってほしいですわ。なんにも気にしないで、自分のために闘ってほしいと。そうすれば絶対に結果は出るし、それがSBのためめってことにもなると思いますからね。■

「このまま終わる男じゃないし、僕が終わらせませんよ！」

シーザー武志

―今回の総合再チャレンジは、緒形選手のほうから？

シーザー　そう。でも僕も即決しましたよ、もちろんね。やっぱりねぇ、格闘家ってそういうところがあるんですよ。取り戻したいものがね、出てくる。

―なくした物を取り戻さないと、前に進めないという。

シーザー　まあ前には進めても、何か引っかかるんだよね。

―何かアドバイスはされましたか？

シーザー　今、いろんな所に出稽古に行ってるんだけど、たくさんスパーリングをしてこいと。そこで身に付いたモノで勝負すればいいんじゃないかな。

―技術を習うより、スパーリングで。

シーザー　そう。あいつマジメだからね、習ったことを完璧にやろうとしすぎちゃうんだよ。そうじゃなくて、スパーリングの中で作った自分の自然な動きを大事にしてやればいいと思う。

―僕たちも今回はホントに期待してます。

シーザー　このまま終わる選手じゃないですし。

シーザー　終わりませんよぉ、それは。僕が終わらせませんよ！■

K-1ジャパンシリーズ　～富山初上陸～

K-1 SURVIVAL2002

6・2★富山市総合体育館

『プライド』史上、最もノゲイラを苦しめた荒馬ヒース・ヒーリングがゴールデン・グローリーの盟友のためセコンドとして登場

またも『プライド』からの刺客登場!!

ヒース・ヒーリングの盟友がK－1リングに殴り込み!!

オランダのゴールデン・グローリー所属のハリッド・“ディ・ファウスト”。総合の試合は４勝１敗、ボクシングの試合は２５勝１敗１分という戦績

天田ヒロミの負傷欠場により、急遽、出場することになった柳澤。ゴールデン・グローリー勢を止めることはできるか

強いぞ『プライド（ゴールデン・グローリー）』軍、思う存分大暴れ!!

3R、右ストレートでダウンさせられた柳澤はそれでも果敢に打って出たが……

▼3R、最初のダウンシーンがこれ。カウンター気味に入った右ストレート一発で柳澤はヒザから崩れていった

中迫VSボブ・サップ戦で最も株を上げたのは、乱闘時真っ先にサップの頭を抑えてヒザ蹴りにいった金泰泳と、乱闘時エプロンサイドまで行きながら結局リングインすらしなかった武蔵の2人なのである。

この好対照な両者の振る舞いから得られる教訓は、他流試合の最中では選手もセコンド陣も中途半端なことを決してしてはいけないということなのだ。怒るなら最後まで怒りきる。傍観者の立場を取るのであれば、かぶりつきで見物して、そして帰って来るべきなのである。花道を引き揚げる最中に悔しさの声を挙げたりするのは言語道断。まるで怒ってるフリをしているように見えるので慎むべきだと痛感したりしたわけだ。

そういう中で言うなら、このハリッドは徹頭徹尾素晴らしいパフォーマンスを見せてくれたと言っても過言ではない。

どうやらパンチに自信のある彼は、ゴールデン・グローリーの盟友ヒース・ヒーリングのアドバイスのもと、髪型を拳カットに整えて来日。はっきり言ってこれだけでも十分に恥ずかしいのに、よく見れば〝拳〟ではなく〝拳〟になっているから実に惜しい。ギリギリ、アウトであるのがバカ丸出し感をさらに増幅させて、見る者を敗北感へと導くのだ。もう見事の一言。

もちろん試合のほうもパンチ主体でガンガン攻める。ボクシング経験27戦25勝1敗1分という割には大振りなパンチを1Rから放ち続け、3Rには右ストレートで1回、右フックで1回の計2度のダウンを奪い、柳澤の鼻骨を叩き折

◀今回、蹴りで活路を見いだそうとした柳澤。

ってTKO勝ち。最後まで拳にこ

K-1ジャパンシリーズ　〜富山初上陸〜
K-1 SURVIVAL 2002
6・2★富山市総合体育館

K-1選手達よ、この状況を黙って見ているつもりか!!!

シュルトに続き、K−1リングで2勝目を上げたゴールデン・グローリー勢。次はギルバート・アイブルが登場という話まで持ち上がっている

▲1Rから打ち合った両者。ボクシングをベースとするハリッドのほうがパンチに関しては当然、上だ。それでも打ち合いにいった柳澤に、わずかながらの成長が見えるかもしれない

▶自慢の鉄の拳で再三、柳澤をコーナーに詰めていく

★第4試合/K−1他流試合5番勝負（3分5R）
○ハリッド“ディ・ファウスト”（3R終了時、ドクターストップ）柳澤龍志●
〈ドイツ／ゴールデン・グローリー〉　〈チーム・ドラゴン〉
※3R終了時に柳澤の鼻骨骨折が判明し、ドクターストップ。
柳澤は、3Rにファウストの右ストレートでダウン1、右フックでダウン1あり

◀今回、蹴りで活路を見いだそうとした柳澤。ヒザ蹴りやミドルキックを試みて、なんだかキックボクサーみたいだった

ハリッドのコメント

「最初はアマダが相手だと聞いていたので残念だ。次はアマダとやりたい。ゴールデン・グローリーは素晴らしいジム、選手全員が厳しいトレーニングを積んでいる最高のジムさ。髪型はヒースがいつも行っている床屋でカットしてもらった」

柳澤のコメント

「パンチで行くなと言われていたのにパンチで行っちゃいました。キックで行けばもっと違う展開になっていたと思う。結構攻めてくる選手だったのでやりやすいことはやりやすかった。そこに油断があったのかもしれない。逆に簡単に当てられちゃいましたね。残念です」

▶若干太ったか、ヒーリング？　セコンド姿よりも早く試合が見たいものだ

▶これが問題の“拳”！　ヒーリングいきつけのオランダの床屋で仕上げたバカ丸出しの素晴らしい逸品

▶2度目のダウンで鼻骨を骨折した柳澤。カウント10以内には立ったが、ドクターストップに

ってTKO勝ち。最後まで拳にこだわった素晴らしき“誤植野郎”だったのである。

さてこの結果、ゴールデン・グローリーはシュルトに続いて2連勝したことになる。さらにまた、グローリー最悪の狂犬ギルバート・アイブル参戦の噂もあり、今後ますますジャパン勢は苦しい闘いを強いられることになるだろう。

というか、ジャパンの反撃はいつ始まるのであろうか？　いつになったら本気で、この他流試合というものに取り組むのであろうか？　ルールを守らない相手だから嫌だとか、GPに向けて練習しているのだから、回り道をさせるなとか、そんな呑気な考えはもう捨ててほしいものだ。

結果から言えば、シュルトが勝ち、ハリッドが勝ち、ボブ・サップが中迫より強く見えてしまったということをもっと真摯に受け止めるべきだと思う。

そもそも自分のリングであれだけデタラメなことをされて、なぜ怒らないのか見当もつかない。

かつてドン中矢ニールセンと闘った佐竹は、頭突きからの右ストレート（もちろん反則）によって勝利を強引にもぎ取ったものである。正道会館の他流試合とはまさにこれだろう。

この日は柳澤にしても中迫にしても良くやったほうだと言う人たちにも無性に腹が立つ。人をバカにするにもほどがあるだろう、そんな言い方。

だが、君たちはそういう目で見られているのだ。もっともっと憎悪をたぎらせてリングに上がってほしいと切に願うばかり。（ブチ）

忘れた頃にやってきた掣圏道戦士に

アーツがナメられた！

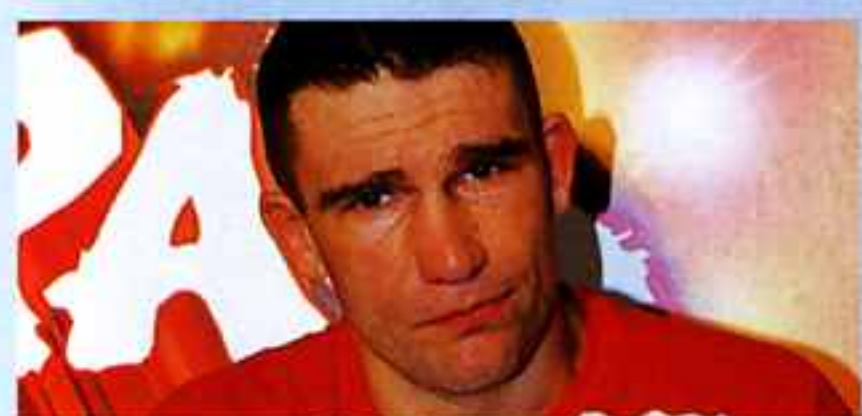
キルサノフは、３Ｒ終盤、アーツの攻撃を受けるものの、まったく効いてないと小躍りをしながらアピール。アーツがここまでナメられてしまうとは……

K─1富山大会で組まれた他流試合5番勝負。シュート・ボクセやゴールデン・グローリーと、現在『プライド』で活躍するスター選手を擁するメジャーな軍団が顔を揃える中、そこに混じっていたのが掣圏道軍団。

ほんの数年前までは、『プライド』と対抗戦を行ったり、選手を派遣したりもしていたのだが、ここ最近は特にメジャーな団体と絡むことなく、独自の路線を突っ走り続けていた。まったく忘れてしまった頃に、掣圏道からの刺客が2人もK─1のリングに現れたのだ。その1人、アンドレイ・キルサノフと対戦したのがピーター・アーツだった。

せっかく、アーツが他流試合に挑むのであれば、もっとメジャーな選手との対戦が見たいと思ったかもしれないが、このキルサノフがなんとも厄介な相手だった。特筆すべきは、何よりも打たれ強くタフであったことだ。アーツが繰り出すハイキックや、パンチをぶっ続けに受けても決してダウンしない底なしのタフさ。実は、マイク・タイソンと同じトレーニング方法で首を鍛えているので、首が頑丈で今までKOされた経験がないということだ。

とは言っても、アーツはホーストのように自分で言わなくても、万人が認める3タイムス・チャンピオンだ。K─1の看板である。しかも、アーツなら、KOで仕留めてもおかしくないほどの相手ではなかったのか。判定勝ちなどで、お茶を濁していい相手ではないし、アーツの立場で許される話ではない。

K-1ジャパンシリーズ　〜富山初上陸〜
K-1 SURVIVAL 2002
6・2★富山市総合体育館

アーツのコメント

「思ったよりタフな選手で、ダメージを与えたと思ったのだが、かなり余裕があったようだ。自分としては5Rをテストのつもりでやった。たまには5Rやって自分のスタミナを試してみたかったからだ。以前は勝って当たり前だと思っていたが、ここ数年ケガなどでコンディションが良くない。まずコンディション作りに重点をおいて、一つでも多く試合に勝って、決勝トーナメントを迎えたいと思う」

キルサノフのコメント

「K－1は世界中で賞讃されているハイレベルな、素晴らしいショーでした。ピーター・アーツは大変素晴らしいファイターでした。ただ、あと少し力があれば勝てたかもしれません。自分のスタミナを最後まで計算しきれなかった。打撃自体はそんなに強い打撃ではありませんでした。KOされるようなものではありませんでしたね。自分はもっと強いものが来ると思ってたんですけど」

◀ダウンこそ奪えなかったものの、終始攻め続けたアーツが判定で勝利。しかし、あまり満足していないのか、表情があまり冴えない

これはもしかして撃圏道殺法か!?

撃圏道殺法爆発！　ニヤリと笑いながらアーツの足を抱え込み押し倒すと、尻餅を付くアーツを尻目にガッツポーズ

「アーツの打撃はそんなに強い打撃ではなかった」（キルサノフ）

キルサノフは恐ろしくタフな男。アーツのハイキックを食らっても、仁王立ちで踏ん張り、ダウンを許さない。その秘密はマイク・タイソンと同じトレーニング方法で鍛えた首にあるらしい

アーツのボディブローをロープ際で食らっても、このとおり「もっと打ってこい」とアピール。なんと神経の図太い男だ

★第6試合/K－1他流試合5番勝負（3分5R）
○ピーター・アーツ（5R判定3－0）アンドレイ・キルサノフ●
〈オランダ／メジロジム〉　〈ロシア／SWA撃圏道協会〉
※50－46、50－47、50－47。キルサノフには2Rにホールディングで注意1、5Rにもホールディングで注意1あり

ところが逆に、相手のキルサノフは完全にアーツをナメ切っていた。アーツの攻撃に怯まないのは見上げたものだが、「もっと打ってこい」と言わんばかりの挑発や、3R終盤に見せた小躍りなどは、決してアーツにとっても許せるものではないはずだ。まして、アーツの全盛期を知っているファンにとってはなおさらだろう。

他流試合というものは、お互いの流派の看板を背負って闘うもの。勝負事はなんでもそうだが、特に看板を賭けた闘いというものは、ナメられたらお終いである。K－1の中でも屈指と言っていいほどの、ド迫力ファイトを繰り広げてきたアーツにとって、ナメられるということは、存在自体を否定されたも同然。この試合はあまりにもいただけなかった。

それに比べて、今回の撃圏道軍団の活きの良さと言ったらどうだ。格闘技ファンの中ではすっかり忘れられていた、〝撃圏道〟という単語を、しっかりと思い出させることに成功したではないか。彼らは無自覚かもしれないが、しっかりと他流試合の効果を自分のものにしたのだ。

シュート・ボクセなどのメジャーチームと違って、試合前は誰も気に掛けなかった撃圏道軍団。しかし、アーツに不甲斐ない試合をさせ、ニコラスの骨折というアクシデントを引き起こすなど、何か強烈なエネルギーを持っているのは間違いない。アーツも「5R闘ったのはテスト」などと言い訳を言う前に、明らかにナメられてしまったという現実をじっくりと見直すべきだろう。

（小松）

ゾクゾクする意地の張り合い！

この睨み合いは㋮

ジャパンGP代表決定戦、富平VS草津に今のジャパンの可能性と課題が全て見えた！

▲３Ｒ、ブレイク後に攻撃しあい、レフェリーが必死に分けようとする中、両者が一触即発のメンチの切り合いを展開！

Ｋ―１ジャパンの魅力とは何か？　その課題はどこにあるのか？　そういったテーマの答えを探す絶好のヒントが、この富平辰文VSグレート草津戦にはあった。

この試合で最も観客が沸いたのは３Ｒのことだった。クリンチ状態からブレイクがかかったのだが、その直後に富平のヒザと草津のパンチが交錯。割って入ったレフェリー越しに草津がさらにパンチを打って一触即発！　「やんのかコラ！」とばかりに睨み合う両者の姿はたまらなく刺激的だった。この意地の張り合い、ハートの部分の闘いこそがＫ―１ジャパンで見たいのだ。かつて柔道の全日本選手権で吉田秀彦と金野潤が同じようなガンの飛ばし合いを展開した時も心底シビレたのだが、彼らも「全日本選手権」だからこそ、そこまで熱くなったはず。

最終的に「同じ日本人だし」という仲間意識からナアナアになりがちな中、富平は誰が相手でもいつ何時ケンカ上等。今回もアンディ・スピリットを継ぐべく闘う草津に対し「そんなものに頼るのは弱い人間。クソ食らえですよ」と全てのＫ―１ファンを敵に回しかねない挑発で盛り上げ、試合後は草津を「いい選手」と称えたと思ったら「この選手が（ジャパンＧＰに）出るなら、草津さんが出たほうがいいっていうのもいるじゃないですか」と今度は別方向で波紋を起こしそうな発言。

いいぞ、富平！

が、そんな感情ムキ出しの富平VS草津戦だったのだが、試合としてどうだったかというと、これが凡戦としか言いようがないから困る。ドロドロのグチャグチャ。ク

K-1ジャパンシリーズ　～富山初上陸～
K-1 SURVIVAL2002
6・2★富山市総合体育館

富平のコメント

「勝ってホッとしました。僕と草津選手が試合したところで、特に面白いカードじゃないし（笑）。お互い崖っぷちだったんですよね。面白くないカードで、面白くしなきゃいけなかったし。でもお互い結果も出さなきゃいけなかったし。なんか、ヒールになってきちゃいますね（笑）。アンディファンを敵に回しちゃったかな？」

草津のコメント

「負けたんで、何を言っていいのか分かりません。（練習してきたことは出せたか？）いや、できなかったと思います。（クリンチが多かったのは）近寄ったら、小さいんで、近くに寄らないと当たらないんで。次出そうとしたら、向こうのヒザがあるんで、クリンチになってしまって。（判定の結果に対しては？）……」

されど、この膠着は×（バツ）

イエローカード連発！

▲試合中とにかく目立ったのが、クリンチによる膠着。至近距離でのパンチ連打を狙う草津と、掴んでのヒザ蹴りで攻めたい富平のパターンがどうにも噛み合わない

▶時折バックブローやバックスピンキックなどを見せた草津。このあたりが〝アンディ・スピリット〟か

▲パンチからローにつなげて確実にダメージを与えていった富平。草津はこれにカウンターのパンチで応戦、グラつかせる場面もあって本戦はドローに

◀再延長3－0で富平の判定勝利。この試合で見えた意地の張り合いと噛み合わない試合展開が、ジャパンの長所も短所もあぶり出しにしていた

▲再延長までもつれたこの試合。明暗を分けたのは富平のロー＆ミドル連打だった。必死の形相で蹴り込むと草津は反撃もままならず

★第2試合/K－1 JAPAN GP 代表決定戦（3分3R）

○富平辰文（再延長R判定3－0）グレート草津●

〈SQUARE〉　〈チーム・アンディ〉

※10－9、10－9、10－9。3Rにレフェリーの制止を聞かず両者に警告1、延長Rにホールディングで富平に注意1、再延長Rにホールディングで草津に警告1あり

ノブ、GPの試運転はうまさで勝利　富山の観客はおいてけぼり……

◀もう一つのジャパンGP代表決定戦では、ノブ・ハヤシ（チャクリキ）が森口竜（極真会館）に判定2－0で勝利。「練習してきた」というロー、ミドルで主導権を握り、さしたるヤマ場を作らないまま、うまくポイントを奪った。ジャパンGP優勝が最大の目標であるノブにとって、この試合は試運転。「KOできなかったのはそれでいい」というが、じゃあ富山のお客さんの立場は？

◀新空手全日本大会を勝ち上がってこの試合の出場権を得た森口。すでにキックでのプロキャリアもあり、セコンドには野地が付いていた。いいパンチを当てる場面もあったのだが、連打する前にノブの反撃を食って失速してしまった。「思ったより緊張しなかったけど、体が全然。手数が出ないっていうか」（森口）

る。ドロドロのグチャグチャ。クリンチ、ブレイク、イエローカード。これがもう果てしなく続いたのだ。なんでこうなってしまったかというと、まず技術的な噛み合わせの問題があると思う。

草津は接近してインサイドからパンチの連打で攻めたい。富平は接近戦では組んでのヒザが得意。というわけで、どうしても膠着してしまうのだが、その状況を打開することもまたできないのである。

で、この試合レベルというのがK－1ジャパンの問題点でもある。「技術レベルなんてどうでもいいから、気持ちを見せてくれ」というのもあるが、やっぱり試合に展開がとぼしいとハートの部分まで見えにくくなってしまう。パリ大会のバンナVSハントだって、ガンガンに打ち合ったからハートも見えたわけで。

この試合がジャパンGPの代表決定戦だったというのも大きい。「負けられない」という意識が強すぎて、動きから大胆さが奪われるんだろう。ついつい確実に、慎重にとなってしまう。あれだけ怖いものなしの言葉を吐く富平にしてからが、思わず「勝ててホッとした」ともらしてしまうんだから。

しかしねぇ。ジャパンGPあたりで汲々としてたってしょうがないだろうに。そこで勝つか負けるかは死活問題なんだろうが、そこをあえて「そんなのどれほどのモンでもない」って気持ちでいたほうが、もっと大きいものを掴めるし、試合のレベルも上がるような気がする。それが結果的に、ジャパンGP全体を面白くすることにもつながるはずだ。

（橋本）

K-1、W杯真っ最中の中、富山に初上陸！

▲会場となった富山市総合体育館は、8,560人の超満員の客であふれ返った

▲全試合終了後には、恒例のファイター全員揃っての記念写真。大乱闘を繰り広げたサップと中迫もきちんと同じ写真に収まっていた

▲いつ見ても華やかなＫ－１ガールズ。Ｇ＋のプラカードで宣伝に励んでいた

▲試合はなかったが、武蔵も来場。中迫とサップの大乱闘の時には、武蔵もリングに駆け付けた

集まった観客は8,560人超満員！

▲K－1ジャパンの初上陸シリーズは、遂に北陸地方にも進出。今回の初上陸の地は、“立山連峰あおぐ特等席”富山だ！

◀解説席には関根勤と石井館長のジャパンシリーズお馴染みのコンビが座っていたが、館長は試合後に「もう解説者を降りる」と衝撃の発言。新しい解説者には角田を指名した

▶▲会場のすぐわきには、富岩運河環水公園というきれいな公園があった

新日本キック

LOCK ON! 奪還

5.26★後楽園ホール

ラジャ2階級制覇ならず、悪夢の58秒KO負け！武田幸三はウォーターボーイズなのか？

ムエタイというプールは底なしだった！

撮影◎中島ミノル

ガオランが敗れ、背水の陣のムエタイに〝武田封じ〟の秘策あり！

突っ込んできた武田を、首相撲で捕獲したサゲッダーオ。だが武田もヒザを返すなど、互角の展開だった

千載一遇、打ち合いのチャンス！ そこに罠が待っていた……

首相撲がほどけると、武田は至近距離での打ち合いを挑む。最も得意なパターンなのだが、そこをサゲッダーオも狙っていた。押されながらも、武田の左のガードが下がったのを見逃さない

▲観客が差し出す手に拳を合わせながら入場する武田。2階級制覇に向け、リラックスした中にも気合いを感じさせた

▶過去、小笠原仁と1勝1敗の戦績を残しているサゲッダーオ。今回は王者としての来日だ。ミドルやヒザを中心に組み立てる典型的なムエタイファイターだと思われていたが……

▲セコンドにつき、試合前に武田のモンコンを外した治政館の長江国政館長。武田がここまで来たのも、この名伯楽あってこそ

▲試合は軽い蹴りの攻防からスタート。意外にも、サゲッダーオはサウスポーで構えてきた

果たして、今の時代に〝打倒ムエタイ〟とはどんな意味を持つのだろうか？　バーリ・トゥードが全盛で、K―1さえも他流試合に乗り出し、そして、そのK―1が中量級トーナメントを開催した今、〝立ち技最強〟のムエタイも狭い世界に見えかねない。

打倒ムエタイなんて「ずいぶんとちっちゃい所で闘ってるな」と思う人だっているだろう。本誌の座談会風に言えば、ムエタイというプールで泳ぐウォーターボーイズってところか。

べつにムエタイやキックをバカにしようっていうんじゃないが、今はそういう疑問を持つところからしか話は始まらないのだ。呑気に試合だけやって、勝ったの負けたの言ってても、あっという間に取り残されてしまう。

だから、今回の武田幸三の試合も〝ムエタイ2階級制覇の偉業なるか!?〟という部分だけで見るわけにはいかない。相変わらず「武田もK―1に出ればいいのに」という声も多い状況の中で（僕だってそうなればいいなとは思っている）、武田はなぜムエタイにこだわるのか、ムエタイの頂点を究めることで何を見せたいのか。それがこの試合のテーマだった。つまり、武田がウォーターボーイズなのかどうか、ムエタイがプールだとして、そこで踊っているだけの男なのかということだ。それを確かめたかった。

試合直前の武田は、いつになくリラックスしているように見えた。気合いは入っていながらも、同時に落ち着きがある。階級をウェルターからJrミドルに上げたことで調整がしやすく、仕上がりも良か

新日本キック
LOCK ON! 奪還
5.26★後楽園ホール

武田、轟沈！ いったい何が起こったんだっ!?

◀ロープ際でもつれるようにパンチを交換したその瞬間、武田が崩れ落ちた！カウンターの右フックを食らったのだ。多くの観客には死角だったため、「何があったんだ!?」と場内は騒然

▶KOの瞬間、トンボを切ったサゲッダーオは〝ウォーッ！〟と雄叫びを上げる。セコンド陣の喜びようも凄まじかった

ダウンカウントが進む。体が言うことを聞かない武田は、それでも上半身を起こしたのだが、ここで無情にもカウントアウトとなってしまった

★第12試合・メインイベント/ラジャダムナン・スタジアムJrミドル級タイトルマッチ（3分5R）
○サゲッダーオ・ギャットプートン（1R0分58秒、KO勝ち）武田幸三●
<王者/タイ> <挑戦者/治政館>
※右フック。サゲッダーオが王座防衛に成功

調整がしやすく、仕上がりも良かったんだろう。はっきり言って、ラジャのタイトルマッチで落ち着いていられるってだけでも驚異ではある。

しかし、その武田の頼もしい姿は、王者サゲッダーオによって、わずか1分後にもろくも崩されてしまう。パンチをヒットさせ、さらに追撃を試みたところでモロにカウンターをもらったのだ。倒すか倒されるかのリスキーな闘いが武田の信条。それでも、これまでは最後に立っているのは常に武田だった。技術でごまかされたり、ヒジで切られたんなら分かるが、パンチでノックアウトを食らうとは……。

K—1でガオランが負け、さらにその1週間後にはボクシングの世界戦でもタイのヨーダムロンが日本の佐藤修に負けている。

「自分が負けたら、ムエタイの名誉をさらに汚してしまう」

背水の陣を敷いたサゲッダーオ陣営は、武田のスタイルを研究し、攻略法を携えて日本に来ていた。タイで修行した際、サゲッダーオと同じジムで練習した深津飛成は、チャンピオンがこう言っているのを聞いたという。

「タケダはサウスポーに勝ったことがないから、1、2Rはサウスポーで離れて闘う。それでも前に出てきたら右を当ててやるよ」

深津もまさかと思ったようだが、まさにその言葉どおりに、サゲッダーオは試合を決めてしまった。サゲッパンチの打ち合いは武田の最も得意とするところ。だがそこにできるスキを、歴戦のタイ人は待っていた。「タイ人は打ち合いをしない

新日本キック

LOCK ON! 奪還

5.26★後楽園ホール

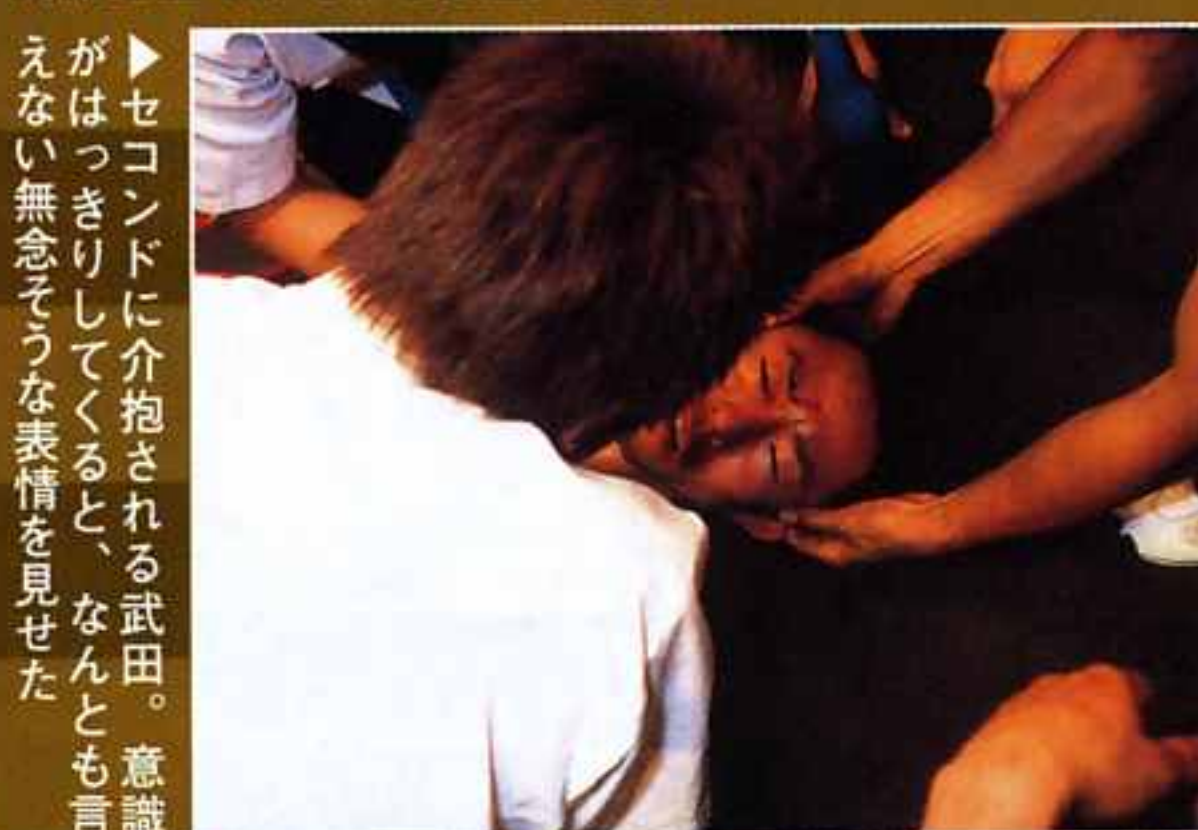
「これじゃA級戦犯」（武田）それも戦争を始めた者の特権なのだ

サゲッダーオのコメント

「タケダのガードが下がったのが分かったので、右フックを入れた。作戦どおりだったけど、こんなに早く終わるとは思わなかった。あまりに早くKOしたので、相手に対する感想はないね。ガオランが負けたのは知ってる。あんなに簡単に負けるとは思わなかった。あれでムエタイの名誉が汚れたかもしれない。今日、自分が負けたらもっと名誉を汚してしまうと思いながら試合に臨んだんだ。自分もK－1ルールでいいから、K－1のチャンピオンとやりたい」

武田のコメント

「ゴメンなさい、期待してもらってたのに。僕がちょっとラッシュして、右が当たるんでラッキーと思ったんですよ。相手がクラクラッときて。そしたら…….。全然見えなかったです。気合い入ってたんですけどね。パンチで打ち勝つ自信はありました。それしか勝つ道はないし。経験不足ってわけではないんですよねぇ。ちょっと自分にガッカリですね。これじゃA級戦犯ですよ。終わっても全然元気なのが悔しいです」

▲見事に王座防衛を果たしたサゲッダーオ。武田を研究し、対策を立て、それを完璧に遂行した

▶セコンドに介抱される武田。意識がはっきりしてくると、なんとも言えない無念そうな表情を見せた

アゴを打ち抜かれてのKOだけに、肉体的なダメージはない。それが余計に悔しさを増幅させるのか

▶フェザー級タイトルマッチ。鈴木敦（尚武会）の挑戦を受けた王者・小出智（治政館）は、序盤こそ鈴木のヒジ、前蹴りに苦しんだものの最後まで変わらぬスタミナとラッシュ力で前進。得意のショートフックを連発して明白な差をつけ、3－0の判定勝ちで王座防衛に成功

▶ライト級チャンピオンの石井宏樹（藤本ジム）の美しい闘いぶりはこの日も健在。2度目の対戦となる韓国の朴炳圭の鋭いパンチに苦しみつつも、確実にローキックを効かせて判定勝利（3－0）。ハイキックも何度となくヒットしたのだが、KOを逃してしまった石井は「人を倒すのがこんなに難しいのかと実感しました」

▲昨年のラジャ遠征で敗れたトーンパンチャンとの再戦に挑んだのはフライ級王者・深津飛成（伊原道場）。得意のパンチの距離になかなか入れず、タイ人のミドル、サイドキックにうまくごまかされてしまう。それでもパンチが評価されて判定2－0で勝ったが、納得のいかない深津はレフェリーに手を上げられるのを拒否してリングを去った

▶遅咲きのウェルター級王者、32歳の北沢勝（藤本ジム）は、かつてKO負けした頼信（トーエル）とノンタイトル戦。5R、ブレイク後のヒジで北沢が流血しドクターストップ、落ち着いた試合運びで優勢だった北沢が4Rまでの採点で判定3－0で勝利したが、突然の試合終了で不完全燃焼だった北沢は不満そうな表情を見せた

からつまらない」なんてのは、それこそつまらない迷信なんだろう。必要とあらばいつだって打ち合うし、それでも滅法強いのだ、ムエタイは。国際式ボクシングの軽量級世界ランキングを見ればいい。そこには、ムエタイ出身のタイ人選手が数多くいる。

　この試合で改めて分かったことがある。ムエタイはマット界全体からすれば小さなプールにすぎないかもしれないが、それが底なしだということだ。水面でバシャバシャやってるうちはタイ人も付き合って遊んでくれる。だが、武田は深く潜りすぎたのだ。一度はタイトルを取って〝底〟を見たと思ったら、さらに大きくて深い淵が待ち受けていたようなもの。

　あるいは武田は、それを知っていたのかもしれない。それでもあえて「底を見てやろうじゃないか」とムエタイというプールに潜り始め、もうかなりの深さまで来た。となったら引き返せないのだ。武田の言う「自分には自分の仕事がある」という言葉はそういう意味だと思う。

　「これじゃA級戦犯ですよ」と試合後の武田は言った。だけど、A級戦犯というのは戦争を始めた張本人だからこそなるものであって、この〝対ムエタイ戦争〟の場合は武田にとって勲章というか特権でもある。他のキックボクサーは、戦争になる前に殲滅されてたんだから。

　それに、戦争はまだ終わっちゃいない。武田か、それともムエタイか。どちらかが音を上げるまで、この闘いは終わらないのだ。武田よ、徹底的に深く潜れ。（橋本）

PANCRASE HYBRID WRESTLING

PANCRASE2002
SPIRIT TOUR

5.28★後楽園ホール

どうしちゃったんだ、パンクラスは? 何もかもチグハグな迷走状態

『プレミアム』での近藤敗北に続き 今度は美濃輪が負けた!!

▲メインでグラバカの佐藤光芳と対戦した美濃輪は、攻め手を全て塞がれて2－0で判定負け

で不完全燃焼だった北沢は不満そうな表情を見せた

「予想外のことは何もなかった」（菊田）

〝奇想天外〟〝常識破り〟という名の型にハマってしまった美濃輪

▲入場テーマが鳴ると、通常の花道ではなく、いきなり観客席の奥から乱入してきた美濃輪。ひとしきり暴れると、今度はダッシュでリングへ向かう。こういうところはカッコいいんだけど……

▲タックルをアームロックで迎撃するのは得意のパターン。このまま相手を後方にひっくり返して上になったが、極めるまでには至らず

下から足で挟みこむ奇襲。しかしながら何度もやっていれば〝奇襲〟ではなくなる

▲何度か試みた足関節も、ことごとく不発。美濃輪の攻撃パターンは全て読まれていた

フランスの映画監督にJ・L・ゴダールという人がいる。『勝手にしやがれ』、『気狂いピエロ』などが代表作で、最大の魅力は、既成の映画文法を脱構築した前衛的な映画作り。だが、このところずっと不調である。かつては前衛的だったテクニックを繰り返すうちに、結局は〝前衛的〟という名の型にハマった映画しか作らなくなってしまったからだ。「あ、いつものゴダール風でしょ。はいはい、前衛ね」という感じ。

グラバカの佐藤光芳に敗れた美濃輪育久の姿を見ていて頭に浮かんだのが、そのゴダールのことだった。タックルを受けながらのアームロック。突如として仕掛けられる足関節技。強引だけど、なぜか決まってしまう投げ。通常の手続きをまったく無視して暴れまくってきたのが美濃輪だった。奇想天外。常識破り。でも、そればかりを続けていると……。

読まれてしまうのだ。今回の佐藤戦がまさにそう。佐藤は美濃輪の攻撃パターンを完全に封じていた。佐藤のセコンド・菊田早苗は「予想外のことは何ひとつなかった」とまで言う。

美濃輪は何度も〝常識破り〟の試合をするうちに、常識破りであることが常識になっていたのだ。奇想天外という名の型にハマってしまったのである。これは〝スタイルの確立〟とか〝自分の型になったら強い〟ということではない。

それでも菊田は「(美濃輪は)ミラクルがある人だから、最後まで気が抜けなかった」と言うのだが、この日の美濃輪には、ミラクルを起こす下地〝火事場のクソ力〟も

いったい、この負けにどんな意味があったというのか？

ガッチリと抑え込み、美濃輪の動きを封じる佐藤。レスリングの地力が大きくモノを言った

佐藤のコメント

「反省する点はいっぱいあったけど、率直に嬉しいです。ランキングが上がるのが一番嬉しいですね。向こうもレスリング主体で、僕は大学までレスリングやってたんで負けるわけにはいかなかった。グラバカで、世界で闘ってきた技術を経験してるんで、パンクラスismの選手に簡単に負けるわけがないです。足関節も、あれは特別な技じゃないんで。いつも郷野さんにやられてますから、全然余裕でした。次は近藤さんにリベンジしたいです」

美濃輪のコメント

「負けたことは全て受け止めて、次に勝てばいいんで。(『プライド』が流れてモチベーションは？）モチベーションって、意味が分からない。判定も30-29とか、引き算もよく分からないし。後退したとは思ってないです。後退ってのは死ぬことで、1日生きた、1試合したことが前進です。再戦っていうより、もっと大きなことがやりたいです。今日の試合は終わってしまったことなんで、また次の最高を目指します」

★第7試合・メインイベント/ライトヘビー級5分3R
○佐藤光芳（3R判定2-0）美濃輪育久●
〈パンクラスGRABAKA〉 〈パンクラスism〉
※採点…30-30、30-29、30-29

▶佐藤の攻撃はタックル一本槍。美濃輪のヒザが当たる場面もあったが、それでも押し込んでテイクダウンする

◀試合後、美濃輪の体調不良を明かした尾崎社長は、本人に休養を命じる。美濃輪は「大丈夫ですから」と譲らなかったが……

◀３Ｒの後半、ついに上になった美濃輪だが、思うように動けない。大きく抱え上げて佐藤の後頭部をマットに打ち付けたりもしたが「あれは盛り上がるけど、あんまり意味ないと思います」と佐藤に言われてしまった

▶『プライド』参戦も取りざたされる上位ランカーに勝ってしてやったりの佐藤は、美濃輪お得意のポーズまでやってみせた。菊田譲りのタチの悪さ（？）

近藤の次戦が決定！ え、百瀬へのリベンジ……？

◀休憩明け、近藤有己がリングに登場。次回、7・28後楽園大会で『プレミアム・チャレンジ』で敗れた百瀬善規（禅道会）とのリマッチが決定したことが発表された

なかった。

尾崎社長によれば、美濃輪は深刻な体調不良だったという。これから3カ月は試合ができず、検査をしなければならない箇所もあるらしい。主な原因は疲労の蓄積。

「本人が『試合したい』っていうのを受け入れすぎた」（尾崎社長）

まったくもってそのとおり。美濃輪は去年1年で7試合もしているのだ。体を壊さないほうがどうかしている。こうなるまでほっといたのは、大事なメインイベンターをそこまで〝酷使〟する事情があったからなんだろう。

しかし、今回のマッチメイク自体、鈴木みのるの欠場を受けて決まったものだが、これから「プライド」に出ようって選手を代打で使わなければいけないほど、パンクラスは手薄なんだろうか。ましてヘタな試合をしたらどうなるか（実際やってしまったわけだが）。「佐藤も強いからなぁ」と思う人と「美濃輪負けたんだ。『プライド』出てるカの若手？　『プライド』相手はグラバカの若手？　場合じゃないじゃん」と感じる人と、どっちが多い？

『プレミアム・チャレンジ』で近藤有己が百瀬善規に負け、今度は美濃輪が佐藤に敗れた。どちらも、2人にとって価値ある敗北だったかどうか疑問が残る。

また今大会では、近藤と百瀬の再戦も発表された。僕は、近藤にはマイナスをチャラにするより、でっかいプラスになるような試合をしてほしかったんだけど。

近藤も美濃輪も素晴らしい素材だ。大事なのは、それをどう外野にまで届けるかなのだが……。パンクラスよ、どうする？　（橋本）

PANCRASE HYBRID WRESTLING

PANCRASE2002
SPIRIT TOUR
5.28★後楽園ホール

この日、一番面白かったのはヤノタク キック王者との異次元対決で魅せまくる！

◀その面白さがパンクラスファンにも完全に浸透したヤノタク。差し合いの際、佐藤がロープに手をかけて固まる（掴んでないので反則にはならず）と、こんな形でブラ下ったりして観客に大ウケ

▲飛び込んだ瞬間に打撃を合わされて焦ったというヤノタクだが、すぐに猪木ーアリ状態になって追撃を防ぐ。ローキックもうまくすかしていた

◀打撃からダッシュで逃げ、佐藤が追いかけてくると仰向けに。そして、つんのめってバランスを崩した相手を三角でキャッチ！ ヤノタクならではの芸術的なフィニッシュに、観客席は沸きまくった

★第5試合/ライト級5分3R
○矢野卓見（2R0分55秒、三角絞め）佐藤堅一●
〈鳥合会〉　〈士道館ジム〉

ヤノタクとMAキック王者の“魔人”佐藤堅一が闘ってしまうんだから今の総合シーンは面白い。寝技VS打撃、持ち味が両極端の2人だが、東洋の神秘が総合デビューの魔人を翻弄、ヤノタクに軍配が上がった。相手にケツを向けたおなじみの構えからバックスピンキックを出したり、パンチをダッシュで逃げたりと独特すぎる動きがウケまくり。最後も鮮やかな三角絞めで佐藤をタップさせ、この日最高の観客支持率をゲットしたのだった。

パンクラスで一番ノッてるのはこの男 佐々木有生、またも一本勝ち！

▲セミに登場した佐々木はアメリカのジョン・グローバーと対戦。出だしこそ打撃の間合いを取るのに手こずったが、寝技になればいとも簡単にポジションを奪っていく

▲フィニッシュは腕十字。グローバーの腕が曲がってはいけない方向に曲がるほどの強烈なものだった

▲1R、マウントを取った佐々木に、グローバーは下から肩固め。そしてこの形のままグイッとリバーサルしてみせた。グローバーは10戦無敗のキャリアを持ち、『プライド』で活躍中のアレックス・スティーブリングと同じIFアカデミーの選手だ

★第6試合・セミファイナル/ライトヘビー級5分3R
○佐々木有生（2R1分19秒、腕ひしぎ十字固め）ジョン・グローバー●
〈パンクラスGRABAKA〉　〈アメリカ/I.F.アカデミー〉

現在のパンクラスマットで最もノッている男といったら、佐々木有生である。パンクラス参戦後、7勝全てが一本勝ち。とにかく佐々木の試合には外れがない。この日も初参戦のジョン・グローバーに十字を極めての完勝。試合後も「さらに上を目指したい。パンクラスの上のほうじゃなく『プライド』やUFCに」と、かなり欲が出てきた様子。ちょっと前までは“実力に自信が追い付いてない”状態だっただけに、この変化は頼もしい限りだ。

今日の尾崎節

「（美濃輪は）リングドクターとも話したんですけど、体調不良があるんで。本人にも後で相談しますけど、3カ月休ませます。先生がちょっとチェックしたいところがあると。身体の一部に異常があると。それがドコだとは言わないようにということなんで、言いませんけど。美濃輪を休ませてる間に、『プライド』さんとか、外に動く時は、近藤、あと、佐々木、郷野、今日勝った佐藤、その辺が中心になると思います、国内に関しては。もちろん菊田も含めて。海外に関しては今までどおり、高橋と國奥はあると思います。（DSEとは）先週、話をする予定だったんですけど、先方の担当の方が海外行ってて、おそらく、今日かな？ 戻ってくると思うんですけど。今週……早くて今週中、遅くても来週の頭には、1回目の話し合いができると思います。6月は間に合わないですけど、それ以降は、出る気ありますんで、なんとか解決していこうかと思っています」

ウェルター級トーナメントはベスト4が決定。決勝は7・28

◀この日は初代ウェルター級王者決定トーナメントの1回戦3試合も行われた。ミドル級に続いて2階級制覇を狙う國奥麒樹真は岩崎英明（ストライプル）に判定勝ち（写真）。その他、長岡弘樹が太田洋平（A3）に、大石幸史が割田佳充（チームPOD）にそれぞれ判定で勝ち、3・25後楽園大会で港太郎を下した伊藤崇文とともに準決勝進出を決めた。なお、準決勝は7・28後楽園（昼夜興行）の昼の部、決勝は夜の部で行われる

初代ウェルター級王者決定トーナメント・ベスト4

伊藤崇文（パンクラスism）
長岡弘樹（ロデオスタイル）
大石幸史（パンクラスism）
國奥麒樹真（パンクラスism）

SMACK GIRL
〜SMACK LEGEND 2002〜
6.1★ディファ有明

“格闘女神”藪下めぐみが『スマックガール』初参戦!

されど下克上!

総合2戦目のキックボクサーに敗退!

カントク! プロレスラーの意地は見えましたか?

▶彩丘のローキックで藪下の足は赤く腫れ上がっていたが、試合後、藪下は「プロレスでイスの中にブレンバスターで投げられた時よりは痛くなかった」と語った

彩丘のコメント

「勝ててホッとしています。判定は勝ったと思いました。誰かが『プロレスなんか目じゃねぇ!』ってヤジを飛ばしたら投げられて、あれは結構脳天にきましたね。プロ根性を見せられました。今後も参戦したいですけど、できればキックの試合がしたいですね(笑)」

藪下のコメント

「私は今年いっぱい負け続けます。もちろん一生懸命やって負けるんですよ。だって、私は弱いですもん。これからは、打撃をやらなければいけないですね。打撃は怖いけど、そんなこと言ってられないんで。年も年だし、やれるうちにどんどんやりたいです」

◀3・2『スマックガール』で現役女子中学生ファイターとしてデビューしたEika(拳士館・右)が、現役女子高生として『スマックガール』に再登場。タレントを目指すキックボクサー・渡邊久江(L−MIT・左)と対戦したが、顔面へのヒザ蹴りやハイキック、ミドルキックの応酬に、わずか1R1分47秒で3ノックダウンを奪われ、TKO負けを喫した

▲柔道出身の藪下は、タックルは決めるものの、彩丘のガードでその後の攻撃ができず終い。打撃戦を優位に闘ったキックボクサー・彩丘が判定勝ちを収めた

▲「プロレスラーなんか目じゃない!」というヤジが飛び、藪下は「ほかのプロレスをやっている人に申し訳ない」と水車落としを披露。そのヤジの主は、なんと山本晋也カントクだったのだ!

▲リングを下りる藪下に“生涯現役”の女子プロレスラー・小畑千代が駆け寄る場面も。小畑千代は現在も週5ペースで練習し、『スマックガール』にも「チャンスがあったら出たい」と参戦を表明!

撮影◎吉澤晃

★第7試合・メインイベント/SGS公式ルール(5分3R)
○彩丘亜紗子(3R3−0)藪下めぐみ●
〈PLAM〉　〈Jd'〉

1年前、女子総合格闘技界でトップだった藪下めぐみが、総合2戦目の彩丘亜紗子に敗北した。

藪下は、吉本女子プロレスJdに所属する現役プロレスラーだが、柔道では全日本クラスの実力を持ち、一昨年12月に行われた女子総合の大会『リミックス』に参戦。身長差約30センチ、体重差100キロ近くというグンダレンコ・スベトラーナを破った一戦は、まだまだ浅い女子総合格闘技の歴史の中では、間違いなくベストバウトだろう。

そんな藪下が『リミックス』の流れを汲む『スマックガール』に初参戦。コンセプト重視の『スマックガール』には珍しく、藪下の知名度一本に頼ったマッチメイクとなった。相手の彩丘は、2本のベルトを持ちながらも、うどん屋でバイトするキックボクサー。総合でのキャリアが勝る藪下の圧勝かと思われたが、彩丘の打撃に思わぬ苦戦を強いられ、まさかの敗退を喫した。

しかし、試合後の藪下は意外とサバサバとし「今年はできる限り総合に挑戦して、負け続けます」と語った。「やる前から負けることを考えるヤツがあるか!」という言葉があるが、女子総合の流れの早さを身を持って感じたであろう藪下のその発言には、そんな言葉では片づけられない覚悟を感じた。もう一度、グンダレンコ戦の時のような輝く藪下の姿が見れる日も近いはずだ!　(沖崎)

見れば見るほどオモシロイ！
ブラジリアン柔術熱、急上昇中

撮影◎山口比佐夫

凄いぞ、ジョン・カルロス！
最軽量級＆無差別級W優勝に会場大興奮

181センチの林弘幸（TEAM KOUTANI）との対戦では、ジョン・カルロスはまるでサルのように組み付いて場内を沸かせた

身長160センチ、体重55キロの小さな身体で最軽量＆無差別W金メダルという、信じられないような快挙を成し遂げた倉岡ジョン・カルロス博（AXIS柔術アカデミー）。大会MVPにも輝き、特別協賛のヴァリグ・ブラジル航空より東京－ブラジル往復航空券が贈呈された

▲2回戦の相手ソノダ・ジュリアーノ（グレイシー・バッハ・ナガノ）は182センチ、125キロ。体重倍以上だったがジョン・カルロスは巴投げでテイクダウンするなど、しっかりとポイントを奪って勝利

▶青帯アブソリュート級決勝はジョン・カルロスＶＳ広瀬悠（パレストラ吉祥寺）。身長13センチ、体重30キロの差をものともせず、スイープなどで点数を重ねジョンが4－0判定勝ちで優勝

あふれる熱気！

▲左から青帯レーヴィ級優勝の山内康悦、青帯プルーマ級優勝の倉岡ジョン・パウロ明（ジョン・カルロスの双子の兄）、AXIS渡辺代表とジョン・カルロス。倉岡兄弟は8年前に来日、3年前から柔術を始めたという。ちなみに兄弟の実力は「五分五分」（カルロス談）だとか

実は、5月2日のプロ柔術リーグ『Gｌｕｍ』でレオジーニョとヒカルジーニョのテクニックを見てから、ボクの中で〝ブラジリアン柔術〟がちょっとしたブームになっている。

会社では会議室や通路などで、同僚とスパーをやったり技の研究をしたり、はたまた家では小3になる娘に三角絞めを掛けてみては（もちろん軽くだけど……）「子供相手になにしてんの！」とカミさんに怒られたりしているのである。

それはさておき、今回の全日本ブラジリアン柔術選手権。『Gｌｕｍ』の、あの感動的なまでの高度な技術レベルを見ることはできなかったものの、とても面白いものだった。

中でもバツグンに良かったのが、アダルト青帯アブソリュート（無差別）級だ。

柔道でも毎年4月29日に日本武道館で行われる全日本選手権という体重無差別の大会が、国内の大会では最も観客を集め、大変な盛り上がりを見せるのだが、柔術においても、やはり「柔能く剛を制す、小能く大を制す」図式が非常に分かりやすい無差別級の試合は、見ていて理屈なく楽しめる。大きい人には申し訳ないが、当然、小さいほうを応援するのが心情で、小さいほうが勝てば、それだけで拍手喝采となる。とは言え、勝負の世界だから、そうそううまくいくものではない。

しかし、今回のこの無差別級を制

第3回 全日本ブラジリアン柔術選手権大会

5.31～6.2★台東リバーサイドスポーツセンター

待ってろ、ブラジル！ 本場で通用する選手も確実に育っているぞ

総評◎中井祐樹
（日本ブラジリアン柔術連盟会長）

「2年前（第2回大会）の風景がかなり古いものに感じられるほど、技術が進歩し、観客の数や熱気も非常に凄くてビックリしました。技術的にはプロの総合の選手でも、簡単には勝てないほど、一競技として成熟されつつあると思います。今後、国内の競争が激化すればするほど世界での成果が得られるでしょうし、人気もどんどん高まると思います。柔術は本当に面白いですから」

紫帯ではやはり高い技術の攻防が見られた。レーヴィ級の鶴屋浩（パレストラ東京）は腕ひしぎ三角固めで同門の辻垣寛を破り優勝

▶ともに柔道3段＆サンボの日本王者で、最近は総合の試合でも活躍する美人ファイター藤井恵（SKアブソリュート／右）＆尻無智子（同）はプルーマ級とガロ級で揃って優勝

プロシューター植松直哉（チャッカルクラブ）は紫帯ペナ級準決勝では荒牧誠（パレストラ東京）とシーソーゲームの末、5－4の判定勝ち。しかし、決勝の佐藤稔之戦は同門対決を避けて棄権した

紫帯ペナ級準決勝、佐藤稔之（SSSアカデミー）と桑原幸一（東京イエローマンズ）はスピーディ＆ハイレベルな攻防となったが、佐藤がポイント9－0で快勝

▶プロ総合選手として人気のあるマア★ティンこと星野育蒔は、ペナ級決勝で関祐子（AX－Sアカデミー）に惜敗

◀▼柔道から総合転向の先駆者とも言える芳岡博之（パレストラ千葉）。元全日本強化選手らしく、見事な投げ＆関節を披露。メイオペサード級で優勝し、大会準MVPとしてロス行きの航空券を獲得した

▲漫画家の花くまゆうさく（熊谷優作／パレストラ東京）は荒牧誠にせんたく挟みを見せるなど健闘したが、十字で一本負け

▲女子青帯のアブソリュートで優勝したダニエリ・バルボサ(EDISON柔術）と陽気な仲間たち

▲紫帯プルーマ級はホドリゴ・ヒラカワ（EDISON柔術）が決勝で和田寛志（AXISアカデミー）を三角絞めで破って優勝。高い技術を見せた

したのは、なんと大会1日目に最軽量のガロ級（55キロ未満）で優勝したわずか160センチ、55キロの倉岡ジョン・カルロス博というホントにちっちゃい選手だったのだから、まるで漫画である。しかも、2回戦で対戦したソノダ・ジュリアーノは182センチ、125キロ。こちらは出場最重量選手だったのだ。会場中の視線を釘付けにしたこの試合。ジョン・カルロスは、70キロ差をものともせず巴投げで巨体をひっくり返すや、そのままバックを取って判定勝ち。会場は蜂の巣をつついたような大騒ぎだ。続く3回戦、181センチ、83キロの林弘幸に対してもまるでサルのように、相手の身体に飛びついて脚を絡めるなど、果敢に攻撃を仕掛けて判定勝ち。準決勝＆決勝もあれよあれよと言う間に勝ち進み、見事、優勝をかっさらってしまったのだ。恐るべし、倉岡博。凄いぞ、ジョン・カルロス！

ちなみに、この倉岡ジョン・カルロス博は日系三世で、現在は帝京大学に通う21歳。ブラジリアン柔術は、プルーマ級で優勝した双子の兄・倉岡ジョン・パウロ明とともに、日本で3年半前に始めたばかりだと言うことだが、その実力に関しては「ブラジルの大会でも優勝できる」と、中井祐樹が太鼓判を押す。

今大会にはこの倉岡兄弟の他にも、女子選手も含め、多くの日系三世の選手が出ていた。「柔術」というと、ちょっと地味なイメージもあるが、ブラジルの血のせいなのか、会場はむしろ明るく、とても陽気な雰囲気。これも昨今の柔術人気の理由の一つなんだと納得する。「分かってくれば面白い」柔術の魅力に、ボク自身もかなりハマッてきている。（林）

戦士に必要なのは闘う心！ 金沢久幸よ、分かってるならなぜできない？

蔵満誠を相手にすかすかの打ち合い。これじゃ、引き分けも仕方ない

金沢のコメント

「引き分けという採点は納得いかないですね。効かせたパンチ、けっこう打ったんだけどなぁ。自分の中では勝ったつもり。相手のローに体を流して受けていたのが、効いているように見えたのかなぁ。結局、ジャッジへのアピールが下手ということですね。倒しにいかなければ、勝てないということを改めて痛感しました」

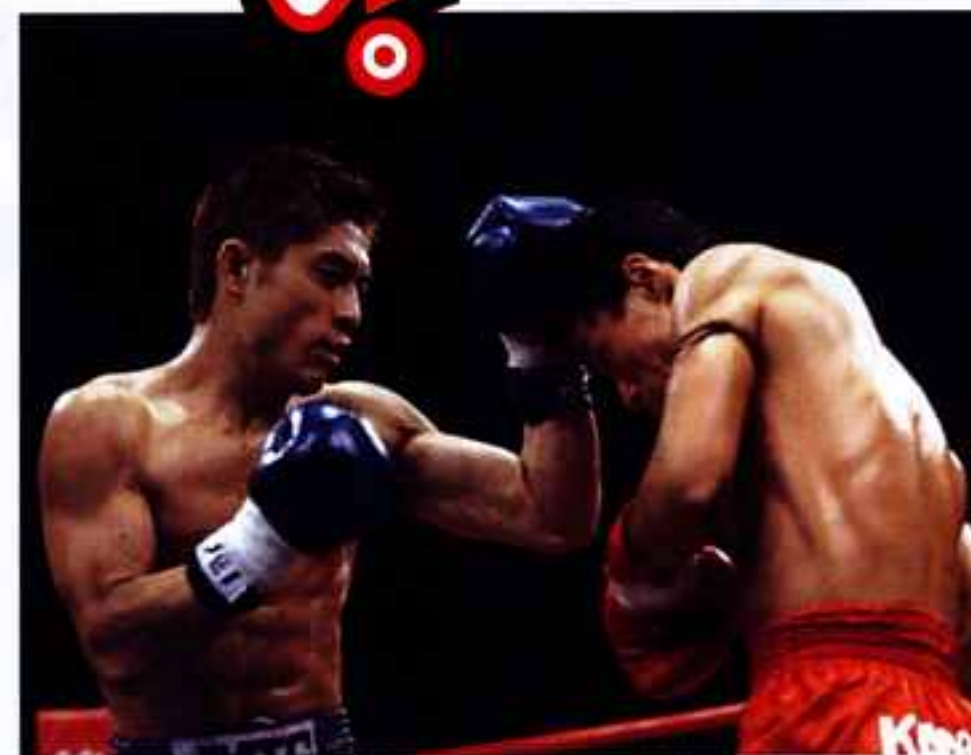
蔵満のコメント

「結果だけなら、世界王者とドローですから、いいかなという感じですけど、試合内容から考えると、勝てるチャンスもあったのかな。金沢はイメージしたとおり。最初は一発があるので、セコンドから見ていけといわれていたんですが、もう少し出たほうが良かったですね。とにかく、世界も手の届く位置にあると自信がつきました」

実績の上なら蔵満は勝って当然の相手だったろう。だが、金沢の闘いには最後まで覇気が見えなかった

★第9試合/メインイベント（3分5R）
○金沢久幸（5R判定1-1、ドロー）蔵満誠●
〈全日本/TEAM-1〉 〈J-NET/JMTC〉
※採点…49-48、48-49、49-49

▶全日本キックとJ―NETの合同興行は全試合が対抗戦。そのメインが判定ドローとなった。金沢の表情がこの夜のデキの全てを物語る

◀金沢はパンチ中心の攻め。たしかにクリーンヒットの数では大きく上回っていたように見えた

▲序盤はもうひとつ消極的だった蔵満だが、5Rに猛ラッシュ。金沢を後退一方へと追い立てた

▲蔵満のローキックに、金沢が体を大きく流してエスケープするシーンは再三。これじゃ、見映えは当然悪い

撮影◎山口比佐夫

「30になってから、リスクを負う気持ちが持てなくなったというか。20代のような捨て身で行くような闘い方ができてないですね。それじゃ、いけないんですけど」

分かっているじゃないか、金沢は。そう、それじゃいけないのだ。だって蔵満は、格の上でも、戦闘能力を比べても、引き分けになってはいけない相手なのだ。たしかに判定は不運だったろう。4Rまで試合をコントロールしているのは金沢だ。パンチ主体の攻撃で、右ストレートをポンポンとヒットした。2R終盤には、この右の拳をカウンターで顔面に決めて、蔵満をぐらつかせもした。

しかし、そんな金沢から伝わってくるものが感じられないのだ。いかにも手際よく闘っているようにしか見えない。しかも、蔵満が右ローを打ってくるたびに、大きく体が流れ、極めて見映えも悪い。5Rには蔵満の必死のラストスパートに直面して、ズルズルと後退してしまう。

小林聡との対決に向け、闘っていた頃の金沢とは別人だった。はっきり言って年寄り臭かった。この大会はJ―NETとの対抗戦で、メインの金沢VS蔵満は4対4で迎えた大将戦。個人の闘いとは無関係といえども、そういう意味合いも含めてガッカリさせられた。燃えられぬ原因が分かっているのなら、新たな目標が見つかるまで、金沢にはしばし休息をおすすめしたい。

（宮崎）

初 やっと できます!!

50万円迄

スピード審査

全力融資キャンペーン実施中

日本全国お振込み

30万	7,500円×48回
50万	10,000円×60回
100万	21,000円×60回

50万円以上要担保

●初めての方もご安心下さい
●本当に日本中どこでも即日でお振込
●お急ぎで必要な方ご相談ください
●秘密は絶対に守ります

あんしんローンの リスペクト

通話無料 0120 FreeDial 0120-922-406

東京都豊島区東池袋2-63 都①23608 直通 03-5960-7183 ◆年利/15.0%～22.0%

み〜つけた。私流のキャッシング。

¥500,000-まで

北海道から 沖縄まで 日本全国 今すぐ貴方のお手元に!!

10万円→3,000円×36回／30万円→6,500円×48回／50万円→9,000円×58回

※実質年利4.5%～15.2%(遅同)

毎月のことだから 安心プランでいきたい…

○学生・アルバイト・OL・水商売失業中の方々OK!

○18才～70才迄、初めての方、誰にも内緒でOK!他店利用中でもOK!

年中無休でAM9:00～PM8:00迄営業中

貴方とのふれあいを大切に キャスト

0120 FreeDial 0120-760-820

— 携帯・PHSの方 03-5745-0820 —

要身分証一点 本社・東京都世田谷区用賀1 東京都貸金業登録番号 都(1)24362

ファイナンス情報

急な出費でお困りの方当社では、親切・丁寧をモットーに対応致しております。

50万円迄、日本全国お振込いたします!!

まずは、諦めずにご相談下さい

● 借入件数の多い方も当社独自の審査ですから安心です!!
● アルバイト、OL、水商売でも、当社は職種不問でご契約できます!!
● 年齢は18才～70才位迄の方でしたら学生の方でもOKです!!
● 失業中の方でも大丈夫です!当社になんなりとご相談下さい!!
● 家族・会社・誰にも内緒でご契約できます!!

学生・フリーター・失業中の方注目!!

<フリーターズローン>実施中!!

○女の子の為に、レディースローン好評受付中!!

らくらく返済例です

10万	3,000×36回
30万	6,500×48回
50万	9,000×58回

●実質年率4.5%～15.2%(遅同)

携帯・PHSの方は、直通ダイヤル03-5728-6911

0120 Free Dial 0120-6910-81

スピードキャッシングの ファミリー

AM9:00～PM8:00迄 年中無休で営業中!!

本社／ファミリークレジット事業部 東京都世田谷区赤堤1 当社は東京都貸金業登録店です。 都①22457

ECO

任せて安心! プリウスです!!

当社は初めての方にも親切・丁寧に対応しています! 1番にお電話下さい。

エコキャッシュレディースも好評受付中!

● スピードキャッシングのプリウス ●

土・日・祝もAM9:00～PM8:30迄営業しております。

0120 FreeDial 0120-641-860

携帯・PHSの方は直通ダイヤル ☎03-6418-5170

ご融資額 50万円迄

▼学生・失業中の方! 明日の貴方を応援する「エコローン」開設!

●借入件数の多い方も当社独自の審査ですから安心です!!
●アルバイト、OL、水商売でも、当社は職種不問でご契約できます!!
●年齢は18才～70才迄の方でしたら学生の方でもOKです!!
●失業中の方でも大丈夫です! 当社になんなりとご相談下さい!!
●家族・会社・誰にも内緒でご契約できます!!

ゆとりの返済例

10万円	3,000円×36回
30万円	7,000円×48回
50万円	10,500円×60回

実質年率 8.25%～24.5%(遅同)

快適クレジットの プリウス信販

本社／プリウスファイナンス 東京都新宿区高田馬場4-34 当社は東京都貸金業登録店です。 都①22937

ご利用は計画的に

Mineral & Herb

Fasting Diet

大ブーム！

ダイエット＆体質改善＆肉体改造の最終兵器。
いつ何時、誰の挑戦でも受ける！！

3日間でおそるべき効果！

グレートアントニオ
誌上通販

ファスティング・ダイエット（360ml×3本入り）
Fasting Diet　18,000円（税別）
販売元／グレート・アントニオ　開発研究／杏林予防医学研究所

●ファスティング・ダイエット　¥18,000（税別）
ファスティングに関する詳しい内容は、グレート・アントニオHP
（http://www.great-antonio.jp）をご覧ください。

●浅草キッドTシャツ2002
（カラー白／サイズXS・S・M・L）
¥3,500（税別）
©OFFICE KITANO

●矢野卓見フィギュア
¥4,800（税別）
©TAKUMI YANO
※全長約19cm、
両腕・腰部分可動

NEW

わっ、毒ガスだ！　コマネチッ!!
プロレス界の忘れたい過去を
グレート・アントニオが浅草キッドばりに発掘！
どーですか～ッ!?

●TPG Tシャツ
（カラー白・ブルー／サイズXS・M・L・XL）
¥3,500（税別）

http://www.great-antonio.jp

グレート・アントニオmeets新日本プロレス!!
対フーリガンの急先鋒シリーズ

トルシエはじつは何にもわかっていない！
これがリアル日本代表!!

What's CHAMPIONS CLUB?
チャンピオンズ・クラブとは、新日本プロレス創立30周年を迎えるにあたり、新日本プロレスまたプロレス界の繁栄に絶大なる貢献と実績を残した選手のみにメンバー資格が与えられるクラブである。©NJPW

CHAMPIONS CLUB ©NJPW

●木戸修Tシャツ
（カラー白／サイズXS・M・L・XL）
¥4,000（税別）

FRONT
BACK

●マサ斎藤 Tシャツ
（カラー白・黒／サイズXS・M・L・XL）
¥4,000（税別）

FRONT
BACK

●坂口征二 ビッグサカTシャツ
（カラー白・黒／サイズXS・M・L・XL）
¥4,000（税別）

FRONT
BACK

●ヤマハブラザースTシャツ
（カラー白・黒／サイズXS・M・L・XL）
¥4,000（税別）

ご注文方法

ご注文は電話受付のみです

『グレート・アントニオ』通販専用NAVIダイヤル
☎ **0570-007800** ※携帯電話からは掛かりません。
☎ **03-3295-4450** ※携帯電話でも掛かります。
【受付曜日・時間】**月曜日～土曜日 AM10:00～PM6:00**

商品お渡し方法

代金引換でのお受け取りとなります。
◎商品代金のほかに送料約700円（ゆうパック）、代引手数料約250円（いずれも地域によって異なります）がかかります。
◎お届けはご注文をいただいてから、5日前後で（株）ジャンボ（大阪）より郵送いたします。（ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください）

ご注意

◎代金、送料の先払いはお受けできません。
◎サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。（期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます）
◎『グレート・アントニオ』店頭および『SRS・DX』編集部では、ご注文を受け付けておりません。

ACCESS MAP

とうふパン専科
グレート・アントニオ

○神保町駅（半蔵門線/都営新宿線/都営三田線）より徒歩5分
○小川町駅（都営新宿線）より徒歩5分
○淡路町駅（丸ノ内線）より徒歩6分
○竹橋駅（東西線）より徒歩8分

OPEN 11:00～20:00（月曜定休）
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル1F
TEL 03-3219-9550

http://www.great-antonio.jp

たっつぁん万座ビーチ

読者プレゼント

そろそろジメジメした梅雨に突入の予感！
体調を崩さないでね♥

【グレート・アントニオ提供】

あの伝説の暴動請負軍団"TPG"が
グレート・アントニオの新作Tで復活！

TPG Tシャツ

3名様

※グレート・アントニオの商品に関するお問い合わせは、
グレート・アントニオ ☎ 03-3219-9550、または
http://www.great-antonio.jpまで

【日本公明社提供】

現在、天龍源一郎が保持する伝統の
三冠ベルトが携帯ストラップで登場！

三冠ベルト・ストラップ

各5名様

※このストラップになっている三冠ベルトを賭けて闘う、7・17『2002サマーアクション・シリーズ』最終戦での天龍源一郎vs小島聡の一戦も気になるところだが、その後も三冠ベルトを賭けて闘う『王道30 GIANT BATTLE in武道館』が、7月20日（土・祝）より4大会連続で日本武道館で開催される。チケットは有名プレイガイドにて好評発売中だ！

【本誌編集部提供】

なんと、ブラジルサッカーチームのユニフォームに
ノゲイラのサインを入れてプレゼント！

**アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
直筆サイン入りサッカーユニフォーム**

1名様

『K-1 WORLD GP in パリ』大会パンフレット

2名様

【ボディメーカー提供】

魔裟斗のいろんな表情が見れる一本！

**ビデオ『燃焼瞬間
"Another Side of MASATO"』**

1名様

※2,800円（税別）発売中。魔裟斗のフィクションの過去とノンフィクションの現在が交錯する意欲作がボディメーカーオリジナルビデオシリーズから登場！　この商品に関するお問い合わせは、株式会社ボディメーカー☎06-6395-9888まで

ダン・ヘンダーソン「月桂冠」Tシャツ

3名様

BACK

FRONT

**ダン・ヘンダーソン
「TEAM QUEST」
ステッカー**

3名様

**クイントン・"ランペイジ"
・ジャクソンカード**

2名様

応募方法

ハガキには必ず応募券を貼ろう！

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、

❶郵便番号・住所・電話番号
❷お名前
❸年齢・ご職業
❹希望プレゼント名
❺今号で面白かった記事とその理由（複数可）
❻今号で面白くなかった記事とその理由（複数可）
❼本誌に対するご意見・ご感想

を書いて、ビシバシ応募してください！

あて先は　〒101-0054　東京都千代田区
神田錦町3-14-12　神田NSビル8F
SRS・DX編集部『たっつぁん万座ビーチ㉒』係まで

締め切り…2002年6月27日（木）当日消印有効。

応募券
たっつぁん万座ビーチ㉒

SRSDX 7・11 臨時増刊 No.72 5.25 K-1 WORLD GP in PARIS 詳報 6.2 K-1 SURVIVAL 富山大会 速報

平成12年4月25日第3種郵便物認可 平成14年7月11日発行 増刊 第4巻・13号・通算72号
編集人・谷川貞治 発行人・柳沢忠之 発行所・(株)フジテレビ出版／(株)ローデス 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F 電話／03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1丁目15番1号

定価680円 本体648円

雑誌21586-7/11
Ⓛ-2002,7/31
T1121586070689
Printed in Japan